三菱重工

ガスヒートポンプエアコン

室内ユニット

技 術 資 料

天井カセット形
（１方向吹出し小容量）（GTSC）
床置形ローボーイタイプ（露出形）（GFL）
床置形ローボーイタイプ（隠蔽形）（GFU）

本資料は人感センサ対応の室内ユニット（ACモータ対応）に関する事項を記載しております。
その他の室内ユニットについては4-543-1-Dを,室外ユニットについては,2016・2017冷熱ハンドブックGHP編をご覧ください。

4－550－1－D
’20－3 発 行

総　目　次

1 概要編の目次

1.室内ユニット仕様 …… 1-2
1-1 仕様 …… 1-2
1-2 外形図 …… 1-5
1-3 塗装色 …… 1-11
1-4 運転音 …… 1-12
1-5 電気配線図 …… 1-13
1-6 防振設計用参考資料 …… 1-15
1-7 気流分布 …… 1-16

2 特性・機能編の目次

1. 機能 …… 2-2
1-1 室内マイコン運転制御機能 …… 2-2
1-2 リモコン機能 …… 2-20

3 故障診断編の目次

1. トラブル項目と診断 …… 3-2
2. リモコンによる異常運転データの確認 …… 3-25

4 据付編の目次

1. 室内ユニットの据付 …… 4-2
2. 電気配線工事 …… 4-28
3. リモコンの取付 …… 4-38
4. リモコンによる機能設定 …… 4-43

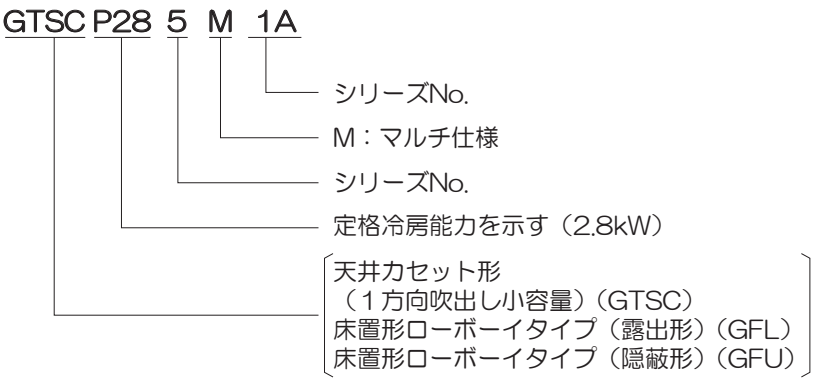
5 別売部品編の目次

1. ワイヤレスキット（RCN-KIT4） …… 5-2
2. 人感センサキット（LB-KIT2） …… 5-12
3. コンパクトリモコン（RCH-D3） …… 5-22
4. スーパーリンクアダプタ（SC-ADNA） …… 5-26

1 概要編の目次

1. 室内ユニット仕様 …… 1-2
1-1 仕様 …… 1-2
1-2 外形図 …… 1-5
1-3 塗装色 …… 1-11
1-4 運転音 …… 1-12
1-5 電気配線図 …… 1-13
1-6 防振設計用参考資料 …… 1-15
1-7 気流分布 …… 1-16

• 形式名称の見方



1. 室内ユニット仕様

1-1 仕　様

（50/60Hz）

相当馬力			0.8	1.0	1.25
機種			天井カセット形（1方向吹出し小容量）		
形式			GTSCP225M1A	GTSCP285M1A	GTSCP365M1A
パネル形式			TS-PSAW-15WG		
定格冷房能力(kW)			2.2	2.8	3.6
定格暖房標準能力〔定格暖房低温能力〕(kW)			2.5〔2.5〕	3.2〔3.2〕	4.0〔4.0〕
定格冷房時の顕熱比			0.76	0.71	0.65
電気特性	電源		単相200V 50/60Hz		
	消費電力(kW)	冷房	0.05/0.07		
		暖房	0.05/0.07		
	運転電流(A)	冷房	0.3/0.4		
		暖房	0.3/0.4		
熱交換器形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
空気吸込口			下面		
空気吹出口			下面1方向		
エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
運転音	パワーレベル(dB(A))	P急	60/62		
		急	55		
		強	53		
		弱	49		
	音圧レベル(dB(A))	P急	45/47		
		急	40		
		強	38		
		弱	34		
送風機	送風機形式		シロッコファン（モータ直結）×1		
	風量(m^3/min)	P急	8		
		急	7		
		強	6		
		弱	5		
	機外静圧(Pa)		0		
	電動機定格出力(W)		35		
配管関係	冷媒ガス管(mm)		Φ9.52（フレア接続）		Φ12.7（フレア接続）
	冷媒液管(mm)		Φ6.35（フレア接続）		
	冷媒配管位置		方向性なし		
	ドレン配管口(mm)		VP25（I.D.25, O.D.32）の排水管接続可能		
オートスイング（有・無）			オートスイング付		
ドレンアップ	ドレンポンプ		標準装備		
	アップ高さ(mm)	ドレン口より	390以下		
		天井面より	600以下		
外装塗装色(本体)			−		
外装塗装色(パネル)			1-11ページ参照		
外形寸法	高さ(mm)		250		
	幅(mm)		570		
	奥行(mm)		570		
パネル寸法	高さ(mm)		35		
	幅(mm)		780		
	奥行(mm)		650		
本体質量(kg)			19		
パネル質量(kg)			3		
リモコン			ワイヤードリモコン：RC-DX3C（RC-D4G）		
IPコード			IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性は JIS B 8627 条件により運転した値です。
(2) 運転音 パワーレベルは JIS B 8627：2015 に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音 音圧レベルは JIS B 8627：2006 に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に部屋に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(5) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が 3 速（急・強・弱）となります。
P 急モードをご使用の場合は高天井設定（P 急・急・強）としてください。

PJC001Z470

(50/60Hz)

相当馬力			1.0	1.6	2.0	2.5
機種			床置形ローボーイタイプ（露出形）			
形式			GFLP285M1A	GFLP455M1A	GFLP565M1A	GFLP715M1A
定格冷房能力(kW)			2.8	4.5	5.6	7.1
定格暖房標準能力〔定格暖房低温能力〕(kW)			3.2〔3.2〕	5.0〔5.0〕	6.3〔6.3〕	8.0〔8.0〕
定格冷房時の顕熱比			0.90	0.77	0.71	
電気特性	電源		単相200V 50/60Hz			
	消費電力(kW)	冷房	0.08/0.09	0.08/0.10		
		暖房	0.08/0.09	0.08/0.10		
	運転電流(A)	冷房	0.40/0.45	0.40/0.50		
		暖房	0.40/0.45	0.40/0.50		
熱交換器形式			アルミフィン&銅チューブ式			
空気吸込口			下面			
空気吹出口			上面			
エアフィルタ			ナイロン繊維不織布（洗浄可能）			
運転音	パワーレベル(dB(A))	急	58	60		
		強	55	58		
		弱	53	57		
	音圧レベル(dB(A))	急	40	42		
		強	37	40		
		弱	35	39		
送風機	送風機形式		シロッコファン(モータ直結)×2			
	風量(m^3/min)	急	12	14	18	
		強	11	12	15	
		弱	10	10	12	
	機外静圧(Pa)		0			
	電動機定格出力(W)		30	40		
配管関係	冷媒ガス管(mm)		Φ9.52（フレア接続）	Φ12.7（フレア接続）		Φ15.88（フレア接続）
	冷媒液管(mm)		Φ6.35（フレア接続）			Φ9.52（フレア接続）
	冷媒配管位置		右側			
	ドレン配管口(mm)		Rc3/4（めねじ）の排水管接続可能			
オートスイング(有・無)			無			
ドレンアップ	ドレンポンプ		−			
	アップ高さ(mm)	ドレン口より	−			
		天井面より	−			
外装塗装色(本体)			1-11ページ参照			
外装塗装色(パネル)			−			
外形寸法	高さ(mm)		630			630
	幅(mm)		1196			1481
	奥行(mm)		225			225
パネル寸法	高さ(mm)		−			
	幅(mm)		−			
	奥行(mm)		−			
本体質量(kg)			32			40
パネル質量(kg)			−			
リモコン			ワイヤードリモコン：RC-DX3C（RC-D4G）			
IPコード			IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性は JIS B 8627：2015 条件により運転した値です。
(2) 運転音 パワーレベルは JIS B 8627：2015 に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音 音圧レベルは JIS B 8627：2006 に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に部屋に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

PGD000Z159

(50/60Hz)

相当馬力			1.0	1.6	2.0	2.5
機種			床置形ローボーイタイプ（隠蔽形）			
形式			GFUP285M1A	GFUP455M1A	GFUP565M1A	GFUP715M1A
定格冷房能力(kW)			2.8	4.5	5.6	7.1
定格暖房標準能力〔定格暖房低温能力〕(kW)			3.2〔3.2〕	5.0〔5.0〕	6.3〔6.3〕	8.0〔8.0〕
定格冷房時の顕熱比			0.90	0.77	0.71	
電気特性	電源		単相200V 50/60Hz			
	消費電力(kW)	冷房	0.08/0.09	0.08/0.10		
		暖房	0.08/0.09	0.08/0.10		
	運転電流(A)	冷房	0.40/0.45	0.40/0.50		
		暖房	0.40/0.45	0.40/0.50		
熱交換器形式			アルミフィン&銅チューブ式			
空気吸込口			下面			
空気吹出口			上面			
エアフィルタ			ナイロン繊維不織布（洗浄可能）			
運転音	パワーレベル(dB(A))	急	58	60		
		強	55	58		
		弱	53	57		
	音圧レベル(dB(A))	急	40	42		
		強	37	40		
		弱	35	39		
送風機	送風機形式		両吸込多翼遠心式(モータ直結)×2			
	風量(m^3/min)	急	12	14		18
		強	11	12		15
		弱	10	10		12
	機外静圧(Pa)		0			
	電動機定格出力(W)		30	40		
配管関係	冷媒ガス管(mm)		Φ9.52（フレア接続）	Φ12.7（フレア接続）		Φ15.88（フレア接続）
	冷媒液管(mm)		Φ6.35（フレア接続）			Φ9.52（フレア接続）
	冷媒配管位置		右側			
	ドレン配管口(mm)		Rc3/4（めねじ）の排水管接続可能			
オートスイング(有・無)			無			
ドレンアップ	ドレンポンプ		−			
	アップ高さ(mm)	ドレン口より	−			
		天井面より	−			
外装塗装色(本体)			−（クロメートフリー鋼板）			
外装塗装色(パネル)			−			
外形寸法	高さ(mm)		630			630
	幅(mm)		1077			1362
	奥行(mm)		225			225
パネル寸法	高さ(mm)		−			
	幅(mm)		−			
	奥行(mm)		−			
本体質量(kg)			25			32
パネル質量(kg)			−			
リモコン			ワイヤードリモコン：RC-DX3C（RC-D4G）			
IPコード			IPX0			

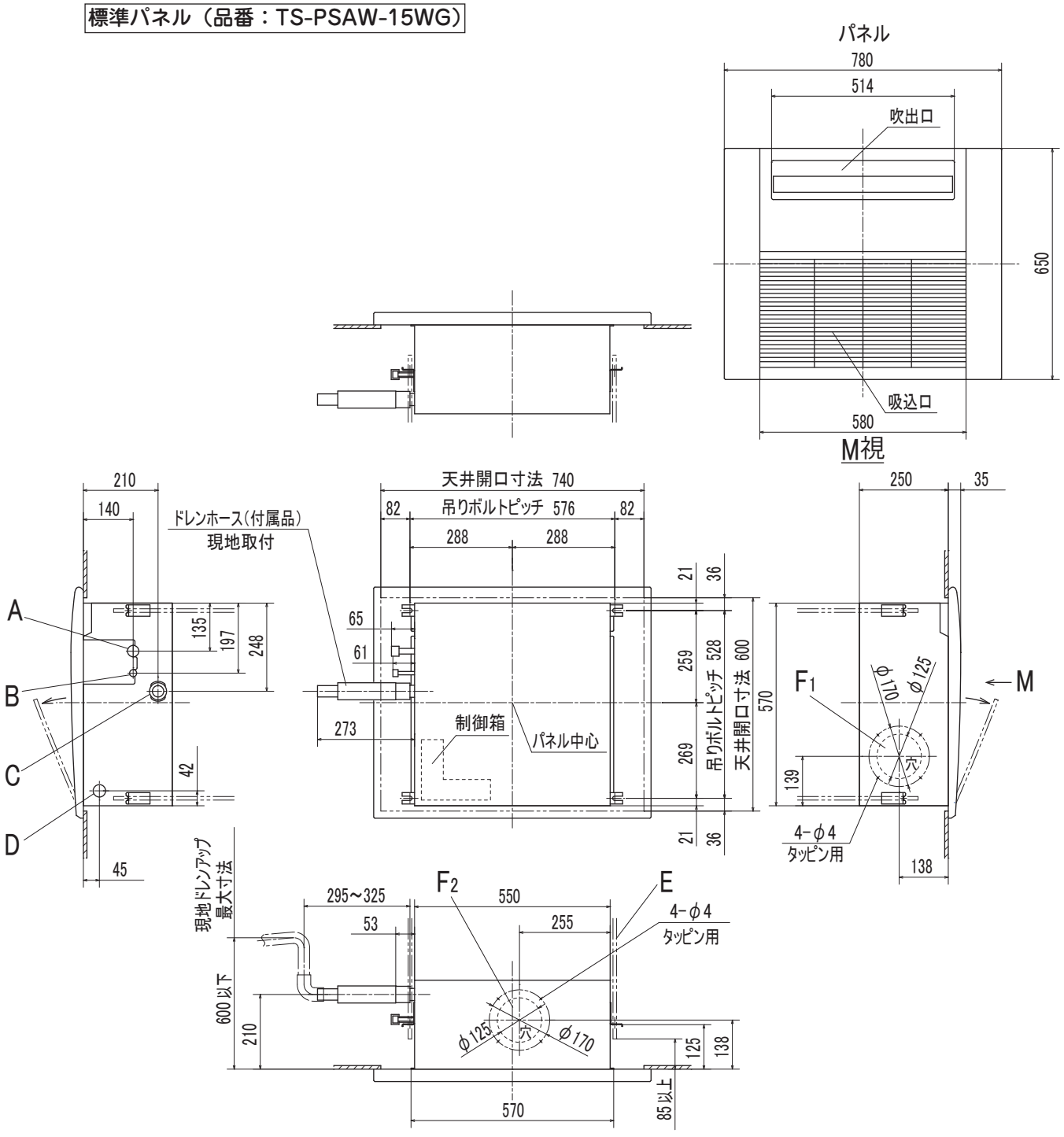
注(1) 冷房・暖房能力および電気特性は JIS B 8627：2015 条件により運転した値です。
(2) 運転音 パワーレベルは JIS B 8627：2015 に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音 音圧レベルは JIS B 8627：2006 に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に部屋に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

PGD000Z163

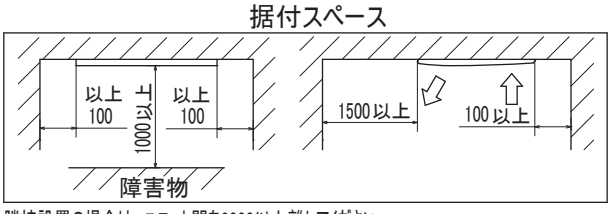
1-2 外 形 図

(1) 天井カセット形 (1 方向吹出し小容量) (GTSC)
GTSC225, 285, 365M1A

標準パネル (品番 : TS-PSAW-15WG)



据付スペース



隣接設置の場合は、ユニット間を3000以上離してください。

●記号説明

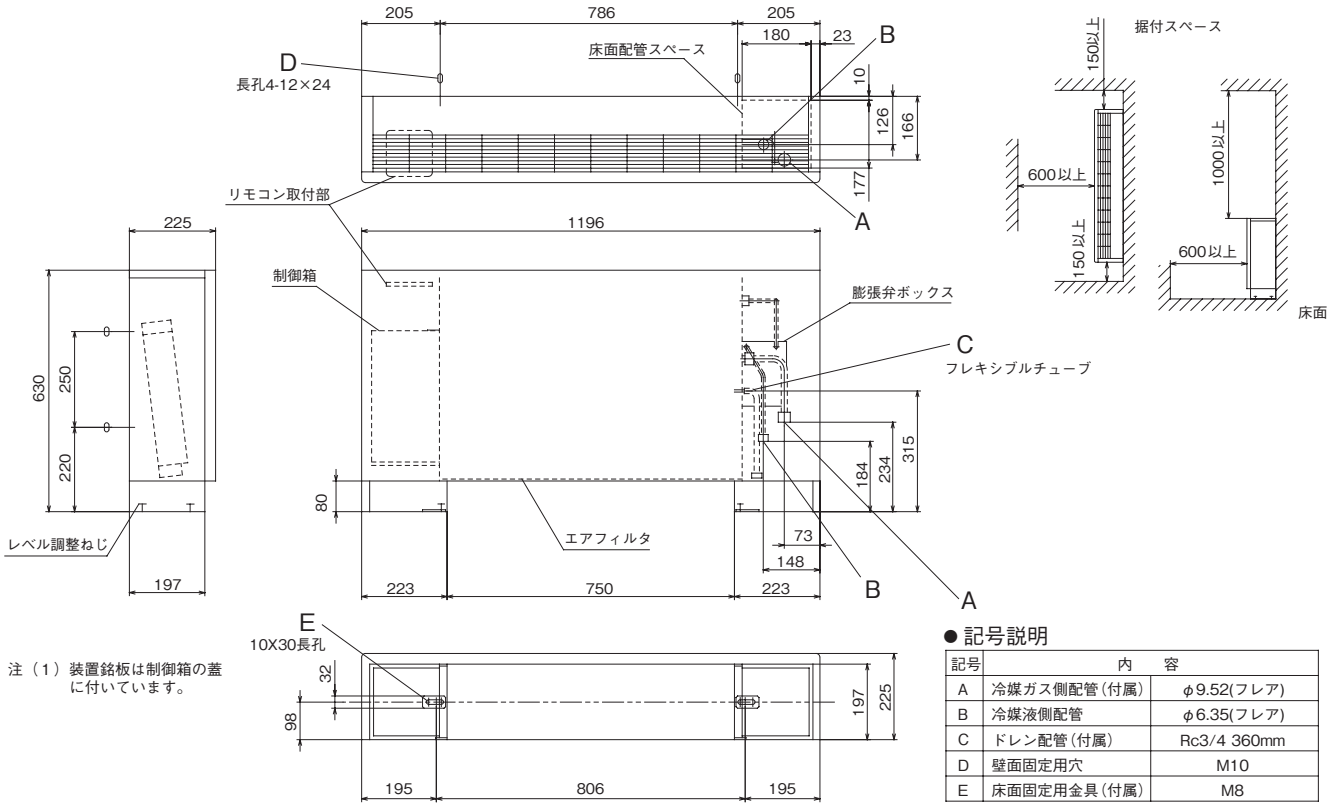
記号	内容		
	機種	P22,28	P36
A	冷媒ガス側配管	φ9.52(フレア)	φ12.7(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)	
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)	
D	電源取入口	φ30	
E	吊りボルト	M10	
$F_{1,2}$	OA取入口	ノックアウト	

注(1)装置銘板はファンケース正面に付いてます。

PJC001Z471

（2）床置形ローボーイタイプ（露出形）（GFL）

GFLP285M1A



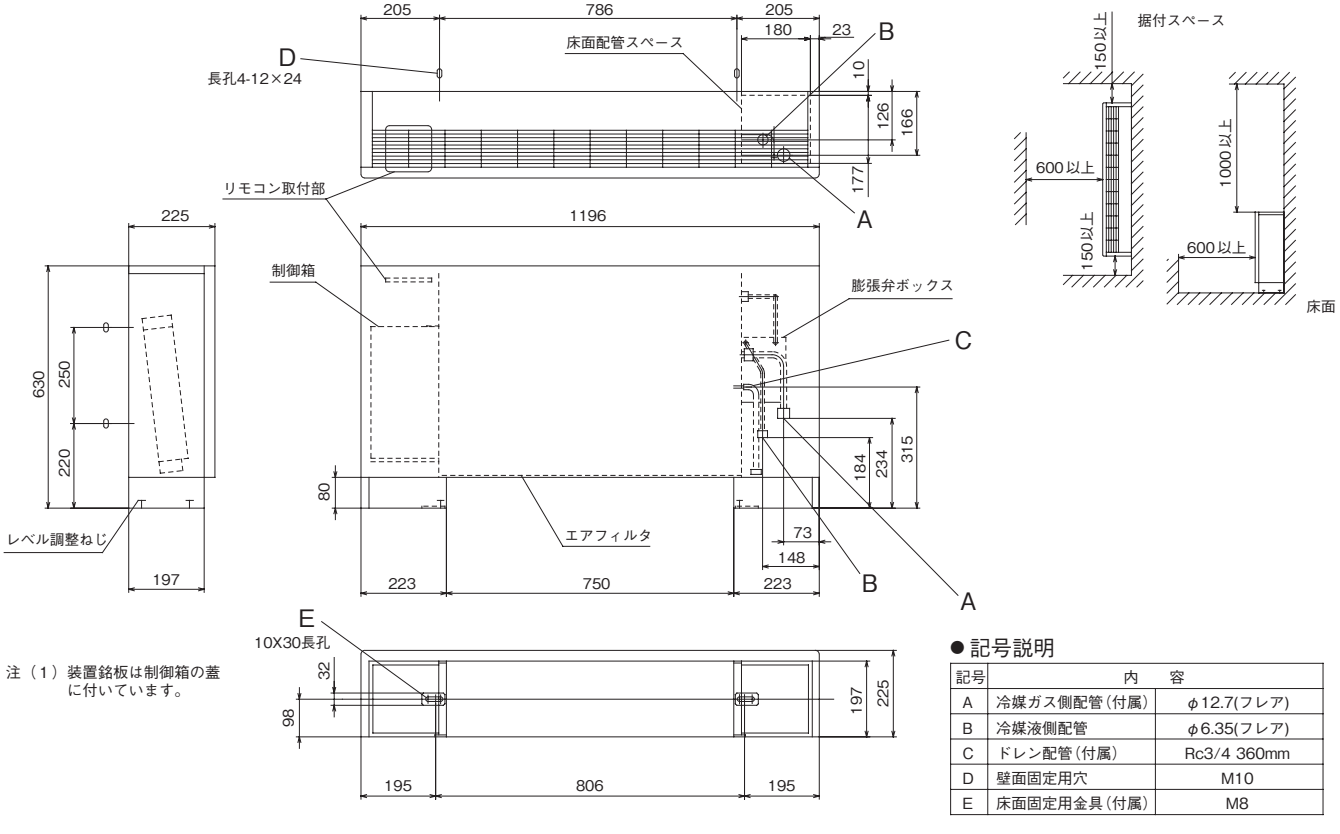
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

● 記号説明

記号	内　容	
A	冷媒ガス側配管（付属）	φ9.52(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)
C	ドレン配管（付属）	Rc3/4 360mm
D	壁面固定用穴	M10
E	床面固定用金具（付属）	M8

PGD000Z160

GFLP455, 565M1A



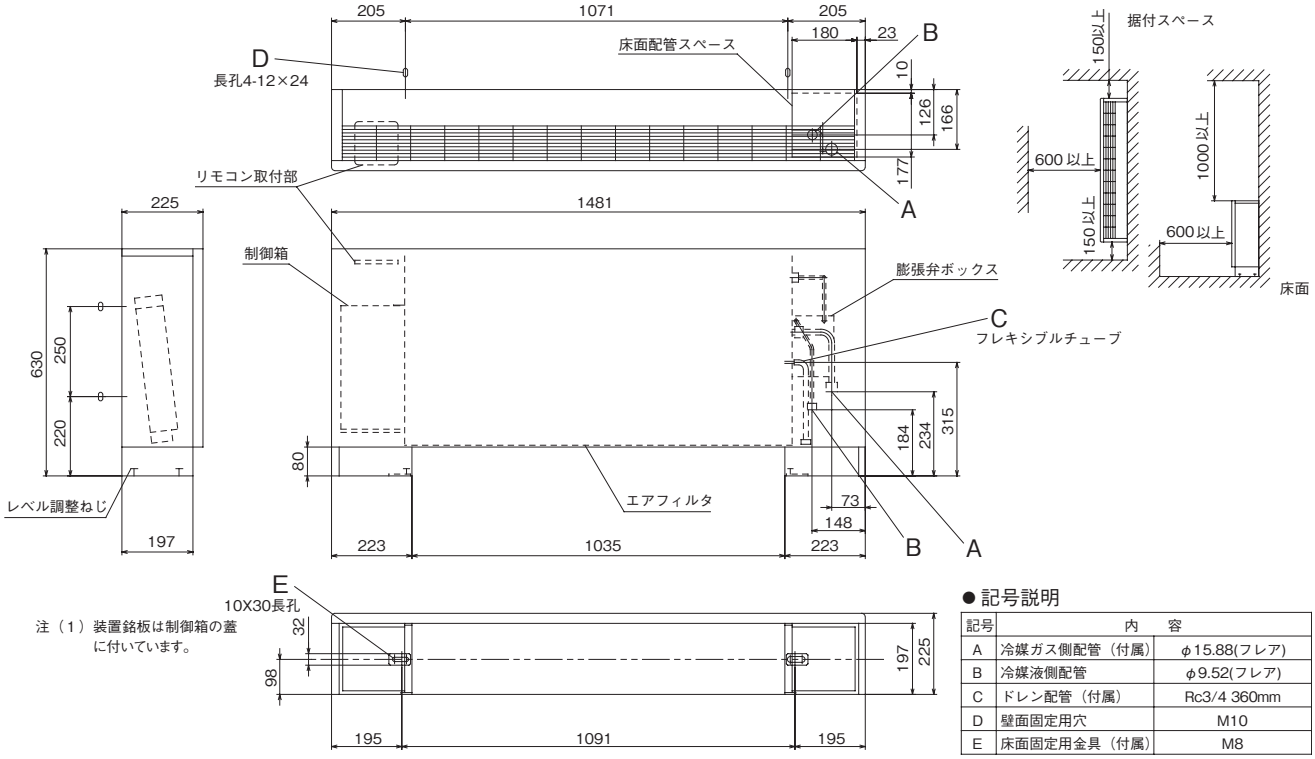
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

● 記号説明

記号	内　容	
A	冷媒ガス側配管（付属）	φ12.7(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)
C	ドレン配管（付属）	Rc3/4 360mm
D	壁面固定用穴	M10
E	床面固定用金具（付属）	M8

PGD000Z160

GFLP715M1A



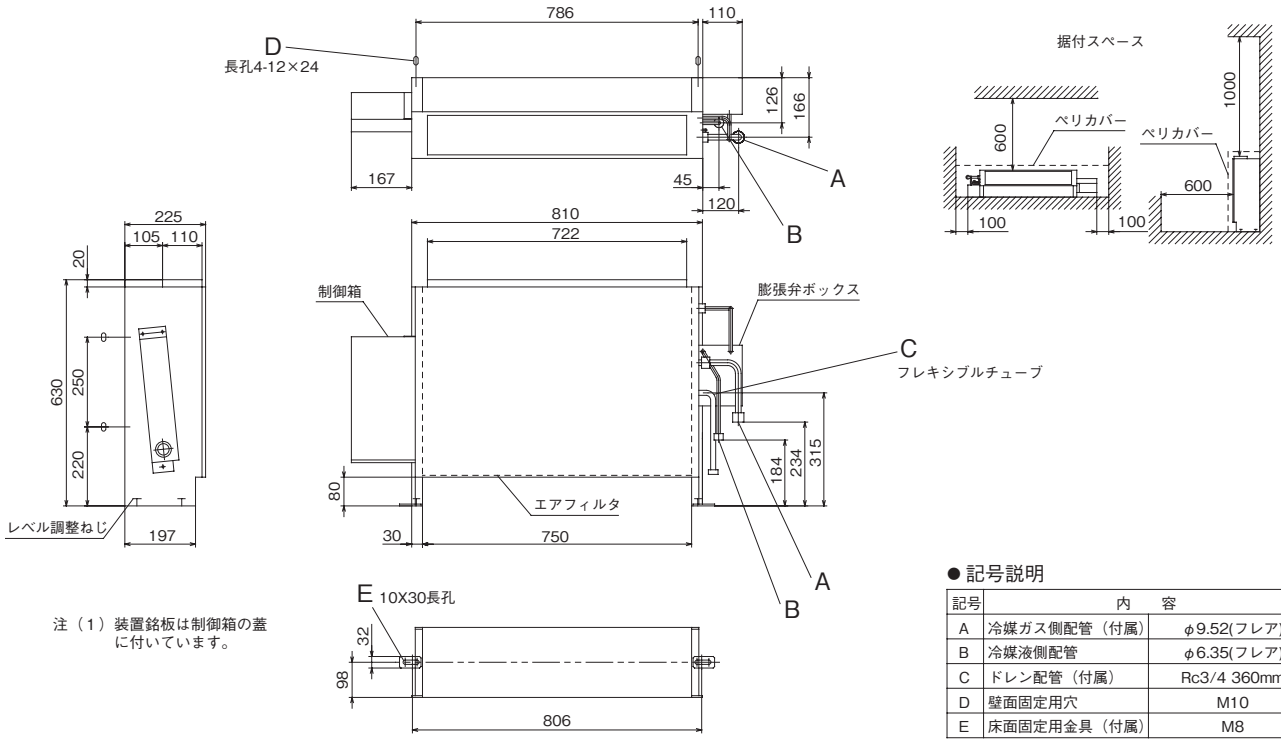
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

● 記号説明

記号	内　容	
A	冷媒ガス側配管（付属）	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管（付属）	Rc3/4 360mm
D	壁面固定用穴	M10
E	床面固定用金具（付属）	M8

PGD000Z161

（3）床置形ローボーイタイプ（隠蔽形）（GFU）
GFUP285M1A



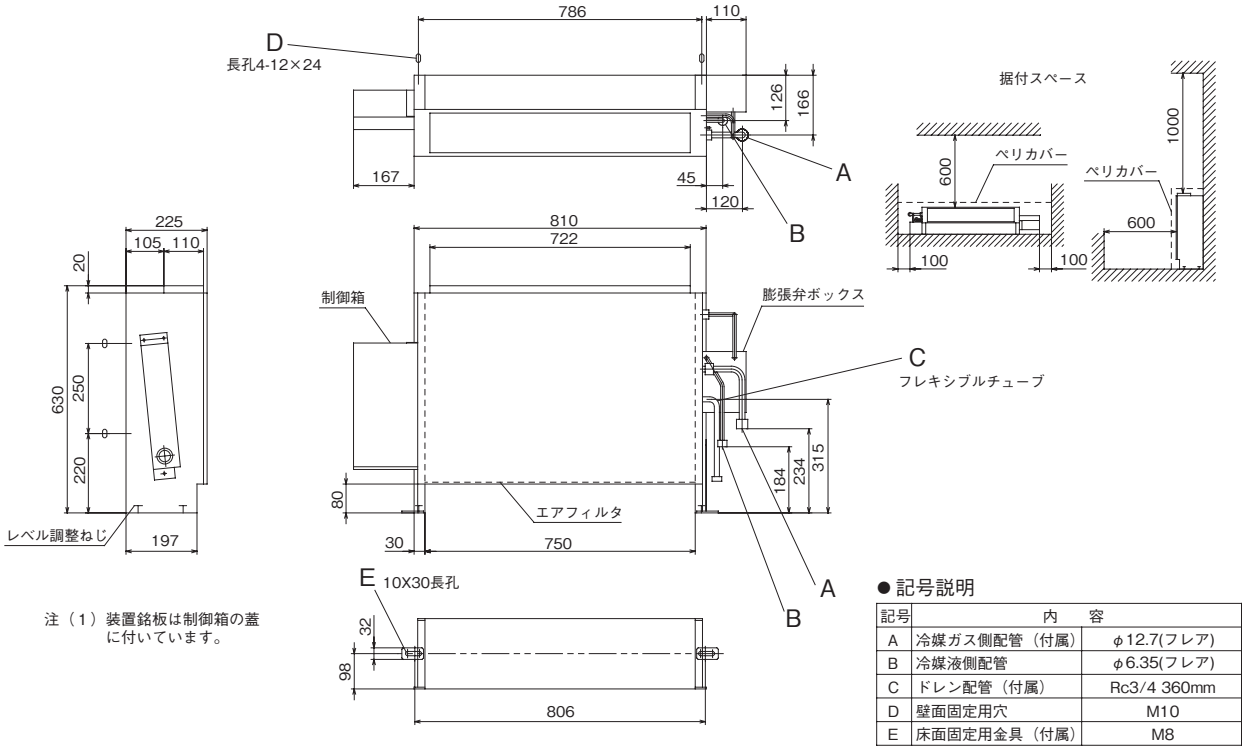
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

● 記号説明

記号	内　容	
A	冷媒ガス側配管（付属）	φ9.52(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)
C	ドレン配管（付属）	Rc3/4 360mm
D	壁面固定用穴	M10
E	床面固定用金具（付属）	M8

PGD000Z164

GFUP455, 565M1A



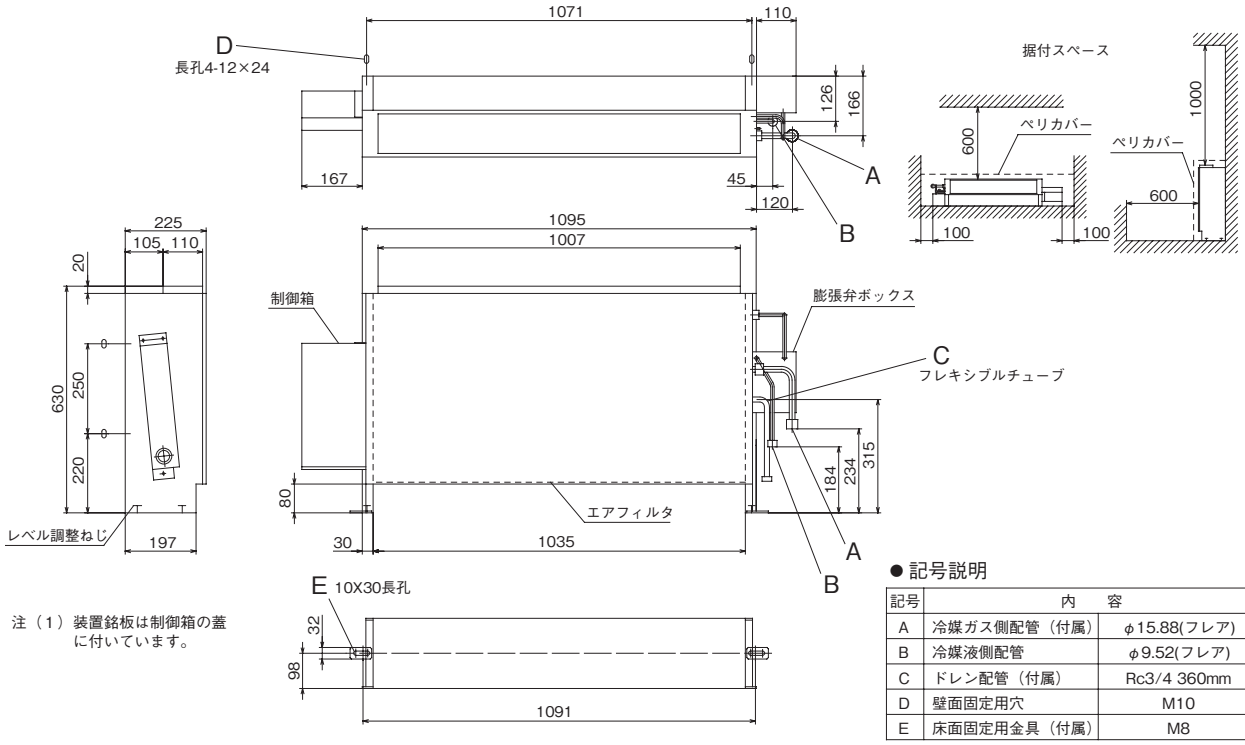
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

● 記号説明

記号	内　容	
A	冷媒ガス側配管（付属）	φ12.7(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)
C	ドレン配管（付属）	Rc3/4 360mm
D	壁面固定用穴	M10
E	床面固定用金具（付属）	M8

PGD000Z164

GFUP715M1A



注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

● 記号説明

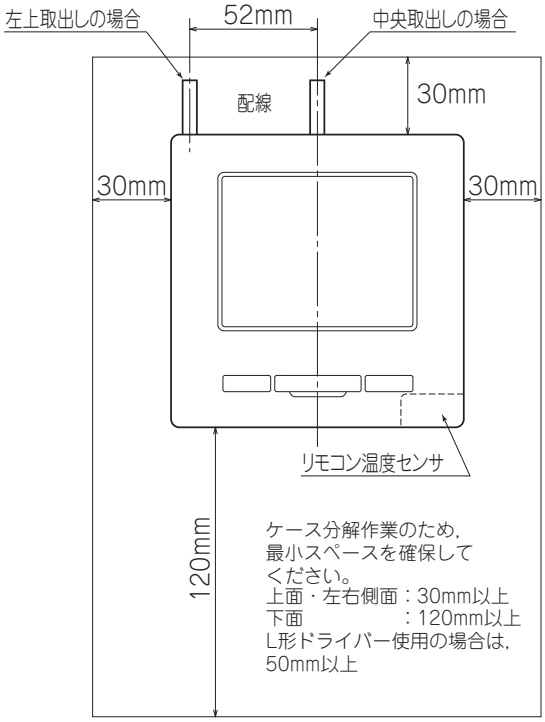
記号	内　容	
A	冷媒ガス側配管（付属）	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管（付属）	Rc3/4 360mm
D	壁面固定用穴	M10
E	床面固定用金具（付属）	M8

PGD000Z165

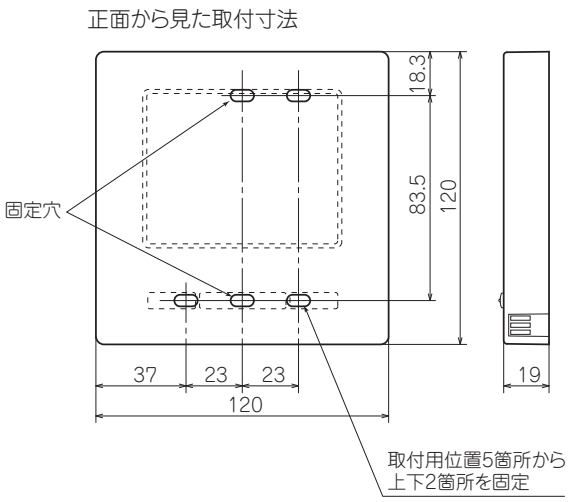
(4) リモコン

(a) eco タッチリモコン：RC-DX3C

設置スペース



リモコン取付寸法



リモコンコードを延長する場合の注意　**最大総延長600m**

●リモコンコードは0.3mm² × 2心です。

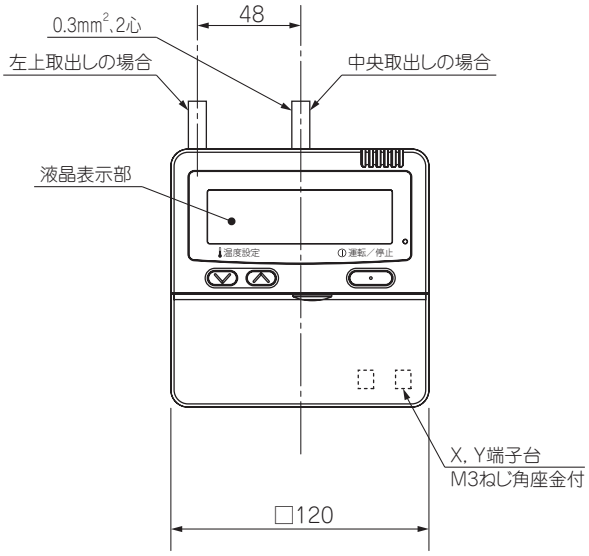
延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。配線接続する際は，水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内…0.50mm² × 2心
～300m以内…0.75mm² × 2心
～400m以内…1.25mm² × 2心
～600m以内…2.00mm² × 2心

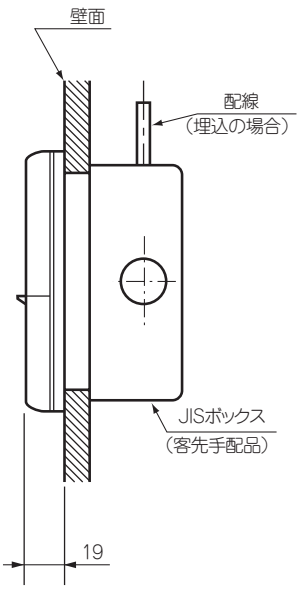
PJZ000Z342

(b) 標準リモコン：RC-D4G

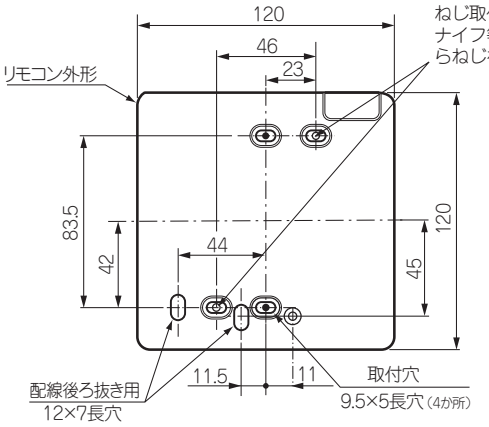
配線露出取付



配線埋込取付



リモコン取付寸法



注（1）使用可能JISボックス JIS C 8340
- ▸1個用スイッチボックス
  （左図 ● 印穴使用）
- ▸2個用スイッチボックス
  （左図 ○ 印穴使用）

（2）リモコン用取付ねじ
M4×2本

リモコンコードを延長する場合の注意 **最大総延長600m**

●リモコンコードは0.3mm² × 2心です。

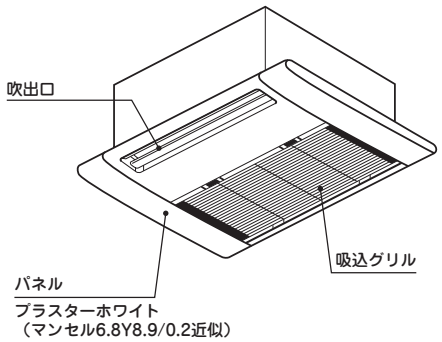
延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。配線接続する際は，水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内…0.50mm² × 2心
～300m以内…0.75mm² × 2心
～400m以内…1.25mm² × 2心
～600m以内…2.00mm² × 2心

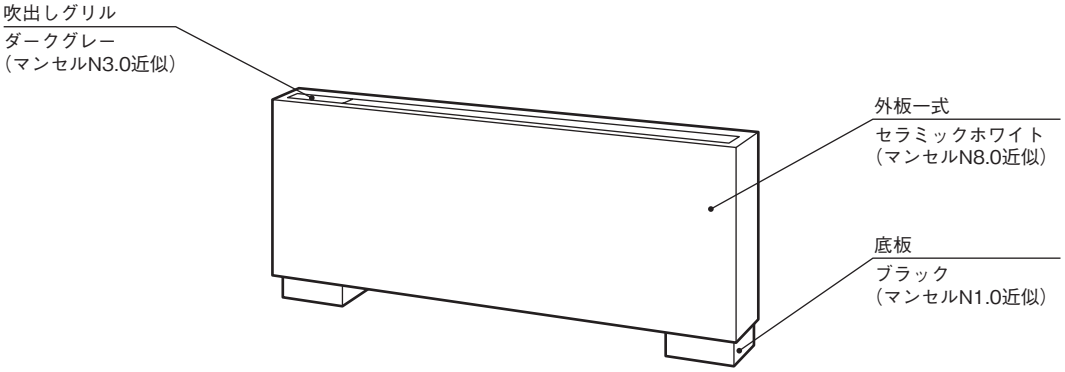
PJZ000Z290

1-3 塗 装 色

(1) 天井カセット形 (1 方向吹出し小容量)(GTSC)
パネル形式：TS-PSAW-15WG



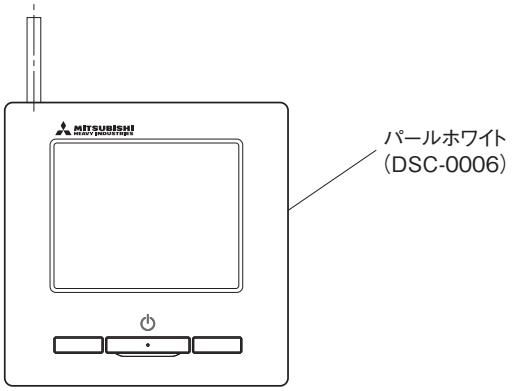
(2) 床置形ローボーイタイプ (露出形)(GFL)



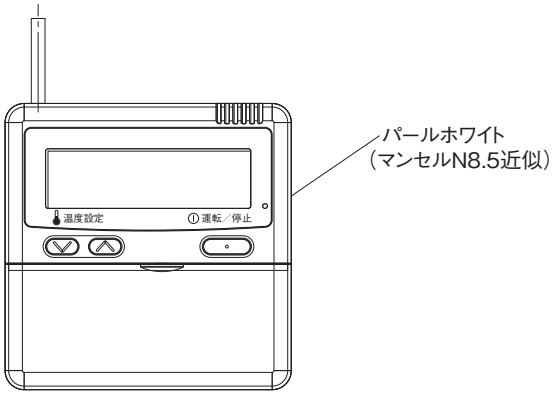
(3) 床置形ローボーイタイプ (隠蔽形)(GFU)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ クロメートフリー鋼板

(4) リモコン (別売品)

(a) RC-DX3C



(b) RC-D4G

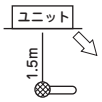


1-4 運転音

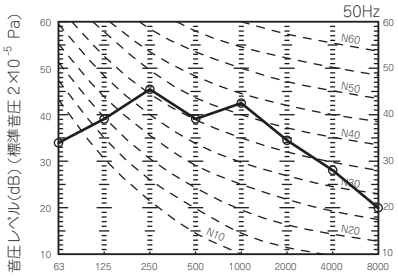
運転音は，JIS 規格に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(1) 天井カセット形（1 方向吹出し小容量）(GTSC)

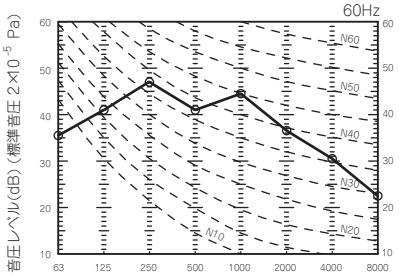
（測定条件：JIS B 8627· 冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方 1.5m）



GTSCP225, 285M1A

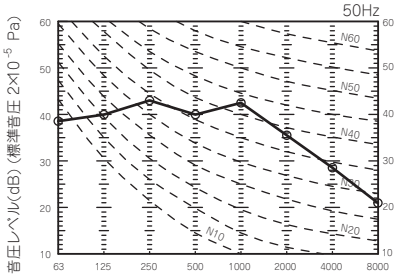


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

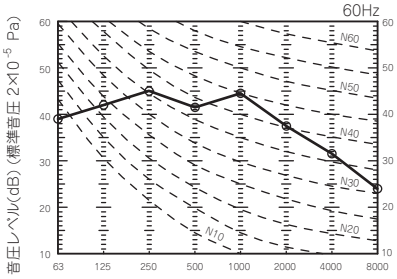


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

GTSCP365M1A



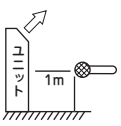
注(1) 暖房時もほぼ同じです。



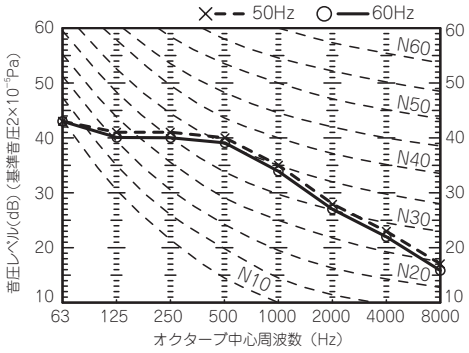
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(2) 床置形ローボーイタイプ（露出形）(GFL)
(3) 床置形ローボーイタイプ（隠蔽形）(GFU)

（測定条件：JIS B 8627· 冷房　測定場所：無響室
マイク位置：正面，前方，高さ各 1m）

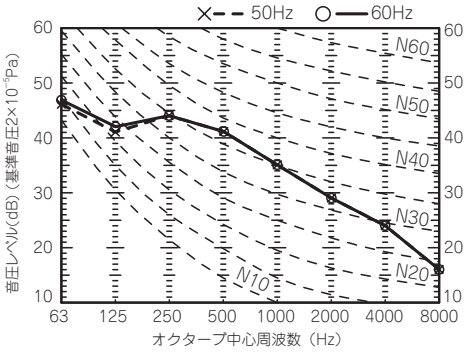


GFLP285M1A
GFUP285M1A



注(1)　暖房時もほぼ同じです。

GFLP455, 565, 715M1A
GFUP455, 565, 715M1A



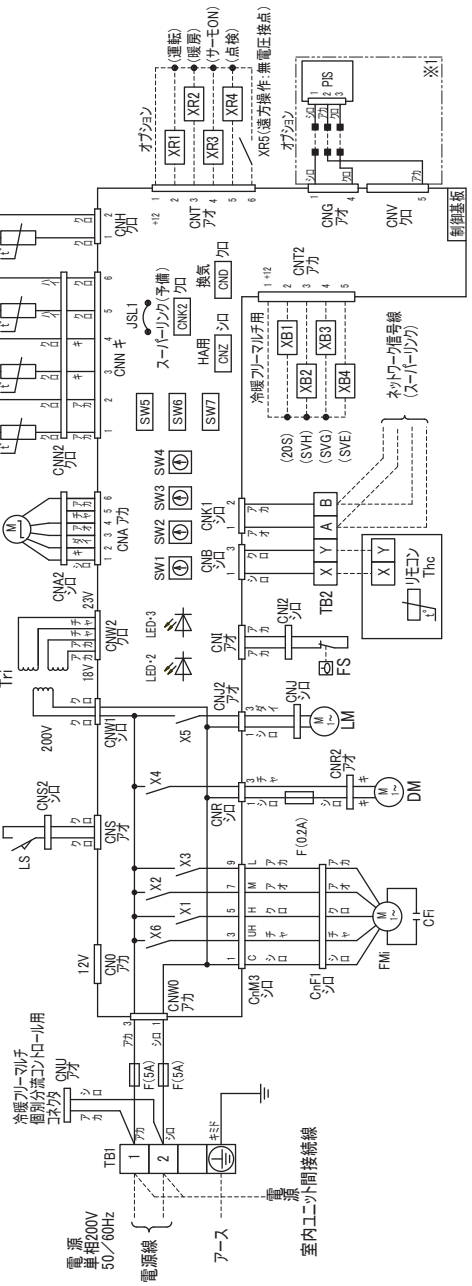
注(1)　暖房時もほぼ同じです。

1-5　電気配線図

（1）天井カセット形（1 方向吹出し小容量）（GTSC）

●記号説明

記　号	名　　称
CFi	FMi用コンデンサ
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F	ヒューズ
FMi	ファンモータ（サーモ付）
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク（予備）切換
LED・2	表示灯（緑－マイコン正常表示）
LED・3	表示灯（赤－点検表示）
LM	ルーバモータ
LS	ルーバスイッチ
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ（電子膨張弁用）
SW1	室内アドレスNo.100の位
SW2	室内アドレスNo.10の位
SW3	室外アドレスNo.100の位
SW4	室外アドレスNo.10の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.1000の位
SW6	機種容量切換
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台（電源）（口印）
TB2	端子台（通信）（口印）
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
Tri	トランス
X1~3,6	FMi用リレー
X4	DM用リレー
X5	LM用リレー
■印	閉端接続子



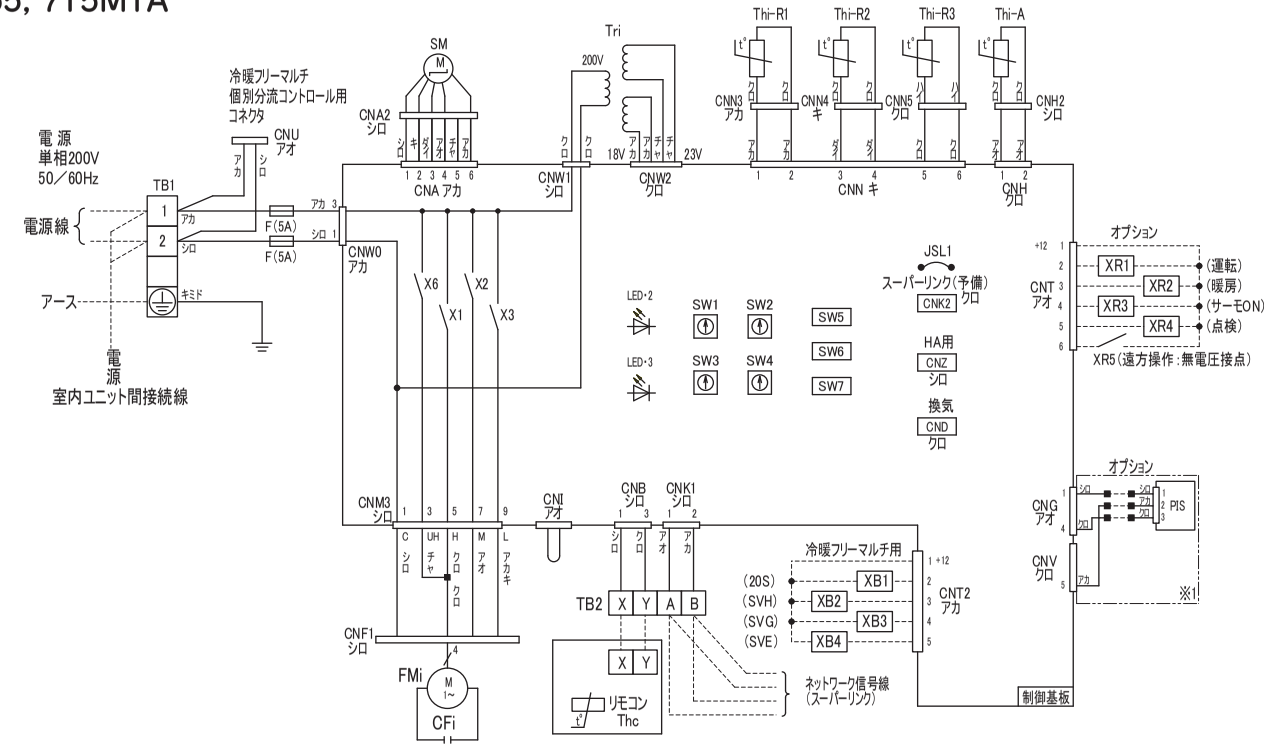
記事 1. ---- は現地配線を示します。
2. TB1は強電用端子台（電源線），TB2は弱電用端子台（リモコン線，ネットワーク信号線）です。
3. リモコン配線は0.3mm² x 2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については「リモコン＜納入仕様書＞をご覧ください。
4. ネットワーク（スーパーリンク）信号線は，
・シールド線，太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線，太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は，太さ2.0mm²とし，2000mまで
5. リモコン配線，ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6. 2点鎖線内（※1印）の回路は人感センサ（オプション）無しの場合，配線されていません。

GTSCP225, 285, 365M1A

PJC001Z472

GFLP285, 455, 565, 715M1A
GFUP285, 455, 565, 715M1A

(2) 床置形ローボーイタイプ（露出形）(GFL)
(3) 床置形ローボーイタイプ（隠蔽形）(GFU)



●記号説明

記　号	名　称
CFi	FMi用コンデンサ
CNA～Z	コネクタ
F	ヒューズ
FMi	ファンモータ(サーモ付)
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5- 1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5- 2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切換
SW7- 1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(口印)
TB2	端子台(通信)(口印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
Tri	トランス
X1～3,6	FM用リレー
■印	閉端接続子

記事 1. ---- は現地配線を示します。
2. TB1は強電用端子台(電源線)，TB2は弱電用端子台(リモコン線，ネットワーク信号線)です。
3. リモコン配線は0.3mm² x 2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様についてはリモコン＜納入仕様書＞をご覧ください。
4. ネットワーク(スーパーリンク)信号線は，
・シールド線，太さ0.75mm² を使用する場合は1500mまで
・シールド線，太さ1.25mm² を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は，太さ2.0mm² とし，2000mまで
5. リモコン配線，ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6. 2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

PGD000Z162
PGD000Z166

1-6　防振設計用参考資料

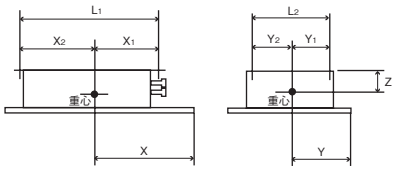
（1）耐震データ

単位 ： mm

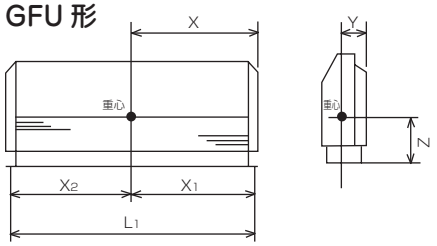
形式＼項目		製品外形寸法(1) 幅×奥行×高さ	製品質量(1) (kg)	重心位置(2)								
				幅方向				奥行方向				高さ
				X	X_1	X_2	L_1	Y	Y_1	Y_2	L_2	Z
GTSC	P225M1A	780×650×285	22	345	243	333	576	306	250	278	528	125
	P285M1A											
	P365M1A											
GFL	P285M1A	1196×225×630	32	508	313	493	806	118	—	—	—	335
	P455M1A											
	P565M1A											
	P715M1A	1481×225×630	40	671	476	615	1091	121	—	—	—	340
GFU	P285M1A	1077×225×630	25	385	383	423	806	113	—	—	—	320
	P455M1A											
	P565M1A											
	P715M1A	1362×225×630	32	533	531	560	1091	115	—	—	—	325

注(1)　GTSCシリーズは標準パネル使用時を示します。
　(2)　L_1(X_1，X_2)，L_2(Y_1，Y_2)寸法は据付ボルトの位置を示します。

GTSC 形



GFL 形
GFU 形



（2）防振データ

(50/60Hz)

形式＼項目		送風機回転数(1)(min-1)
GTSC	P225M1A	850/850
	P285M1A	
	P365M1A	
GFL	P285M1A	1100/1100
	P455M1A	1150/1150
	P565M1A	
	P715M1A	1200/1200
GFU	P285M1A	1100/1140
	P455M1A	1130/1280
	P565M1A	
	P715M1A	1190/1280

注(1)　P急または急運転時の値です。

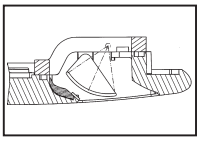
1-7　気流分布

（1）天井カセット形（1 方向吹出し小容量）（GTSC）

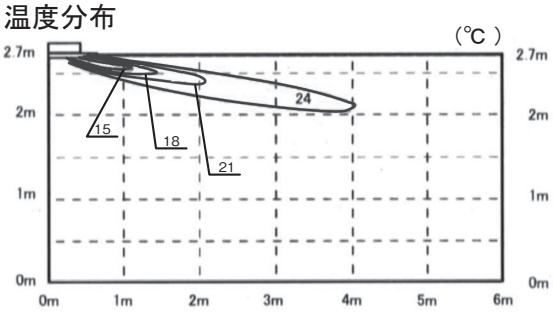
GTSCP225, 285, 365M1A

（a）冷房　風量：P 急

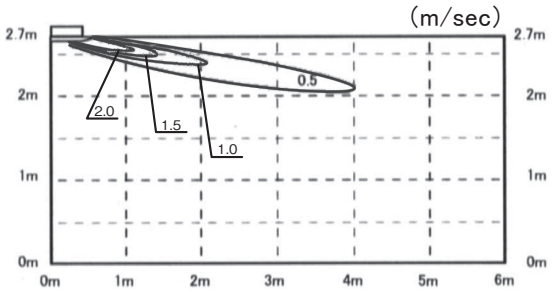
ルーバ位置



温度分布

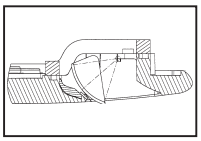


風速分布

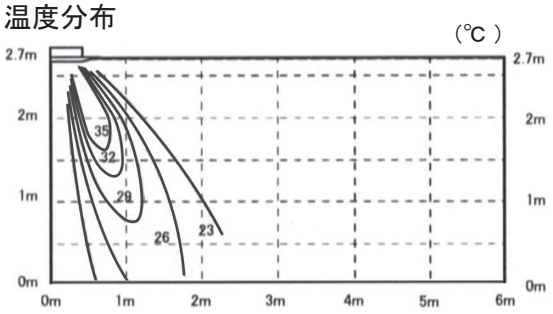


（b）暖房　風量：P 急

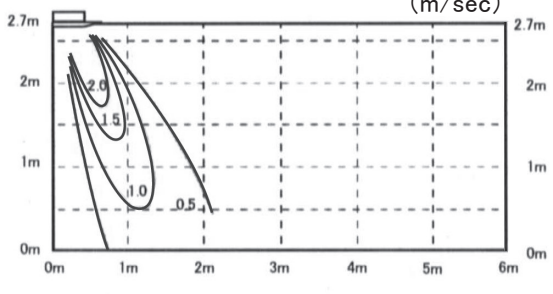
ルーバ位置



温度分布



風速分布

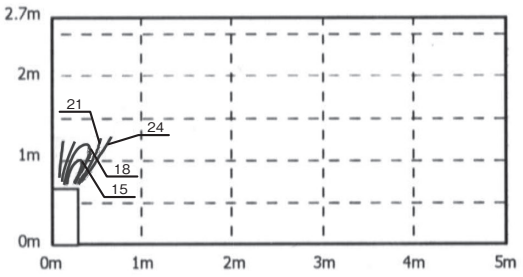


（2）床置形ローボーイタイプ（露出形）（GFL）

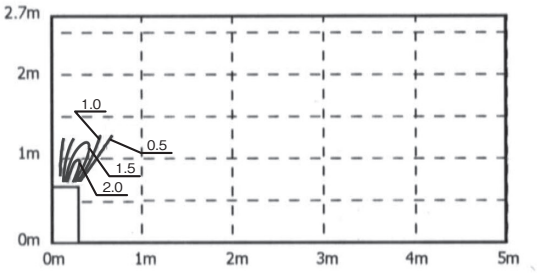
GFLP285M1A

（a）冷房　風量：急

温度分布　（℃）

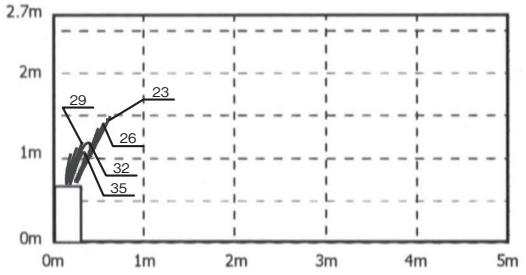


風速分布　（m/sec）

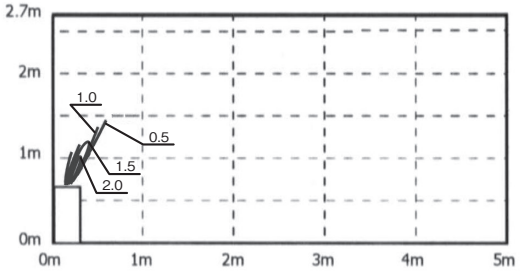


（b）暖房　風量：急

温度分布　（℃）



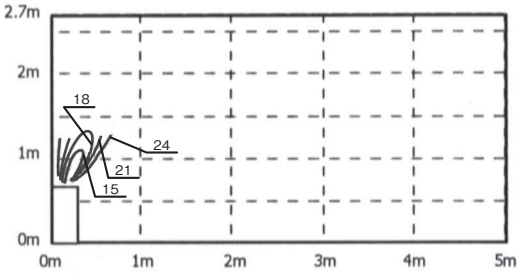
風速分布　（m/sec）



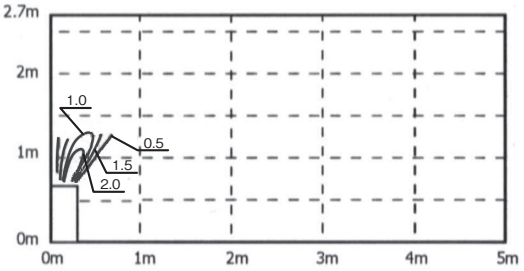
GFLP455，565M1A

（a）冷房　風量：急

温度分布　（℃）

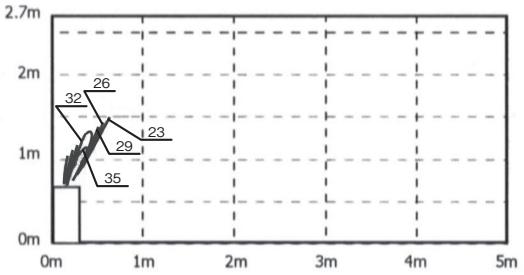


風速分布　（m/sec）

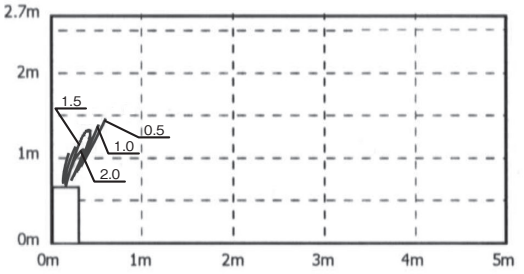


（b）暖房　風量：急

温度分布　（℃）



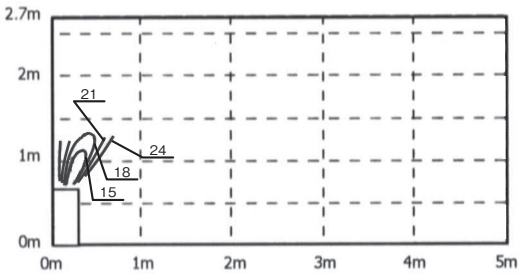
風速分布　（m/sec）



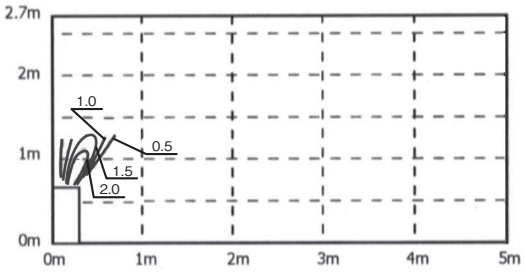
GFLP715M1A

（a）冷房　風量：急

温度分布　（℃）

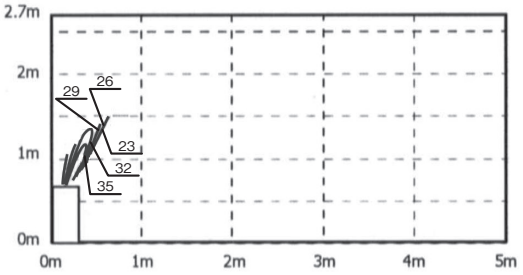


風速分布　（m/sec）

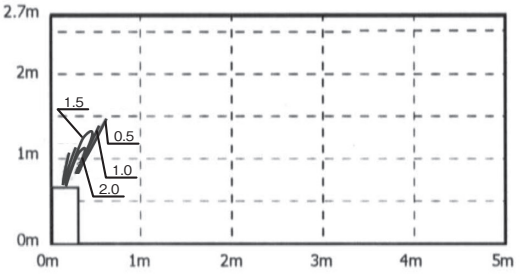


（b）暖房　風量：急

温度分布　（℃）



風速分布　（m/sec）



2 特性・機能編の目次

1. 機能 …… 2-2
1-1 室内マイコン運転制御機能 …… 2-2
1-2 リモコン機能 …… 2-20

1. 機能

1-1 室内マイコン運転制御機能

(1) 冷房・暖房運転時の機能品動作

動作 / 機能品	冷房		送風	暖房			除湿
	サーモON	サーモOFF		サーモON	サーモOFF	ホットスタート（デフロスト）	
圧縮機	○	×	×	○	×	○	○／×
四方切換弁	×	×	×	○	○	○（×）	×
室外送風機	○	×	×	○	×	○（×）	○／×
室内送風機	○	○	○	○／×	○／×	○／×	○／×
ルーバモータ	○／×			○／×	○／×	○／×	○／×
ドレンポンプ(3)	○	×(2)	×(2)	○／×(2)			サーモON：○ サーモOFF：×(2)
加温器	×			○／×(4)			×

注(1) ○：運転　×：停止　○／×：室温制御以外の制御により運転／停止します。
(2) ドレンポンプ遅延制御中はON。
(3) ワイヤードリモコンの室内機能設定によりドレンポンプON設定の選択が可能です。
(4) 加温器ドレン連動制御中はON。

(2) 除湿運転

吸込温度センサ〔Thi-A（リモコンセンサ有効時はリモコン温度センサによる)〕により，室内の温度環境を同時に制御します。

(i) 冷房運転で運転を開始し，吸込温度と設定温度の差が2℃以内の場合は，室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

(ii) 除湿運転中に吸込温度が設定温度より3℃より大きくなった場合，室内ファンタップを1タップアップします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

(iii) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合，サーモOFF中はサーモON時の室内ファンタップを保持します。

(3) タイマー運転

(a) RC-DX3Cリモコンの場合

(i) 切忘れタイマー

運転開始してから停止するまでの時間を設定します。設定時間は30～240分（10分単位）まで選択可能です。

注(1) リモコンより「切忘れタイマー」設定を有効にしてください。有効の場合，毎回タイマーが作動します。

(ii) 時間切タイマー

運転後，停止させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。

(iii) 時間入タイマー

停止後，運転させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。また，同時に室内温度･運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

(iv) 時刻入タイマー

運転開始時刻を設定します。設定時刻は5分単位で設定可能で，1回のみ／毎日の切換が可能です。また，同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

注(1) 時刻入タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(v) 時刻切タイマー

運転停止時刻を設定します。設定時刻は5分単位で設定可能で，1回のみ／毎日の切換が可能です。

注(1) 時刻切タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vi) ウィークリータイマー

1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。１日最大８パターンまでの設定が可能で，祭日および臨時休業など休日設定が可能です。

注(1) ウィークリータイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vii) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

	切忘れタイマー	時間切タイマー	時間入タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
切忘れタイマー		×	×	○	○	○
時間切タイマー	×		×	×	×	×
時間入タイマー	×	×		×	×	×
時刻切タイマー	○	×	×		○	×
時刻入タイマー	○	×	×	○		×
ウィークリータイマー	○	×	×	×	×	

注(1) ○：可，×：不可

(b) RC-D4Gリモコンの場合

(i) 時間タイマー

現在よりエアコンOFFの時間を設定します。

「1時間後切」から「10時間後切」の10段階での選択が可能です。時間タイマー設定後は，現在時刻の経過とともに1時間単位で残り時間の表示を行います。

(ii) 時刻切タイマー

エアコンOFF時刻を10分単位で設定が可能です。

(iii) 時刻入タイマー

エアコンON時刻を10分単位で設定が可能です。また，同時に室内温度も1℃単位で設定が可能です。

(iv) ウィークリータイマー

各曜日毎に，一日最大4回タイマー運転（入タイマー，切タイマー）の設定が可能です。

(v) タイマ運転の併用設定可能な組合せ

	時間タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
時間タイマー		×	○	×
時刻切タイマー	×		○	×
時刻入タイマー	○	○		×
ウィークリータイマー	×	×	×	

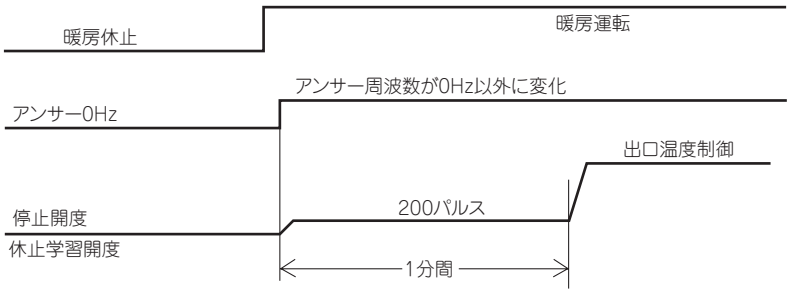
注(1) ○：可，×：不可

(2) 時刻入タイマーと時間タイマーおよび時刻切タイマーが併用設定されており，タイマー入時刻とタイマー切時刻（または切時間）が同時刻に設定された場合は，タイマー切設定が優先されます。

(4) ホットスタート（暖房時コールドドラフト防止）

(a) 開始条件

暖房運転開始時，アンサー周波数が0Hzから0Hz以外に変化した時，1分間は膨張弁開度を200パルスに固定します。



(b) 制御内容

(i) ホットスタート時の室内ファンモータ制御

1) 暖房運転開始後7分以内，サーモ状態（暖房サーモOFF時のファン制御）によりファンモードを決定します。

a) サーモOFFの場合

i) 暖房サーモOFF時の室内ファン制御設定により運転します。

ii) サーモOFFからサーモONに変化してもファンは室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になるまでサーモOFF時のファン制御で運転を続けます。

iii) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時設定風量で運転します。

b) サーモONの場合

i) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以下の時ファンは運転しません。

ii) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以上になった時，暖房サーモOFF時ファン制御で運転します。

iii) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時，設定風量で運転します。

c) ワイヤードリモコン室内機能設定から「暖房ファン制御」を「設定風量」に設定している場合は，サーモON／OFFに拘らずファンは設定風量で運転します。

2） サーモON中に1度ファンモータがOFFからONとなると，室内熱交温度センサが25℃以下となっても室内ファンモータをOFFしません。
（注）デフロスト制御受信時はデフロスト時のファン制御に従います。
3） 一旦ホットスタートを終了すると室内熱交温度センサの温度が低下してもホットスタートを再開しません。

(ii) ホットスタート作動時はルーバは水平位置となります。

(iii) デフロスト終了後，連続7分間室内ファンがOFFの場合は，室内熱交温度センサ（Thi－R1，R2）の検知温度に拘らずONします。

(c) 終了条件

(i) ホットスタート制御中に下記の何れかの条件が成立した時，本制御を終了し室内ファンは設定風量で運転します。
1） 室内熱交温度センサ（Thi－R1，R2の何れかが高い方）が35℃以上のとき。
2） ホットスタート制御開始7分経過したとき。

(5) ホットキープ

デフロスト制御開始時にホットキープ制御を行います。

(a) 制御内容

(i) 室内熱交温度(Thi-R1またはR2で検知)が35℃以下となった場合，室内ファンを各設定の低速タップにします。

(ii) ホットキープ時は，ルーバは水平位置となります。

(6) フィルターサイン

運転時間(運転／停止スイッチが ON となっている時間)が 180 時間(1)になるとリモコン上の「フィルター清掃」を表示します。(運転／停止に関係なく，故障時，集中制御時も表示します。)

注(1) フィルターサインの時間設定はワイヤードリモコン室内機能「フィルターサイン設定」により下表の様に設定可能です。（工場出荷時は，設定1に設定されています）

フィルターサイン設定	機　　能
設定１	設定時間：180 時間(工場出荷時)
設定２	設定時間：600 時間
設定３	設定時間：1,000 時間
設定４	設定時間：1,000 時間(ユニット停止)(2)

(2) 設定 4 では, 設定時間経過後フィルター清掃を表示させ更に 24 時間(停止中もカウント)経過後ユニットを停止します。

⑺ オートスイング制御［適用形式：GTSC シリーズ］

ご注意 RC-DX3Cリモコンは，機能設定で「ドラフト防止設定」が有効の時，オートスイングを選択してもドラフト防止設定が有効なルーバはスイングせず水平位置となります。オートスイングさせる場合は「ドラフト防止設定」を解除してください。

ⓐ RC-DX3Cリモコンの場合

(i) ルーバ制御

1) エアコンが運転している時に，ルーバを動かすときは，リモコンのTOP画面の「風向」ボタンをタッチすると風向切換画面が表示されます。
2) ルーバをスイングさせる場合は「オートスイング」ボタンをタッチしてください。ルーバが上下に連動して動きます。
   ルーバ位置を固定する場合は 1 ～ 4 ボタンをタッチしてください。ルーバが指定の位置でとまります。
3) ルーバ４位置制御機の電源投入時のルーバ動作
   電源投入時，ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。
   これは，ルーバ位置をマイコンが確認するため，ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

(ii) 暖房時のルーバ自動水平セット

ホットスタートおよび暖房サーモ時は，（コールドドラフトを防ぐため）オートスイング操作(オートスイングまたはルーバ停止)に拘らずルーバは水平位置となります。またルーバ位置の液晶は本制御に入る前の表示を継続します。

(iii) ルーバフリー停止制御

リモコンのTOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「リモコン設定メニュー#2」順にボタンをタッチして行くと「上下ルーバ制御」画面が表示されます。この画面にてフリー停止を選択するとリモコンより停止信号があった場合ルーバモータを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合，停止前の位置よりオートスイングを始めます。

ⓑ RC-D4Gリモコンの場合

(i) ルーバ制御

1) エアコンが運転している時に，スイングルーバを動かすときは，風向調整 ボタンを押します。
   「スイング」表示し，スイングルーバが上下に連続して動きます。
2) スイングルーバの位置を固定するときは，スイングルーバが動いているときに，風向調整 ボタンを一度押すと，4位の停止位置が1秒ごとに順番に表示されます。
   停止させたい位置に表示がきたときに，再度 風向調整 ボタンを押します。表示が停止し，「ルーバ停止」表示を5秒間表し，スイングルーバが停止します。
3) ルーバ4位置制御機の電源投入時のルーバ動作
   電源投入時，ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。
   これは，ルーバ位置をマイコンが確認するため，ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

(ii) 暖房時のルーバ自動水平セット

ホットスタートおよび暖房サーモOFF時はオートスイングスイッチの操作（オートスイングまたはルーバ停止）に拘らずルーバは水平位置となります。（コールドドラフトを防ぐため）またルーバ位置表示のLCDは本制御に入る前の表示を継続します。

(iii) ルーバフリー停止制御

ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」でルーバフリー停止を選択した場合，リモコンより停止信号があった場合ルーバモータを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合，停止前の位置よりオートスイングを始めます。

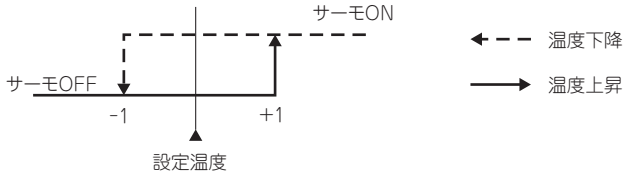
注(1) ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」を切換えた場合は，リモコン機能「ルーバ制御設定」も同様に切換えてください。

(8) サーモ動作

(a) 冷房

(i) 室温制御（ファジー制御）によりサーモを動作させます。

(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。

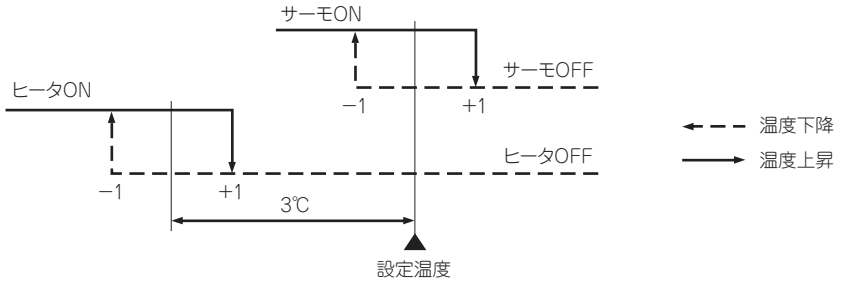


(iii) 冷房運転開始時（暖房から冷房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(b) 暖房

(i) 室温制御（ファジー制御）によりサーモを動作させます。

(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。



(iii) 暖房運転開始時（冷房から暖房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(c) 暖房サーモOFF中のファン制御

(i) 暖房サーモOFF時のファン制御は下記がワイヤードリモコンの室内機能設定から選択が可能です。

① 弱風（工場出荷時），② 設定風量，③ 間欠，④ 停止

(ii) 「弱風（工場出荷時）を選択した場合下記のタップで運転します。

・DCモータの場合：ULoタップ

・ACモータの場合：Loタップ

(iii) 「設定風量」を選択した場合，サーモOFF時も設定風量で運転します。

(iv) 「間欠」を選択した場合，下記の制御を行います。

1) 暖房運転中にサーモOFFした室内ユニットは，室内ファンをOFFします。

2) 室内ファンOFFを5分間固定とし，5分後に室内ファンULo（Lo）運転を2分間行い，ここでルーバは水平制御とします。

3) 室内ファンULo（Lo）運転2分後に1）項へ移行します。

4) サーモONであれば，ホットスタート制御へ移行します。

5) 暖房サーモOFFとなった場合，リモコンに表示する温度は室内ファンが停止となった時点とし，以後，ファンがULo（Lo）→停止のタイミングでのみ更新します。
リモコンでは運転データ表示操作により温度表示を行い，ファンOFF中も値を更新します。

6) 暖房サーモOFF中にデフロストに入った場合，またはデフロスト中にサーモOFFした場合の室内ファンはOFFとします。（ホットスタート制御を優先する）ただし，吸込温度の更新は7分毎とします。

7) 暖房サーモONとなった場合，または他の運転モード（含む停止）に切換えた場合は，その時点で本制御を中止し，それから運転状態に復帰します。

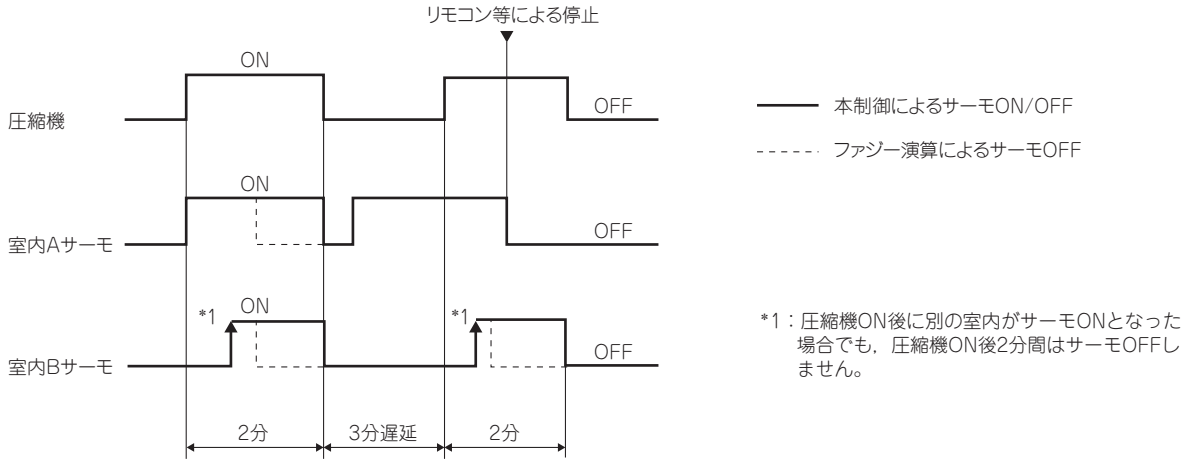
注(1) 本項のサーモOFF中とは暖房運転で要求周波数＝0Hzとなった時点から要求周波数≠0，かつアンサーバック周波数≠0となるまでの間をいいます。従って室外ユニットの制御による圧縮機OFF，または要求周波数≠0でアンサーバック周波数＝0の場合は本制御せず室内ファンはホットスタートによります。

注(2) （ ）内の室内ファンタップは、ACモータの場合を示します。

(v) 「停止」を選択した場合，サーモOFFした室内ユニットのファンをOFFします。
また，リモコンセンサ有効の場合もサーモOFFした室内ユニットのファンをOFFします。

⑼ 圧縮機インチング防止制御

(a) 室内ユニットは一旦サーモONとなった場合は，⑻項でサーモOFFとなっても圧縮機ON後2分間(*1)は，サーモOFFしません。圧縮機ON後2分以内にサーモOFFとなる場合は，その機種に定められた0Hz以外の最低要求周波数を出力します。



(b) 室内ユニットは一旦サーモONとなった場合は，⑻項でサーモOFFとなってもサーモON後2分間は，サーモOFFしません。サーモON後2分以内にサーモOFFとなる場合は，その機種に定められた0Hz以外の最低要求周波数を出力します。

(c) サーモON中に油戻し制御を開始したユニットは油戻し制御中に－1℃になってもサーモOFFしません。

⑽ ドレンポンプ制御（GTSC シリーズ）

(a) 冷房運転，自動の冷房および除湿運転にてインバータ周波数が0Hz以外の場合に作動します。

(b) ドレンポンプがONし(a)項によりOFFの領域となってから，5分間ドレンポンプONを継続し，その後停止します。また異常停止の場合も5分間遅延を継続します。

(c) 圧縮機ON→OFF時にドレンポンプを5分間遅延運転させます。

(d) 上記以外の状態（暖房，送風，停止，冷房サーモOFF）でもドレン検知によりドレンポンプ制御を行います。

(e) 油戻し制御の(a)(i)項の冷房時において，そのユニットのドレンポンプを油戻し制御時間＋5分遅延の間ONします。

(f) ワイヤードリモコン室内機能設定により下記設定が可能です。

(i) 標準：冷房時ドレンポンプON（出荷時）

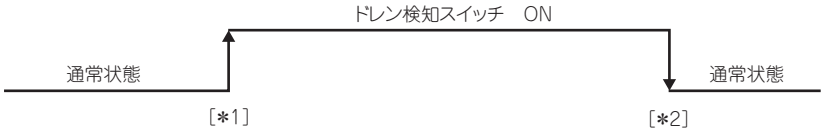
(ii) 暖房：(i)＋暖房時ドレンポンプON

(iii) 暖房　送風：(i)＋暖房時，送風時ドレンポンプON

(iv) 送風：(i)＋送風時ドレンポンプON

⑾ ドレン異常検知（GTSC シリーズ）

(a) フロートスイッチ（FS）とタイマによりドレン検知スイッチをON-OFFします。



［＊1］ドレン検知可能区間においてフロートスイッチ「開」を3秒間連続検知した時，ドレン検知スイッチを「ON」にします。

［＊2］フロートスイッチ「閉」を10秒間連続検知した時，ドレン検知スイッチを「OFF」にします。

(i) 電源ON後30秒以降常時検知します。

(ii) ドレンポンプOFF後10秒間はドレン異常検出を行ないません。

(iii) ドレン検知スイッチ「ON」により，ドレンポンプを強制ONにします。

(iv) ドレン検知スイッチ「OFF」により，ドレンポンプ強制ONを解除します。

(b) 室内ユニットは，各運転状態によりA制御またはB制御を行ないます。

室内ユニットの運転モード					
	停止(1)	冷房	除湿	送風(2)	暖房
圧縮機ON中		A　制　御			
圧縮機OFF中	B　制　御				

注(1) 冷房，除湿，送風，暖房からの停止，異常停止を含む
(2) 運転モード不一致による「送風」運転を含む

(i) **A制御**

1) フロートスイッチがドレン異常を検知すると異常停止（E9 表示）します。異常検知後，ドレンポンプモータは ON を継続します。

2) フロートスイッチがドレン異常を検知している間は運転します。

(ii) **B制御**

フロートスイッチがドレン異常を検知するとドレンポンプモータを5分間ONしドレンポンプモータOFF後10秒の時点でフロートスイッチをチェックし正常ならば通常の停止，異常ならばE9を表示しドレンポンプモータをONします。（ドレン検知中はONのまま。）

⑿ 運転チェック／ドレンポンプ試運転モード

(a) 室内基板上のディップスイッチ（SW7－1）をON状態で電源を投入することにより運転チェック／ドレンポンプ試運転モードに入ります。なお，電源投入後の切換えは無効（禁止）です。

(b) ディップスイッチ（SW7－1）がONで電源投入後60秒以内にリモコン通信が確定した場合は，運転チェックモードに入ります。また，リモコン通信が確定しない場合は，ドレンポンプ試運転モードに入ります。

注⑴ ドレンポンプ試運転モードを選択する場合は，室内基板上のリモコン用コネクタ（CnB）を抜きリモコン通信を断ってください。

(c) 運転チェックモード

室外ユニットとの通信は行われず，リモコン操作により各運転モードを行います。

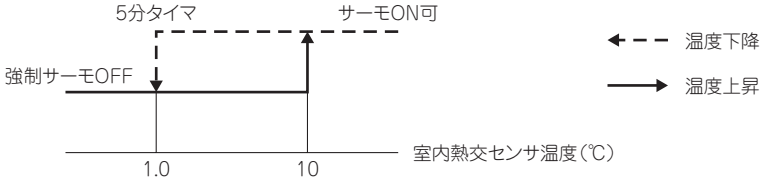
(d) ドレンポンプ試運転モード

ドレンポンプ試運転確定後ドレンポンプのみ運転を行い，運転中は，室内ユニットのマイコンによる保護機能は無効となります。

⒀ 室内熱交アンチフロスト（凍結防止制御）

サーモOFF制御

(a) 「冷房」「除湿」運転中，熱交センサ（Thi-R1, 2）の検知温度により，サーモOFFを行います。



(b) サーモON後4分間は，凍結防止保護の強制サーモOFF制御を動作させません。サーモON4分経過時点で，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の検知温度が強制サーモOFF温度（1.0℃）以上の場合は，サーモON可の状態から検知を開始します。

(c) サーモONから4分経過後，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか）が5分連続して強制サーモOFF温度（1.0℃）以下となると強制サーモOFFさせます。

また，室内熱交温度センサ（Thi-R1, R2)の温度が10℃以上になるとサーモONさせます。

(d) 室外ユニットへ『アンチフロスト』信号を送ります。

(e) ワイヤードリモコン室内機能設定フロスト防止温度により強制サーモOFF温度の切換ができます。

温度　低：1.0℃（工場出荷時）

温度　高：2.5℃

⒁ 加湿器対応制御（オプション加湿器組込時の対応）

(a) **ワイヤードリモコン室内機能設定で下記を設定し加湿器対応制御を行います。**

(i) ドレンポンプ連動設定

(ii) 暖房ファン残留運転

(iii) 暖房ファン間欠運転

㈱ 「残留運転」「間欠運転」両方を実施する場合は「残留運転」終了後「間欠運転」を行います。

(b) **開始条件**

(i) 暖房運転休止（「暖房停止」または「暖房サーモ OFF」）になったとき。

(ii) 室外ユニットが「冷房モード」から「暖房モード」に変わったとき。

(c) **優先度**

(i) ヒータ残留運転を優先します。

(ii) 暖房サーモ OFF 時のファン制御より本制御を優先します。
ただし，暖房サーモOFF時のファン制御において，設定風量選択時は，設定風量を優先します。

(iii) デフロスト中，室内熱交温度が 25℃以下の場合は，室内ファンを OFF します。

(iv) 異常停止「E16」(ファンモータ異常)，「E20」(ファンモータ回転異常)「E63」(緊急停止) の場合はファンを停止します。

(v) その他異常停止時は本制御を行います。

(注) 熱交温度センサ（Thi-R3）が断線した場合は，温度条件が成立しないため停止します。温度情報に左右されない暖房ファン残留運転は行います。

(vi) 室外ユニットからの膨張弁開度指令を優先します。

(d) **ドレンポンプ連動制御**

(i) **開始条件**

リモコン設定により下記のいずれかの条件時にドレンポンプをONします。

1) 標準：冷房運転中〔冷房（圧縮機）ON〕
2) 暖房：①＋暖房運転中〔冷房（圧縮機）ON，暖房（圧縮機）ON ／ OFF共〕
3) 暖房　送風：①＋暖房運転中＋送風運転中〔冷房（圧縮機）ON，暖房（圧縮機）ON ／ OFF共〕
4) 送風：①＋送風運転中〔冷房（圧縮機）ON ／ OFF共〕

(ii) **制御内容**

・ドレンポンプを運転

	冷房（圧縮機）ON	冷房（圧縮機）OFF	暖房（圧縮機）ON	暖房（圧縮機）OFF	送風
①標準	○	×	×	×	×
②暖房	○	×	○	○	×
③暖房　送風	○	×	○	○	○
④送風	○	○	×	×	○

(iii) **終了条件**

下記のいずれかの条件が成立してから5分間ドレポンプはONを継続します。

1) 運転停止（異常停止を含む）
2) 上表の○→×に切換えた場合

(e) **暖房ファン残留運転：0.5時間**

(i) **開始条件**

(b)開始条件から30分間

(ii) **制御内容**

1) 風量弱で送風運転
2) ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）
3) 90パルスに固定
4) 圧縮機OFF時も有効

(iii) **終了条件**

1) 30分経過後
2) 運転を開始

(f) **暖房ファン残留運転：2時間／6時間**

30分間は，「暖房ファン残留運転：0.5時間」を行います。

(i) **開始条件**（下記条件を全て満たした場合）

1) 『暖房ファン残留運転：0.5時間』終了後
2) (b)開始条件から120分間／360分間
3) 熱交温度センサ（Thi-R3）温度が40℃以上

(ii) **制御内容**

1) 風量弱で送風運転
2) ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）
3) 90パルスに固定

(iii) **制御休止条件**

1) 熱交温度センサ（Thi-R3）温度が35℃未満に下がった場合120分／360分タイマーのカウントを止めて送風運転を停止します。
膨張弁は，『休止および停止ユニットの膨張弁制御』によります。

(iv) **終了条件**

1) 積算で120分／360分経過後送風運転を停止します。
膨張弁は，『休止および停止ユニットの膨張弁制御』によります。

2) 運転を開始した場合
120分／360分タイマーをクリヤして終了。

(g) **暖房ファン間欠運転**

(i) **開始条件**（下記条件が全て成立した場合）

1) (b)開始条件から

2) パネルスイッチ（CN-YまたはCN-V1-5）がONの時。

3) A 分毎に温度判定する。前回判定から A 分経過後，温度判定します。

制御	A
5休5風	10
20休5風	25

4) 熱交温度センサ（Thi-R3）検知温度が＞25℃以上高い場合。
（間欠送風運転開始の都度判定し，判定後は次判定まで保持）

(ii) **制御内容**

1) ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）

2) 風量弱で送風　5分運転。

(iii) **休止条件**（下記いずれかが成立した場合）⇒次回判定まで休みます。

1) パネルスイッチ（CN-YまたはCN-V1-5）がON→OFF

2) デフロスト信号受信中

(iv) **終了条件**

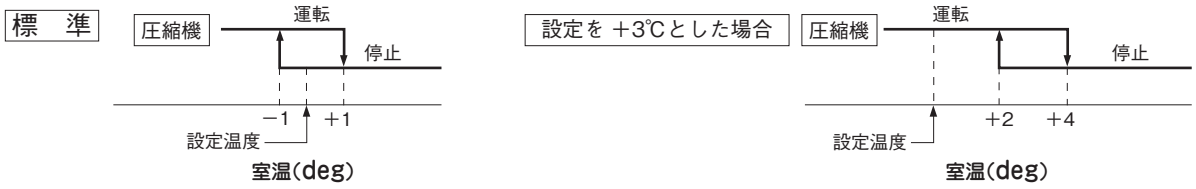
1) 送風運転を積算し，600分間経過後　タイムUP

2) 運転開始（停止→停止以外のモードへ変わった時）

3) 室外ユニットが暖房から暖房以外のモードに変更の時。

(15) 暖房時室温検知温度補正

標準仕様では，サーモの設定温度で圧縮機をON ／ OFFしていますが天井に暖気がこもり易い据付状況で早目にサーモOFFしてしまう場合，ワイヤードリモコン室内機能「暖房室温補正」により設定の変更が可能です。設定温度+3，+2，+1℃のいずれかの温度で圧縮機およびヒータをON ／ OFFさせ，暖房フィーリング向上させることができます。ただし、設定温度の上限を30℃とします。



(16) 吸込温度補正

吸込空気温度センサの検知温度とユニット据付後の計測温度との誤差が生じて，補正が必要となった場合に補正する機能です。

(a) ワイヤードリモコン室内機能「吸込温度補正」により 0.5℃単位で変更が可能です。
・＋ 1.0℃，＋ 1.5℃，＋ 2.0℃，　　・− 1.0℃，− 1.5℃，− 2.0℃，

(b) 補正後の温度をリモコンや室外ユニットに送信し，補正後の温度で制御を行います。

注(1) 検知温度補正は室内ユニットセンサのみ有効です。

⑰ 風速制御

高天井に設置された室内ユニットで風量が不足する場合にファンタップを変更することにより風量のアップが可能です。ワイヤードリモコン室内機能の「風速設定」によりファンタップが変更できます。

		室内風量設定				適用機種
		P急 - 急 - 強 - 弱	急 - 強 - 弱	急 - 弱	急 - 強	
風速設定	標準	P-Hi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	
	設定１	P-Hi1 - PHi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Me	P-Hi1 - Hi	
	設定２	P-Hi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	

注⑴ 出荷時標準に設定されています。
⑵ ホットスタートおよび暖房サーモOFF時等は室内ファンを各設定の低速タップで運転します。

⑱ 温度センサ（吸込・室内熱交）断線・短絡検知

ⓐ 断線検知

吸込空気温度センサが断線を連続5秒間検知した場合は異常停止（E7）します。熱交温度センサが，圧縮機ON 2分後20秒間に断線を連続5秒間検知した場合は異常停止（E6）します。

ⓑ 短絡検知

熱交温度センサが，冷房運転で圧縮機ON2分後20秒間に短絡を連続5秒間検知した場合は異常停止（E6）します。

⑲ 外部入力（遠方表示）／遠方操作

外部入出力端子CnTおよび入力端子CnZにより，運転状態の出力およびエアコンの発停入力をすることが出来ます。

ⓐ 外部制御（遠方表示）用出力（オプションの遠方発停監視キットが利用できます。）

（ⅰ） 出荷状態の出力

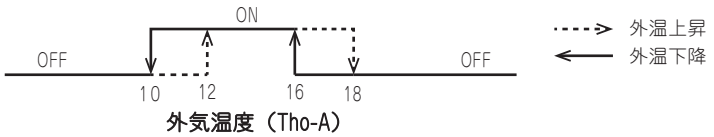
1） 室内制御基板上に下記の出力用コネクタ（CnT）を持っています。遠方発停監視キットを接続して各々の無電圧接点を取出してください。
2） 出荷状態では，以下の４つの出力が割当てられています。
・運転出力（CnT1-2）：運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・暖房出力（CnT1-3）：暖房運転中，かつサーモON時リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・サーモ ON 出力（CnT1-4）：圧縮機が運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・異常出力（CnT1-5）：異常発生時，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。

ⓘ 出力コネクタの変更

1） ワイヤードリモコンの室内機能設定により，出力コネクタの変更および(ⅲ)項の出荷状態以外の出力に変更することが出来ます。ワイヤードリモコンRC-DX3Cでの設定は可能ですが，ワイヤードリモコンRC-D4Gでは設定ができません。
2） 設定は，ワイヤードリモコンの室内機能「外部出力設定 」で出力先を選択してください。ワイヤードリモコンでの設定名とコネクタは以下のようになります。
①外部出力１：CnT1-2 ②外部出力2：CnT1-3 ③外部出力3：CnT1-4 ④外部出力4：CnT1-5

ⓘⓘ 出荷状態以外の出力

1） 冷房出力：冷房モード中（自動の冷房運転，デフロスト，暖房油戻しを含む）に出力します。
2） ファン運転出力1：室内ファンの速度タップによらず，ファン運転中に出力します。
3） ファン運転出力2：室内ファンが，Hiタップ以上で運転中に出力します。
4） ファン運転出力3：室内ファンが，Hiタップ未満で運転中に出力します。
5） デフロスト，油戻し出力：室外ユニットからのデフロスト信号または，暖房油戻し信号を受信中に出力します。
6） 換気出力：ワイヤードリモコンからの換気指令により出力します。
7） ヒータ出力：⑻項の(b)条件により出力します。
8） フリークーリング出力
運転モードが冷房または送風の場合，外気温度により出力します。（外気導入による温度調整用）



9） 室内過負荷アラーム出力
運転開始30分以降で，設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上となった場合，出力します。

⑹ 遠方操作用入力（CnT1-6 または CnZ1-2）

（i） リモコンによる設定方法

1） ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転/停止モードおよび入力方式を設定します。出荷状態で，外部入出力1，2の設定は，運転/停止，外部入力1，2の方式は，レベル入力となっています。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3C（ワイヤードリモコン）	RC -D4G（ワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：運転/停止	運転許可/禁止:無効
	CnZ	外部入力２設定：運転/停止	設定項目はありませんが、出荷状態のままで使用可能です。
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“	外部入力切換え：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnZ	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“	設定項目はありませんが、出荷状態のままでレベル入力です。

（ii） 外部入力による動作

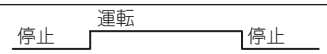
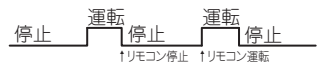
1） 運転・停止の切換え

a） レベル入力の場合

外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnZ1-2は閉）の場合は運転となります。
外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnZ1-2は開）の場合は停止となります。

b） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnZ1-2）がOFF（開）→ＯＮ（閉）のタイミングで運転と運転停止を反転します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動作	
運転/停止	①レベル	外部端子入力（CnT または CnZ）	
		運転/停止	
		運転/停止（競合）	
	②パルス	外部端子入力（CnT または CnZ）	
		運転/停止	
		運転/停止（競合）	

（iii） 注意事項

1） ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

2） エアコンの操作が「センターモード」となっている時は，CnT または CnZ による遠方操作は無効となります。

3） コネクタの部品番号（別売品，配線長さ 500mm）

コネクタ	部品番号
CnT	PCZ006A043
CnZ	PCZ006A053

4） ワイヤードリモコンRC-DX3Cの機能設定「外部入力設定:全台」に設定することにより，1台の室内ユニットへの入力により，同じワイヤードリモコンに接続された複数の室内ユニットを同時に運転/停止します。「外部入力設定：個別」の場合（出荷時設定），入力を入れる室内ユニットのみ運転/停止します。

⑳ 運転許可・禁止（コインタイマ用制御）

リモコンで設定を変更することで，(19)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnZの機能切換えを行い，外部信号の入力によりエアコンの操作可能・操作不可を制御することができます。
市販のコインタイマの信号等によりエアコン使用可能・使用不可を制御することが出来ます。

(i) **リモコンによる設定方法**

1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転許可・禁止モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3C（ワイヤードリモコン）	RC -D4G（ワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：許可/禁止	運転許可/禁止:有効
	CnZ	外部入力２設定：許可/禁止	設定できません。
入力方式	CnT	外部入力１方式："レベル入力 "または" パルス入力 "	外部入力切換え："レベル入力 "または" パルス入力 "
	CnZ	外部入力２方式："レベル入力 "または" パルス入力 "	設定できません。

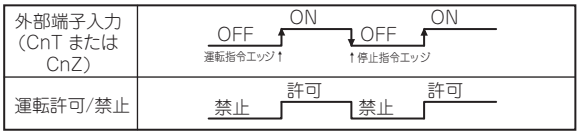
(ii) **外部入力による動作**

1) 運転許可・禁止の切換え

a) レベル入力の場合

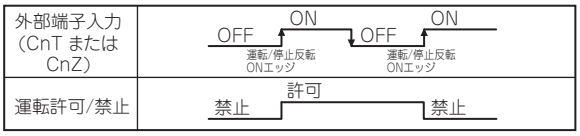
外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnZ1-2:閉）の場合は，運転許可となります。

外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnZ1-2:開）の場合は，運転禁止となります。



b) パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnZ1-2）がOFF（開）→ＯＮ（閉）のタイミングで運転許可と運転禁止を反転します。



2) 運転許可の場合の動作

a) エアコンは，リモコンからの操作が可能です。

b) 「センター」モード設定時は，センターからのみ操作可能がとなります。

3) 運転禁止時の場合の動作

a) エアコンは，リモコンからの操作ができません。

b) エアコン運転中に運転禁止となった場合は，エアコンは停止します。

(iii) **注意事項**

1) ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

(21) 冷房・暖房外部入力機能切換え

リモコンで設定変更することで，(19)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnZの機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを冷房/暖房に切換えることができます。

(a) **リモコンによる設定方法**

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，冷房/暖房モードおよび入力方式を設定します。

RC-DX3Cのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Cワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：冷房/暖房
	CnZ	外部入力２設定：冷房/暖房
入力方式	CnT	外部入力１方式："レベル入力 "または" パルス入力 "
	CnZ	外部入力２方式："レベル入力 "または" パルス入力 "

(b) **外部入力による動作**

(i) **冷房/暖房の切換え**

1) レベル入力の場合

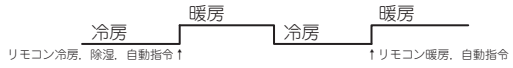
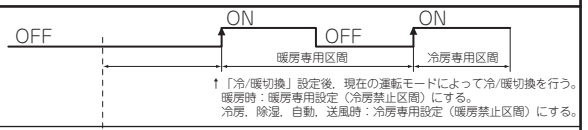
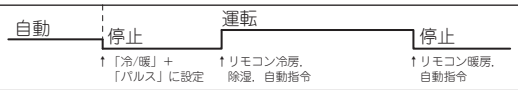
a) 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnZ1-2:閉）の場合は暖房となります。

b) 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnZ1-2:開）の場合は冷房となります。

2) パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnZ1-2）がOFF（開）→ＯＮ（閉）のタイミングで冷房と暖房を反転します。

(c) 外部入力により冷房 / 暖房の切換えを受けた場合は，リモコンに運転モードを送信します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動　　作	
冷房/暖房切換	⑤レベル	外部端子入力（CnT または CnZ）	
		冷房/暖房	
		冷房/暖房（競合）	
	⑥パルス	外部端子入力（CnT または CnZ）	
		冷房/暖房	
		冷房/暖房（競合）	

(d) 注意事項

（i）ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと本制御は行えません。

㉒ 設定温度シフト入力

リモコンで設定変更することで，(19)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnZ の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを設定温度シフト入力に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，設定温度シフト入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Cのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Cワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnZ	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnZ	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(b) 外部入力による動作

（i） 設定温度シフト入力の切換え

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnZ1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnZ1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnZ1-2）がOFF（開）→ＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） 注意事項

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉓ 強制サーモ OFF 入力

リモコンで設定変更することで，(19)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnZ の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを強制サーモOFF入力に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，強制サーモOFF入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Cのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Cワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnZ	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnZ	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

⑹ **外部入力による動作**

（i） **強制サーモOFF入力の切換え**

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnZ1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnZ1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnZ1-2）がOFF（開）→ＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） **注意事項**

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉔ 一時停止入力

リモコンで設定変更することで，(19)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnZ の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを一時停止入力に切換えることができます。

⑹ **リモコンによる設定方法**

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，一時停止入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Cのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Cワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnZ	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnZ	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

⑹ **外部入力による動作**

（i） **一時停止入力の切換え**

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnZ1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnZ1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnZ1-2）がOFF（開）→ＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） **注意事項**

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉕ 静音モード入力

リモコンで設定変更することで，(19)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnZ の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを一時停止入力に切換えることができます。

⑹ **リモコンによる設定方法**

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，静音モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Cのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Cワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnZ	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnZ	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

⑹ **外部入力による動作**

（i） **静音モード入力の切換え**

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnZ1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnZ1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnZ1-2）がOFF（開）→ＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） **注意事項**

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

⑳ 緊急停止信号処理

リモコンで設定変更することで，(19)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnZの 機能切替えを行い，外部信号の入力により，室外ユニットを緊急停止させます。

ⓐ リモコンによる設定方法

ワイヤードリモコンの室内機能設定により，緊急停止モードを設定します。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3C	RC-D4G
モード設定	CnT	外部入力1設定：緊急停止	緊急停止：有効
	CnZ	外部入力2設定：緊急停止	設定できません

ⓑ 緊急停止信号による動作

外部入力OFF(CnT1-6 またはCnZ 1-2：開) の場合，緊急停止します。

入力を入れた室内ユニットは停止し，接続している室外ユニットは[E-63]を発報して緊急停止します。

㉗ 外部入力機能と優先順位

ⓐ CnTとCnZの組合せ優先順位

■CnTとCnZの組合せ優先順位

		CnZ						
		①運転停止レベル	②運転停止パルス	③運転許可/禁止レベル	④運転許可/禁止パルス	⑤冷暖切換レベル	⑥冷暖切換パルス	⑦緊急停止
CnT	①運転停止レベル	CnT①	CnT①＋CnZ②	CnT①+CnZ③	CnT①	CnT①／CnZ⑤	CnT①／CnZ⑥	CnT①<CnZ⑦
	②運転停止パルス	CnT②	CnT②＋CnZ②	CnT②+CnZ③	CnT②	CnT②／CnZ⑤	CnT②／CnZ⑥	CnT②<CnZ⑦
	③運転許可/禁止レベル	CnT③>CnZ①	CnT③>CnZ②	CnT③+CnZ③	CnT③	CnT③／CnZ⑤	CnT③／CnZ⑥	CnT③<CnZ⑦
	④運転許可/禁止パルス	CnT④	CnT④	CnT④+CnZ ③※	CnT④	CnT④／CnZ⑤	CnT④／CnZ⑥	CnT④<CnZ⑦
	⑤冷暖切換レベル	CnT⑤／CnZ①	CnT⑤／CnZ②	CnT⑤／CnZ③	CnT⑤／CnZ④	CnT⑤	CnT⑤	CnT⑤／CnZ⑦
	⑥冷暖切換パルス	CnT⑥／CnZ①	CnT⑥／CnZ②	CnT⑥／CnZ③	CnT⑥／CnZ④	CnT⑥	CnT⑥	CnT⑥／CnZ⑦
	⑦緊急停止	CnT⑦>CnZ①	CnT⑦>CnZ②	CnT⑦>CnZ③	CnT⑦>CnZ④	CnT⑦／CnZ⑤	CnT⑦／CnZ⑥	CnT⑦+CnZ⑦

注(1) ※部のCnZ による運転禁止設定中は，以下の運転指令を受け付けます。
・リモコンからの個別運転指令，室外からの試運転指令およびオプションからの運転指令

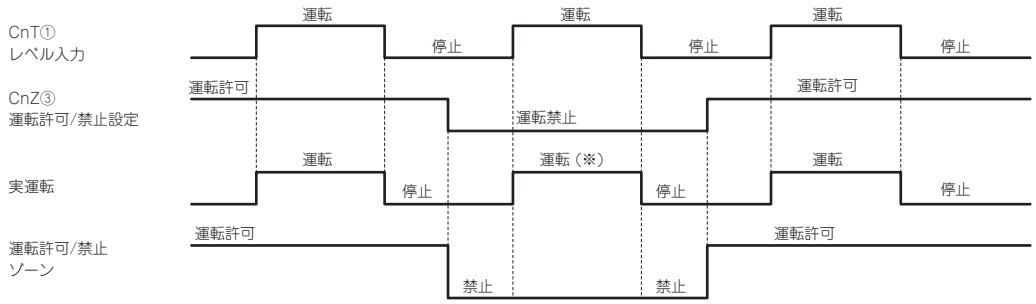
参考：上記記号および組合せ記号の説明

1. CnT"番号"の場合，CnT"番号"採用し、CnZを無効とする。
2. CnZ"番号"の場合，CnZ"番号"採用し、CnTを無効とする。
3. CnT"番号"／CnZ"番号"の場合，CnT"番号"とCnZ"番号"は共に独立した機能とする。
4. CnT"番号"+CnZ"番号"の場合，CnT"番号"とCnZ"番号"は競合機能
5. CnT"番号">CnZ"番号"の場合，CnT"番号"はCnZ"番号"より機能の優先順位が高い。
6. CnT"番号"<CnZ"番号"の場合，CnZ"番号"はCnT"番号"より機能の優先順位が高い。

（上記"番号"の部分には，①～⑦の番号が入ります）

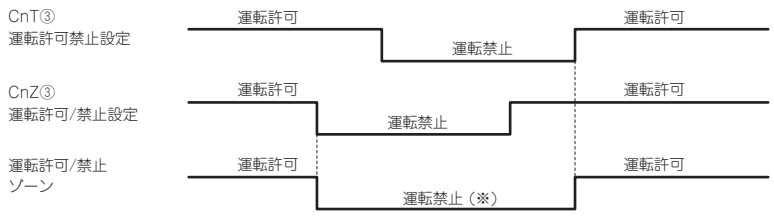
ⓑ CnTとCnZでの優先順位例

(i) CnT①運転レベル＞CnZ③運転許可／禁止レベルの場合



（※）CnTレベル入力をCnZ運転禁止よりも優先する。

(ii) CnT③運転許可／禁止レベル ＋ CnZ③運転許可／禁止レベルの場合



（※）運転禁止ゾーンはCnT運転禁止ゾーンとCnZ運転禁止ゾーンのOR判定とする。

㉘ 複数台制御 ―― 1リモコンによる16台グループ制御

ⓐ 機　　能

1個のリモコンスイッチで複数台のユニット(室内ユニット･最大16台)をグループ制御できます。リモコンスイッチでセットした「運転モード」でグループの全ユニットは号機No.(1)順に順次運転・停止させることができます。各ユニットのサーモ，保護機能は独立して機能します。

注(1) 号機No.は室内制御基板上のロータリスイッチSW1，SW2，ディップスイッチSW5-2で設定します。

ⓑ リモコンへの表示

(i) **センターまたはリモート別，暖房準備：**運転中のユニットでリモートモードの（リモートモードが無い時は，センターモード）最若号機ユニットの表示

(ii) **点検表示，フィルターサイン：**いづれか初発のユニット対応で表示

ⓒ 接続ユニットの確認

(i) RC－DX3Cリモコンの場合

リモコンのTOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード」入力→「エアコンNo.表示」の順にボタンをタッチして行くと接続室内ユニットが表示されます。

(ii) RC－D4Gリモコンの場合

リモコンの エアコンNo. ボタンを押すと，室内ユニットアドレスが表示されます。その後▲ ▼ボタンを押すと最若号機から順に表示されます。

ⓓ 異常時

(i) グループの一部ユニットに異常が発生した場合（保護装置作動）当該ユニットは異常停止しますが，他の正常なユニットはそのまま運転を継続します。

(ii) 配線要領

各ユニットの室内・外接続線は各ユニット毎に通常と同じ配線をしてください。グループ制御用にリモコンの端子台（X，Y）を使用し各室内ユニット間に渡り配線をしてください。

リモコン信号用配線は電源電線または他の電気機械器具電線（AC100V以上)とは分離して配線してください。

㉙ ハイパワー運転〔適用形式：RC-DX3Cリモコンのみ〕

最大能力で，最長15分間運転します。

㉚ 省エネ運転〔適用形式：RC-DX3Cリモコンのみ〕

設定温度を冷房28℃，暖房22℃，自動25℃で固定して運転します。

ワイヤードリモコンの機能設定「冷房/暖房ファン制御：設定風量」で，サーモＯＦＦする場合，室内ファンをULoで運転します。

㉛ ピークカットタイマー〔適用形式：RC-DX3Cリモコンのみ〕

最大能力を制限することで消費電力を削減します。

㉜ ウォームアップ制御〔適用形式：RC-DX3Cリモコンのみ〕

運転開始設定時間にお部屋が設定温度近くになるように，マイコンが運転開始時間を予測して，5～60分前から運転を開始します。

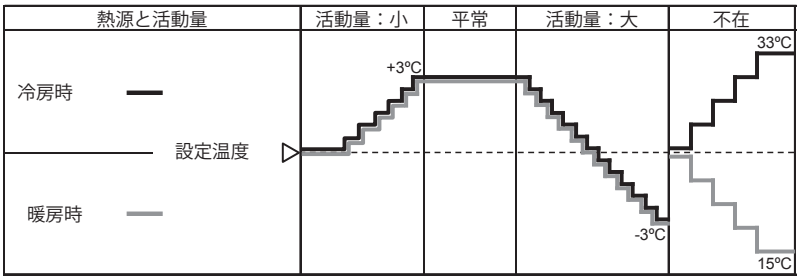
⑶3 人感センサ制御

人感センサにより人の有無および活動量をセンサで判定し，下記制御を行います。

① パワーコントロール制御（省エネ制御/快適制御）

赤外線センサにより人の活動量および人の有無を検知し，設定温度を補正します。

運転モード（自動／冷房／暖房）と制御

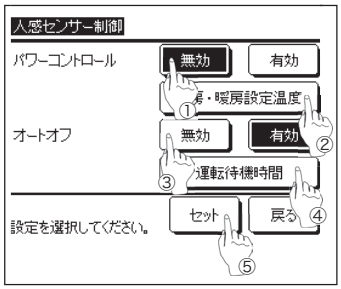


② オートオフ制御

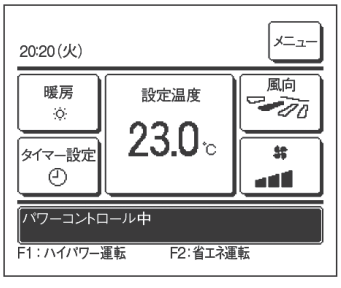
1時間不在の場合は，運転を停止して運転待機状態となります。待機状態が12時間(RC-DX3Cは50時間)継続した場合は，運転を停止します。

⒜ エコタッチリモコンから設定する場合

設定は、TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「据付設定」→「サービスパスワード」→「据付設定メニュー」→「人感センサー設定」の順に選択し、有効・無効の設定をしてください。
次に「メニュー画面」→「省エネ設定」→「人感センサー制御」を選択します。

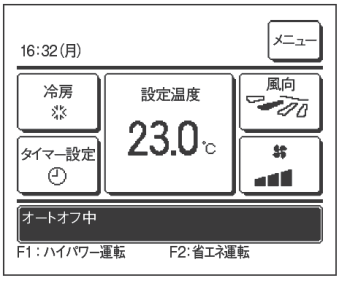


① パワーコントロールの有効 / 無効を設定します。
② 冷房・暖房設定温度をタッチしてください。▲▼ボタンで設定温度を設定し、セットボタンをタッチしてください。設定温度が仮決定します。
③ オートオフの有効 / 無効を設定します。
④ 運転待機時間をタッチしてください。▲▼ボタンで待機時間を設定し、セットボタンをタッチしてください。運転待機時間が仮決定します。
⑤ 各項目設定後、セットボタンをタッチしてください。人感センサー制御が決定し、省エネ設定メニュー画面に戻ります。
※②、④は RC-DX3C 以降のみ設定できます。
※⑤を実施しないと本制御は実行されません。



・パワーコントロール有効の場合
人感センサーにより人の活動量を検知し、設定温度を補正します。
（リモコンの設定温度は補正された温度で表示されます。）
冷房時 33℃、暖房時 15℃まで設定温度を段階的に補正します。
設定温度を補正中はメッセージ表示部に「パワーコントロール中」を表示します。

・冷房暖房設定温度（RC-DX3C 以降）
上記設定温度を 1℃きざみで設定することができます。
冷房：25℃～ 35℃（初期設定は 33℃）
暖房：10℃～ 20℃（初期設定は 15℃）



・オートオフ有効の場合
人が不在となって、1 時間経過すると『運転待機』状態となります。運転待機時間が 1 ～ 50 時間経過すると『完全停止』します。
『運転待機』…エアコンは停止しますが、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』…エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

・運転待機時間（RC-DX3C 以降 ）
冷房時、暖房時の運転待機時間（初期設定は 12 時間）は 1 ～ 50 時間（1 時間きざみ）で設定することができます。

(b) ワイヤレスリモコンから設定する場合

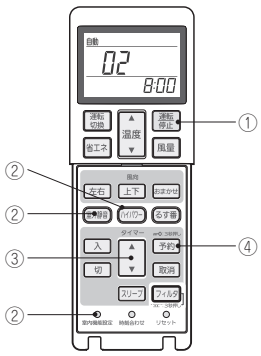
(i) 室内機能設定のしかた

① 運転/停止を押し、停止状態にします。

② 室内機能設定スイッチを押しながら、(ii)項に示すボタンを押します。

③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更します。

④ 予約ボタンを押します。
リモコン信号受信部より、ピッピッと２回ブザーが鳴り、
LEDは２秒毎に４回点滅します。



(ii) 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ

(34) 疑似異常発報制御

試運転などの異常時の信号確認を簡単に行います。

(a) 開始条件

(i) 冷房試運転を行います。

(ii) 冷房試運転開始30分以内に「フィルターサインリセット」を操作します。

(b) 制御内容

異常停止“E-80”を発信して運転停止します。

(c) 終了条件

異常表示は、運転/停止スイッチで復帰します。

注(1) エコタッチリモコンに異常履歴が記憶されます。確認終了後は異常履歴表示画面から消去してください。

1-2 リモコン機能

(1) RC-DX3C リモコンの場合

(a) リモコンの運転モード選択

(i) TOP画面上より「運転モード」ボタンをタッチしてください。

(ii) 「運転モード」選択画面が表示されますので，ご希望の運転モードをタッチしてください。

(iii) 運転モード選択後，TOP画面に戻ります。







(RC-DX3Cの場合を示します。)

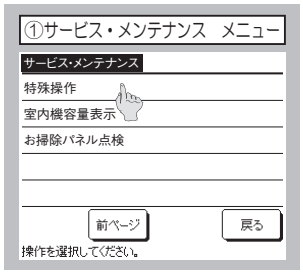
注(1) 室内ユニット-室外ユニットの組合せにより，選択できない運転モードは表示されません。
(2) 自動を選択すると，室温と外温に応じて，冷房・暖房自動切換運転を行います。

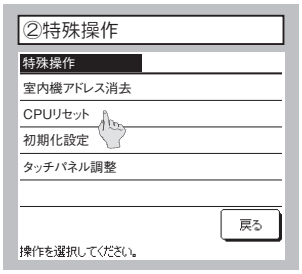
(b) CPUリセット

下記手順にてリモコンよりCPUをリセットしてください。

(i) TOP画面の「メニュー」より「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「サービス・メンテナンス メニュー」より「特殊操作」→「CPUリセット」の順に選択すると接続している室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット(停電復帰状態)されます。



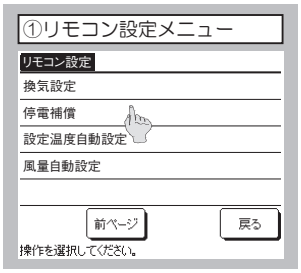


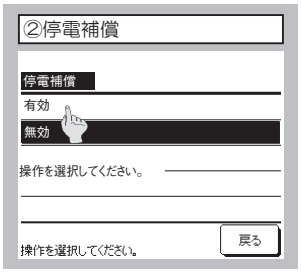
(c) 停電補償機能

下記手順にてリモコンより停電補償機能を有効設定してください。

(i) TOP画面上の「メニュー」より「サービス設定」→「リモコン設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「リモコン設定 メニュー」より「停電補償」を選択し「有効」に設定してください。運転中に停電した場合は，停電復旧(電源投入後の制御終了)後に，停電前の状態に戻ります。





●常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後，記憶内容により運転を再開します。ただしタイマーモードはキャンセルされますが，ウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーについては下記内容となります。

・時計機能が有効の場合：設定された内容により機能します。
・時計機能が無効の場合：時計機能を再設定し，リモコンの機能設定によりウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーの設定を「有効」にすると記憶された内容で機能します。

●停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥，⑦項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶されます。

① 停電時　運転中／停止中
時刻切タイマーモード，時間タイマーモードで運転中は，停止中を記憶します。
② 運転モード
③ 風量モード
④ 室温設定
⑤ ルーバのオートスイング／停止
ただし停止位置(4位置)はキャンセルされます。
⑥ 「お掃除パネル設定」「管理者設定」「据付設定」「室内設定」により設定された内容は，室内ユニットが記憶します。
⑦ ウィークリータイマー，ピークカットタイマー，室外静音タイマー
⑧ リモコン設定

(d) 注意喚起表示

下記(ⅰ)～(ⅲ)が表示される場合，以下のとおり確認，処置してください。

（ⅰ）室内機確認注意喚起



●リモコンと室内ユニット間の通信が確立できない場合に表示します。
システム（室内ユニット，室外ユニット，リモコン）として正しく接続されているか，室外ユニットの電源が接続されているかを確認してください。

（ⅱ）タイマー時刻設定警告



●時刻未設定でタイマー設定をしたときに表示します。
時刻設定を行ってください。時刻設定を行わないとタイマー設定が出来ません。

（ⅲ）誤接続



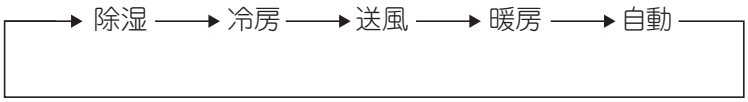
●リモコンに空調機以外のものが接続されたとき本表示を行います。
リモコンの接続先を確認してください。

(e) 設定および表示項目

4-43ページ「リモコンによる機能設定(1)RC-DX3Cリモコンの場合」をご覧ください。

(2) RC-D4G リモコンの場合

(a) リモコンの運転モードスイッチ切換順



(b) CPU リセット

リモコンの 点検 グリル昇降 ボタンを同時に押した場合に機能します。電源リセットと動作は同じです。

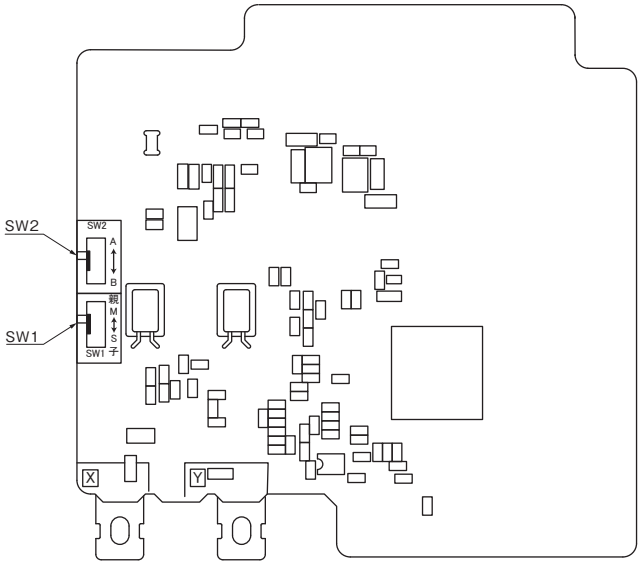
(c) 停電補償機能

- リモコン機能設定により「停電補償有効」の設定をすると有効となります。
- 常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後，記憶内容により運転を再開します。ただしオートスイング停止位置，タイマーモードはキャンセルされますがウィークリータイマー設定は全曜日とも休日設定で復帰します。
  復電後，時刻合わせを行い，各曜日の休日設定を解除することにより，ウィークリータイマーの設定が有効となります。
- 停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥，⑦，⑧項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶され，静音モード設定は停電補償有効・無効にかかわらずキャンセルされます。

① 停電時　運転中／停止中
時刻切タイマーモード，時間タイマーモードで運転中は，停止中を記憶します。（復電時タイマーモードはキャンセルされますが，ウィークリータイマー設定は全曜日が休日設定となります。）
② 運転モード
③ 風量モード
④ 室温設定
⑤ ルーバのオートスイング／停止
ただし停止位置（4 位置）はキャンセルされます。
⑥ リモコン機能設定により設定された「リモコン機能項目」（「室内機能項目」は室内ユニットが記憶します。）
⑦ 温度設定制御で設定した上限値，下限値。
⑧ 時間タイマー，ウィークリータイマー設定（その他のタイマー設定は記憶しません。）

リモコン基板の部品配置



■制御切換スイッチ（SW1）

スイッチ	設定	機能内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン

注(1) SW2 は，通常使用しませんので，切換えないでください。

(d) 設定および表示項目

4-64ページ「リモコンによる機能設定(2)RC-D4Gリモコンの場合」をご覧ください。

3 故障診断編の目次

1. トラブル項目と診断 …… 3-2
2. リモコンによる異常運転データの確認 …… 3-25

1. トラブル項目と診断

1-1 故障診断の内容

(1) 点検表示一覧

リモコン表示	故障内容	記載ページ
なし	音・振動が非常に大きい（その１）	3-3
なし	音・振動が非常に大きい（その２）	3-4
なし	音・振動が非常に大きい（その３）	3-5
なし	ルーバモータが回らない	3-6
なし	電源系統異常（室内ユニット基板への電源供給）	3-7
なし	電源系統異常（リモコンへの電源供給）	3-8
無表示	無表示	3-9
E1	リモコン通信回路不良	3-10
E2	室内アドレス重複	3-11
E3/5	室外・信号系統異常	3-12
E5	運転中に通信異常	3-13
E6	室内熱交温度センサ不良	3-14
E7	室内吸込空気温度センサ不良	3-15
E9	ドレン不良（ドレンポンプ搭載機）	3-16
E10	１リモコン複数台制御時接続台数オーバー（17台以上）	3-17
E11	室内ユニットアドレス設定不良	3-18
E12	室内ユニットでのアドレス設定不良	3-19
E18	親子室内アドレス設定不良	3-20
E19	運転チェックモード異常	3-21
E28	リモコン温度センサ断線	3-22

(2) 故障診断

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その 1）
	室内	―	―	
	室外	―	―	

1. 対象機種

全機種

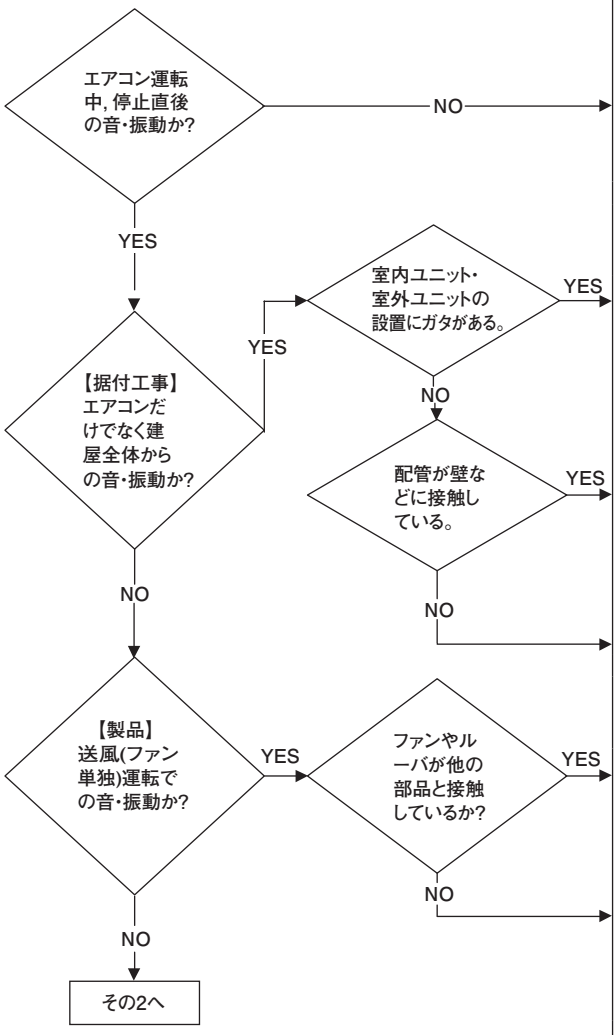
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

①据付工事不良
・設置時の防振対策不良
・取付面の強度不足
②製品不良
・工場出荷前／後不良
③運転調整不良
・冷媒の過多／不足など

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その2）
	室内	ー	ー	
	室外	ー	ー	

1. 対象機種

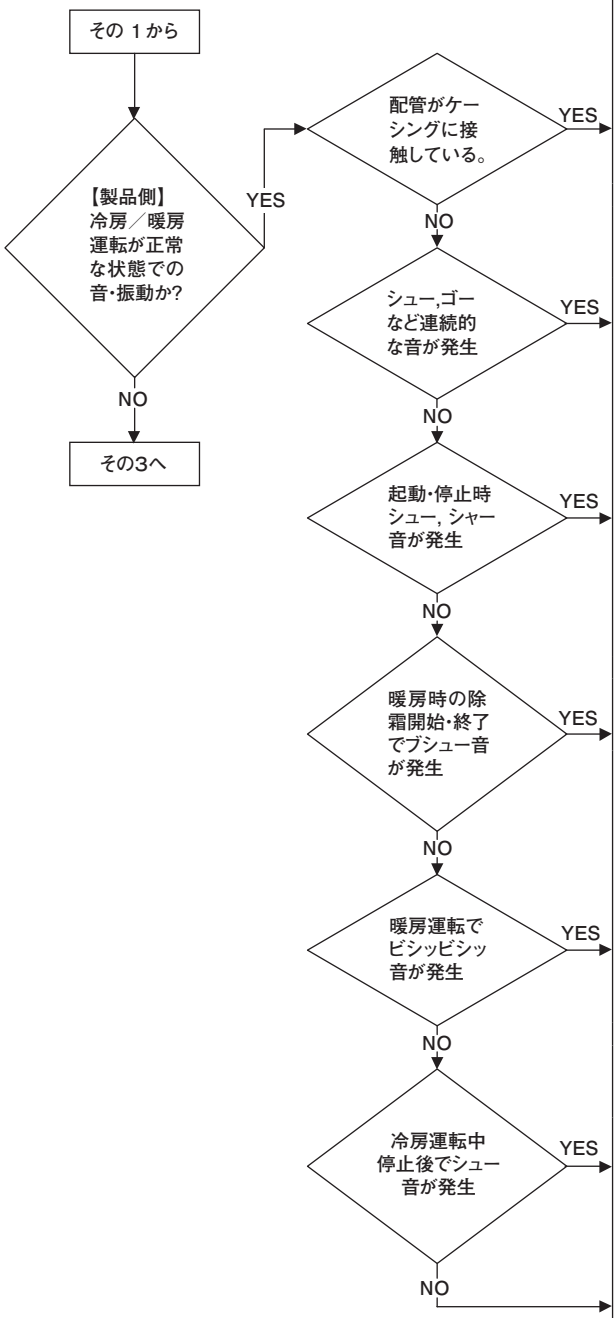
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	ー	ー
室外	ー	ー

内容
音・振動が非常に大きい（その3）

1. 対象機種

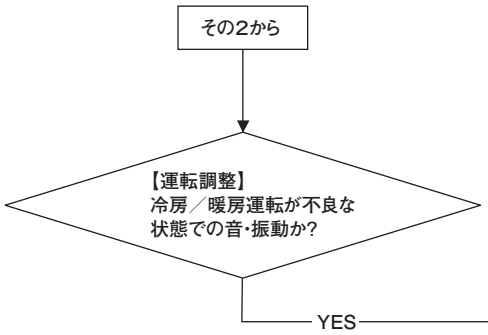
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	冷房／暖房運転で温度が適正でない不良な状態の場合，以下の懸念があります。 ・冷媒の過多充填 ・冷媒の不足充填 ・空気，窒素などの混入 このため，冷媒回収，真空乾燥，冷媒再充填を実施してください。 ※音・振動はさまざまなことが原因となって発生するため，上記の内容に当てはまらない場合があると思われます。 その場合，以下の点を確認・メモした後弊社に相談願います。 ・室内／室外ユニット ・冷房／暖房／送風 ・起動／停止／運転中 ・運転状態（室内外温度，圧力） ・発生時間 ・圧縮機回転数，熱交センサ温度，電子膨張弁開度等のリモコンによる運転データ ・音色 ・その他気付き事項

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 ルーバモータが回らない
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

GTSC シリーズ

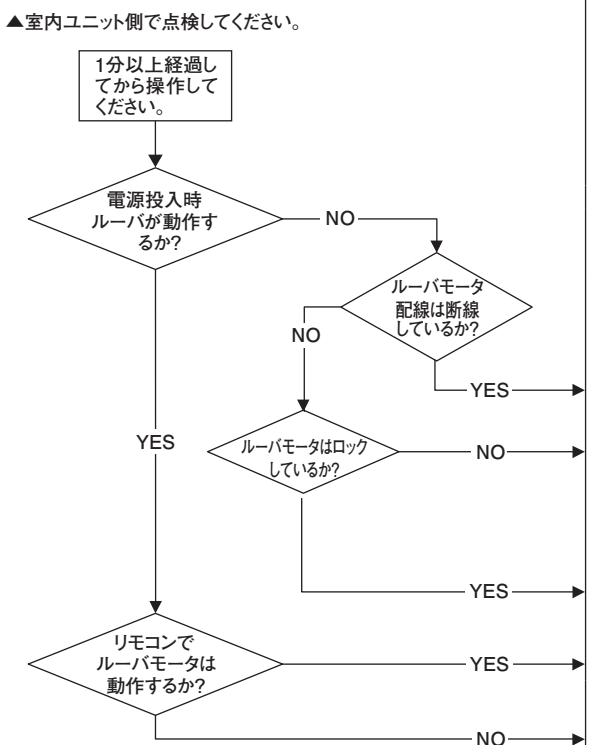
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ルーバモータ不良
・ルーバモータ配線断線
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容	電源系統異常 （室内基板への電源供給）
	室内	消灯	消灯		
	室外	消灯	2回点滅		

1．対象機種

全機種

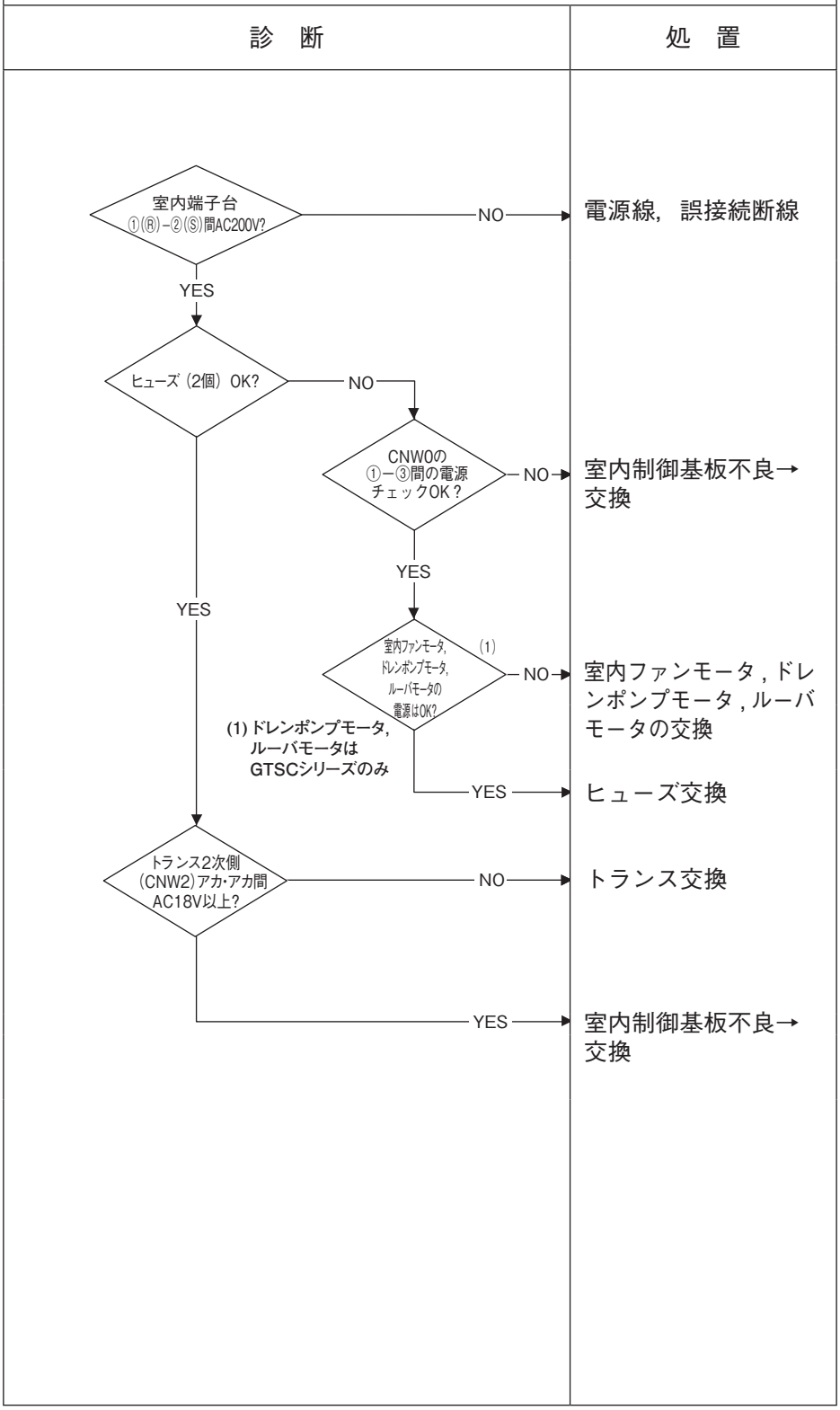
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・渡り配線, 誤接続or 断線
・ヒューズの断線
・トランスの故障
・ハーネス断線
・室内制御基板故障

5．故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	連続点滅
室外	消灯	連続点滅

内容

電源系統異常
(リモコンへの電源供給)

1. 対象機種

全機種

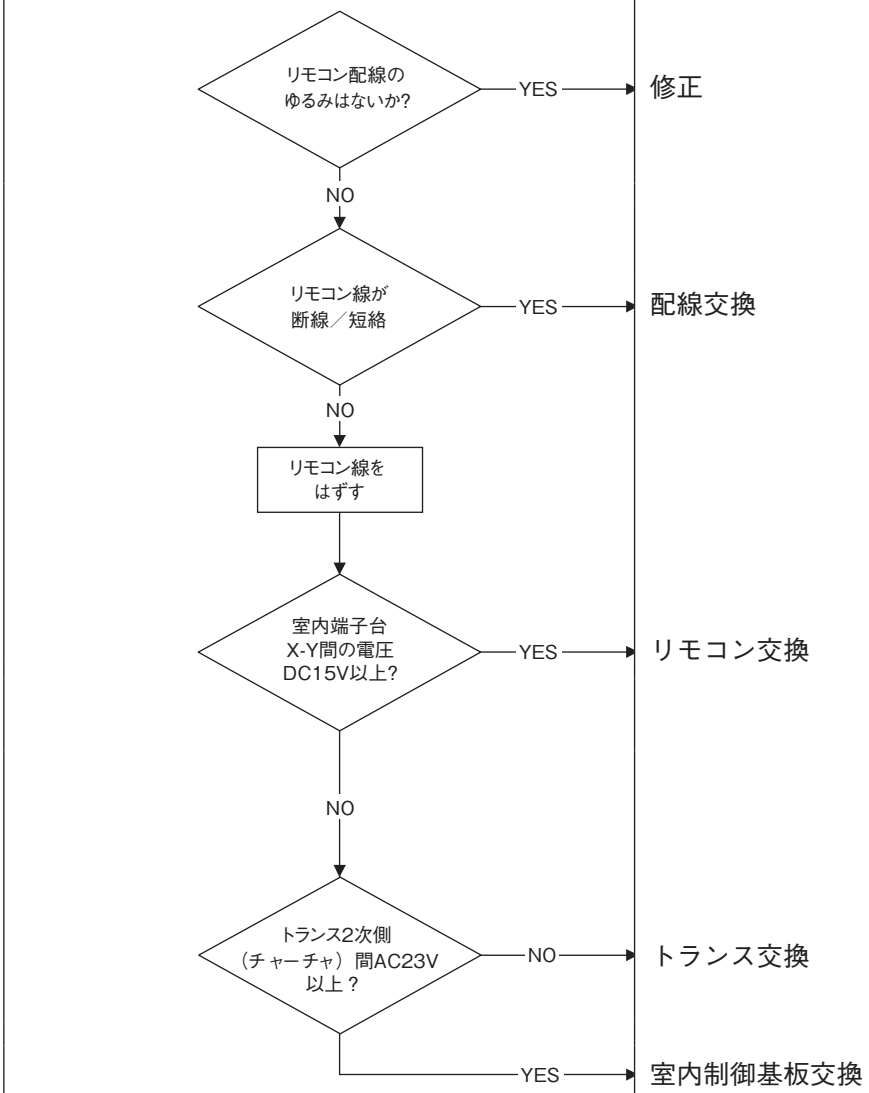
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・リモコン線断線／短絡
・リモコン不良
・ノイズ誤動作
・ハーネス断線
・室内制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:無表示	LED	緑	赤	内容	無表示
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	連続点滅		

1. 対象機種

全機種
（電源投入後リモコン無表示の場合）

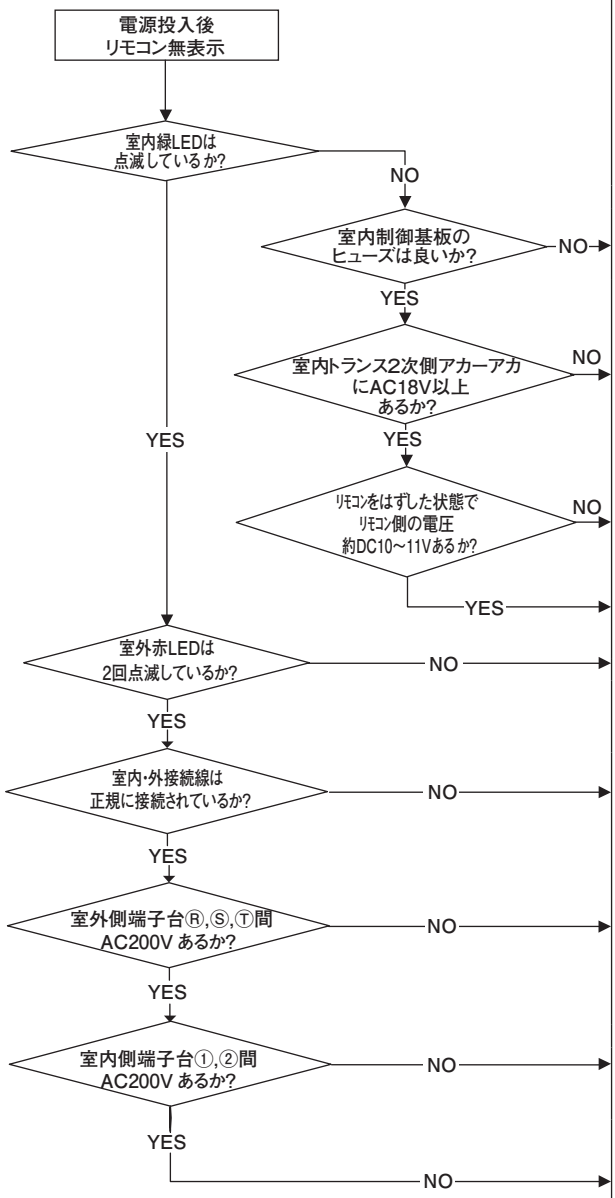
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内制御基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E1	LED	緑	赤
	室内	連続点滅	消灯
	室外	連続点滅	消灯

内容

リモコン通信回路不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

リモコンー室内ユニット間の通信が運転中に2分以上正常にできない場合(リモコンでのみ検出)

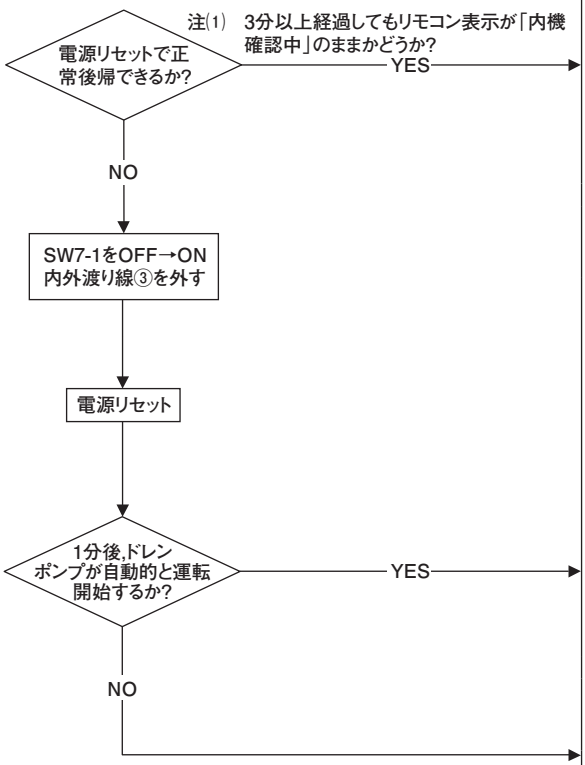
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・リモコンー室内ユニット間通信回路不良
・ノイズ

5. 故障診断と処置



注記：室内側ではリモコンと 180 秒間正常に通信できない場合，室内ユニットの基板は自動的にリセットスタートします。

表示
リモコン:E2
7セグメント:－

LED	緑	赤
室内	連続点滅	連続点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内アドレス重複

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

同一系統内で室内ユニットが**129台以上接続**
室内アドレス重複

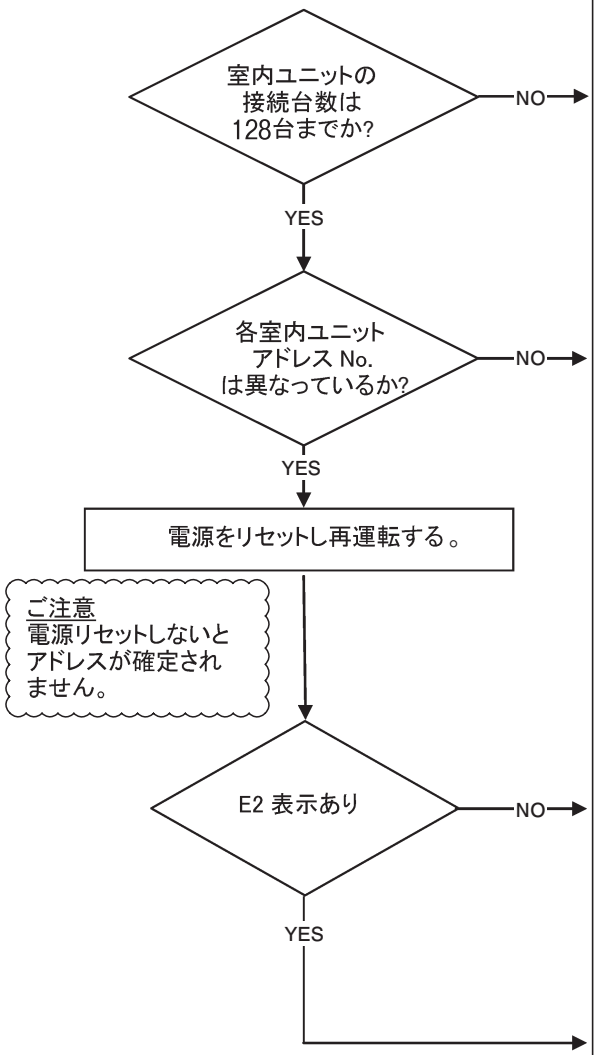
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

①室内接続台数制限オーバー
②室内アドレスNo重複
③室内制御基板不良

5. 故障診断と処置



注記:

表示 リモコン:E3/5 7セグメント:−	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	連続点滅	室外・信号系統異常
	室外	連続点滅	消灯	

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

同一系統内の室外ユニットない

3．異常発生条件

同上

4．予想原因

①室外ユニットの電源未投入
②室内・外のペアリング不適合
③室内基板不良
④室外基板不良
⑤現地配線未接続

5．故障診断と処置

診　断	処　置
E3は室内外の通信が一度も成立しない時に発生する通信エラーです。一旦室内外の通信が成立すればE5となります。共に，現地通信用配線を確認してください。	
電源リセットし再運転する。	
E3/E5発生 YES	ノイズによる一過性の誤動作，ノイズ源あれば修正
NO	
スーパーリンク回路の保護ヒューズ切れ YES	予備回路に変更
NO	
室内基板LED OKか? NO	室内基板交換
YES	
室外ユニット電源確認OKか? NO	修正
YES	
室内に設定した室外アドレスはOKか? NO	修正
YES	
スーパーリンク信号線接続はOKか? NO	修正
YES	
	室外ユニット基板交換

注記：

表示 リモコン:E5	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	下記参照	**運転中に通信異常**
	室外	連続点滅	2回点滅	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内－室外が2分以上正常に通信ができない場合

3. 異常発生条件

運転中に同上を検知

4. 予想原因

・号機設定ミス
・リモコン配線断線
・リモコン配線接続不良
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室内赤LEDが2回点滅の場合	
注(1)　室外端子台での接続不良(外れ,緩み)を点検 室外ユニット側で信号線の接続OK? NO	信号線修理
YES 注(2)　室内～室外ユニット間信号線の接続不良または断線を点検。 室内～外ユニット間信号線の接続OK? NO	信号線修理
YES 電源リセット リモコンLCDは正常に戻ったか? NO	「内機確認中」表示の診断へ
YES	ユニットは正常です。(一過性ノイズ等による誤作動)
室内赤LEDが消灯 電源リセット NO リモコンLCDは正常に戻ったか? NO	室外制御基板不良(ネットワーク通信回路不良)→交換
YES	ユニットは正常です。(一過性ノイズ等による誤作動)

注記：ポンプダウンスイッチが押されますと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが異常ではありません。

表示 リモコン:E6	LED	緑	赤
	室内	連続点滅	1回点滅
	室外	連続点滅	消灯

内容

室内熱交温度センサ不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内熱交温度センサ
(Thi-R1, R2, R3)
の異常低温および異常高温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

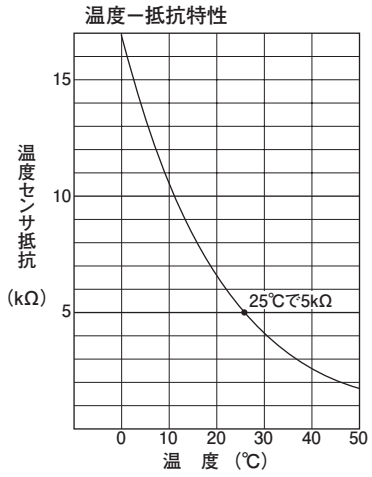
・温度センサが,圧縮機ON2分後の20秒間に断線を連続5秒間検知
・冷房運転で圧縮機ON2分20秒間に短絡を連続5秒間検知

4. 予想原因

・室内熱交センサコネクタ不良
・室内熱交センサ不良
・室内ユニット基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室内熱交温度センサコネクタの接続はOKか? → NO	修正→コネクタ接続
YES → 室内熱交温度センサの特性はOKか? → NO	室内熱交温度センサ不良→交換
YES	室内ユニット基板不良→交換 (室内熱交温度センサ入力回路不良)



注記：

表示 リモコン:E7	LED	緑	赤	内容 室内吸込空気温度センサ不良
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内吸込空気温度センサ（Thi-A）の異常低温および異常高温（抵抗）を検知

3. 異常発生条件

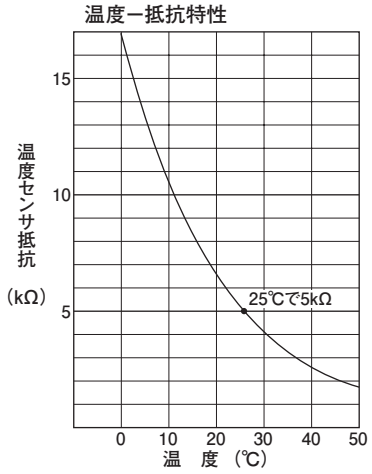
・温度センサが断線を連続5秒間検知

4. 予想原因

・吸込空気温度センサコネクタ不良
・吸込空気温度センサ不良
・室内ユニット基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
吸込空気温度センサコネクタの接続はOKか? → NO	修正→コネクタ接続
吸込空気温度センサの特性はOKか? → NO	吸込空気温度センサ不良→交換
YES	室内ユニット基板不良→交換 （吸込空気温度センサ入力回路不良）



注記：

表示 リモコン:E9	LED	緑	赤	内容	ドレン不良 （ドレンポンプ搭載機）
	室内	連続点滅	1回点滅		
	室外	連続点滅	消灯		

1．対象機種

ドレンポンプ搭載機

2．異常検出方法

フロートスイッチ作動

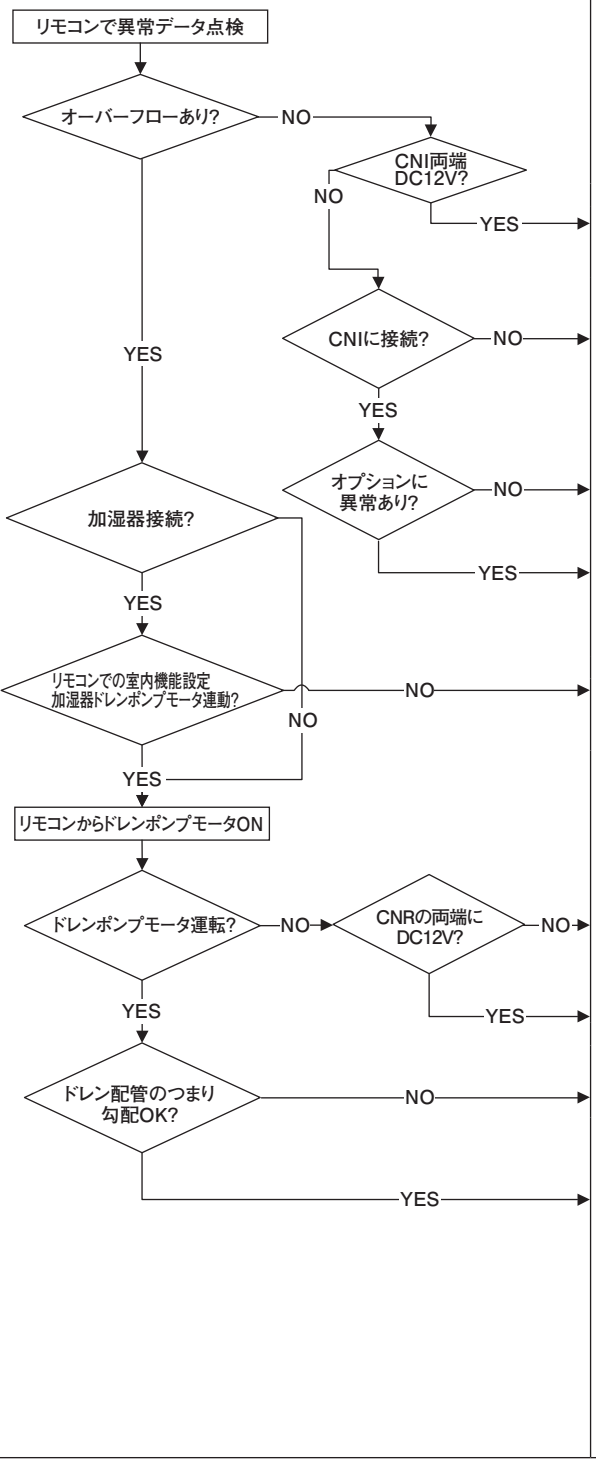
3．異常発生条件

フロートスイッチ開を3秒間連続検知したとき，またはフロートスイッチの未接続時・断線時。

4．予想原因

・室内制御基板不良
・フロートスイッチ設定ミス
・加湿器ドレンポンプモータ連動設定ミス
・オプション設定ミス
・ドレン配管ミス
・ドレンポンプモータ不良
・モータ配線ドレンポンプモータ不良

5．故障診断と処置



注記：電源投入時に発生した場合は，フロートスイッチの断線・接点不良が考えられます。点検修正（交換）してください。

表示 リモコン:E10	LED	緑	赤
	室内	連続点滅	消灯
	室外	連続点滅	消灯

内容 **1リモコン複数台制御時 接続台数オーバー（17台以上）**

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

1リモコンで室内ユニット17台以上を検知したとき

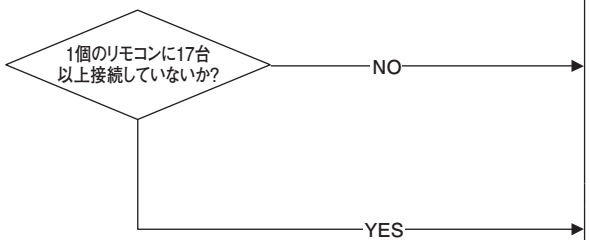
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・接続台数オーバー
・リモコン不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	リモコン不良→交換 16台以下に変更

注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E11 7セグメント:–	室内	連続点滅	消灯	室内ユニットアドレス設定不良
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

複数室内ユニットを1リモコンで結線し, リモコンでアドレス設定した場合

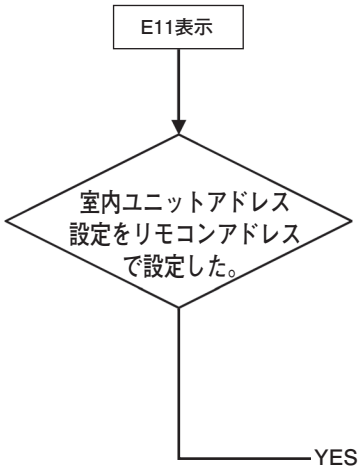
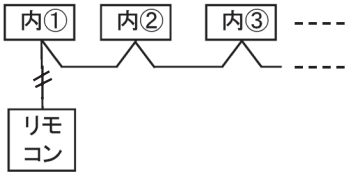
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

アドレス設定方法のまちがい
1リモコンで複数の室内ユニットを制御する場合、リモコンアドレス設定はできない。手動または自動アドレス設定のみ（冷媒系統を信号線がまたがない場合のみ）

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
 リモコン交換 下図リモコンの結線で、リモコンアドレス設定するとE11 発生。 	室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1, 2およびディップスイッチSW5-2でアドレス設定を行う。

注記:

表示
リモコン:E12
7セグメント:−

LED	緑	赤
室内	連続点滅	連続点滅
室外	連続点滅	消灯

内容
室内ユニットでのアドレス設定不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内ユニットでのアドレス設定時に自動と手動が混在。

3. 異常発生条件

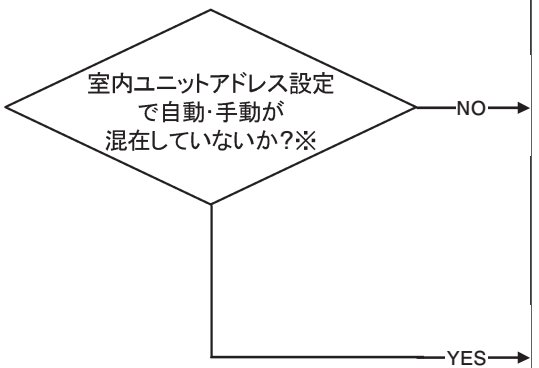
同上

4. 予想原因

室内ユニットでのアドレス設定ミス

5. 故障診断と処置

診 断	処 置



※アドレス設定方法一覧（ ）内は旧SL用の数値

	新SL対応機			新SL未対応機		
	室内ユニットアドレス設定		室外ユニットアドレス設定	室内ユニットアドレス設定		室外ユニットアドレス設定
	室内No.スイッチ	室外No.スイッチ	室外No.スイッチ	室内No.スイッチ	室外No.スイッチ	室外No.スイッチ
手動アドレス（旧SL/新SL）	000~127「47」(1)	00~31「47」	00~31「47」	00~47	00~47	00~47
1冷媒系統自動アドレス(旧SL/新SL)	000	49	49	49	49	49
複数冷媒系統自動アドレス(新SLのみ)	000	49	00~31	不可	不可	不可

注記:

表示
リモコン:E18

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

親子室内アドレス設定不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

(1) 設定した親室内ユニットアドレスが、同一のSL信号線のネットワーク上に存在しない場合。
(2) 子室内ユニットアドレスとして設定したアドレスを親室内ユニットアドレスとして重複して設定した場合。

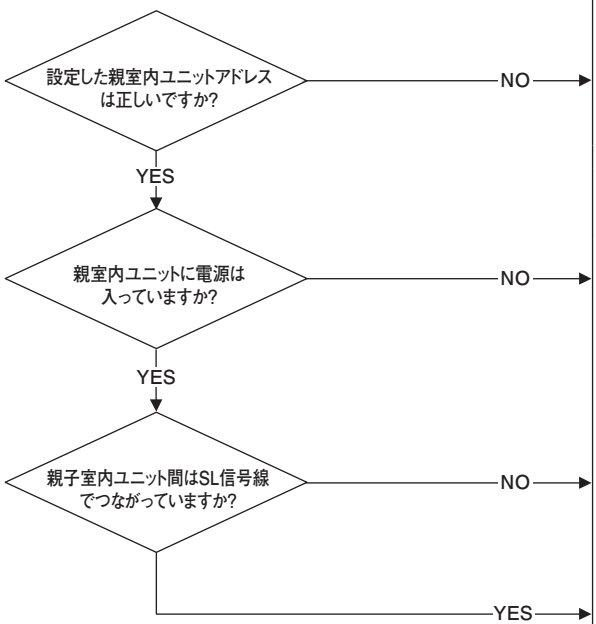
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・親室内ユニットアドレスの設定ミス
・親室内ユニットの電源が入っていない。
・親子室内ユニット間にSL信号線がつながっていない。
・子室内ユニットまたは親室内ユニットまたは両方の制御基板が故障。

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	正しい親室内ユニットアドレスに設定し直してください。 親室内ユニットに電源を入れてください。 SL信号線をつないでください。 室内制御基板の故障 →基板交換 （先ず最初に子室内ユニットの基板を交換してください。 復旧しなければ、親室内ユニットの基板を交換してください。）

注記：

表示
リモコン:E19

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

運転チェックモード異常

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

E19 発生

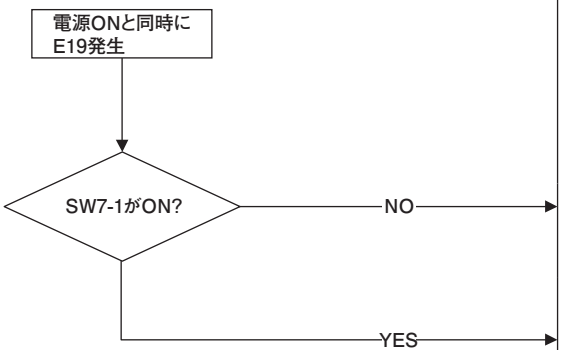
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

スイッチ設定ミス(スイッチの戻し忘れ)

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	室内制御基板不良→交換（スイッチ不良） SW7-1をOFFし電源をリセット

注記：

表示 リモコン:E28	LED	緑	赤	内容 リモコン温度センサ断線
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

リモコン温度センサ (Thc) の異常低温 (抵抗) を検知

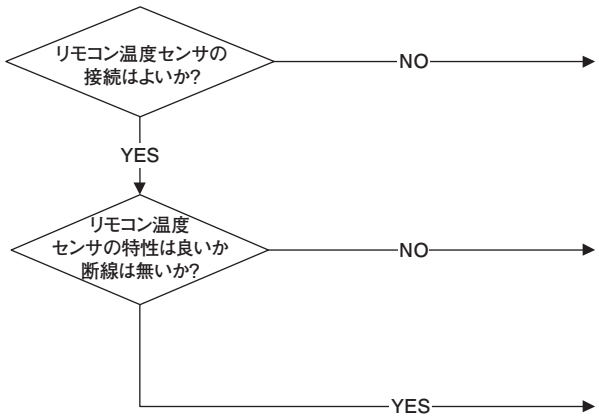
3. 異常発生条件

温度センサが -50℃以下を連続 5 秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3 分遅延後に圧縮機を再起動させ，1 回目の検知から 60 分以内に再検知した場合。

4. 予想原因

・リモコン温度センサ接続不良
・リモコン温度センサ不良
・リモコン基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	修正 リモコン温度センサ不良→交換 リモコン基板不良→交換 (リモコン温度センサ入力回路不良)

リモコン温度センサ温度－抵抗特性（Thc）

温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)
0	65	14	33	30	16	46	8.5
1	62	16	30	32	15	48	7.8
2	59	18	27	34	14	50	7.3
4	53	20	25	36	13	52	6.7
6	48	22	23	38	12	54	6.3
8	44	24	21	40	11	56	5.8
10	40	26	19	42	9.9	58	5.4
12	36	28	18	44	9.2	60	5.0

注記：リモコンセンサ無効→有効切替えの 10 秒間以降は，断線しても E28 は表示しません。同時に使用するセンサをリモコン→室内吸込温度センサに変更します。リモコンセンサを有効にしても点検表示の吸込温度表示は室内吸込温度センサの値となります。

1-2 室内ユニット基板交換要領

お願い **ワイヤードリモコン使用機種は制御基板交換後，電源を投入した後に「リモコンによる機能設定」を参照し室内ユニットの機能や用途に合せて設定を行ってください。**

安全上のご注意

- 交換工事は，この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は，安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後，試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は，販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると，感電や火災の原因になります。
- 作業は，この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると，感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後，交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は，感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し，端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は，発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後，電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると，感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

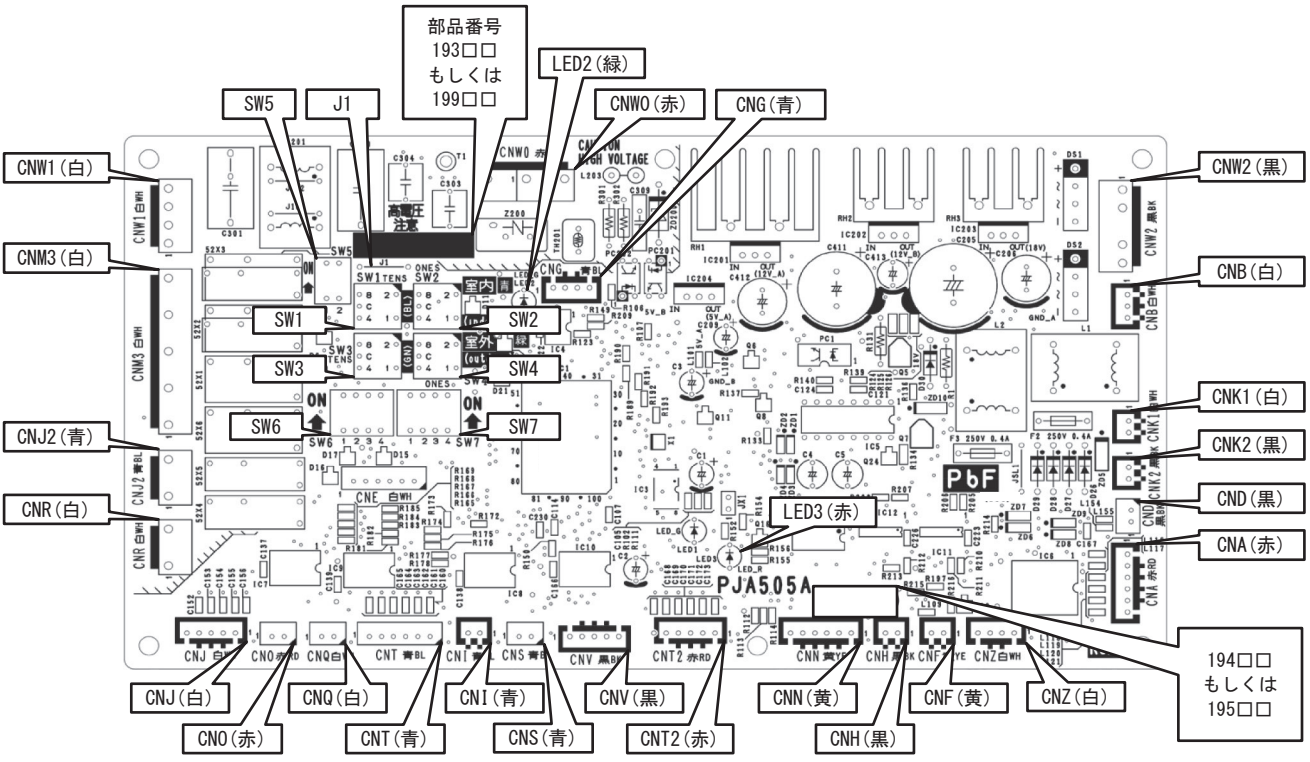
- 基板にコネクタを接続する際は，基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは，確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は，かみ込んだり，つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

本品は，共通基板です。本要領書にて設定を行って基板交換してください。

1. 基板を交換してください。

   ① 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後，基板を交換してください。
   ② 基板は，配線類をかみ込まないように固定してください。
   ③ スイッチ設定は，交換する基板と同一設定としてください。
   ④ 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

2. 制御基板
   基板の種類により部品実装が異なります。



PSB012D975M

■制御切換スイッチ（交換する基板と設定を同一にしてください。）

・SW1～4（機能切換）

スイッチ	内　容
SW1	室内アドレス（10位）
SW2	室内アドレス（1位）
SW3	室外アドレス（10位）
SW4	室外アドレス（1位）

・SW6（機種切換）

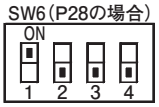
スイッチ ＼ 機種	P22	P28	P36	P45	P56	P71
SW6-1	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
SW6-2	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF
SW6-3	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF
SW6-4	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON

・SW5,7（機能切換）

スイッチ		内　容
SW5-1	ON	旧SL通信に固定
	OFF	新SL通信自動判定(★)
SW5-2	ON	室内アドレス 100以上
	OFF	室内アドレス 100未満(★)
SW7-1	ON	運転チェック/ドレンポンプ運試運転有効
	OFF	運転チェック/ドレンポンプ運試運転無効(★)

注（1）★は出荷時設定を示します。

SW6（P28の場合）



2. リモコンによる異常運転データの確認

異常発生時の運転データを記憶し，リモコンから異常運転データの確認ができます。

⑴ RC-DX3Cリモコンの場合

〔操作手順〕

①TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「サービス･メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→「点検表示」→「異常時運転データ表示」の順に選択します。

②リモコンに接続されている室内ユニットが１台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常がある場合：「データ読込み中」の後，異常時の運転データが表示されます。
   表示内容
   ・異常コード
   ・番号およびデータ項目
2. 異常がない場合：「異常なし」を表示し，本モードを終了します。

③リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常がある場合：「室内機選択」画面で対象室内ユニットを選択→「データ読込み中」の後，異常時の運転データが表示されます。
   表示内容
   ・室内機 No.
   ・異常コード
   ・番号およびデータ項目
2. 異常がない場合：「異常なし」を表示し，本モードを終了します。

注⑴「室内機選択」画面で接続台数が１ページを超える場合は，「次ページ」を選択してください。

④ 運転／停止 ボタンを押すと，TOP画面に戻ります。

◎設定の途中で，「戻る」をタッチすると，一回前の設定画面に戻ります。

注⑴ 異常運転データの確認は，リモコン2台で室内ユニットを運転する場合，親りモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

■異常運転データ(機種により該当するデータがないものは，その項目は表示されません。)

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込空気温度
05	室内熱交温度(Thi-R1)
06	室内熱交温度(Thi-R2)
07	室内熱交温度(Thi-R3)
08	室内ファン速調
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内膨張弁開度
12	室内運転積算時間
13	吹出温度
21	外気温度
22	室外熱交温度(Tho-R1)
23	室外熱交温度(Tho-R2)
24	圧縮機周波数
25	高圧
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT電流
30	SH制御値
31	実SH
32	実TDSH
33	圧縮機保護ステータスNo.
34	室外ファン速調
35	63H1ON／OFF
36	デフロスト ON／OFF
37	圧縮機運転積算時間
38	室外膨張弁開度(EEVC)
39	室外膨張弁開度(EEVH)

33 圧縮機保護ステータスNo.（左記異常運転データ）詳細

圧縮機回転数保護制御内容
異常検知制御内容

【リモコン運転データ表示】
・解除時まで表示
・重複時は，表示データの一番若い番号を表示する。

【共通事項】
暖房時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“4”を表示する。
冷房･除湿時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“8”を表示する。

表示内容	No
正常	“0”
吐出管温度保護	“1”
吐出管温度異常	“2”
カレントセーフ	“3”
高圧保護	“4”
高圧異常	“5”
低圧保護	“6”
低圧異常	“7”
アンチフロストまたは露付き保護	“8”
カレントカット	“9”
パワトラ保護	“10”
パワトラ異常（過熱）	“11”
圧力比制御	“12”
出力カットオフ（ノイズ停止）	“13”
露付き保護	“14”
２次ＣＴセーフ	“15”
圧縮機ロック停止または脱調停止	“16”
起動不良停止	“17”

■メンテナンスコード

コード	内容
M1	お掃除パネル異常
M7	室内過負荷アラーム
M9	ドレンポンプ過電流検知

⑵ RC-D4Gリモコンの場合

〔操作手順〕

①[点検]ボタンを押します。表示が「運転データ表示▼」となります。

②[▼]ボタンを一度押して，「エラーデータ表示▲」に切換えます。

③[セット]ボタンを押すと，異常運転データ表示モードに入ります。

④リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常履歴がある場合：エラーコードと「データ確認中」を表示します。
   「例」「E8」（エラーコード）
   「データ確認中」（データを読み込む間点滅表示）
   続いて，データが表示されます。⑧へお進みください。
2. 異常履歴がない場合：「異常なし」を3秒間表示し，本モードを終了します。

⑤リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は，以下の表示となります。

1. 異常履歴がある場合：接続されている室内ユニットの中で，最も小さい室内アドレス番号とその室内ユニットのエラーコードを表示します。
   「例」「E8」「内000▲」（点滅）
2. 異常履歴がない場合：アドレス番号表示のみとなります。

⑥[▲][▼]ボタンで，表示したい室内アドレスを選びます。

⑦[セット]により確定します。（室内アドレスが点滅から点灯に変わります。）
   「例」「E8」
   「内000」（選択した室内アドレスを2秒間点灯）→「E8」
   「データ確認中」（データを読み込む間点滅表示）続いて，データが表示されます。
   異常履歴がない室内ユニットを撰択した場合は，「異常なし」を3秒間表示し，室内アドレス表示に戻ります。

⑧[▲][▼]ボタンにより，異常運転データを確認できます。データ項目は下表をご覧ください。

注⑴ 機種により該当するデータがないものは，その項目は表示されません。

⑨室内ユニットを変更する場合は，[エアコンNo.]ボタンを押すことにより，室内ユニット選択表示に戻ります。

⑩[運転／停止]ボタンを押すと，終了します。

◎設定の途中で，[リセット]ボタンを押すと，一回前の設定画面に戻ります。

注⑴ 異常運転データの確認は，リモコン2台で室内ユニットを運転する場合，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

■異常運転データ

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込空気温度
05	室内熱交温度（Thi-R1）
06	室内熱交温度（Thi-R2）
07	室内熱交温度（Thi-R3）
08	室内ファン速調
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内膨張弁開度
12	室内運転積算時間
21	外気温度
22	室外熱交温度（Tho-R1）
23	室外熱交温度（Tho-R2）
24	圧縮機周波数
25	高圧
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT 電流
30	SH 制御値
31	実 SH
32	実 TDSH
33	圧縮機保護ステータスNo.
34	室外ファン速調
35	63H1 ON／OFF
36	デフロスト　ON／OFF
37	圧縮機運転積算時間
38	室外膨張弁開度（EEVC）
39	室外膨張弁開度（EEVH）

33 圧縮機保護ステータスNo.（左記異常運転データ）詳細

圧縮機回転数保護制御内容
異常検知制御内容

【リモコン運転データ表示】
・解除時まで表示
・重複時は，表示データの一番若い番号を表示する。

【共通事項】
[暖房時]：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“4”を表示する。
[冷房･除湿時]：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“8”を表示する。

表示内容	No
正常	“0”
吐出管温度保護	“1”
吐出管温度異常	“2”
カレントセーフ	“3”
高圧保護	“4”
高圧異常	“5”
低圧保護	“6”
低圧異常	“7”
アンチフロストまたは露付き保護	“8”
カレントカット	“9”
パワトラ保護	“10”
パワトラ異常（過熱）	“11”
圧力比制御	“12”
出力カットオフ（ノイズ停止）	“13”
露付き保護	“14”
２次ＣＴセーフ	“15”
圧縮機ロック停止または脱調停止	“16”
起動不良停止	“17”

4 据付編の目次

1. 室内ユニットの据付 …… 4-2
2. 電気配線工事 …… 4-28
3. リモコンの取付 …… 4-38
4. リモコンによる機能設定 …… 4-43

1. 室内ユニットの据付

(1) 天井カセット形（1 方向吹出し小容量）(GTSC)

PJC012D315

(a) 室内ユニットの据付

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載しています。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については､販売店と相談して据付ける｡万一､冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」､「内線規程」および 据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し､冷凍サイクル内が異常高圧になり､破裂､ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	❗
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
- ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
- ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
- ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
- ・高周波を発生する機械を使用する所
- ・海浜地区等塩分の多い所
- ・煙突の煙がかかる所
- ・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
- ・車両・船舶等移動するものへの設置
- ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
- ・積雪の多い所
- ・標高１０００m以上の所

性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと ）。
- ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
- ・強度が不十分で振動が発生する所
- ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
- ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
- ・ドレンの排水がとれない所

性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。

人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
- ・長時間振動が加わる状態
- ・静電気や強い電磁波のある場所
- ・長時間高温、多湿になる場所
- ・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●GHP〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

室内ユニットを移動させるときは吊金具(４か所)を持ち、他の部分(特に冷媒配管、ドレン配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。

付属品

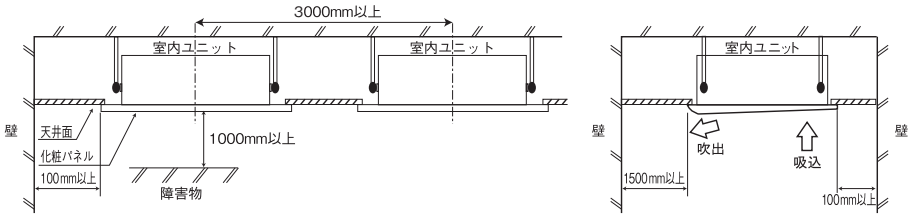
本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金 (M10)	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホース クランプ
							
８個	１個	１個	４個	１個	１個	１個	１個
室内ユニット 吊り下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー 固定用	ドレンソケット 断熱用	ドレンソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　人感センサを使用する場合、据付け高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　本室内ユニットは JIS 露付条件(室内：27℃ /78% RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を３ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

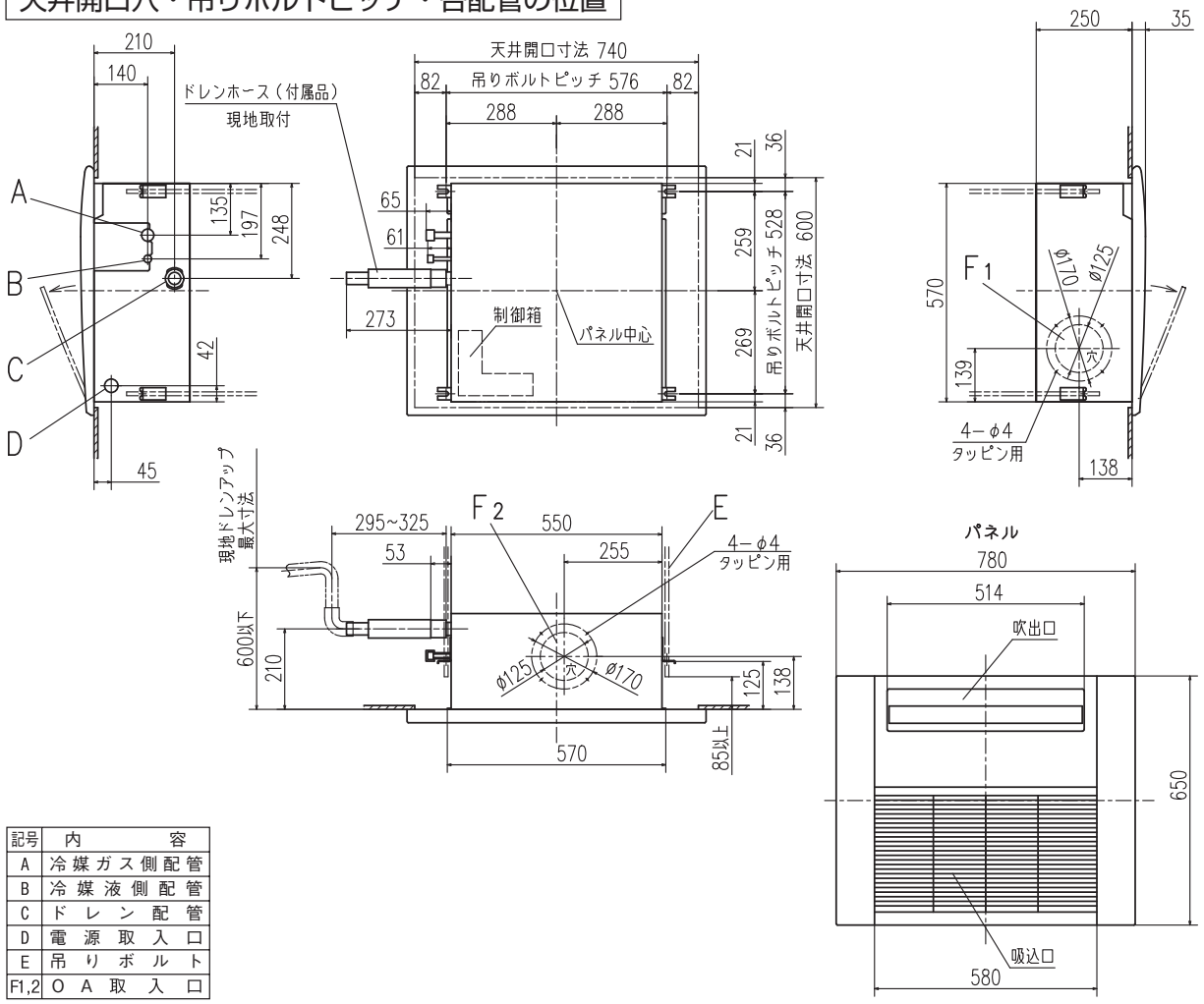
●据付高さは２.５m以上としてください。



③据付準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金・平座金（M１０ or M８）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

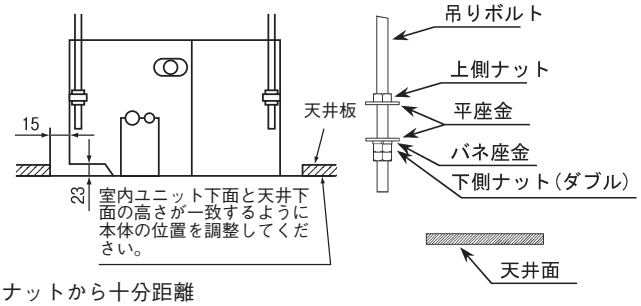


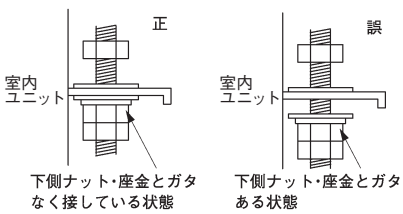
記号	内　　容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D	電源取入口
E	吊りボルト
F1,2	ＯＡ取入口

④室内ユニットの据付

作業手順

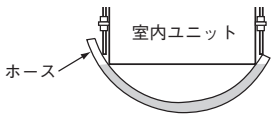
１．天井に７４０×６００の穴をあけてください。
２．吊りボルト位置を選定してください。
　　梱包材に記載の丸穴を目安とし、吊りボルト位置を決めてください。
　　注意 位置決定は実測により行ってください。
３．吊りボルトは、４本使用してください。
４．吊りボルト長さは、天井面より８５mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット４か所は天井面から１２５mm程度に仮止めし、上側ナット４か所は室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、室内ユニットを吊り込んでください。
５．室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。（吹出口部分は、天井裏に入ります。）天井下面と室内ユニット下面との高さ許容差は、天井下面に対し、室内ユニット下面が上方に５mm以下です。
　　注意 室内ユニットが天井下面より下方にならないよう設置してください。
　　高さ調整は、上側ナット４か所を緩めた状態で、下側ナット４か所で調整してください。室内ユニット吊り金具４か所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。





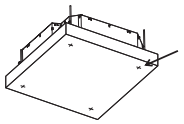
④室内ユニット据付のつづき

6．室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。（室内ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
7．高さ調整・水平度調整後、上側ナット４か所を締付けて室内ユニットを固定してください。



室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、梱包材(天面ダンボール)を使用して、室内ユニットを養生してください。



ボルトを使用して、梱包材を取付けてください。パネル取付ピッチと同じ位置に＋のスリットがあります。
※梱包材内側の補強材を取外し、使用してください。

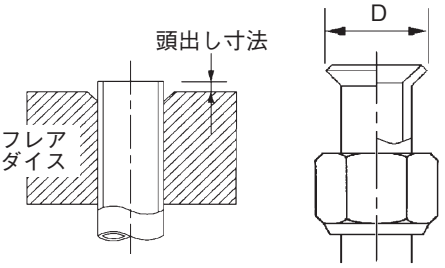
室内ユニット据付時のお願い

●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付できなかったり、ファン干渉音が発生するおそれがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●化粧パネルと天井面、および化粧パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
●化粧パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、室内ユニット内へほこりを入れない様注意してください。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

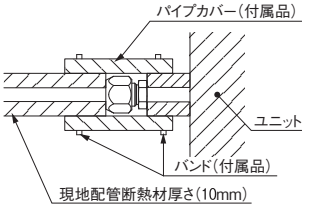
●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1）再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。
2）再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 または R410A 用のフレア加工をしてください。



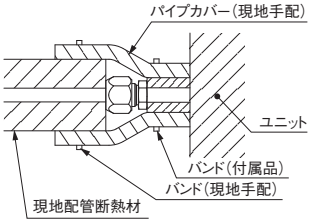
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R32用 R410A用	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） 従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>

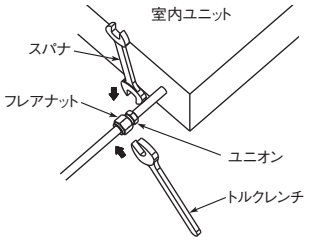


<断熱材を強化する場合>



作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。



⑤冷媒配管のつづき

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

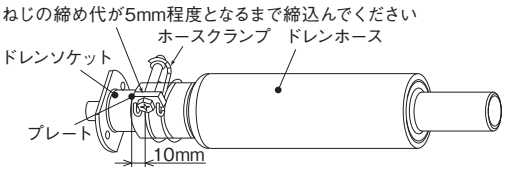
⑥ドレン配管

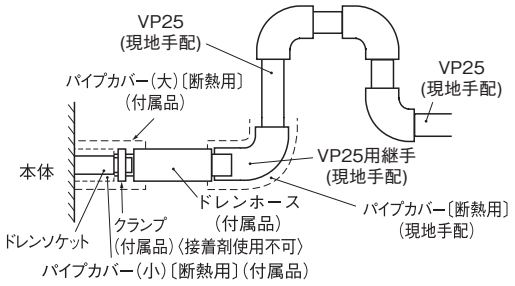
ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

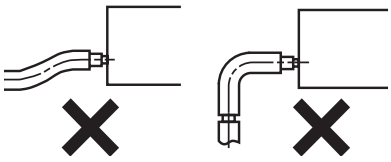
作業手順

1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から 10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が５mm 程度となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可

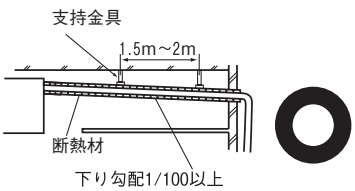


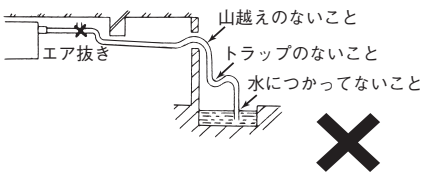


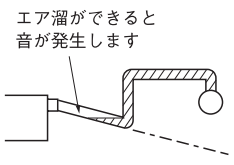
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損するおそれがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至るおそれがあります。



3．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）としてください。不可能な場合ドレンアップしてください。
途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。

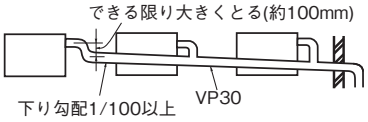






⑥ドレン配管のつづき

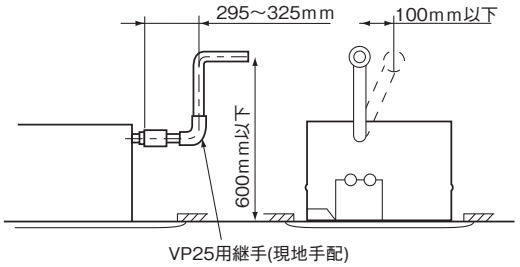
●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約１００mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。



４．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より６００mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボ等を用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。

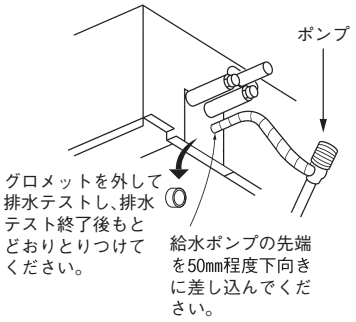


ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

作業手順

１．配管貫通部カバーのグロメットを外し、給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃ注入してください。
２．ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
３．排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
４．排水テスト後は、必ずグロメットを元通りはめこんでください。
５．排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。
運転操作方法は、電気配線工事説明書の［ドレンポンプ運転操作］をご覧ください。
○電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上のＳＷ７－１をＯＮにし、かつ、基板上のコネクタCnBを抜いた後、電源ＯＮ（端子台①、②へＡＣ２００Ｖ）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
ドレン排水確認後は、必ずＳＷ７－１を元の状態（ＯＦＦ）に戻し、かつ、基板上のコネクタCnBを差し込んでください。

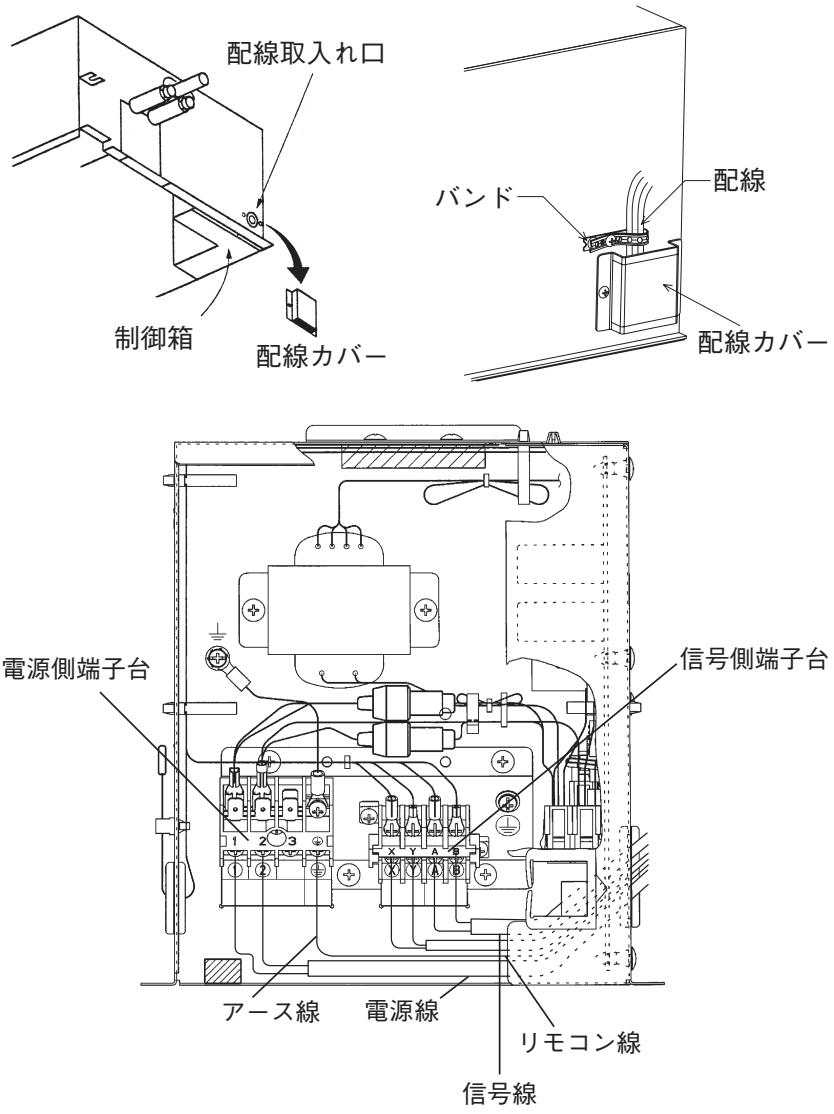
⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

１．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
２．配線カバーを一旦外して、配線を挿入してください。
３．配線を端子台に確実に接続してください。。
４．配線後は、元通りに配線カバーを取付けてください。
５．配線は、配線カバーの上方より取出し、バンドで固定してください。
６．電装箱の蓋を元通りねじ２本で取付けてください。

［注意］配線カバーを取付けないと、コントロールボックス内に結露する恐れがあります。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続のつづき



⑧パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

⑨室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

(b) パネルの据付 (TS-PSAW-15WG)

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠ 警告

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

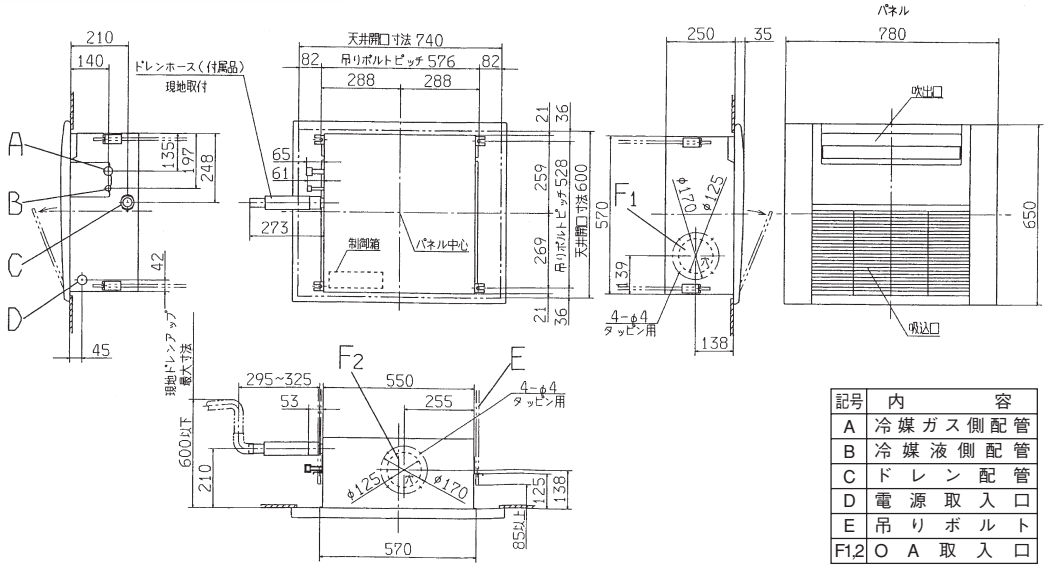
お願い

リモコン動作で吹出しルーバが動作しない場合、コネクタ接続を確認後、基電源を10秒以上切り、もう一度電源を入れ直してください。

1 付属品

1	エアフィルタ	1枚	
2	ボルト	4本	パネル取付用
3	ねじ(M4×8)	2本	チェーン取付用

2 本体の取付レベルの確認



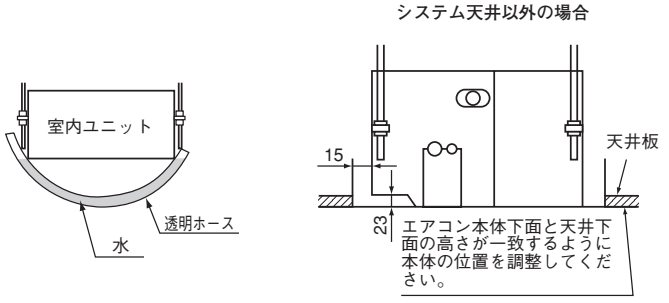
記号	内容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D	電源取入口
E	吊りボルト
F1,2	OA取入口

●エアコン本体と天井材との取付レベルを確認してください。ユニット下面と天井面（Tバー下面）が一致するようにユニット高さを調節してください。(吹出し口部分は天井裏に入ります。)
天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、エアコン本体が上方に5 mm以下です。

注 意

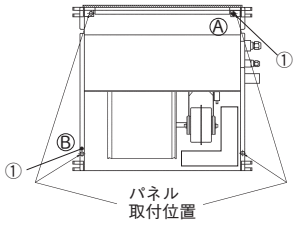
エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。

●エアコン本体の水平度を確認してください。



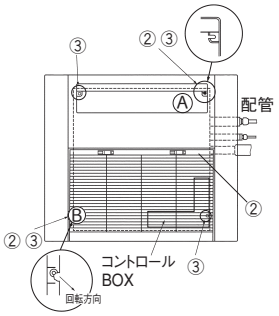
3 パネル取付

① パネル付属のボルト4本のうち、2本を室内ユニットの配管側とその対角に5mm弱ねじ込みます。(ⒶⒷ●印)

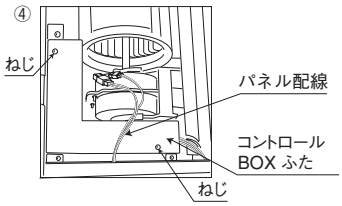


② 吸込みグリルを開け、パネルを2本のボルトに引っかけ、仮止めしてください。仮止めは、先にⒶ側のボルトにパネルを引っ掛け、回転させながらⒷ側を引っ掛けます。

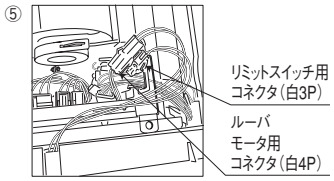
③ 仮止めしたボルトおよび残りのボルト2本を締付けてください。



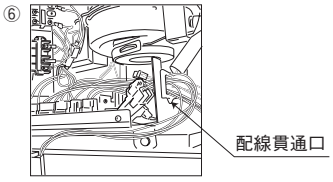
④ コントロールボックスの蓋のねじ（2本）を外し、蓋を開けてください。



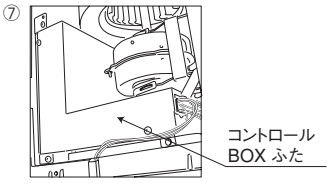
⑤ ルーバモータ用コネクタ（白4Ｐ）とリミットスイッチ用コネクタ（白3Ｐ）をそれぞれ接続してください。
室内ユニット側のコネクタは、コントロールボックスの中にあります。



⑥ コネクタ接続後、配線の貫通口に、パネル側の配線を通してください。コネクタは、コントロールボックスの中に収めてください。



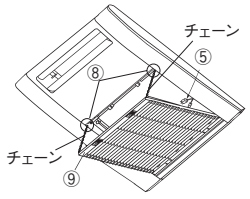
⑦ コントロールボックスの蓋を閉めて、ねじ（2本）を締付けてください。



⑧ 吸込みグリルについているチェーンを、パネル側にねじ（2本）で取付けてください。チェーンを取付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に入っています。

⑨ 吸込みグリルを閉めて完了です。

⑩ リモコン操作でルーバモータが動作しない場合は、コネクタ接続を確認後電源を10秒以上切り、リセットしてください。



(2) 床置形ローボーイタイプ（露出形）(GFL)

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載しています。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	❗
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載の場合は次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●GHP〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

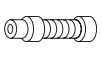
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

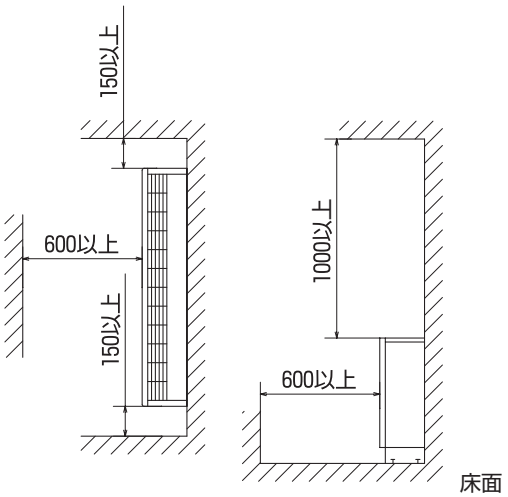
据付		冷媒配管用					ドレン配管用
床面固定金具	タッピンネジ	パイプカバー	パイプカバー		バンド	接手管	ドレンホース
							
2個	2個	2個	1個	1個	8本	1個	1個
	リモコン取付用 （M4×12）	ガス管断熱用	液管現地側用 （長さ150mm）	熱交換器／膨張弁ボックス 開液管用（長さ70mm）	パイプカバー 固定用	ガス配管 接続用	ドレン配管 接続用

②室内ユニットの据付場所の選定

本室内ユニットは、床面固定と壁面固定の２通りの固定が可能です。据付場所より選択してください。
①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度 23℃以下、相対湿度 80%以下の所。
〔本室内ユニットは JIS 露付条件（室内：27℃ /78% RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。〕
・テレビ、ラジオより１m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニットの直近に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット転倒によるケガの原因になります。
③室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５m以上離して設置してください。

室内ユニット据付けスペース

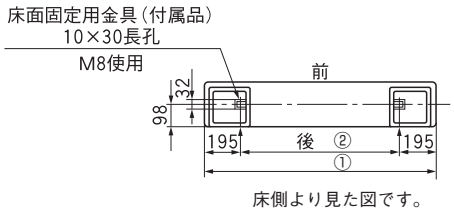
単位：mm



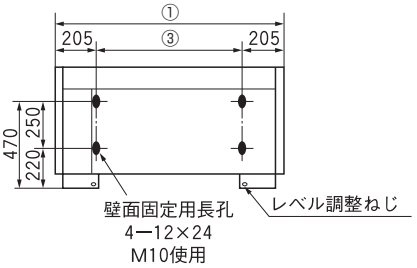
③据付準備

床面固定金具用ボルトおよび壁面固定用ボルトの位置

床面固定金具用ボルト位置



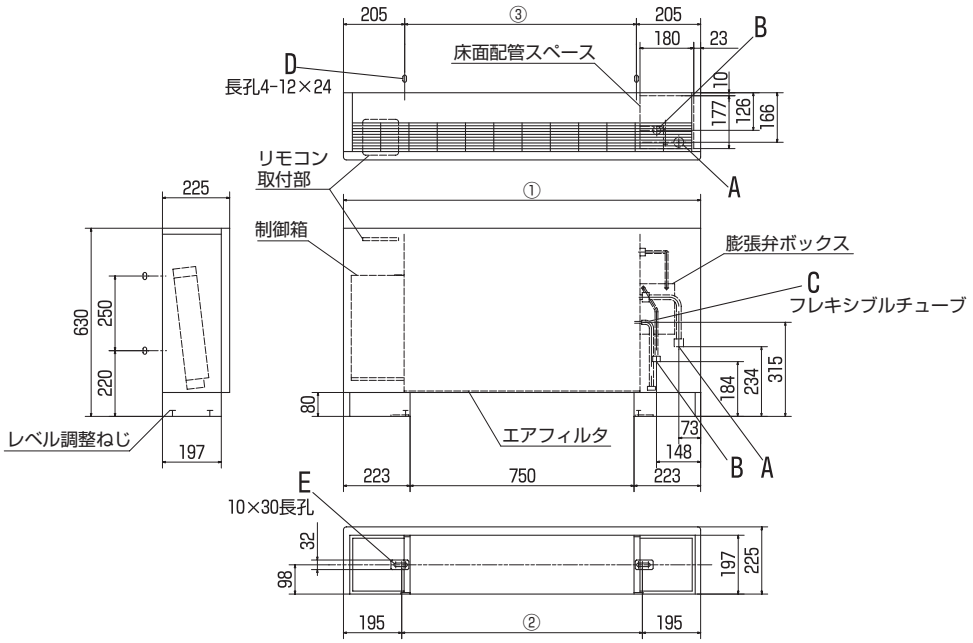
壁面固定用ボルト位置



単位：mm

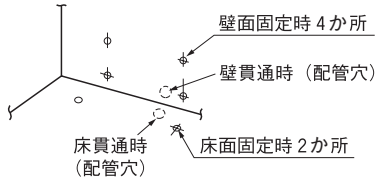
項目 / 機種	①	②	③
28, 45, 56 形	1,196	806	786
71 形	1,481	1,091	1,071

記号	内　　容
A	冷媒ガス側配管（付属品にて現地施工）
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管（付属品にて現地施工）
D	壁面固定用穴
E	床面固定用金具（付属品にて現地施工）

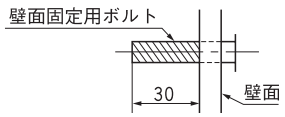


④室内ユニットの据付

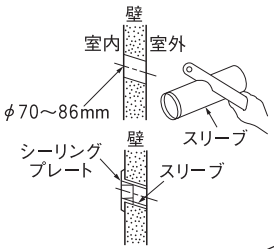
床面固定金具用ボルトまたは壁面固定用ボルト位置、配管穴位置を選定し、固定ボルトの設置と配管用の穴あけを行ってください。
位置決定は実測により行ってください。



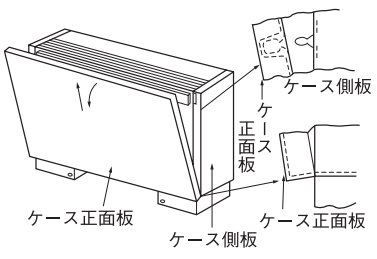
壁面固定用ボルトの長さは下記寸法を厳守してください。



壁の穴あけ要領を下図に示します。

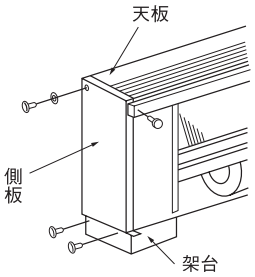


(1) フロントパネルとサイドパネルを取外してください。

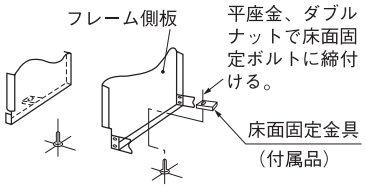


④室内ユニットの据付の続き

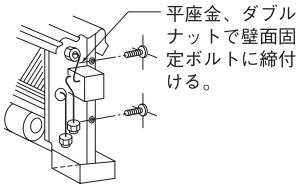
⑵ レベル調整ねじにてガタをなくす。
⑶ 下図の要領にて固定してください。
サイドパネル、フロントパネルを取付け終了です。



床面固定の場合



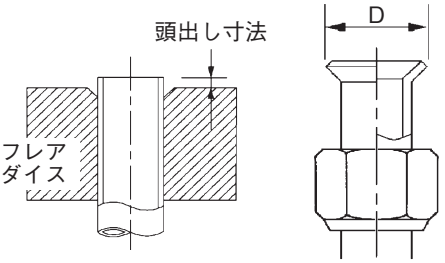
壁面固定の場合



⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1）再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。
2）再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 または R410A 用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R32 用 R410A 用	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） 従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

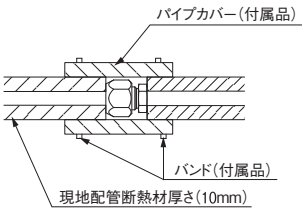
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

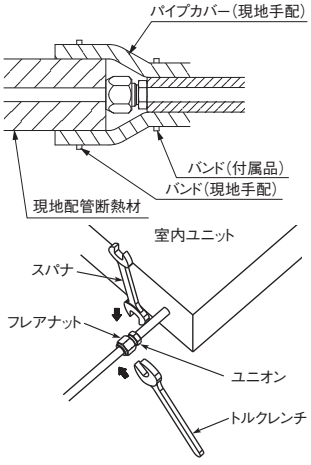
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



作業手順

1．室内ユニット（熱交換器の液側／ガス側取合、膨張弁ボックスの入口／出口部）のフレアナットおよびキャップを取外してください。（4か所）
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
○熱交換器～膨張弁ボックス間（図中Ａ部分）の液配管を必ず接続してください。
○配管は後面と床面の２方向に取出すことが可能です。
○ガス配管の接続は付属の接手管を、必ず使用してください。配管を取出す方向に応じて接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。

●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。

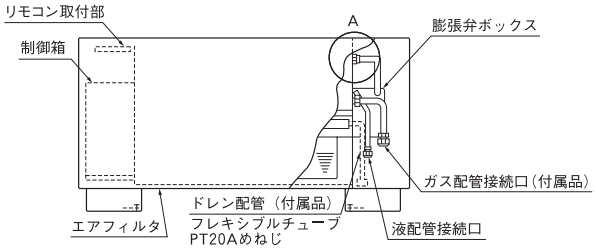
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。

●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

⑤冷媒配管の続き

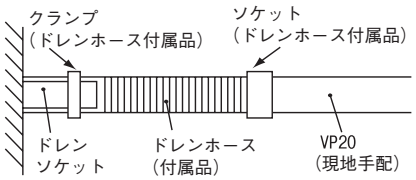
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
　室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



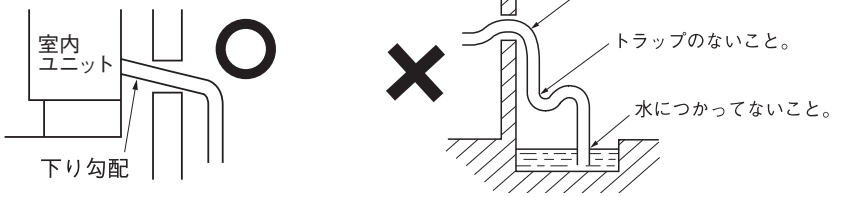
⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差し込み、付属のクランプで確実に締付けてください。（接着剤使用不可）



- **ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
  不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- **ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。**
  室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。
  また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- **接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**
- **水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**
- **施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。**
- **ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。**
  試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。
- **ドレンホースは根元までしっかりと差し込んでください。**
- **ドレンホースはバンドを締めてしっかりと固定してください。**



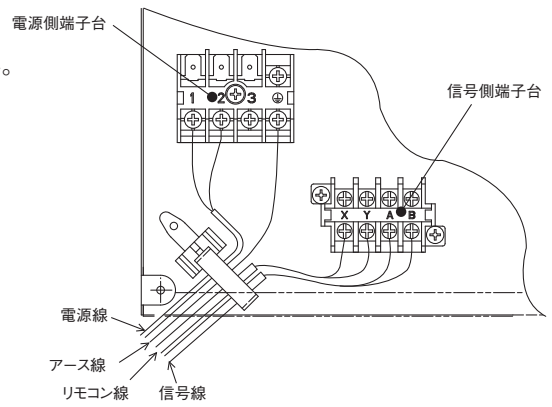
ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．電装箱の蓋 (ねじ２本) を取外してください。
2．各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
3．各配線をクランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。

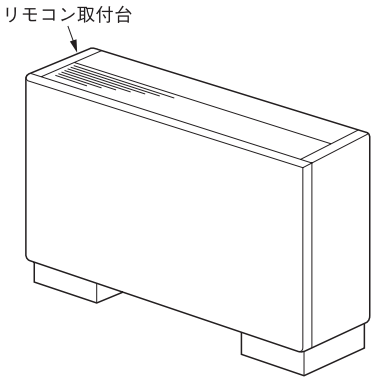


⑧リモコン

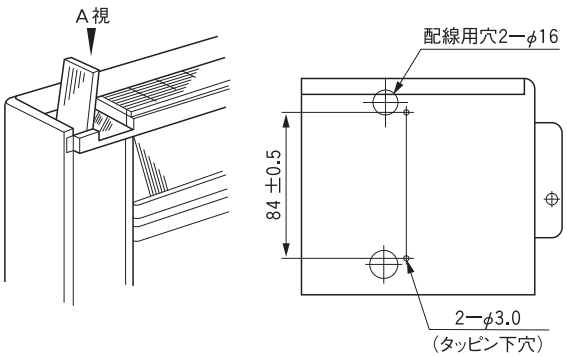
リモコン取付時の注意

●外観

リモコンの取付およびリモコンコード選定の際には、室内ユニット付属の**電気配線工事説明書、リモコン付属のワイヤードリモコン据付説明書**ご覧ください。



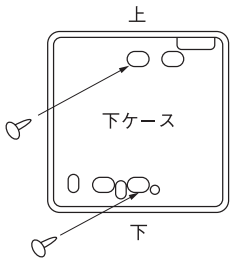
⑴ フロントパネルを取外してください。



A視

⑵ リモコン取付

●下ケースを付属品のタッピンネジ（M4 × ℓ 12）で取付けます。



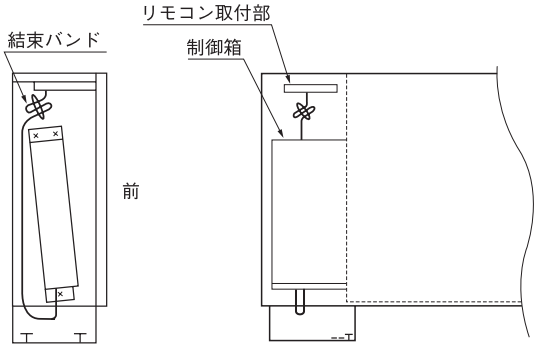
⑶ リモコンコード取付の注意

●コード長さは 30 ｃｍくらい余分に長くしてください。
（前面パネルを外してサービスする場合に必要です。）

⑷ 配線系路

●配線は配線用穴より、制御箱の裏を通し端子台に接続してください。

●余った配線は結束バンドでまとめてください。



〈チェック〉

●配線がエッジに当たらないことを確認してください。

●試運転を行い、不具合のないことを確認してください。

⑨室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

(3) 床置形ローボーイタイプ（隠蔽形）(GFU)

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載しています。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載の場合は次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

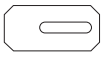
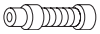
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

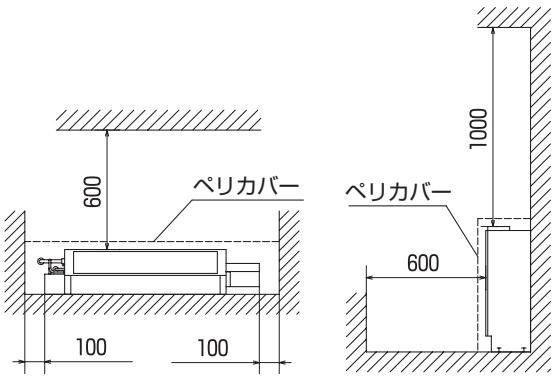
据付	冷媒配管用					ドレン配管用
床面固定金具	パイプカバー	パイプカバー		バンド	接手管	ドレンホース
						
2個	2個	1個	1個	8本	1個	1個
	ガス管断熱用	液管現地側用 （長さ 150 mm）	熱交換器膨張弁ボックス 間液管用（長さ 70 mm）	パイプカバー 固定用	ガス配管 接続用	ドレン配管 接続用

②室内ユニットの据付場所の選定

本室内ユニットは、床面固定と壁面固定の２通りの固定が可能です。据付場所より選択してください。
①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が 23℃以下、相対湿度 80%以下の所。
（本室内ユニットは JIS 露付条件（室内：27℃ /78% RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。）
・テレビ、ラジオより１m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニットの直近に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット転倒によるケガの原因になります。
③室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５m以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

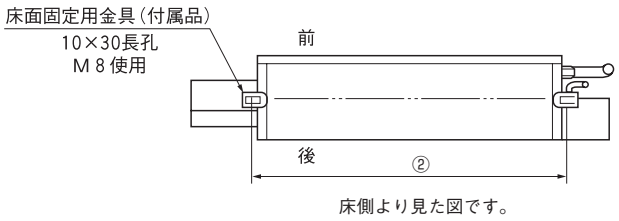
単位：mm



③据付準備

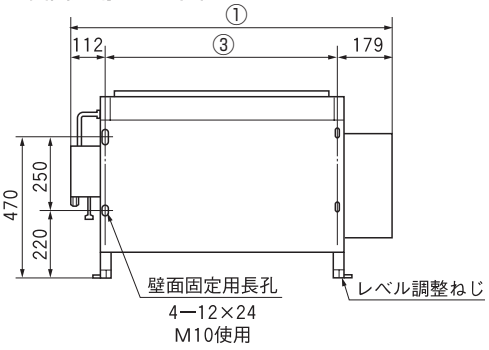
床面固定金具用ボルトおよび壁面固定用ボルトの位置

床面固定金具用ボルト位置



床側より見た図です。

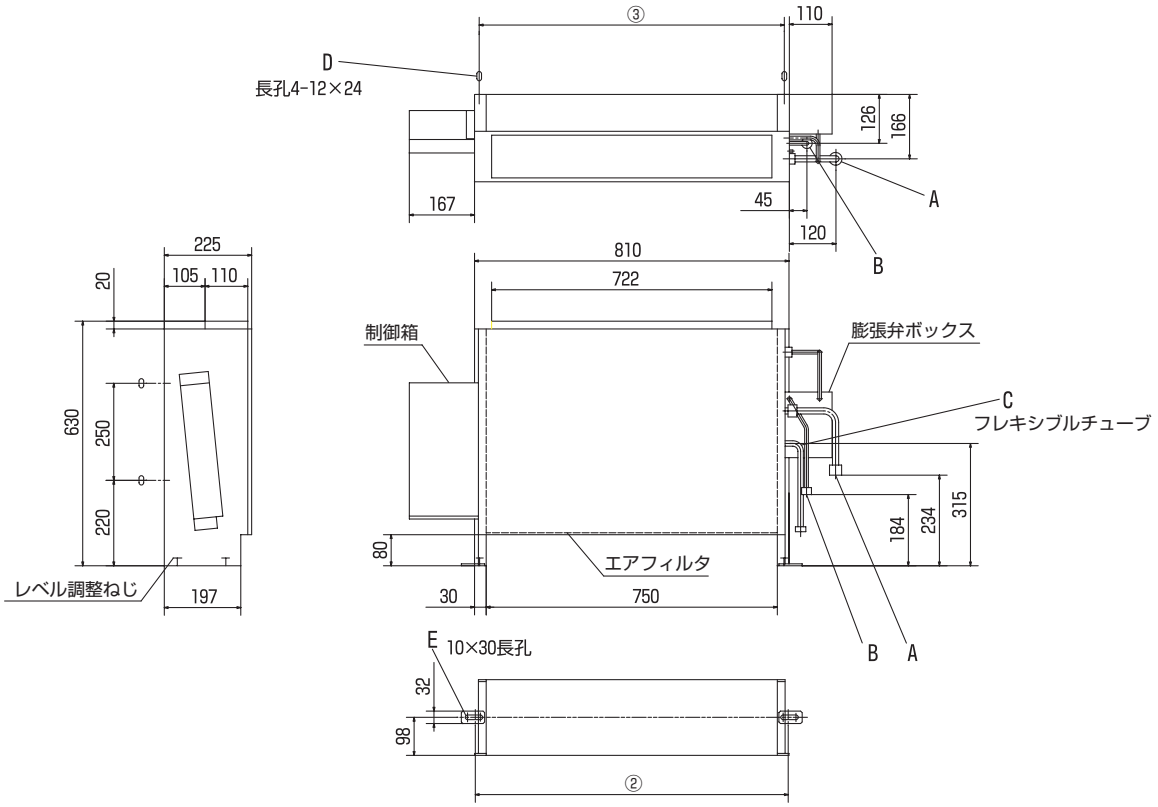
壁面固定用ボルト位置



単位：mm

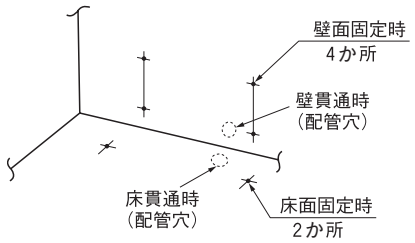
項目 / 機種	①	②	③
28, 45, 56 形	1,150	806	786
71 形	1,435	1,091	1,071

記号	内　　容
A	冷媒ガス側配管（付属品にて現地施工）
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管（付属品にて現地施工）
D	壁面固定用穴
E	床面固定用金具（付属品にて現地施工）

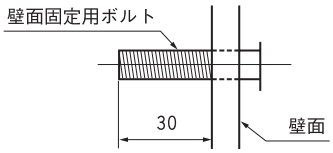


④室内ユニットの据付

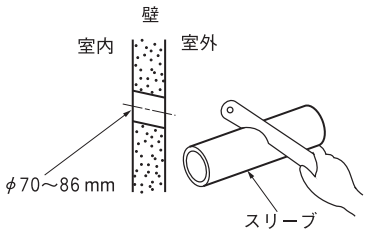
●床面固定金具用ボルトまたは壁面固定用ボルト位置、配管穴位置を選定し、固定ボルトの設置と配管用の穴あけを行ってください。
位置決定は実測により行ってください。

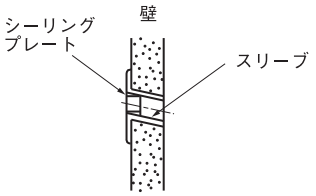


●壁面固定用ボルトの長さは下記寸法を厳守してください。



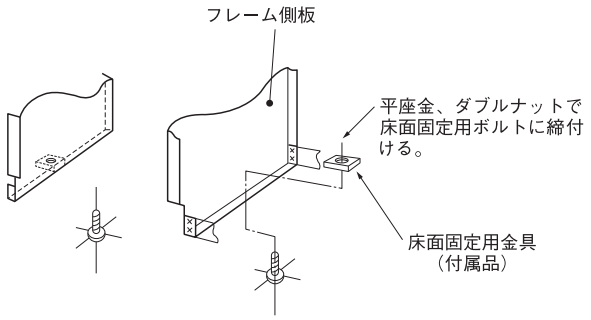
●壁の穴あけ要領を下図に示します。



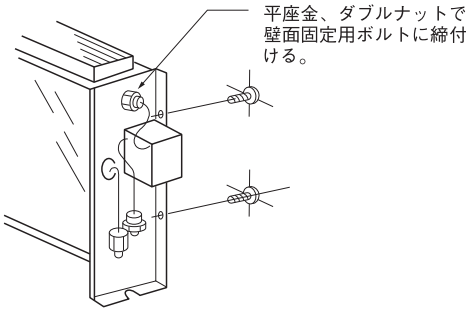


(1) レベル調整ねじにてガタをなくす。
(2) 下図の要領にて固定してください。

●床面固定の場合

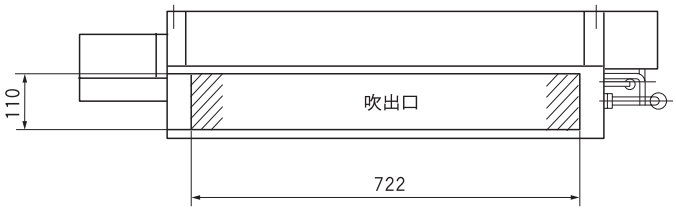


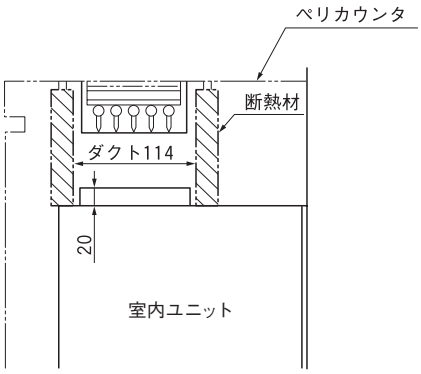
●壁面固定の場合



吹出ダクトの設置例

○断熱材、吹出グリル、ペリカウンタは現地手配品です。
○ペリカウンタ内に冷気が漏れない様、ダクトを設置してください。



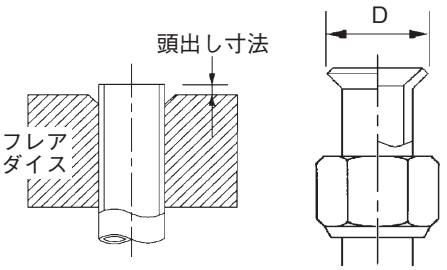


単位：mm

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1 種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 または R410A 用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R32 用 R410A 用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

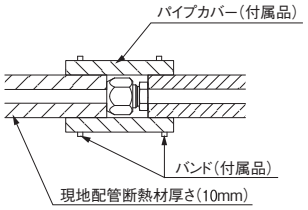
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

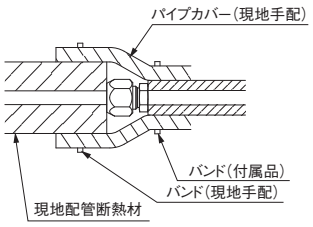
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>

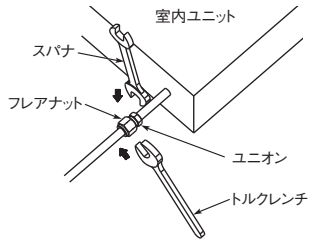


作業手順

1．室内ユニット（熱交換器の液側／ガス側取合、膨張弁ボックス入口／出口部）のフレアナットおよびキャップを取外してください。（４か所）
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

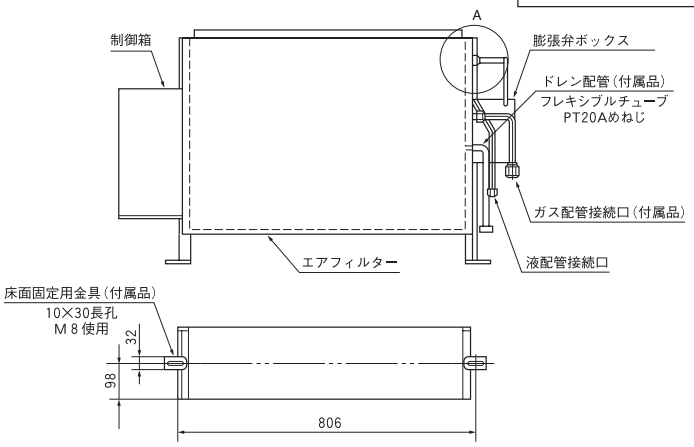
2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
○熱交換器～膨張弁ボックス間（図中Ａ部分）の液配管を必ず接続してください。
○配管は後面と床面の２方向に取出すことが可能です。
○ガス配管の接続は付属の接手管を、必ず使用し、配管を取り出す方向に応じて接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。



4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

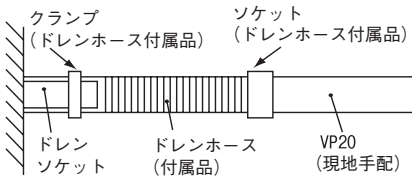
注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。



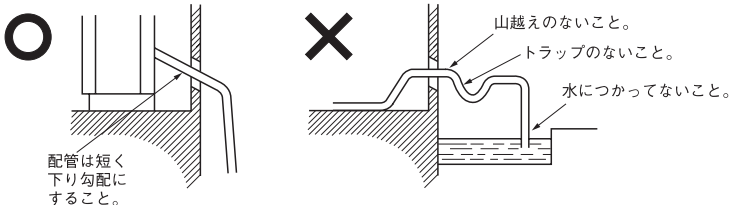
⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差し込み、付属のクランプで確実に締付けてください。(接着剤使用不可)



- **ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
  不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- **ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。**
  室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。
  また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- **接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**
- **水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**
- **施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。**
- **ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。**
  試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。
- **ドレンホースは根元までしっかりと差し込んでください。**
- **ドレンホースはバンドを締めてしっかりと固定してください。**



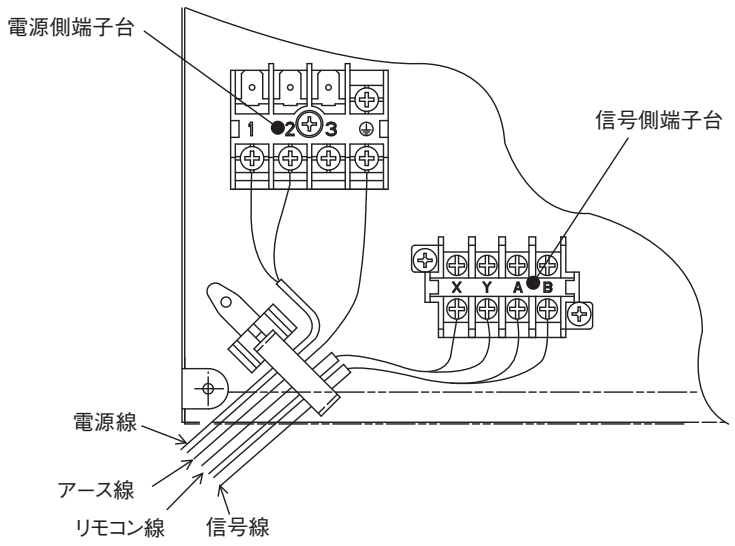
ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋 (ねじ２本) を取外してください。
2. 各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



⑧室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

2. 電気配線工事

PSC012D139

電気配線工事は電気設備技術基準および内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。
安全のため必ずお守りください。

●誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「⚠**警告**」と「⚠**注意**」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。

●「⚠**警告**」「⚠**注意**」の意味

⚠警告	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
⚠注意	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電または過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

⚠警告

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

●別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●電源には必ず漏電しゃ断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。

●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

制御の切換

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。（□は工場出荷時の設定）

スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(1位)
SW3	室外アドレス(10位)
SW4	室外アアドレス(1位)
SW5−1（注1）	ON 旧SL通信仕様固定
	□OFF 新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW5−2	室内アドレス(100位)
SW6−1〜4	機種容量
SW7−1	ON 運転チェック･ドレンポンプ運転試
	□OFF 通常運転

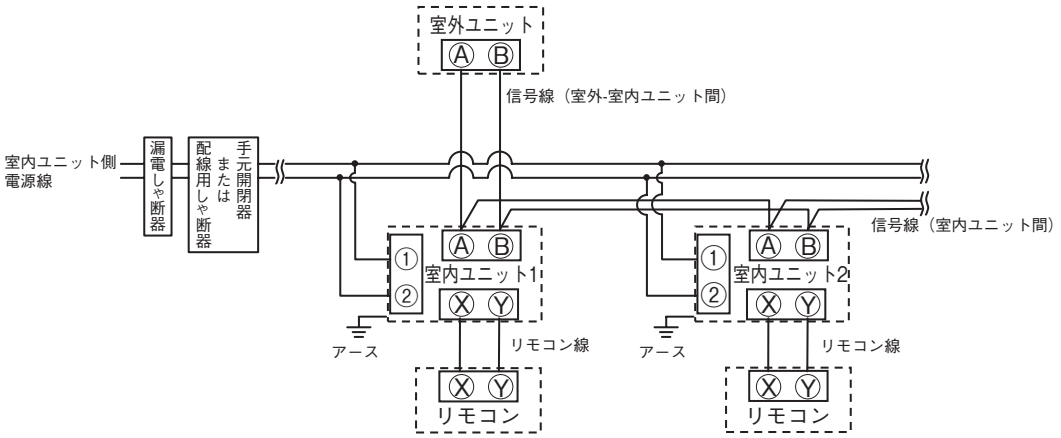
注１：通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。
旧 SL：ビル空調 2LX シリーズ，ガスヒートポンプ M7 シリーズ以前
新 SL：ビル空調 3LX シリーズ，ガスヒートポンプ M8 シリーズ以降
SW5-1 が OFF（工場出荷設定）の場合は，通信仕様（新 SL/ 旧 SL）を自動判別します。
旧 SL 通信仕様固定で使用する場合は，SW5-1 を ON にしてください。
各通信仕様の特徴，制限は室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

①電源・室内外配線の接続

●電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
②電源は、室外ユニット、室内ユニット各々別電源としてください。
③電気ヒータ（別売品）はなしにて記載してあります。
注：電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
④同一系統内の室内ユニットの電源は、必ず全て同時 ON、同時 OFF になるようにしてください。
●アース線は室内外接続線および室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
●電源は工事が完了するまで入れないでください。
●D種接地工事を必ず行ってください。



●端子台への接続は、丸型圧着端子を接続してください。
●専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害は生じる恐れがあります。
●機種毎に設定された過電流および漏洩しゃ断器を設置してください。
●室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
●天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
●室内ユニットに接続する電源線は 3.5mm² まで使用可能です。5.5mm² 以上の配線を使用する場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
●信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、ご注意ください。
① A-B 信号線に誤って、200V 電源を接続しても初めの 1 回は保護します。
②電源投入 15 分経過後リモコンからユニット No.(アドレス）が確認できない場合は、全ての信号線を確認して誤接続を修復してください。
③焼損基板のジャンパ線 J10SL1 を切り、コネクタ CnK（黄）CnK1（白）を CnK2（黒）に差し替える。
④ A-B 端子台から基板までの配線に異常があれば交換してください。
●室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
●リモコン用端子台には、200V 電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
●ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
①ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース線に接続してください。
②電源には必ず漏洩しゃ断器を取付けてください。漏洩しゃ断器は、インバータ回路用しゃ断器（三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品）を選定してください。
③漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合には、漏洩しゃ断器と直列に手元しゃ断器（開閉器＋ B 種ヒューズ）または、配線用しゃ断器が必要となります。
④手元開閉器はユニットの近傍に設置ください。
●配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
●補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。



①電源・室内外配線の接続（つづき）

電源仕様

●室内ユニットを個別に電源に接続する場合

①室内ユニット電源使用（②～③以外の機種）								
機種容量	漏電しゃ断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
22-36形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	298m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
45-56形					275m			
71-90形					179m			
112-160形					123m			
②高静圧ダクト、給気処理ユニット、加湿器付外気処理ユニット								
45-90形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	149m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
112-160形					85m			
224,280形					28m			
③床置形システムパッケージ								
112形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	51m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
140,160形					34m			
224,280形	20A 30mA 0.1sec		20A	3.5mm²×2	32m			

注 1. 配線こう長は、電圧降下２％とした場合を示します。上記の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

注 2. リモコン線の延長距離が100mを越える場合は、③リモコンの取付 に従い、配線太さを見直してください。

●複数の室内ユニットを一つの電源に接続する場合

室内ユニット合計電流	配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	配線用しゃ断器定格電流
7A以下	2	21	20A
11A以下	3.5	21	20A
12A以下	5.5	33	20A
16A以下	5.5	24	30A
19A以下	5.5	20	40A
22A以下	8	27	40A
28A以下	8	21	50A

注1. 表中のこう長は、室内ユニットを直列に接続した場合の値を示します。また、室内ユニット合計電流別に電圧降下を2%以内とした場合の配線太さとこう長を示しています。電流が左表の値を超える場合、内線規程に従い配線太さを見直してください。

注2. サービス時（電源OFF時）のため、別の冷媒配管系統の室内ユニットを同一電源とすることは避けてください。

漏電しゃ断器の定格感度電流は、下記計算式と判定方法を参照ください。

注3. 下記に示す計算式は目安であり、現地設備、工事内容により異なる場合があります。漏電しゃ断器が頻繁に作動する場合は、現地設備、工事内容に適した漏電しゃ断器を選定してください。

<計算式>　必要感度電流 ＝（各室内ユニットの機種係数　×台数）の合計値　＋ (配線係数×配線長[km])

<機種係数>

機種	係数
GT	3.5
GTW,GTS,GR,GU,GE,GK,GU-F	2.5
その他	1

<配線係数>

電源配線径	係数
2.0mm²	50
3.5mm²	60
5.5mm²	60
8.0mm²	60

<判定方法>

(ⅰ) 必要感度電流≦30　　定格感度電流30mA（0.1s以下）品をご使用ください。

(ⅱ) 30<必要感度電流≦100　　原則、必要感度電流が30mA以下となるよう漏電しゃ断器の系統分割をしてください。系統分割が難しい場合は、接地抵抗値が内線規程に基づいた値以下となる様確実に接地工事を行った場合に限り、定格感度電流100mA（0.1s以下）品の使用が可能です。

(ⅲ) 100<必要感度電流　　漏電しゃ断器の系統分割（追加）が必要です。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）に付属の据付説明書をご覧ください。

②アドレス設定

アドレス設定は、（1）手動アドレス設定、（2）自動アドレス設定の２方法ができます。
自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。
設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

③リモコンの取付（別売部品）

●次の位置へ取付けないでください。

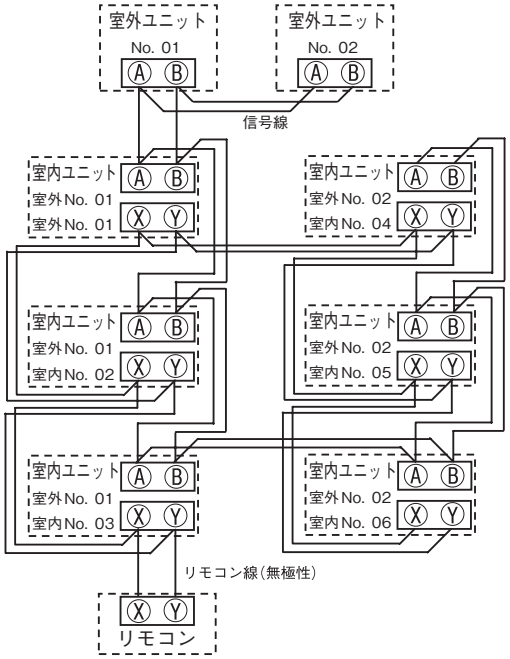
○直射日光の当たる所
○発熱器具に近い所
○湿気の多い所、水が飛散する所
○取付面が発熱・結露する所
○油の飛沫や蒸気が直接触れる所
○取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

①リモコンの取付は、リモコン付属の説明書に従ってください。
②リモコン線は、０．３mm^2×２心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は 1mm 以上のものを使用してください。（現地手配）
③リモコン線の総延長は６００mです。
延長距離が１００mを超える場合は、下記サイズに変更してください。ただし､リモコンケース内を通る配線は最大０．５mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

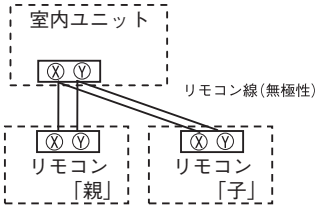
１００～２００m以内・・・・・０．５mm^2× ２心
３００m以内・・・・・０．７５mm^2× ２心
４００m以内・・・・・１．２５mm^2× ２心
６００m以内・・・・・２．０mm^2× ２心

④誤動作する場合がありますので、多心ケーブルの使用は避けてください。
⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。
⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）



１リモコンによる複数台室内ユニット制御

①１つのリモコンで複数台のユニット（最大１６台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。
②グループ制御用に各室内ユニット間を２心のリモコン線にて渡り配線してください。
③室内・室外Ｎｏ．を手動アドレス設定にてセットしてください。
○室内ユニット基板上のロータリスイッチＳＷ１，ＳＷ２およびディップスイッチＳＷ5-2により、室内Ｎｏ．を重複しないように設定してください。
④右図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。



複数リモコン使用時の親子設定

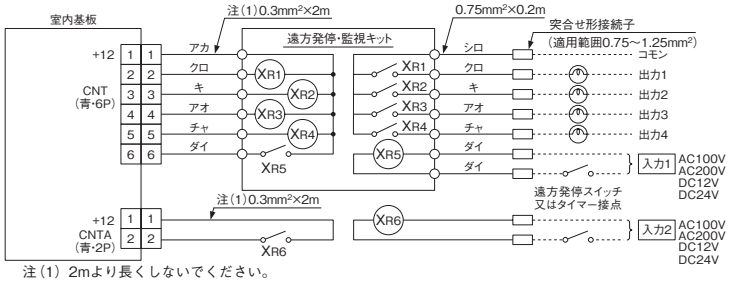
室内１台（または１グループ）に対して、最大２個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。
ワイヤードリモコン２台、あるいはワイヤードリモコン＋ ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット２台のいずれかの組合せができます。
１個を「親」に、残りを「子」に設定してください。
○ 注意　リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

③リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作（RC-DX シリーズ）	標準リモコンから操作（RC-D シリーズ）
1	リモコン系統内の接続ユニットの接続台数確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを 1 台ずつ確認してください。
2	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③ [運転切換] を押してください。送風運転します。
3	親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ（SW1）を「子」に設定してください。
4	運転データの確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒室内機選択⇒▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒▲▼データ選択
5	点検表示の確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒データ表示
6	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。 ② [運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③ [試運転] を３秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④「冷房試運転▼」の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
7	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ② [▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③ [セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。 表示 :「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

④室内基板CnTコネクタの機能



注（1）2mより長くしないでください。

●$X_{R1～4}$はDC12Vリレー（オムロン製LY2F相当品）
●X_{R5}は、DC12, 24Vまたは100Vリレー（オムロン製MY 2F相当品）
●CnTコネクタ（現地側）メーカ、形式
コネクタ:モレックス製 5264−06
端　子:モレックス製 5263T
別売品（PCZ006A043）を準備しておりますのでご利用ください。
●遠方発停・監視キットを別売品にて準備しておりますのでご利用ください。
●CnT Aコネクタは､FDT他に搭載<仕様書で確認願います>（現地側）メーカ、形式
コネクタ:日本圧着端子JST製　XAP02V−1−E
端　子: 日本圧着端子JST製　SXA−01T−P0.6
別売品（PCZ006A053）を準備しておりますのでご利用ください。

●出力1～4, 入力1・2を下記の項目より自由に選択・設定することができます。
工場出荷時は下記のように設定されています。

出力

①	運転出力	⑧	ファン運転出力3
②	暖房出力	⑨	デフロスト , 油戻し出力
③	圧縮機 ON 出力	⑩	換気出力
④	点検 (異常) 出力	⑪	ヒータ出力
⑤	冷房出力	⑫	フリークーリング出力
⑥	ファン運転出力1	⑬	室内過負荷異常出力
⑦	ファン運転出力2		

入力

①	運転 / 停止	⑤	設定温度シフト
②	運転許可禁止	⑥	強制サーモ OFF
③	緊急停止	⑦	一時停止
④	冷房 / 暖房	⑧	静音モード

工場出荷時の設定

CnT-2	出力 1	運転出力	CnT-5	出力 4	点検 (異常) 出力
CnT-3	出力 2	暖房出力	CnT-6	入力 1	運転 / 停止
CnT-4	出力 3	圧縮機 ON 出力	CnTA	入力 2	運転 / 停止

●設定の方法は技術資料をご覧ください。

⑤リモコンからの操作・設定

〈ecoタッチリモコンの凡例〉
A：eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。
B：eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。
C：インターネットよりユーティリティーソフトを配信中です。

〈標準リモコンの設定操作可否〉
○：eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。
△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。
空欄：標準リモコンには、この機能はありません。

設定および表示項目			詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
1. リモコンネットワーク					
1	複数室内機制御		リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内ユニットを接続制御できます。室内ユニット側にアドレスを設定します。		○
2	親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン (含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
2.TOP 画面・SW 操作					
1	メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2	運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3	設定温度		室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4	風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効 / 無効を設定します（FDK の場合）。※2	A	△
5	風量		風量を設定します。	A	○
6	タイマー設定		タイマー運転を設定します。	A	○
7	運転／停止 SW		運転を開始します。／停止します。	A	○
8	F1 スイッチ ※ 1		F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
9	F2スイッチ ※ 1		F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
10	言語切換 ※ 3		リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語	A	
3. 便利機能					
1	フリーフロー設定		各ルーバの可動範囲（上限位置―下限位置）を設定します。 FDK の場合は左限位置 - 右限位置も設定します。 ※2	A	△
2	エアフレックス（風よけ）設定※ 1 エアフレックスパネル組合せの場合※ 3		・詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効・無効を設定します。 ・ON/OFF 切換：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF（作動中 / 停止中）を切換えます。	A	
3	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。	A	△
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。	A	
4	おこのみ設定 ※ 1 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 のそれぞれに設定が可能です。	A	
5	ウィークリータイマー		1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
6	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温 / 低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房 / 暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A	
7	換気 換気機器組合せの場合		換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転 / 停止ができます。	A	○

※ 1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 4：RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 5：標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目			詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
8	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / ※2 トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語	A	
9	室外静音設定 ※3		室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	
10	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
11	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
4. 省エネ設定			管理者パスワード		
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ～ 240 分 (10 分単位）まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	△
2	ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0,40 ～ 80% (20%単位）から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード / 冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 20 ～ 120 分（10 分単位）まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4	人感センサ制御 ※1		人感センサを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効／無効を設定します。	A	
	人感センサがある場合		パワーコントロールの冷房時 / 暖房時設定温度を設定します。	A	
5. お手入れ					
1	フィルタサイン リセット	フィルタサインの解除	フィルターサインの解除を行います。	A	
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。	A	
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル 組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリル昇降操作] の設定が必要です。	A	○
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・0.1 ～ 4.0 mの範囲で設定できます。 ・設定長さは 0.1 m単位で設定可能です。 ・接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
3	お掃除パネル設定 管理者パスワード	お掃除自動設定	自動清掃の有効 / 休止を設定します。	A	
		清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。	A	
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。	A	
		ブラシ移動速さ ※4	ブラシ移動速さを設定します。	A	
		ブラシ往復数 ※4	ブラシ往復数を設定します。	A	

※ 1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 4：RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 5：標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目			詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
6. ユーザ設定					
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ・80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
		時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12 H／ 24 H、AM/PM 位置、を設定します。	A	
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1 時間の補正を行います。	A	
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。	A	
		バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。	A	
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。	A	
		運転ランプ輝度　※1	運転ランプの輝度の調整を行います。	A	
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定	・操作の許可 / 禁止を設定します。 [運転 / 停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示]　※ 1　※ 5 ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定]　[言語切換設定] [ドラフト防止設定]　※ 1　※ 5	A	△
		室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△
		設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
		温度設定刻み切換	設定温度の刻み (0.5℃ /1.0℃）を設定します。	A	
		設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切り換えます。	A	
		リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。	A	△
		管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。	A	
			管理者パスワードのリセットを行います。	B	
		スイッチ機能変更※ 1	F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF]　※ 3 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転 1][おこのみ設定運転 2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示]	A	
7. サービス設定					
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録	据付日を登録した場合、点検表示を行います。	B	
		サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
		試運転	試運転の開始／停止を制御できます。	B	△
		冷房試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。		
		ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。		
		お掃除試運転	フィルタ清掃　ブラシ清掃運転します。　お掃除パネル組合せの場合	B	
		ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
		自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
		親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ　設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△
		バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。	B	
		人感センサ設定　※ 1 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内ユニットの人感センサ検知の有効／無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。	B	
		グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目			詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
		吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B	
		リモコンセンサー	リモコンセンサに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。	B	△
		リモコンセンサー補正	リモコンセンサ検知温度を補正できます。 冷房／暖房　別々に補正可能です。	B	△
		運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△
		設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／℉の選択が可能です。	B	
		ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○
		外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○
		上下ルーバ制御	上下ルーバの [4 位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	○
		左右ルーバ制御 ※ 2	左右ルーバの [固定位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	
		換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
		停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
		設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B	
		風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B	
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
		フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
		外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。	B	○
		外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。	B	○
		外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。	B	
		外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。	B	
		暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ～ +3℃の範囲で補正できます。	B	△
		吸込温度補正	吸込センサ検知温度を± 2℃の範囲で補正できます。	B	△
		冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
		フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
		ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
		冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
		送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。	B	
		外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
		運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
		サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
		風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
		室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5) から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
		外部出力設定　※ 1	外部出力 1 ～ 4 に割り当てる機能を換えられます。	B	

※ 1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 4：RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 5：標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目				詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
4	サービス・メンテナンス	エアコンNo. 表示		リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。 個別送風運転で確認できます。	B	○
		次回点検日		次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	○
	サービスパスワード	運転データ表示		室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
		点検表示				
			異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。	B	△
			異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。		
			異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
			定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
		室内設定保存		接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
		特殊操作		[室内アドレス消去][CPU リセット][初期化設定][タッチパネル調整] の操作ができます。	B	△
		室内機容量表示 ※1		リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。	B	
		お掃除パネル点検		お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B	○
8. 困ったときは・・・						
1	連絡先表示			登録した連絡先・TEL番号、 サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2	サービスを依頼される前に Q & A			Q &Aが表示されます。	A	
9. 点検表示						
	点検表示確認			異常発生時の表示	A	△
10. パソコン接続						
	USB 接続			ウィークリータイマー設定他、 パソコンから一括設定ができます。	C	

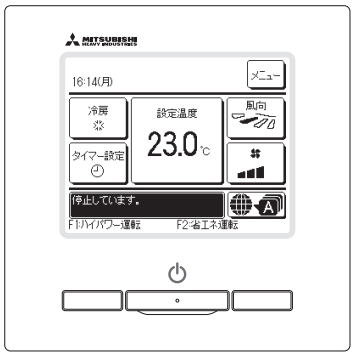
◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

3. リモコンの取付

(1) RC-DX3C の場合

PJZ012D135

この据付説明書は、リモコン関連の据付方法・注意事項を記載しております。
室内ユニット・室外ユニット・他に付属の説明書と合わせてご覧ください。
正しく工事していただくために、工事前に、必ずこの説明書をよくお読みください。



1．安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠警告　誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠注意　誤った取扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠警告	
❗	**●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。** ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。** 据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。** 当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
❗	**●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。** 強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
❗	**●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。** 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
❗	**●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。** 感電、故障や動作不良の原因になります。
⃠	**●改造は絶対にしない。** 感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。** 修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
⃠	**●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。** 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス(アンモニア・硫黄化合物・酸など)の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下･腐食による感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●洗濯室など水のかかる所では使用しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●ぬれた手で操作しない。** 感電の原因になることがあります。

⚠警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●リモコンケーブル引込口をパテでシールする。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。
また、水分が浸入すると画面表示不良の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●リモコンの上ケースおよび USB 端子カバーを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠注意

●リモコンを下記場所に設置しない。
(1) リモコンの変形・誤動作・故障の原因になる場合があります。
・直射日光のあたる場所。
・周囲温度が 0℃以下、40℃以上になる場所。
・取付面に凹凸のある場所。
・取付部が強度を有しない場所。
(2) リモコン内部部品へ水分が付着し、画面表示不良の原因になります。
・リモコンが結露する湿度の高い場所。
・水がかかる場所。
(3) リモコンの温度センサを使用して室内温度を検知する場合、正確な室温を検知できない場合があります。
・部屋の平均的な温度を検知できない場所。
・熱源の影響を受ける場所。
・ドアの開閉による室外空気の影響を受ける場所。
・直射日光やエアコンから吹出した風が直接当たる場所。
・壁面温度と室内温度の差が大きい場所。
(4) 室内ユニットにラクリーナパネルを使用する場合、昇降動作を確認できない場合があります。
・室内ユニットが見えない場所。

●パソコンに USB で接続する場合、専用のソフトウェアを使用する。
パソコンに他の USB 機器とリモコンを同時に接続しない。
リモコン・パソコンの誤動作・故障の原因になります。

2．部品確認

下記が付属されています。

付属品	リモコン本体、木ねじ(φ 3.5 × 16)2 本、取扱説明書・据付工事説明書

現地手配部品は、以下です。各々の据付方法に従い準備してください。

品　名	所要量	記　事
スイッチボックス 1個用　または　2個用(JIS C 8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
薄鋼電線管（JIS C 8305）	必要量	
ロックナット・ブッシング(JIS C 8330)	必要量	
モール(JIS C 8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ	適量	隙間シール用
モリーアンカー	必要量	
リモコンケーブル(0.3mm^2×2線)	必要量	100mを超える場合は右表

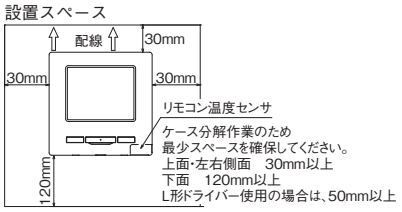
延長距離が100mを超える場合リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線する際は水分等が浸入しないような処置を行ってください。

200m 以内	0.5mm^2 × 2 心
300m 以内	0.75mm^2 × 2 心
400m 以内	1.25mm^2 × 2 心
600m 以内	2.0mm^2 × 2 心

3．据付場所

図の設置スペースを確保してください。
また、据付方式は「スイッチボックスを使用」の場合、「壁面に直接据付」の場合の選択が可能です。
配線取出方向は「背面」、「上面中央」または「上面左」の場合の選択が可能です。
据付方式と配線取出場所を考慮のうえ、据付場所を決めてください。

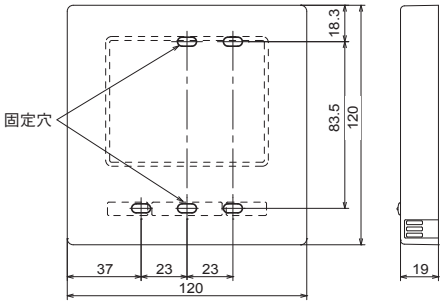
室内ユニットにラクリーナパネルを採用される場合は、グリルの昇降が確認しやすい場所としてください。



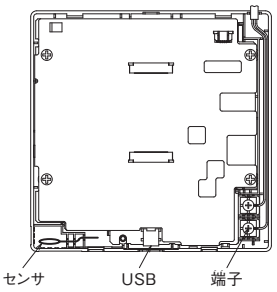
4．据付・配線工事

リモコンの据付・配線工事は下記に従って実施ください。

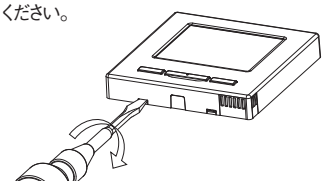
正面から見た取付寸法図



裏面から見た基板面

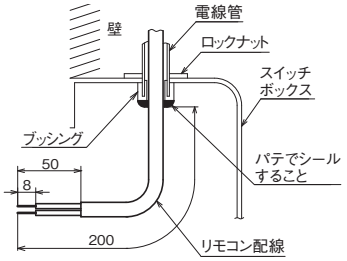


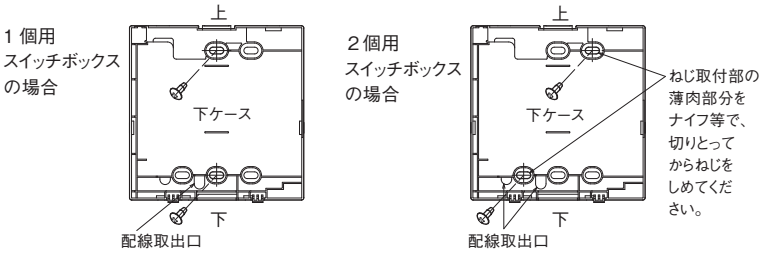
リモコンの上下ケースを組立て後、再度取外す場合・リモコン下面の凹部にマイナスドライバー等を挿込んで軽くねじって外してください。
ケースを傷つけないよう、ドライバー先端にテープなどを貼ることをおすすめします。
取外した上ケースは、水分・ゴミが付かないようにしてください。



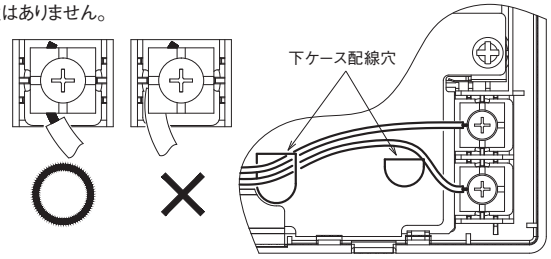
スイッチボックスを使用する場合（配線方向「背面」の場合）

①スイッチボックスとリモコン配線をあらかじ埋込んでおきます。
　リモコン配線引込口はパテでシールしてください。
②下ケースに配線を通した後、スイッチボックスに２箇所固定してください。





③リモコン端子X，Yと室内ユニットの端子X，Yを接続してください。配線X、Yの極性はありません。
　リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
④リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。



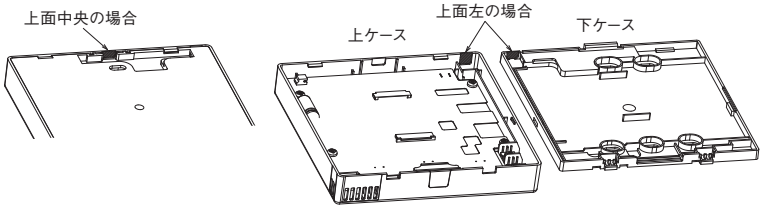
配線接続時のご注意

リモコンケース内を通る配線は0.5㎟以下とし、シースをかみこまないように接続してください。
配線接続は、手締め（0.7N·m以下）で行ってください。
電動ドライバーを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。

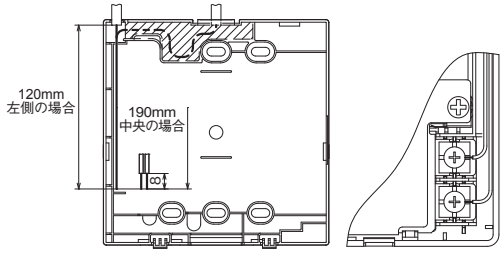
スイッチボックスを使用しない場合（配線取出「上面中央」「上面左」の場合）

①ケース薄肉部を配線太さに合わせ切取ってください。

上面中央の場合は、上下ケース分解前に切取ってください。基板内部への影響が少なく作業がやり易くなります。
上面左の場合は、基板内部への影響を与えないように切取ってください。破片が内部に残らないように注意してください。

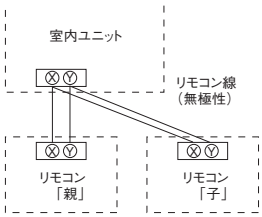


②リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で平らな面に固定してください。
③上面中央の場合はケース背面に配線を通してください。(斜線部分)
④リモコン端子X，Yと室内ユニットの端子X，Yを接続してください。配線X、Yの極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
⑤リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。
⑥①で切取った部分をパテでシールしてください。



5．複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット１台または１グループに対して最大２個までのリモコンを接続できます。
片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。
右表のように子リモコンは操作できる機能に制限があります。



6項の操作で「親」「子」の設定をしてください。

リモコン操作			親	子
運転 / 停止、設定温度切換、風向切換・オートスイング、風量切換　操作			○	○
エアフレックス ON/OFF			○	×
ハイパワー運転、省エネ運転			○	○
室外静音制御			○	×
便利機能	フリーフロー設定		○	×
	エアフレックス（風よけ）設定		○	×
	タイマー設定		○	○
	おこのみ設定		○	○
	ウィークリータイマー		○	×
	るす番運転		○	×
	換気		○	○
	言語切換設定		○	○
	室外静音制御		○	×
	見てみて		○	×
	消費電力量表示		○	×
省エネ設定			○	×
お手入れ	フィルターサインリセット		○	○
	グリル昇降		○	○※
	お掃除パネル操作		○	×
ユーザー設定	初期設定		○	○
	管理者設定	操作制限設定	○	×
		室外静音タイマー	○	×
		設定温度範囲	○	×
		温度設定刻み切換	○	×
		設定温度表示切換	○	○
		リモコン表示設定	○	○
		管理者パスワード変更	○	○
		スイッチ機能変更	○	○

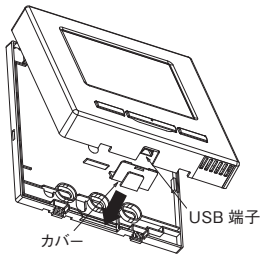
※リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、子リモコンから室内ユニットの選択はできません。全台同時に昇降します。

○：操作可能、×：操作不可

リモコン操作			親	子
サービス設定	据付設定	据付日登録	○	×
		サービス情報入力	○	○
		試運転	○	×
		ダクト機静圧補正	○	×
		自動アドレス変更	○	×
		親室内機アドレス設定	○	×
		バックアップ制御	○	×
		人感センサー設定	○	×
		グリル昇降操作	○	○
	リモコン設定	リモコン親子設定	○	○
		吸込センサー制御	○	×
		リモコンセンサー	○	×
		リモコンセンサー補正	○	×
		運転モード選択	○	×
		温度設定単位	○	×
		ファン速度	○	×
		外部入力設定	○	×
		上下ルーバ制御	○	×
		左右ルーバ制御	○	×
		換気設定	○	×
		停電補償	○	×
		設定温度自動設定	○	×
		風量自動設定	○	×
	室内設定		○	×
	サービス・メンテナンス	エアコン No. 表示	○	○
		次回点検日	○	×
		運転データ表示	○	×
		点検表示　異常履歴表示	○	○
		点検表示　異常時運転データ表示・消去	○	×
		点検表示　定期点検リセット	○	○
		室内設定保存	○	×
		特殊操作　室内機アドレス消去	○	×
		特殊操作　CPU リセット	○	○
		特殊操作　初期化設定	○	×
		特殊操作　タッチパネル調整	○	○
		室内機容量表示	○	×
		お掃除パネル点検	○	×

お知らせ　パソコン接続について

USBコネクタ（mini-B）を介してパソコンからの設定が可能です。
上ケース下面カバーを外して接続してください。
使用後はカバーを元の位置にはめてください。
接続には、専用のソフトが必要です。
詳細は、ホームページを参照してください。



お知らせ　パスワード初期化

管理者パスワード（日常使用する項目設定用）とサービスパスワード（据付・試運転・メンテナンス用）があります。
○管理者パスワード初期値は、0000 です。設定変更ができます（取扱説明書参照）。
　管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面で［F1］［F2］スイッチを同時に5秒長押しするとパスワードは初期化されます。
○サービスパスワードは、9999 です。設定変更ができません。
　管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受付られます。



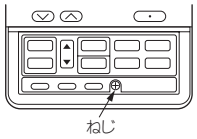
おねがい

1つのリモコンに複数台のGTを接続する場合、パネルの種類をエアフレックス機能のあるパネルか、標準パネルのどちらかに統一してください。

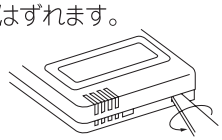
(2) RC-D4G リモコンの場合

(a) 取付場所の選定
リモコンを下記の場所に設置しないでください。
(リモコンの故障や変形の原因になることがあります。)
(i) 直射日光の当たる場所
(ii) 発熱器具の近く
(iii) 湿気の多い所・水の掛かる所
(iv) 取付面が発熱・結露する場所
(v) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(vi) 取付面に凹凸がある所

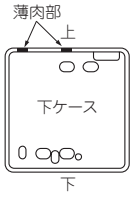
(b) 取付要領
(i) 露出取付の場合
1) リモコンの蓋を開け，スイッチ下部のねじを必ず外してください。



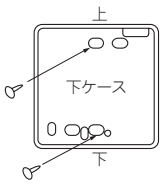
2) リモコンの上ケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじると 容易にはずれます。



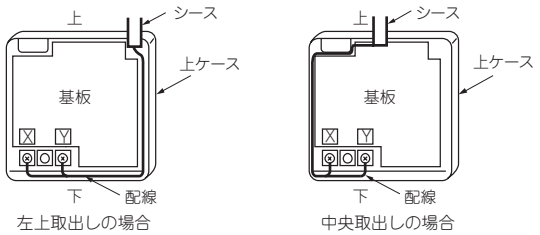
3) リモコンコードの取出方向は，上部左上または，中央から可能です。
リモコン下ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切取った後，ヤスリ等でバリを取ってください。



4) リモコンの下ケースを付属の木ねじ2本で平らな壁に取付けます。

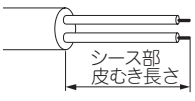


5) リモコンコードを端子台に接続してください。リモコンの端子(X,Y)と室内ユニットの端子(X,Y)とを接続してください。(X,Yの極性はありません。)
取出方向によって，配線経路は下図の通りとなります。



●リモコン内部のリモコンコードは，0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また，リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは 下記の通りです。

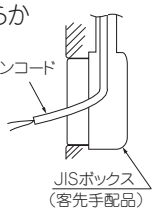
左上取出しの場合	中央取出しの場合
X配線：215mm	X配線：170mm
Y配線：195mm	Y配線：190mm



6) リモコンコードが噛みこまないように，上ケースを元通り取付，外したねじで固定してください。

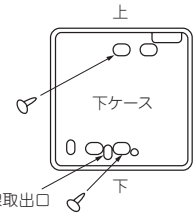
7) 露出取付けの場合は，リモコンコードがたるまないようにコードクランプ等で壁面に固定します。

(ii) 埋込取付の場合
1) JISボックスとリモコンコードをあらかじめ埋込んでおきます。
[使用可能なJISボックス]
JIS C 8340 1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス

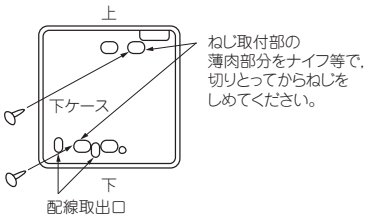


2) M4ねじ2本(推奨長さ12～16mm)を用意して，下ケースをJISボックスに取付けてください。

1個用スイッチボックスの場合

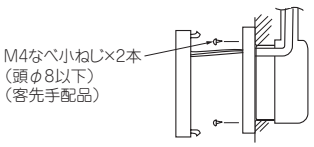


2個用スイッチボックスの場合



3) リモコンコードを端子台に接続してください。リモコンの端子(X,Y)と室内ユニットの端子(X,Y)とを接続してください。(X,Yの極性はありません。)
取出方向およびリモコン内部配線については，露出取付の項をご覧ください。

4) リモコンコードが噛みこまないように，上ケースを元通り取付，外したねじで固定してください。



リモコンコードを延長する場合の注意

最大総延長600m

●リモコンコードは0.3mm²×2心です。
延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズ変更してください。配線接続する際は,水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内……0.5mm²×2心
300m以内……0.75mm²×2心
400m以内……1.25mm²×2心
600m以内……2.0mm²×2心

4. リモコンによる機能設定

(1) RC-DX3C リモコンの場合

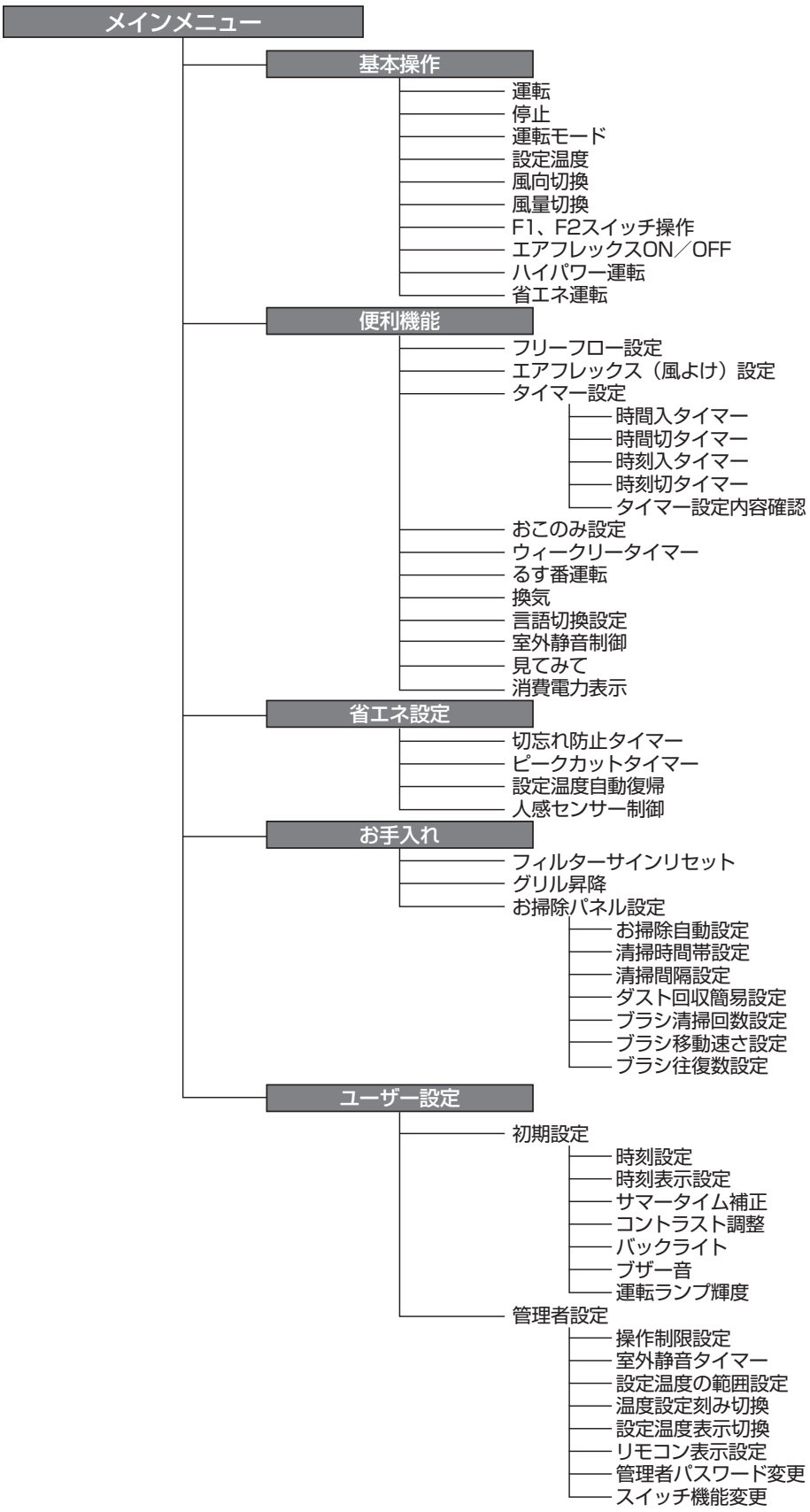
(a) 室内ユニットの機能や用途に合わせ，リモコンより機能設定をすることができます。
リモコンより設定可能な項目は下記の通りです。

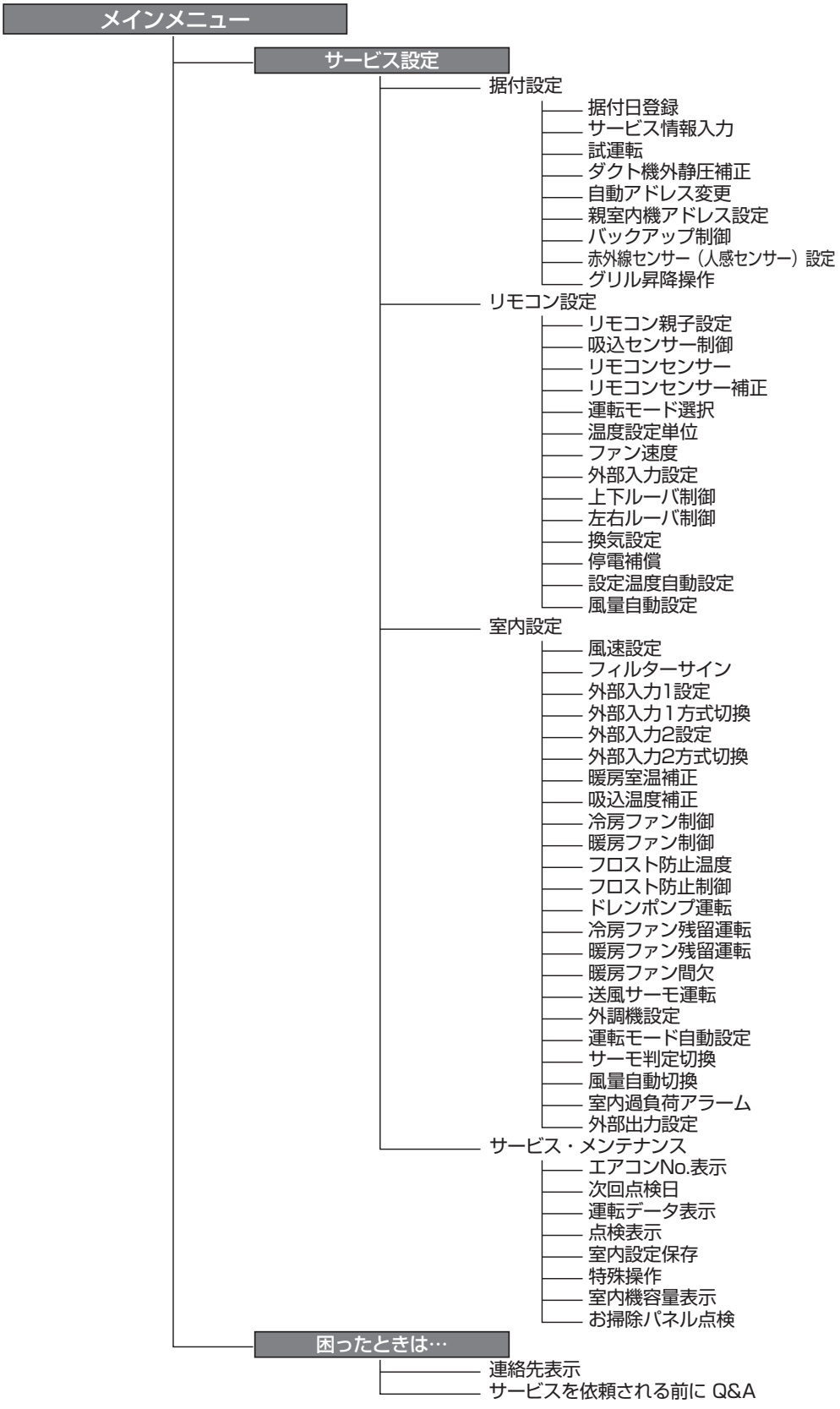
(b) 機能設定のながれ(画面タッチ操作により行なう)
TOP画面より → 「メニュー」 → 各項目へ

(c) 機能設定のクリア
TOP画面より → 「メニュー 」 →「サービス設定」 → 「サービス・メンテナンス」 →
「サービスパスワード」 → 「特殊操作」 → 「初期化設定」を選択することにより，
接続されているリモコン・室内ユニットの設定データが初期値(工場出荷時)になります。

(d) 詳細については，次ページ以降をご覧ください。

(i) **画面の流れ**


メインメニュー
基本操作
運転
停止
運転モード
設定温度
風向切換
風量切換
F1、F2スイッチ操作
エアフレックスON／OFF
ハイパワー運転
省エネ運転
便利機能
フリーフロー設定
エアフレックス（風よけ）設定
タイマー設定
時間入タイマー
時間切タイマー
時刻入タイマー
時刻切タイマー
タイマー設定内容確認
おこのみ設定
ウィークリータイマー
るす番運転
換気
言語切換設定
室外静音制御
見てみて
消費電力表示
省エネ設定
切忘れ防止タイマー
ピークカットタイマー
設定温度自動復帰
人感センサー制御
お手入れ
フィルターサインリセット
グリル昇降
お掃除パネル設定
お掃除自動設定
清掃時間帯設定
清掃間隔設定
ダスト回収簡易設定
ブラシ清掃回数設定
ブラシ移動速さ設定
ブラシ往復数設定
ユーザー設定
初期設定
時刻設定
時刻表示設定
サマータイム補正
コントラスト調整
バックライト
ブザー音
運転ランプ輝度
管理者設定
操作制限設定
室外静音タイマー
設定温度の範囲設定
温度設定刻み切換
設定温度表示切換
リモコン表示設定
管理者パスワード変更
スイッチ機能変更


メインメニュー
サービス設定
据付設定
据付日登録
サービス情報入力
試運転
ダクト機外静圧補正
自動アドレス変更
親室内機アドレス設定
バックアップ制御
赤外線センサー（人感センサー）設定
グリル昇降操作
リモコン設定
リモコン親子設定
吸込センサー制御
リモコンセンサー
リモコンセンサー補正
運転モード選択
温度設定単位
ファン速度
外部入力設定
上下ルーバ制御
左右ルーバ制御
換気設定
停電補償
設定温度自動設定
風量自動設定
室内設定
風速設定
フィルターサイン
外部入力1設定
外部入力１方式切換
外部入力2設定
外部入力2方式切換
暖房室温補正
吸込温度補正
冷房ファン制御
暖房ファン制御
フロスト防止温度
フロスト防止制御
ドレンポンプ運転
冷房ファン残留運転
暖房ファン残留運転
暖房ファン間欠
送風サーモ運転
外調機設定
運転モード自動設定
サーモ判定切換
風量自動切換
室内過負荷アラーム
外部出力設定
サービス・メンテナンス
エアコンNo.表示
次回点検日
運転データ表示
点検表示
室内設定保存
特殊操作
室内機容量表示
お掃除パネル点検
困ったときは…
連絡先表示
サービスを依頼される前に Q&A

(ii) **機能設定一覧**

1) **RC-DX3C リモコンの場合**

●接続する機種により設定できる項目が異なります。

PJZ000Z342

設定および表示項目			詳細内容
1.リモコンネットワーク			
1	複数室内機制御		リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大16台室内ユニットを接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。
2	親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に2個のリモコン(含むワイヤレスリモコン)を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。
2.TOP画面・SW操作			
1	メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。
2	運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。
3	設定温度		室温を0.5℃単位で設定します。
4	風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効/無効を設定します(FDKの場合)。
5	風量		風量を設定します。
6	タイマー設定		タイマー運転を設定します。
7	運転／停止SW		運転を開始します。／停止します。
8	F1スイッチ		F1スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
9	F2スイッチ		F2スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
10	言語切換		リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語/日本語 ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/オランダ語/ トルコ語/ポルトガル語/ロシア語/ポーランド語/中国語
3.便利機能			
1	フリーフロー設定		各ルーバの可動範囲(上限位置−下限位置)を設定します。 FDKの場合は左限位置-右限位置も設定します。
2	エアフレックス(風よけ)設定 エアフレックスパネル組合せの場合		・ 詳細設定:各運転モード、各吹出口のエアフレックス(風よけ)機構動作の有効・無効を設定します。 ・ ON/OFF切換:詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックスON/OFF(作動中/停止中)を切換えます。
3	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・ 1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
		時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・ 1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 1回のみ／毎日の切換が可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 1回のみ／毎日の切換が可能です。
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。
4	おこのみ設定 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定1、おこのみ設定2のそれぞれに設定が可能です。
5	ウィークリータイマー		1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・ 1日最大8パターンまで設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
6	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温/低温にならないように温度を保ちます。 ・ 外温と制御温度により冷房/暖房を行います。 ・ 設定温度、風量の設定が可能です。
7	換気 換気機器組合せの場合		換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[リモコン設定]⇒[換気設定]の設定が必要です。 ・ 換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。
8	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・ 選択できる言語は下記です。 英語/日本語 ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/オランダ語/ トルコ語/ポルトガル語/ロシア語/ポーランド語/中国語
9	室外静音設定		室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・ 室外静音運転の開始・停止を設定します。
10	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・ 室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。
11	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・ 室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。

設定および表示項目			詳細内容
4.省エネ設定			管理者パスワード
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・ 設定時間は30～240分(10分単位)まで選択可能です。 ・ 設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。
2	ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・ 1日最大4パターンまで設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 能力制限率は0,40～80%(20%単位)から選択可能です。 ・ 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・ 暖房モード/冷房モード他、各々設定可能です。 ・ 設定時間は20～120分(10分単位)まで設定可能です。 ・ 設定時刻は10分単位で設定可能です。
4	人感センサー制御		人感センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効／無効を設定します。
			パワーコントロールの冷房時/暖房時設定温度を設定します。
5.お手入れ			
1	フィルターサインリセット	フィルターサインの解除	フィルターサインの解除を行います。
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル 組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・ 0.1～4.0mの範囲で設定できます。 ・ 設定長さは0.1m単位で設定可能です。 ・ 接続室内ユニット毎に設定できます。
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。
3	お掃除パネル設定	お掃除自動設定	自動清掃の有効/休止を設定します。
	管理者パスワード	清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。
		ブラジ移動速さ	ブラジ移動速さを設定します。
		ブラジ往復数	ブラジ往復数を設定します。
6.ユーザ設定			
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ・ 80時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。
		時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12H／24H、AM/PM位置、を設定します。
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1時間の補正を行います。
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。
		バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。
		運転ランプ輝度	運転ランプの輝度の調整を行います。
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定	・ 操作の許可/禁止を設定します。 [運転/停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示] ・ 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定] [言語切換設定] [ドラフト防止設定]
		室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・ 静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。
		設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・ 運転モードによる温度範囲の制限が可能です。

設定および表示項目				詳細内容
2	管理者設定 管理者パスワード	温度設定刻み切換		設定温度の刻み(0.5℃/1.0℃)を設定します。
		設定温度表示切換		設定温度の表示の仕方を切換えます。
		リモコン表示設定		リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり/なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり/なしを設定します。
		管理者パスワード変更		管理者パスワードの変更を行います。
				管理者パスワードのリセットを行います。
		スイッチ機能変更		F1、F2スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 「エアフレックスON/OFF」 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転1][おこのみ設定運転2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示]
7.サービス設定				
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録		据付日を登録した場合、点検表示を行います。
		サービス情報入力		リモコンに連絡先を登録することができます。 ・ 連絡先を半角26文字相当以内で登録できます。 ・ 連絡先TEL番号を13文字以内で登録できます。
		試運転		試運転の開始／停止を制御できます。
			冷房試運転	設定5℃ 30分間運転します。
			ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。
			お掃除試運転	フィルタ清掃　ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合
		ダクト機静圧補正		機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・ 接続室内ユニット毎に個別に設定できます。
		自動アドレス変更		個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。
		親室内機アドレス設定		個別発停マルチシリーズ　設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。
		バックアップ制御		1台のリモコンに室内ユニット2台（2グループ）が接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。
		人感センサー設定 人感センサー付パネルの組合せの場合		リモコンに接続された室内ユニットの人感センサー検知の有効／無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサー制御を行うことができません。
		グリル昇降操作		ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定		リモコン親子設定の変更ができます。
		吸込センサー制御		1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・ 個別／親機／平均の選択が可能です。
		リモコンセンサー		リモコンセンサーに切替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。
		リモコンセンサー補正		リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房　別々に補正可能です。
		運転モード選択		各運転モード毎に有効／無効を設定できます。
		設定温度単位		設定温度の単位を設定します。 ・ ℃／℉の選択が可能です。
		ファン速度		ファン速度の選択が可能です。
		外部入力設定		1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT入力の適用範囲が設定されます。
		上下ルーバ制御		上下ルーバの[4位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。
		左右ルーバ制御		左右ルーバの[固定位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。
		換気設定		換気ユニット組合せ制御が設定できます。
		停電補償		停電復帰した場合の制御内容を設定できます。
		設定温度自動設定		設定温度自動の有効／無効を選択できます。
		風量自動設定		風量自動の有効／無効を選択できます。
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定		室内ユニットの風量タップを設定します。
		フィルターサイン		フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。
		外部入力1設定		外部入力1の制御内容を換えられます。
		外部入力1方式切換		外部入力1の信号方式を換えられます。
		外部入力2設定		外部入力2の制御内容を換えられます。
		外部入力2方式切換		外部入力2の信号方式を換えられます。
		暖房室温補正		暖房サーモ判定値を0～+3℃の範囲で補正できます。
		吸込温度補正		吸込センサー検知温度を±2℃の範囲で補正できます。

設定および表示項目				詳細内容
3	室内設定 サービスパスワード	冷房ファン制御		冷房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		暖房ファン制御		暖房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		フロスト防止温度		冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。
		フロスト防止制御		冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。
		ドレンポンプ運転		冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。
		冷房ファン残留運転		冷房停止・冷房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン残留運転		暖房停止・暖房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン間欠		暖房停止・暖房サーモOFFファン残留運転後のファン運転を設定できます。
		送風サーモ運転		送風時のサーキュレータ運転を設定できます。
		外調機設定		マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。
		運転モード自動設定		運転モード自動判定方法を3種類から選択できます。
		サーモ判定切換		サーモ判定を室外温度で補正することができます。
		風量自動切換		風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。
		室内過負荷アラーム		運転開始30分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力(CNT-5)から過負荷アラーム信号を送信します。
		外部出力設定		外部出力1～4に割り当てる機能を換えられます。
4	サービス・メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示		リモコン1台に16台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。
		次回点検日		次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。
		運転データ表示		室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。
		点検表示		
			異常履歴表示	過去の異常履歴(点検コード・発生時間)を表示します。
			異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。
			異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。
			定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。
		室内設定保存		接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。
		特殊操作		[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。
		室内機容量表示		リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。
		お掃除パネル点検		お掃除パネルの詳細点検操作ができます。
8.困ったときは・・・				
1	連絡先表示			登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。
2	サービスを依頼される前にQ＆A			Q＆Aが表示されます。
9.点検表示				
	点検表示確認			異常発生時の表示
10.パソコン接続				
	USB接続			ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。

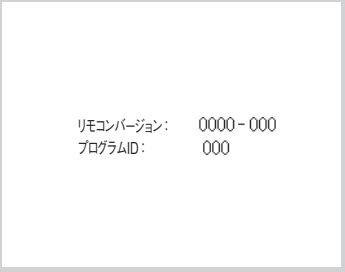
1. 電源投入初期設定

電源投入時の表示に沿って親子リモコン設定を行います。
・親子が設定されていない場合⇒(1)　・親子が設定されている場合⇒(2)

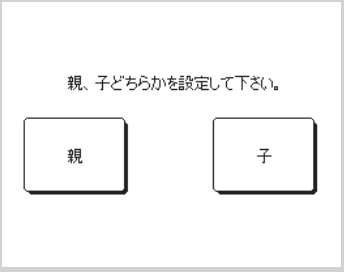
(1) **親子が設定されていない場合**

①⇒②親子入力画面を表示します。
枠で囲まれた 親 子 どちらかをタッチしてください。初期設定作業を開始します。
誤ってタッチした場合は、初期設定作業が終了後に設定変更することができます。(3. リモコン機能設定②)
室内ユニット1台または、1グループに、2個の eco タッチリモコンが接続されている場合、1個目を 親 で設定開始すると 2個目は自動で 子 になります。

①スタート画面



②親子設定入力画面



ご注意

リモコン1台の場合は、親 をタッチしてください。
初期状態では、どちらか選択されるまで、待ち続けます。

親 を選択した場合　③⇒④⇒⑤で画面が遷移します。
子 を選択した場合　①⇒⑧⇒⑤で画面が遷移します。

③室内機検索中

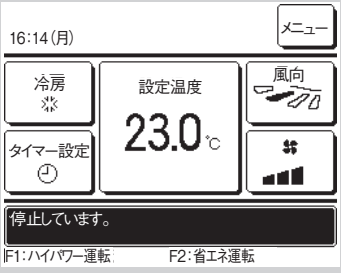


通信が 10 分間確定しない場合、赤 LED が点滅します。

④室内機情報取得中

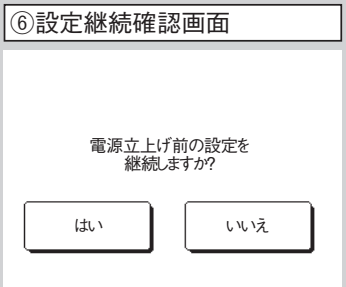


⑤ TOP 画面



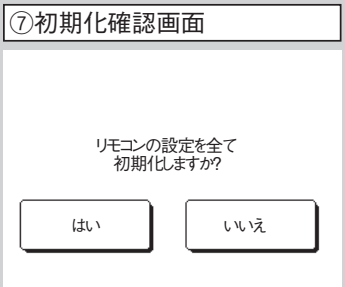
(2) **リモコンの親子設定がされている場合**

⑥設定継続確認画面



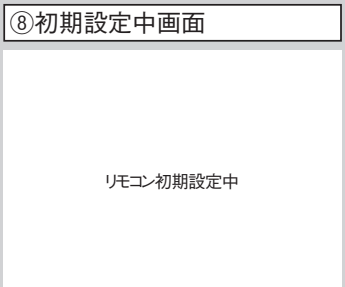
はい ⑧⇒⑤で画面が遷移します。
いいえ ⑦に画面が遷移します。
表示が15秒間タッチされない場合は はい 継続を認識して⑤画面に変わります。

⑦初期化確認画面



はい ①⇒②で画面が遷移します。
いいえ ⑥に画面が遷移します。
初期化すると出荷状態に戻ります。

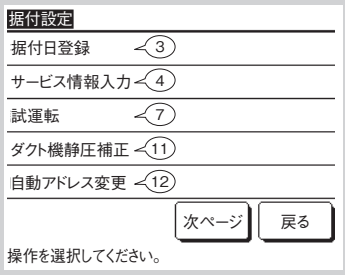
⑧初期設定中画面



2. 据付設定　試運転

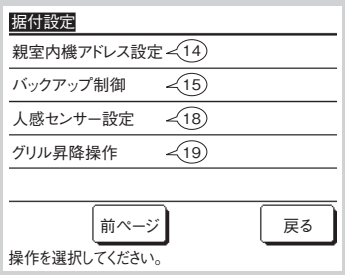
TOP画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード]

①据付設定メニュー＃1



選択した画面に移ります。

②据付設定メニュー＃2



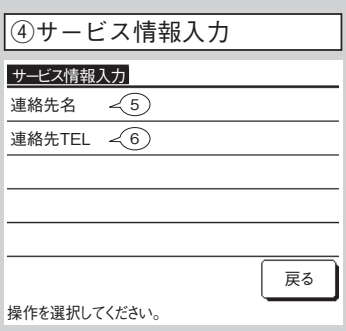
選択した画面に移ります。

③据付日登録



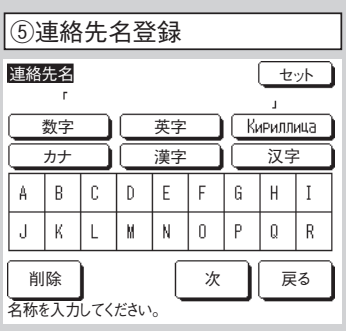
▲▼で設定してください。
セットで登録されます。

④サービス情報入力



お客様がサービスを依頼される際の連絡先を入力してください。

⑤連絡先名登録



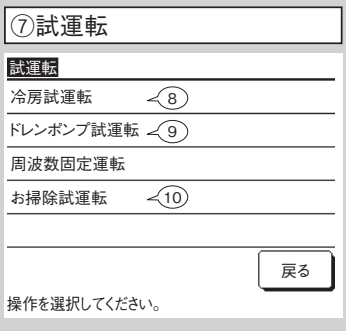
連絡先名を半角26文字相当以内で入力し、セットボタンをタッチしてください。

⑥連絡先 TEL 登録



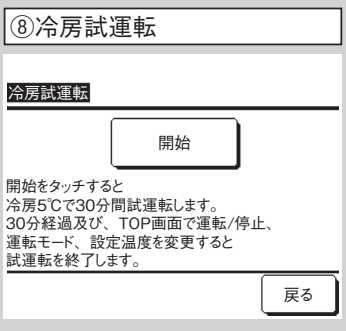
連絡先電話番号を13文字以内で入力し、セットボタンをタッチしてください。

⑦試運転



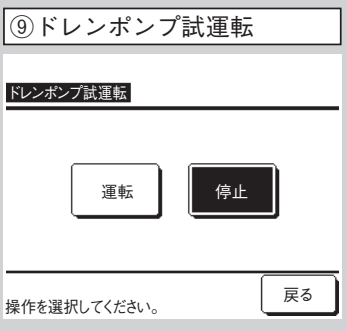
選択した画面に移ります。

⑧冷房試運転



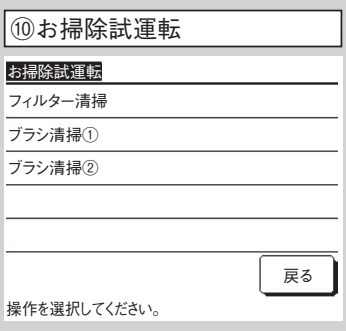
停止中に操作可能です。室温が低く冷房試運転ができない場合、設定を 30 分間 5℃にして運転します。

⑨ドレンポンプ試運転



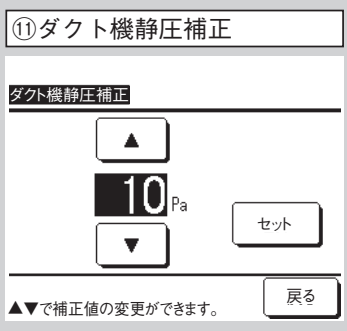
ドレンポンプのみで運転が可能です。

⑩お掃除試運転



GTお掃除ラクリーナパネルを組合せる場合に操作できます。詳細は、お掃除ラクリーナパネルの説明書をご覧ください　。

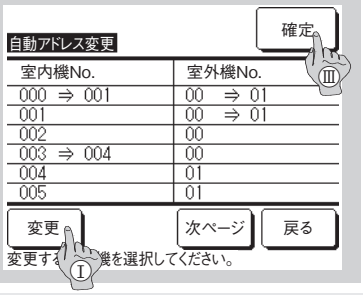
⑪ダクト機静圧補正



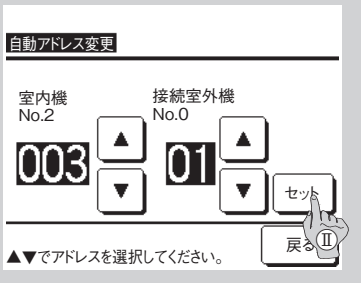
機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニットを組合せる場合に操作できます。機外静圧を選択し、セットボタンをタッチしてください。

2. 据付設定　試運転（つづき）

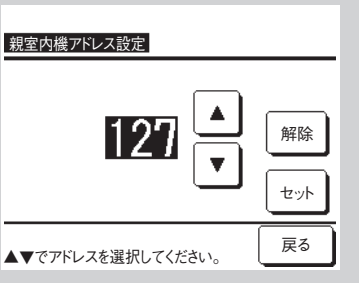
⑫自動アドレス変更



⑬自動アドレス変更



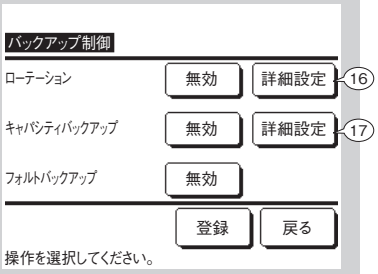
⑭親室内機アドレス設定



個別発停マルチシリーズで使用の際に自動アドレス設定で登録されている場合に操作できます。
室内ユニット毎の室内外アドレスを変更するための機能です。室内ユニットを選択して
① 変更 をタッチすると⑬に画面が遷移します。
Ⅱ セット をタッチすると⑫に画面が遷移し、新アドレスが表示されます。
Ⅲ 確定 をタッチすると登録されます。

個別発停マルチシリーズで親室内ユニットのみ、冷房 - 暖房運転モードの選択を許可します。子とする室内ユニットに対し、親室内機アドレスを設定します。親室内機アドレスが設定された子室内ユニットは、親室内ユニットの設定に追従します。

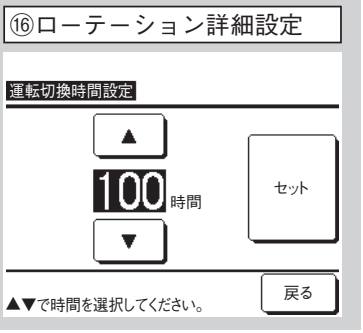
⑮バックアップ制御



1台のリモコンに室内ユニット2台（2グループ）が接続されている時に、以下の制御が可能です。
1. ローテーション：2台の室内ユニットが設定した時間毎に、交互に運転します。
2. キャパシティバックアップ：設定温度と室温の温度差により、室内ユニットの運転台数を1台⇔2台へ切換えます。
3. フォルトバックアップ：室内ユニット2台中1台が運転している場合、運転している室内ユニットが異常停止すると、もう1台の室内ユニットが運転を開始します。

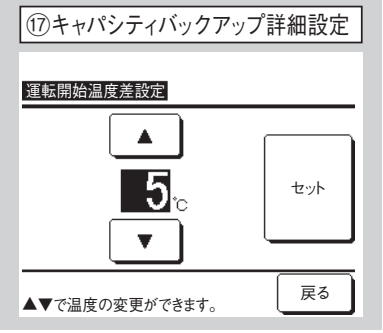
有効 /を 無効 選択し（ 無効 をタッチすると 有効 に変わります。）、 登録 ボタンをタッチすると、設定内容が確定します。

⑯ローテーション詳細設定



ローテーションの運転を切換える時間を設定します。
1～999時間の間で1時間刻みで設定可能です。
時間切換後、 セット で仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って 登録 をタッチしてください。

⑰キャパシティバックアップ詳細設定



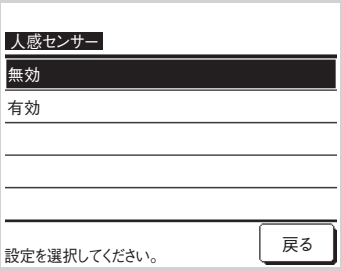
キャパシティバックアップの1台⇔2台を切換える設定温度と室温の温度差を設定します。
2～5℃の間で1℃刻みで設定可能です。温度切換後、 セット で仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って 登録 をタッチしてください。

バックアップ制御の制約条件

1. 運転モードが「自動」の場合、バックアップ制御はできません。運転モードが「自動」に設定された空調機にバックアップ制御を設定すると、運転モードは自動的に「冷房」モードに切り換わります。
2. ローテーション制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。ローテーション運転を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
3. キャパシティバックアップ制御を設定した場合は、自動的にフォルトバック制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。キャパシティバックアップ制御を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
4. フォルトバック制御を単独で有効に設定することも可能です。
5. るす番運転、ウォームアップ設定、外部入力設定は、バックアップ制御と同時に設定することはできません。
6. ローテーション運転制御または、フォルトバックアップ制御設定時には、設定対象となっている室内ユニット2台（2グループ）の内、どちらか一方のみが運転 します。 両方同時に運転することはありません。
7. いずれの制御も、室内アドレスの若い室内ユニットが先に運転開始します。

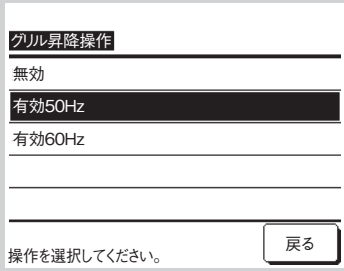
2. 据付設定　試運転（つづき）

⑱人感センサー設定



リモコンに接続されている室内ユニットの赤外線センサーの[有効]/[無効]かを選択します。

⑲グリル昇降操作設定



ラクリーナパネルを組合せる場合は、据付場所の電源周波数をタッチしてください。

ご注意

- 人感センサーを採用のお客様は上記の設定を行ってください。
  人の活動量を検知させたい室内ユニットを有効にしてください。
  赤外線センサー（人感センサー）設定が無効の場合には、人の活動量を検知しないため赤外線センサー制御（パワーセーブ、オートオフ）を行いません。
- 4形以前の室内ユニットは、赤外線センサー（人感センサー）設定を有効にできません。赤外線センサー（人感センサー）設定をタッチとすると、「操作無効です」と表示されます。

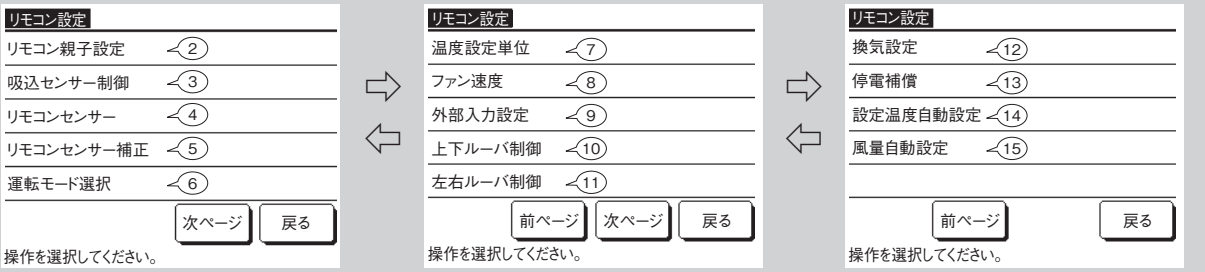
ご注意

ラクリーナパネルを採用のお客様は、上記の設定を行ってください。

3. リモコン機能設定　お知らせ：停止中のみ操作可能

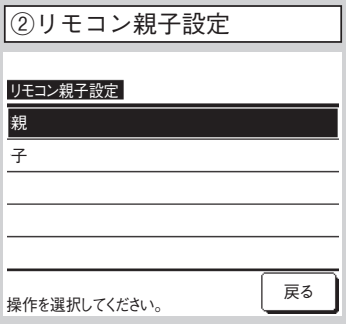
TOP画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード]

①リモコン設定メニュー



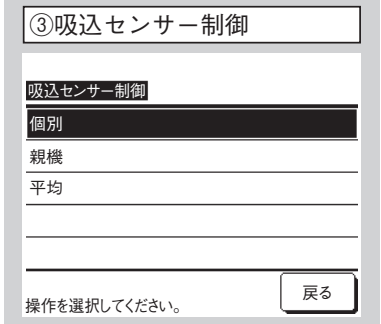
選択した画面に移ります。

②リモコン親子設定



リモコンの親子設定を変更する場合に操作します。

③吸込センサー制御

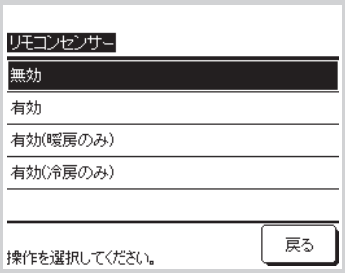


室内ユニットの吸込センサーの検知温度によりサーモ判定を行います。1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込温度センサーを選択できます。

1. [個別]：各々の室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。プルーラル接続されている場合はプルーラル親機の吸込温度を基準とします。
2. [親機]：接続されている室内ユニットの中で、アドレスの若い室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。1台のリモコンに、プルーラル接続が複数接続されている場合は、プルーラル親機間でアドレスが若い室内ユニットの吸込温度を基準とします。
3. [平均]：接続されている室内ユニットの吸込温度を平均し、サーモ判定します。

3. リモコン機能設定（つづき）

④リモコンセンサー



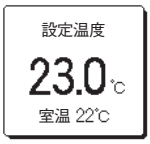
室内ユニット本体吸込センサーをリモコン側に変更できます。

無効　室温表示は、本体側センサーになります。

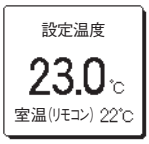
有効　室温表示は、リモコン側センサーになります。

有効(暖房のみ)　室温表示は、暖房中のみリモコン側センサーになります。

有効(冷房のみ)　室温表示は、暖房以外で運転中にリモコン側センサーになります。

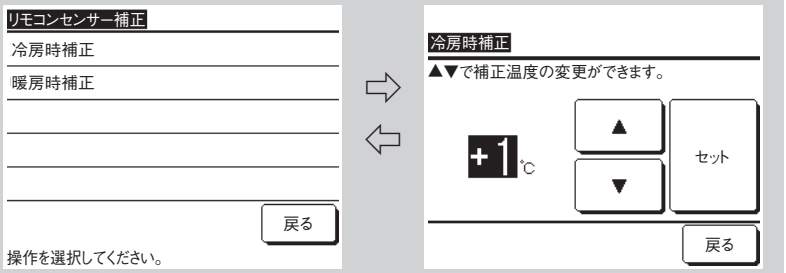


本体側センサー温度を表示した場合



リモコン側センサー温度を表示した場合

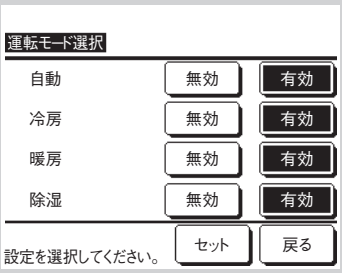
⑤リモコンセンサー補正



リモコンセンサー検知温度の補正ができます。

冷房、暖房共に－３～＋３の範囲で設定します。（図は冷房時の場合）

⑥運転モード選択



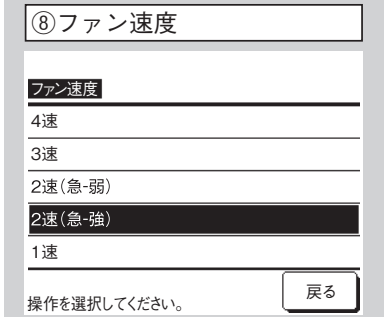
各運転モード毎に有効・無効を設定可能です。冷房または暖房を無効にした場合、自動も無効になります。

⑦温度設定単位



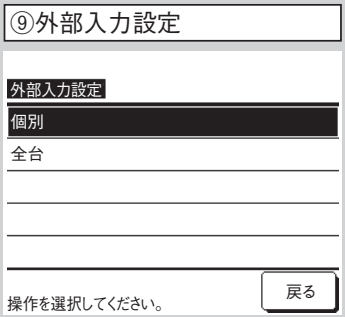
設定温度の単位を設定します。

⑧ファン速度



ファン速度選択の変更が可能です。
室内ユニットにより対応できない場合があります。

⑨外部入力設定

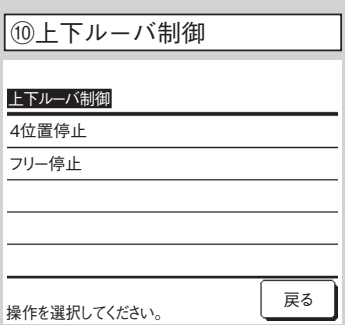


1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、運転／停止に対して CnT 入力の範囲を設定できます。

個別　CnT 入力された室内ユニットのみに適用されます。

全台　リモコンが接続されている室内ユニット全てに適用されます。

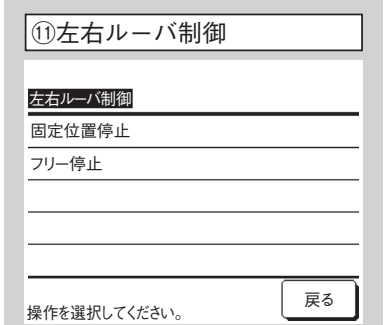
⑩上下ルーバ制御



４位置停止　上下吹出ルーバを４段階で設定可能。

フリー停止　リモコンスイッチ操作直後の位置に停止します。

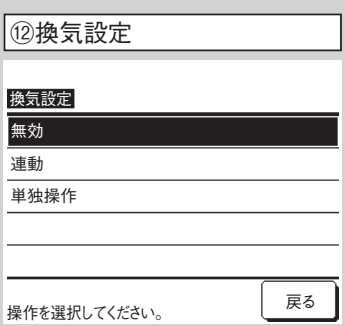
⑪左右ルーバ制御



固定位置停止　左右吹出ルーバを８パターンで設定可能。

フリー停止　リモコンスイッチ操作直後の位置に停止します。

⑫換気設定



換気機器組合せの設定ができます。

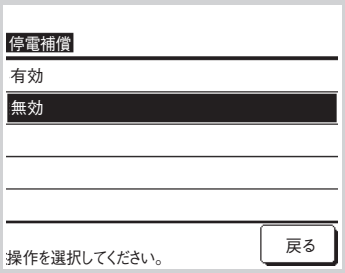
無効　接続無し。

連動　エアコン運転／停止に連動し、換気出力（CnT）に出力します。

単独操作　メニューから換気を選択により換気単独で運転 / 停止出力を行います。

3. リモコン機能設定（つづき）

⑬⑭⑮（有効 / 無効設定）



（図は停電保障の場合）

⑬停電保障

運転中に停電した場合、

有効　停電復旧（電源投入後の制御終了）しだい、停電前の状態に戻ります。

無効　停電復旧後、停止します。

⑭定温度自動設定

有効　室温設定画面から自動の選択が可能になります。

無効　室温設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

⑮風量自動設定

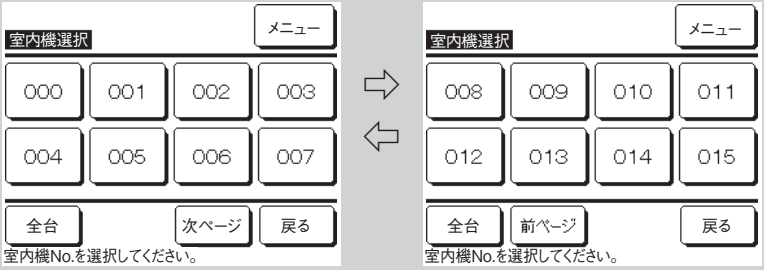
有効　風量設定画面から自動の選択が可能になります。

無効　風量設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

4. 室内機能設定　お知らせ：停止中のみ操作可能

TOP画面　メニュー　⇒　サービス設定　⇒　室内設定　⇒　サービスパスワード

①室内機選択

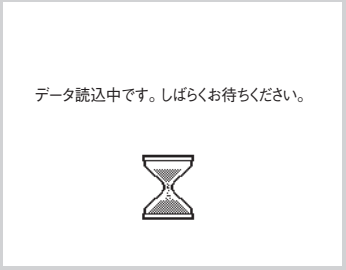


複数室内ユニットを接続の場合、接続された室内ユニットが表示されます。

000 ～ 015　各室内ユニット毎に個別設定されます。

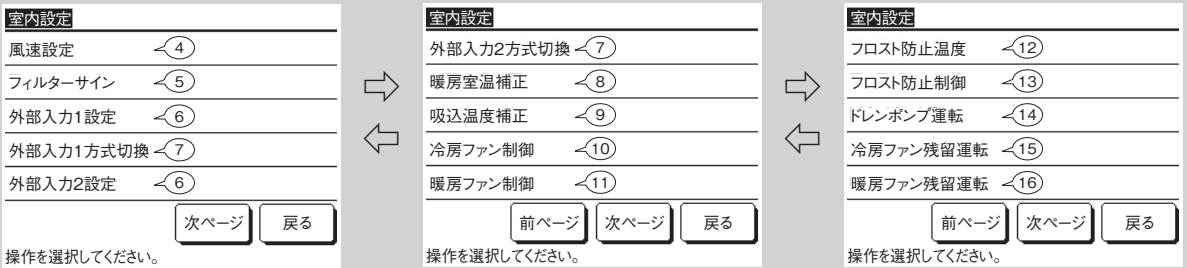
全台 全台同一設定されます。

②データ読込中

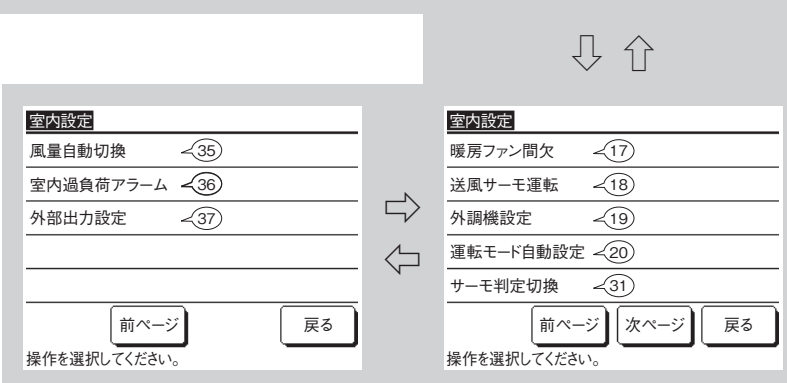


室内ユニットからデータ受信後に③に画面が切換わります

③室内設定メニュー

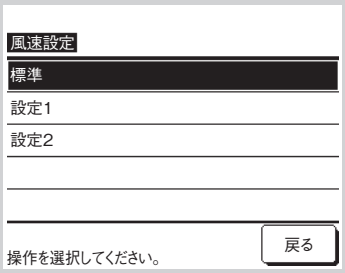


選択した画面に移ります。



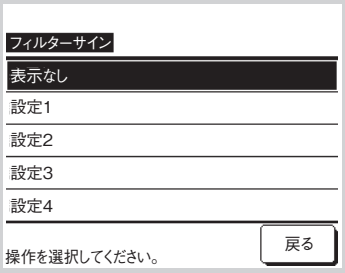
4. 室内機能設定（つづき）

④風速設定



室内ユニットの風速設定を設定します。詳細は、2-11ページを参照ください。

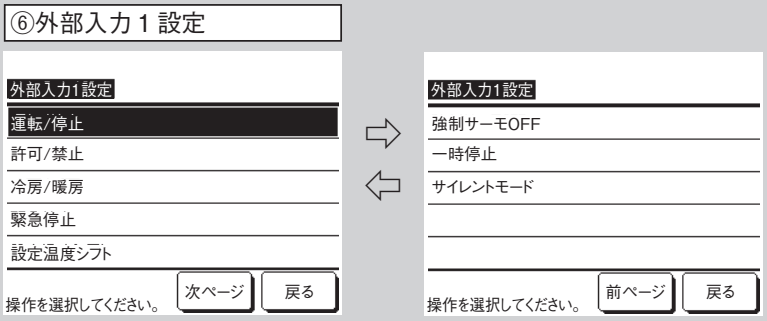
⑤フィルターサイン



フィルターサイン点灯時間を設定します。

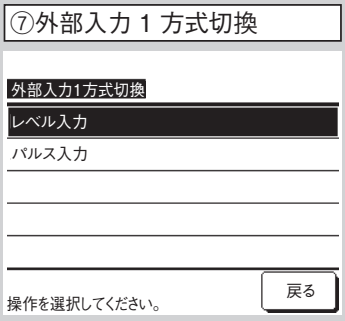
	標準	FDTお掃除
表示なし	無し	無し
設定 1	180Hr	1,000Hr
設定 2	600Hr	2,000Hr
設定 3	1,000Hr	2,500Hr
設定 4	1,000Hr後 運転停止	2,500Hr後 運転停止

⑥外部入力 1 設定



室内ユニット CnT 入力時の制御を設定します。
詳細は 、2-11ページを参照ください。

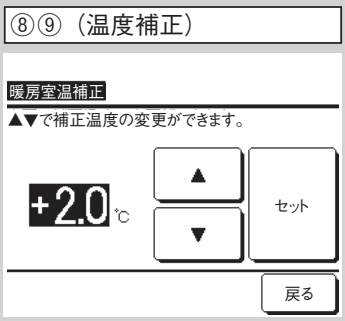
⑦外部入力 1 方式切換



室内ユニットCnTへの入力信号方式 を 設定します。
詳細は 、2-11ページを参照ください。

外部入力 2 を装備している室内ユニットと組合わせた場合に操作できます。詳細は 、2-11ページを参照ください。

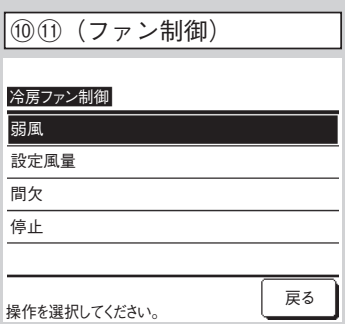
⑧⑨（温度補正）



⑧暖房室温補正
暖房サーモ判定温度を補正します。
0℃／ +1℃／ +2℃／ +3℃
⑨吸込温度補正
本体吸込温度センサーの検知温度を補正します。
－2.0℃／－1.5℃／－1.0℃／ 0.0℃／ +1.0℃／ +1.5℃／ +2.0℃

（図は暖房室温補正の場合）

⑩⑪（ファン制御）

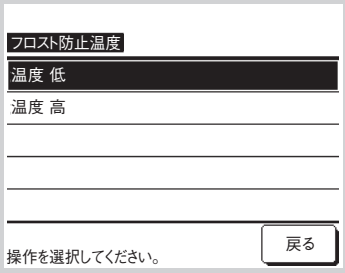


⑩冷房ファン制御／⑪暖房ファン制御
冷房／暖房のサーモ OFF 中のファン速度を設定します。
弱風 弱風運転
設定風量 サーモ ON 中と同風量
間欠 2 分Lo（ULo）運転／5 分停止
停止 停止

（図は冷房ファン制御の場合）

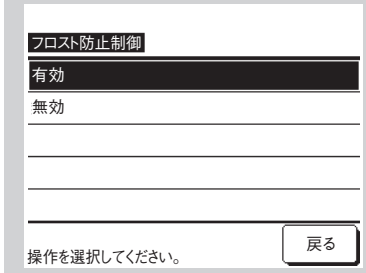
4. 室内機能設定（つづき）

⑫フロスト防止温度



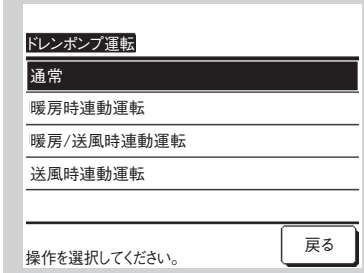
フロスト防止制御温度の切換ができます。

⑬フロスト防止制御



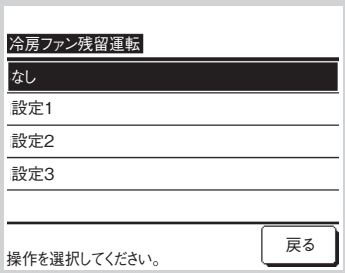
フロスト防止制御後、ファン速度が
有効　アップします。
無効　変化しません。

⑭ドレンポンプ運転



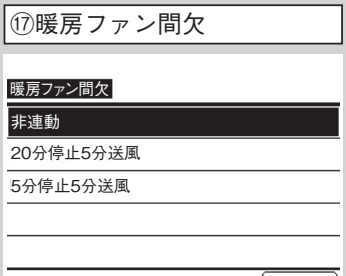
通常　冷房・除湿時に運転
暖房時連動　通常＋暖房
暖房 / 送風時連動　全運転中
送風時連動　通常＋送風

⑮⑯（ファン残留運転）



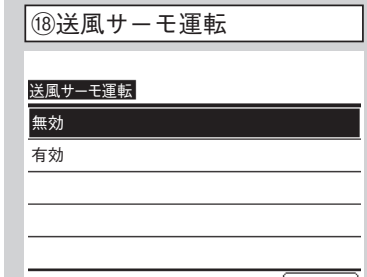
⑮冷房ファン残留運転／⑯暖房ファン残留運転
冷房／暖房の停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。
なし　ファン残留運転なし
設定１　0.5 時間
設定２　２時間
設定３　６時間
※残留時間が異なる場合があります。

⑰暖房ファン間欠



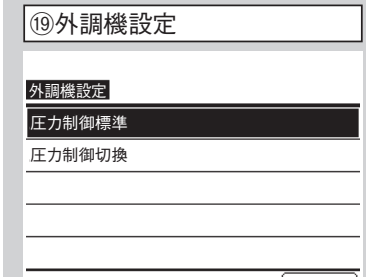
暖房運転、停止またはサーモOFF後のファン制御を設定します。
非連動　停止
20分停止 5分送風　25分毎に条件チェックして５分送風
5分停止 5分送風　10分毎に条件チェックして５分送風

⑱送風サーモ運転



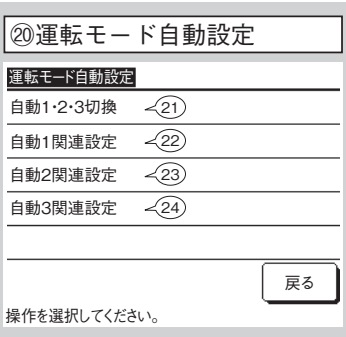
サーキュレーター運転として使用する場合
無効　送風時連続運転
有効　送風時リモコンと本体の温度差を見て送風運転／停止します。

⑲外調機設定

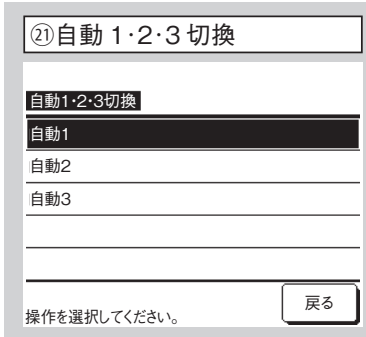


マルチシステムにて、外調機の場合に設定します。
圧力制御標準　通常
圧力制御切換　運転中の室内ユニットが全て、この設定の場合、圧力制御値が変わります。

⑳運転モード自動設定



㉑自動 1･2･3 切換



自動１　設定温度と室温の温度差で、冷房／暖房が切換わります。
自動２　設定温度と室温の温度差および外気温度で冷房／暖房が切換わります。
自動３　室温および外気温度で、冷房／暖房が切換わります。

運転モード自動での冷房／暖房切換方式を３方式から選択できます。

4. 室内機能設定（つづき）

㉒自動 1 関連設定

自動1関連設定

冷房切換温度	㉕
暖房切換温度	㉖

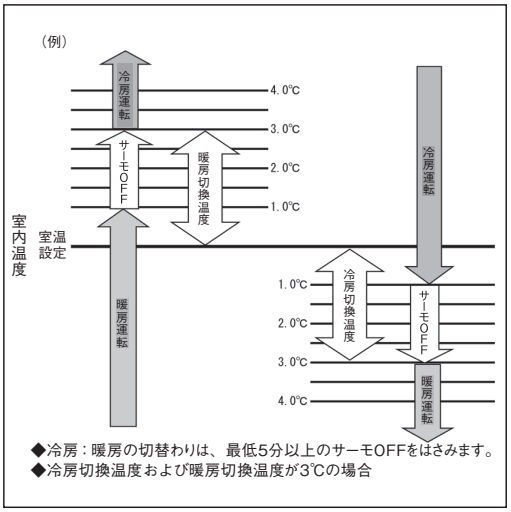
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度を設定します。
切換温度は１～４℃の範囲で設定できます。

設定温度－冷房切換温度
＜室内吸込温度の場合
⇒運転モード：冷房

設定温度＋暖房切換温度
＞室内吸込温度の場合
⇒運転モード：暖房



◆冷房：暖房の切替わりは、最低5分以上のサーモOFFをはさみます。
◆冷房切換温度および暖房切換温度が3℃の場合

㉓自動 2 関連設定

自動2関連設定

冷房切換温度	㉕
暖房切換温度	㉖
冷房室外温度	㉗
暖房室外温度	㉘

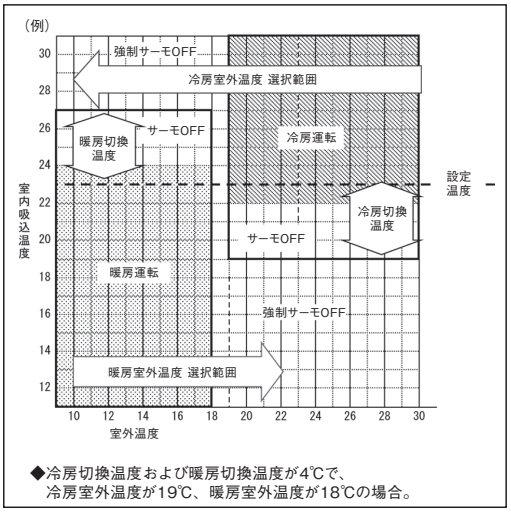
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度、冷房／暖房室外温度を設定します。

「設定温度－冷房切換温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

「設定温度＋暖房切換温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房



◆冷房切換温度および暖房切換温度が4℃で、
冷房室外温度が19℃、暖房室外温度が18℃の場合。

㉔自動 3 関連設定

自動3関連設定

冷房室外温度	㉗
暖房室外温度	㉘
冷房室内温度	㉙
暖房室内温度	㉚

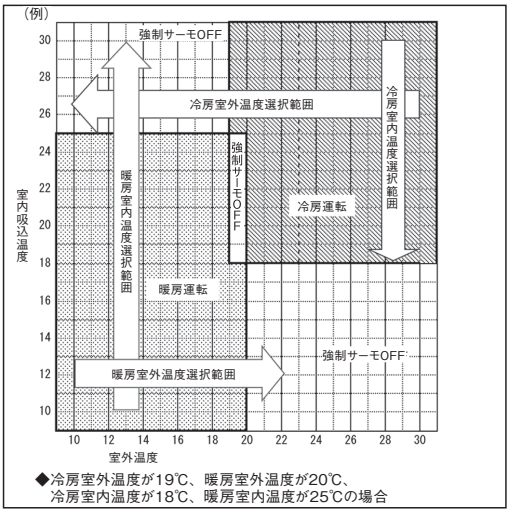
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房室外温度、冷房／暖房室内温度を設定します。

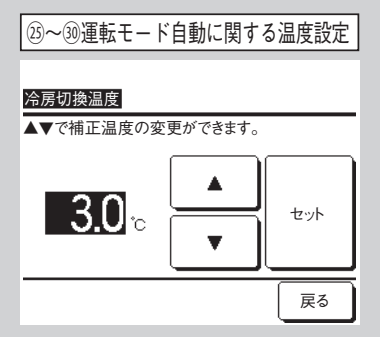
「設定した冷房室内温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

「設定した暖房室内温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房



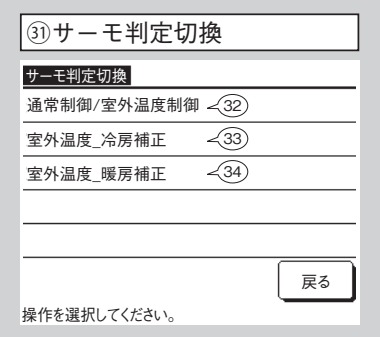
◆冷房室外温度が19℃、暖房室外温度が20℃、
冷房室内温度が18℃、暖房室内温度が25℃の場合

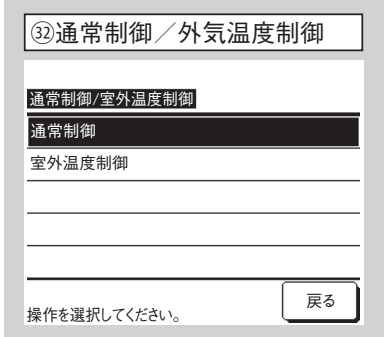
4. 室内機能設定（つづき）



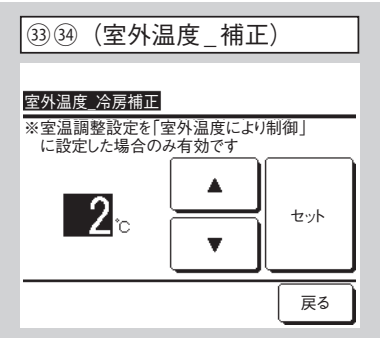
（図は冷房切換温度の場合）

㉕冷房切換温度／㉖暖房切換温度
自動 1、自動 2 で冷房／暖房の切換温度を下記の範囲で設定します。
冷房：1 ～ 4℃
暖房：1 ～ 4℃
㉗冷房室外温度／㉘暖房室外温度
自動 2、自動 3 で冷房／暖房の室外温度を下記の範囲で設定します。
冷房：10 ～ 30℃
暖房：10 ～ 22℃
㉙冷房室内温度／㉚暖房室内温度
自動 3 で冷房／暖房の室内温度を下記の範囲で設定します。
冷房：18 ～ 30℃
暖房：10 ～ 30℃

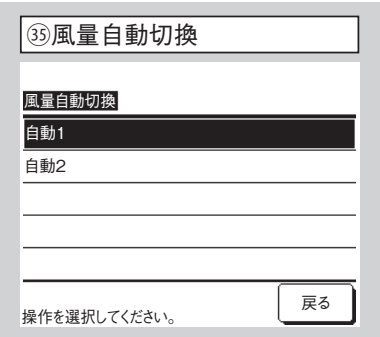




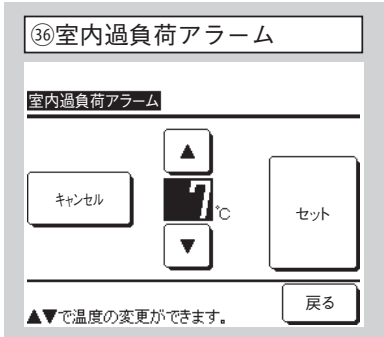
室温制御、サーモ ON ／ OFF 切換方式・条件を設定します。
通常制御　室内温度と設定温度の差でサーモ判定をします。
室外温度制御　室外温度±補正値と室内温度でサーモ判定します。
室温設定は無効となります。



㉝室外温度_冷房補正／㉞室外温度_暖房補正
冷房／暖房のサーモ判定する補正値を下記の範囲で設定します。
冷房：0 ～ 10℃　室内温度＞（室外温度－冷房補正値）
暖房：0 ～ 5℃　室内温度＜（室外温度＋暖房補正値）



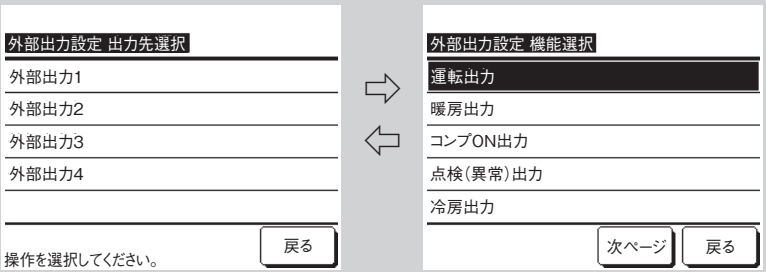
風量自動の切換範囲を設定
自動 1　急⇔強⇔弱
自動 2　P 急⇔急⇔強⇔弱



運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CnT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。

4. 室内機能設定（つづき）

㊲外部出力設定



変更する出力先を選択後、選択した出力に割当てる機能を選択します。
各出力のコネクタと初期設定は下記です。

外部出力１	CnT -2　運転出力
外部出力２	CnT -3　暖房出力
外部出力３	CnT -4　コンプ ON 出力
外部出力４	CnT -5　点検（異常）出力

詳細は2-11ページを参照願います。

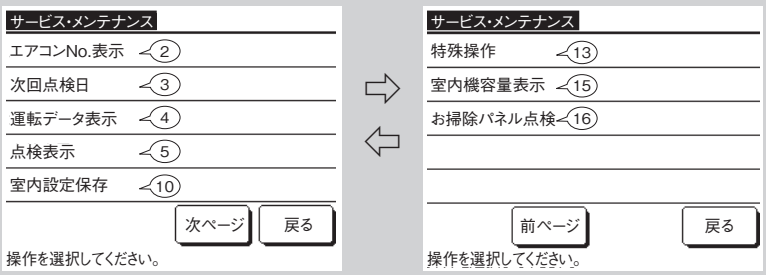
設定できる機能

運転出力
暖房出力
コンプ ON 出力
点検（異常）出力
冷房出力
ファン運転出力１
ファン運転出力２
ファン運転出力３
デフロスト、油戻し出力
換気出力
ヒータ出力
フリークーリング出力
室内過負荷アラーム出力
冷媒漏洩出力

5. サービス・メンテナンス方法

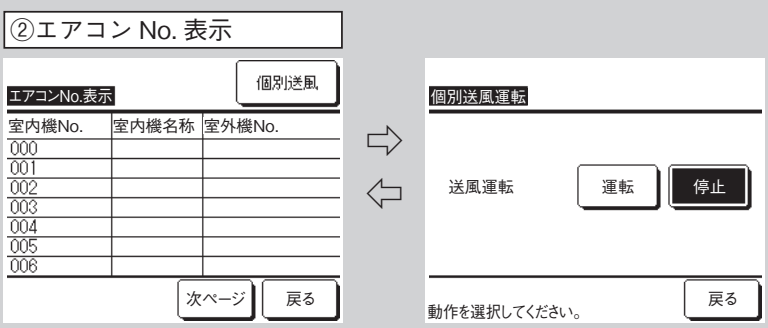
ＴＯＰ画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ サービス・メンテナンス ⇒ サービスパスワード

①サービス・メンテナンス　メニュー



選択した画面に移ります。

②エアコン No. 表示



８台以上接続の場合は、次ページ以降に表示がでます。
室内ユニット選択後 個別送風 ボタンをタッチすると、選択した室内ユニットが送風運転します。

5. サービス・メンテナンス方法

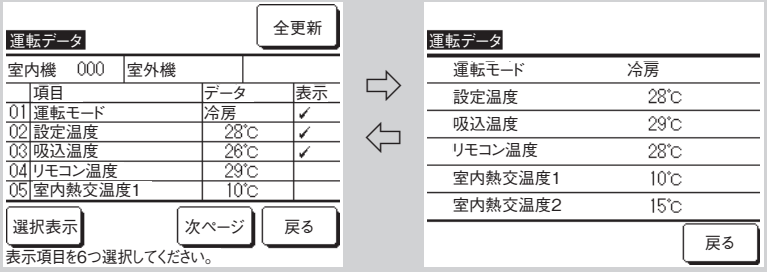
③次回点検日





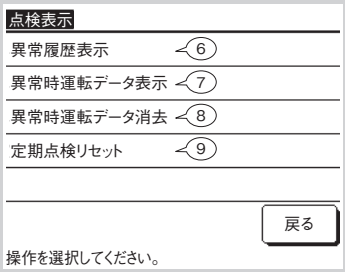
次回点検日を入力すると、点検月の運転開始／停止時にメッセージが表示されます。
表示は、次回点検日を更新するとリセットされます。
設定なしをタッチするとメッセージは表示されません。

④運転データ



運転データが表示されます。全更新タッチで全データが更新されます。
データを自動更新させて表示したい場合、6項目まで選択できます。
6項目選択後、選択表示ボタンをタッチすると画面が変わります。
表示する運転データの項目は右表のとおりです。

⑤点検表示



⑥異常履歴表示（例）



異常発生日時・室内アドレス・異常コードを表示します。
消去ボタンをタッチすると、異常履歴を消去します。

表示する運転データ

番号	項　目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	リモコン温度
05	室内熱交温度 1
06	室内熱交温度 2
07	室内熱交温度 3
08	室内ファン速度
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内 EEV 開度
12	室内運転時間
13	吹出
14	吸込相対湿度
21	外気温度
22	室外熱交温度 1
23	室外熱交温度 2
24	コンプ回転数
25	高圧圧力
26	低圧圧力
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	電流
30	SH 制御
31	SH
32	TDSH
33	保護制御
34	室外ファン速度
35	63H1
36	デフロスト
37	コンプ運転時間
38	室外 EEV1 開度
39	室外 EEV2 開度

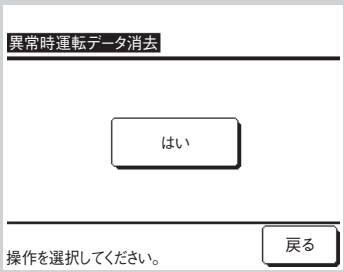
5. サービス・メンテナンス方法（つづき）

⑦異常時運転データ表示



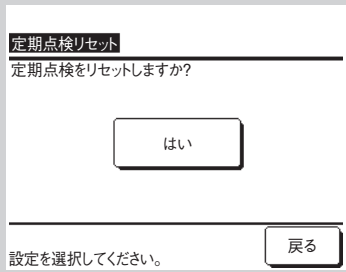
異常発生直前の運転データが表示されます。
表示する運転データの項目は前頁のとおりです。

⑧異常時運転データ消去



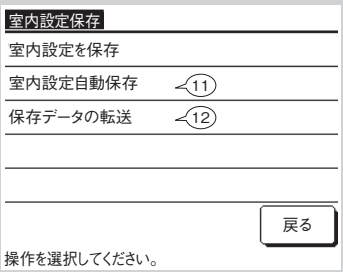
異常時運転データが消去されます。

⑨定期点検リセット



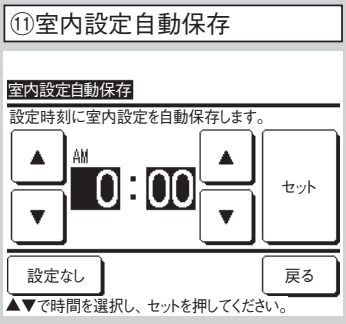
定期点検リセット操作により、時間カウントがリセットされます。

⑩室内設定保存



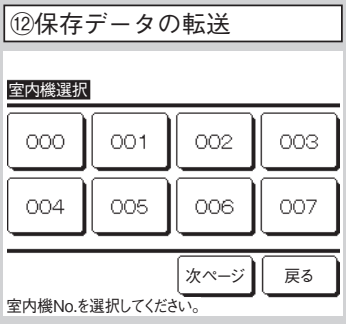
室内設定を保存 リモコンに接続されている室内ユニットすべての設定をリモコンに保存します。
室内設定自動保存 毎日の自動保存時刻を設定します。
保存データの転送 リモコンに保存した室内設定データを室内ユニットに転送します。

⑪室内設定自動保存



毎日の自動保存時刻を設定します。
設定なし を選択すると、自動保存は行いません。

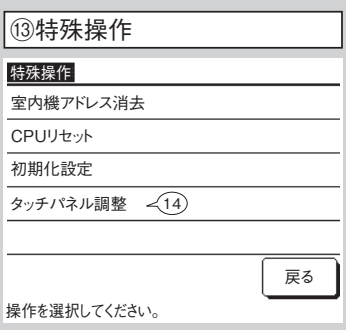
⑫保存データの転送



転送する室内ユニットを選択すると、確認画面が表示されますので、データ転送を行ってください。

お知らせ
室内ユニット基板を交換したが、設定内容が判らなくなったことはありませんか？リモコンに室内設定を保存しておくと、[保存データの転送] により、保存されたデータが室内ユニットに書込まれます。

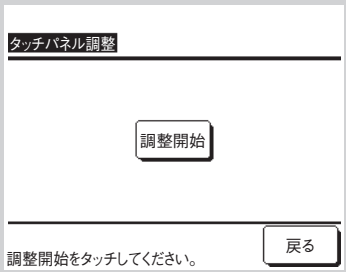
⑬特殊操作



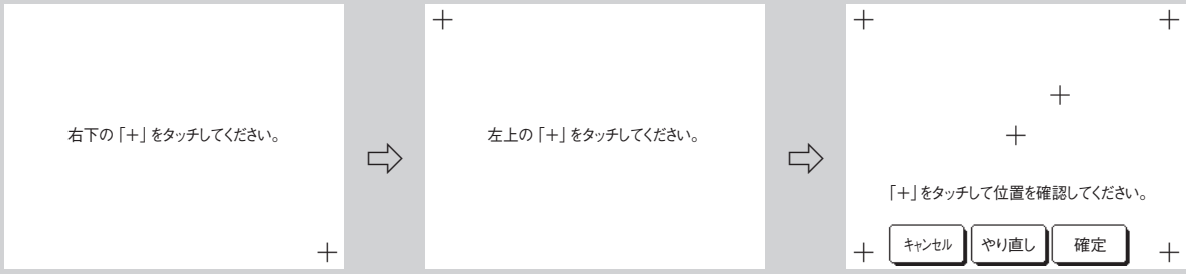
選択した画面に移ります。

室内機アドレス消去 マルチ室内ユニットの記憶が消去されます。
CPU リセット 接続されている、室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット（停電復帰状態）されます。
初期化設定 接続されている、リモコン・室内ユニットの設定が初期値（出荷状態）になります。
タッチパネル調整 表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。

⑭タッチパネル調整



表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。
画面の指示にそって、[+] マーク中心をタッチしてください。
確定で終了します。

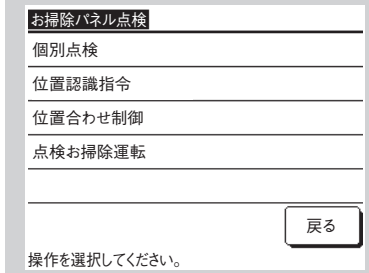


⑮室内機容量表示



リモコンに接続されている室内ユニットの容量を表示します。
室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。

⑯お掃除パネル点検



GTお掃除パネルを組合せる場合に操作できます。詳細は、お掃除パネル説明書を参照ください。

(2) RC-D4G リモコンの場合

(a) 室内ユニットの機能や用途に合わせ，リモコンより機能設定をすることができます。

リモコンより設定可能な項目は下記の通りです。
「○」印の設定内容が工場出荷時の設定です。
「※」印の項目は接続する室内ユニットおよび室外ユニットにより工場出荷時に自動設定されます。

(b) 機能設定のながれ

開始：エアコン停止状態で セット ＋ 運転切換 ボタンを同時に3秒押します。
確定： セット ボタンを押します。
戻る： リセット ボタンを押します。
選択： ▲ ▼ ボタンを押します。
終了： 運転／停止 ボタンを押します。

注(1) 設定の途中でも終了しますが，設定が完了していない場合は無効になります。

①【リモコン機能】

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定	
01	グリル昇降設定	昇降無効	○	
		有効50Hz地区		←50Hz地区で使用の場合。
		有効60Hz地区		←60Hz地区で使用の場合。
02	自動運転設定	自動運転有効	※	←自動運転不可
		自動運転無効		
03	温度設定	温度設定有効	○	
		温度設定禁止		←温度設定ボタンの操作禁止
04	運転切換	運転切換有効	○	
		運転切換禁止		←運転切ボタンの操作禁止
05	運転／停止	運転／停止有効	○	
		運転／停止禁止		←運転／停止ボタンの操作禁止
06	風量切換	風量切換有効	※	
		風量切換禁止		←風量調整ボタンの操作禁止
07	風向切換	風向切換有効	※	
		風向切換禁止		←風向調整ボタンの操作禁止
08	タイマー	タイマー有効	○	
		タイマー禁止		←タイマー操作禁止
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○	
		リモコンセンサ有効		
		リモコンセンサ+3.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+3.0℃温度補正する。
		リモコンセンサ+2.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+2.0℃温度補正する。
		リモコンセンサ+1.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+1.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー1.0℃		←リモコンセンサ有効かつ−1.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー2.0℃		←リモコンセンサ有効かつ−2.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー3.0℃		←リモコンセンサ有効かつ−3.0℃温度補正する。
10	停電補償設定	停電補償無効	○	
		停電補償有効		
11	換気設定	換気なし	○	
		換気連動		←室内基板CNDに換気機器を接続すると,室内ユニットの運転に連動し,換気機器の運転／停止を行います。
		換気連動なし		←室内基板CNDに換気機器を接続すると,換気ボタンの操作により,換気機器が単独で運転／停止を行います。
12	温度範囲設定	表示変更有り	○	←温度設定範囲を変更した場合,設定温度表示は制御に追従し変化ます。
		表示変更無し		←温度設定範囲を変更した場合,設定温度表示は制御に追従せず，設定した温度のままとなります。
13	室内ファン	3速HI-ME-LO	※	←ファン風量が,急-強-弱の3速,またはP急-急-強-弱の4速となります。
		2速HI-LO		←ファン風量が,急-弱の2速となります。
		2速HI-ME		←ファン風量が,急-強の2速となります。
		1速		←ファン風量が1速のみで固定されます。
14	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	※	←ルーバの停止位置は,4位置より選択します。
		ルーバフリー停止		←ルーバの停止位置は,任意の位置に停止します。
15	冷専／ヒーポン	ヒーポン	※	
		冷専		
16	外部入力設定	一台運転	○	←室内基板CnTに外部入力すると,その室内ユニットが単独で外部入力に従い運転します。
		全台同一運転		←室内CnTに外部入力すると,同一リモコンネットワークの全台が,外部入力に従い運転します。
17	室温表示設定	室温表示無し	○	
		室温表示有り		←通常の運転表示において,風量表示の代わりに室温を表示します。
18	暖房準備表示	表示有り	○	
		表示無し		←暖房準備表示を出さないようにします。

注(1) ルーバ制御設定を変更する場合は,②室内機能04番「ルーバ制御設定」も変更してください。

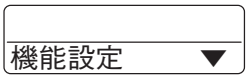
②【室内機能】

機能番号 A	機能内容 B	設定内容 C	出荷時設定	
02	高天井設定	標準	※	←機種によって,初期設定が高天井設定の機種もあります。
		高天井1		
		高天井2		
03	フィルターサイン設定	表示なし		
		設定1	○	←180時間でフィルターサインを表示します。
		設定2		←600時間でフィルターサインを表示します。
		設定3		←1000時間でフィルターサインを表示します。
		設定4		←1000時間でフィルターサインを表示し,その後24時間経過したら強制停止します。
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	※	←ルーバの停止位置は,4位置より選択します。
		ルーバフリー停止		←ルーバの停止位置は,任意の位置で停止します。
05	外部入力切換	レベル入力	○	
		パルス入力		
06	運転許可／禁止	無効	○	
		有効		←運転許可／禁止制御を有効にします。
07	緊急停止	無効	○	
		有効		←同一室外ユニットに接続された全室内ユニットを緊急停止させる時に使用します。遠方発停端子「CnT-6」から停止信号が入った場合，全室内ユニットが緊急停止します。
08	暖房室温補正	補正なし	○	
		室温補正+1.0℃		←暖房時の設定温度を+1.0℃補正します。
		室温補正+2.0℃		←暖房時の設定温度を+2.0℃補正します。
		室温補正+3.0℃		←暖房時の設定温度を+3.0℃補正します。
09	吸込温度補正	吸込補正+2.0℃		←室内ユニットの吸込温度を+2.0℃補正します。
		吸込補正+1.5℃		←室内ユニットの吸込温度を+1.5℃補正します。
		吸込補正+1.0℃		←室内ユニットの吸込温度を+1.0℃補正します。
		補正なし	○	
		吸込補正−1.0℃		←室内ユニットの吸込温度を−1.0℃補正します。
		吸込補正−1.5℃		←室内ユニットの吸込温度を−1.5℃補正します。
		吸込補正−2.0℃		←室内ユニットの吸込温度を−2.0℃補正します。
10	暖房ファン制御	弱風	○	←暖房サーモOFF時,弱風で運転します。
		設定風量		←暖房サーモOFF時,設定風量で運転します。(電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。)
		間欠		←暖房サーモOFF時,間欠運転します。
		停止		←暖房サーモOFF時,ファンは停止します。(リモコンセンサ有効時は,自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は,設定しないでください。)
11	フロスト防止温度	温度　　高		
		温度　　低	○	
12	フロスト防止制御	ファン制御有効	○	←フロスト防止制御時に,室内ファンタップを上げます。
		ファン制御無効		
13	ドレンポンプ	標準	○	←冷房・除湿時ドレンポンプON
		暖房		←冷房・除湿+暖房時ドレンポンプON
		暖房　　送風		←冷房・除湿+暖房+送風時ドレンポンプON
		送風		←冷房・除湿+送風時ドレンポンプON
14	冷房ファン運転	連動なし	○	←冷房停止または冷房サーモOFF後,ファン残留運転なし。
		0.5時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,0.5時間ファン残留運転する。
		1時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,1時間ファン残留運転する。
		6時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,6時間ファン残留運転する。
15	暖房ファン運転	連動なし	○	←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファン残留運転なし。
		0.5時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,0.5時間ファン残留運転する。
		2時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,2時間ファン残留運転する。
		6時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,6時間ファン残留運転する。
16	暖房ファン間欠	連動なし	○	
		20休5送風		←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファンは20分OFF5分弱風の間欠運転。
		5休5送風		←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファンは5分OFF5分弱風の間欠運転。
17	外機制御	圧力制御標準	※	
		圧力制御切換		←吸気処理室内ユニットを接続すると,圧力制御切換に自動的に設定されます。

注(1)ルーバ制御設定を変更する場合は,①リモコン機能14番「ルーバ制御設定」も変更してください。

(c) 機能設定の仕方

(i) エアコンを停止させて，セットと運転切換ボタンを同時に長押しする。
表示が「機能設定　▼」となります。

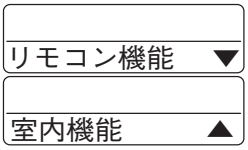


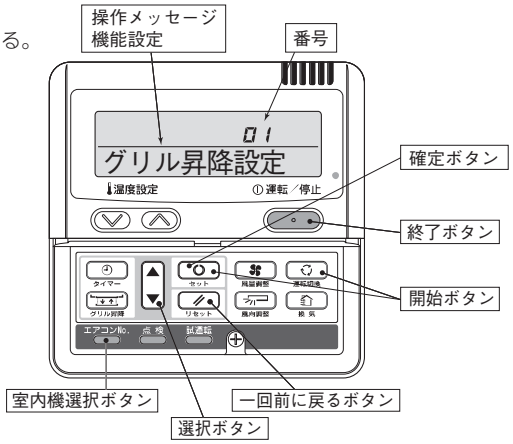
(ii) セットボタンを押す。

(iii) 設定したい内容が【リモコン機能】か【室内機能】かを確認する。

(iv) ▲または▼ボタンを押す。
【リモコン機能▼】または【室内機能▲】を選びます。

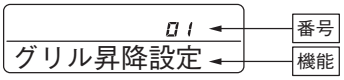
(v) セットボタンを押す。





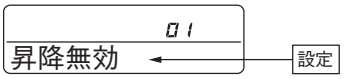
(vi)【リモコン機能】を選んだ場合

①「データ確認中」(約2秒間点滅表示)
↓
「01　グリル昇降設定」と表示が切換わります。

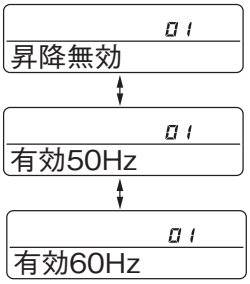


② ▲または▼ボタンを押す。
リモコン機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので，機能を選びます。

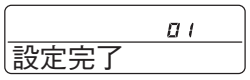
③ セットボタンを押す。
選択した機能の,現在の設定が表示されます。
(例)「昇降無効 」← 「 01　グリル昇降設定 」を選択した場合。



④ ▲または▼ボタンを押す。
設定を選びます。



⑤ セットボタンを押す。
「設定完了」が表示され,設定が完了します。その後,「番号と機能」の表示に戻りますので，続けて設定する場合は,同じ要領で設定してください。
終了する場合は,7)へお進みください。

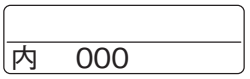


(vii) 運転／停止ボタンを押します。
設定を終了します。

(vi)【室内機能】を選んだ場合

①「データ確認中」(データを読み込む間約2～23秒点滅)
↓
「01　お掃除自動」と表示が切換わります。
②へお進みください。

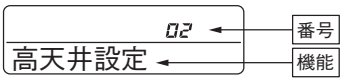
〈注意〉
(1) 室内ユニットをリモコンに複数台接続している場合は,下記表示となります。
「内　000」（点滅）← 接続されている室内ユニットの最も若い番号を表示。



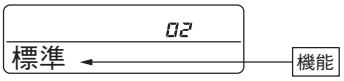
(2) ▲または▼ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「全台▼」を選択すると,全台同一の設定ができます。

(3) セットボタンを押す。

② ▲または▼ボタンを押す。
室内機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので，機能を選びます。
（例）

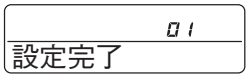


③ セットボタンを押す。
選択した機能の,現在の設定が表示されます。
（例）「標準」← 「 02　高天井設定 」を選択した場合。



④ ▲または▼ボタンを押す。設定を選びます。

⑤ セットボタンを押す。
「設定完了」が表示され,設定が完了します。その後,「番号と機能」の表示に戻りますので，続けて設定する場合は,同じ要領で設定してください。終了する場合は,7)へお進みください。



※室内ユニット複数台接続時,エアコンNo.ボタンを押すと室内ユニット選択表示(例「内　000」)に戻りますので,室内ユニットを換えて設定する場合は,同じ要領で設定してください。

·設定の途中で，運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし,設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
·設定途中で，リセットボタンを押すと,一回前の設定画面に戻ります。
·セット内容は,コントローラ内部に記憶され停電しても保存されています。

《現在設定の確認方法》
上記操作により,「番号と機能」を選び,セット ボタンを押した時に,最初に表示される「設定」が,現在設定されている内容です。(ただし,「全台▼」を選んだ場合は,室内番号の最も若い機種の設定が表示されます。)

（d）リモコン設定温度範囲の変更

工場出荷時の設定温度範囲は，運転モードによって異なり下記のようになっています。

暖房時：18～28℃

暖房以外(冷房，送風，除湿，自動)：20～30℃

(i) リモコンから，設定温度の上限および下限を設定することができます。

・上限値設定…暖房運転時に有効。20～30℃の範囲で設定可能です。

・下限値設定…暖房以外（自動，冷房，送風，除湿）時に有効。18～26℃の範囲で設定可能です。

本機能により，上限および下限を設定した場合，下記制御となります。

1) 機能設定モードの【リモコン機能】⑫温度範囲設定が〈表示変更有り〉のとき(工場出荷時設定)

〔上限値を設定すると〕

① 暖房時，リモコンから上限値より高い温度が設定された場合:
30分間設定値温度で運転し，その後自動的に上限値温度を送信します。リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房時，上限値以下の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

〔下限値を設定すると〕

① 暖房以外の運転モードのとき，リモコンから下限値より低い温度が設定された場合:
30分間設定温度で運転し，その後自動的に下限値温度を送信します。リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房以外の運転モードのとき，下限値以上の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

2) 機能設定モードの【リモコン機能】⑫温度範囲設定が〈表示変更無し〉のとき

〔上限値を設定すると〕

① 暖房時，リモコンから上限値より高い温度が設定された場合:
上限値を送信します。ただし，リモコン表示はそれに付随せず，設定した温度のままです。

② 暖房時，上限値以下の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

〔下限値を設定すると〕

① 暖房以外の運転モードのとき，リモコンから下限値より低い温度が設定された場合:
下限値を送信します。ただし，リモコン表示はそれに付随せず，設定した温度のままです。

② 暖房以外の運転モードのとき，下限値以上の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

(ii) 上限値，下限値の設定方法

1) エアコンを停止させて，セットと 運転切換 ボタンを同時に3秒以上押します。
表示が「機能設定▼」となります。

2) ▼ ボタンを一度押し，「温度範囲▲」表示に切換えます。

3) セット ボタンを押して，温度範囲設定モードに入ります。

4) ▲▼ ボタンにより，「上限設定▼」または「下限設定▲」を選びます。

5) セット ボタンを押して確定します。

6)「上限設定▼」を選んだ場合（暖房時に有効となります）

① 表示:「∨∧で設定」→「上限28℃∨∧」

② 温度設定 ∧∨ ボタンにより，上限値を選びます。表示例:「上限26℃∨∧」(点滅)

③ セット ボタンを押して確定します。表示例:「上限26℃」(2秒間点灯)
確定した上限値を2秒間点灯後，表示は「上限設定▼」に戻ります。

7)「下限設定▲」を選んだ場合（冷房，除湿，送風時に有効となります。）

① 表示:「∨∧で設定」→「下限20℃∨∧」

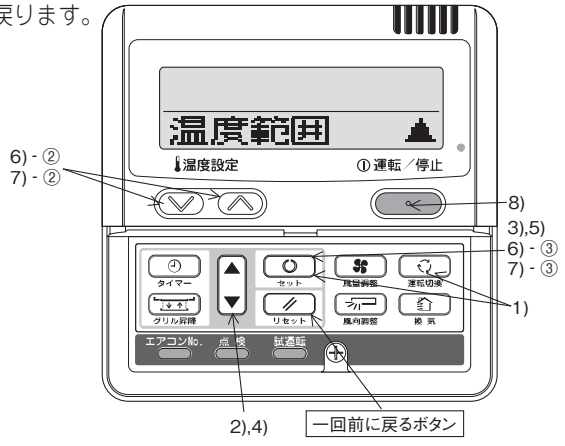
② 温度設定 ∧∨ ボタンにより，下限値を選びます。表示例:「下限24℃∨∧」(点滅)

③ セット ボタンを押して確定します。表示例:「下限24℃」（2秒間点灯）
確定した下限値を2秒間点灯後，表示は「下限設定▲」に戻ります。

8) 運転／停止 ボタンを押して，終了します。

・設定の途中で 運転／停止 ボタンを押しても終了します。ただし,設定が完了していない内容は無効となりますので，ご注意ください。

・設定の途中で，リセット ボタンを押すと,一回前の設定画面に戻ります。



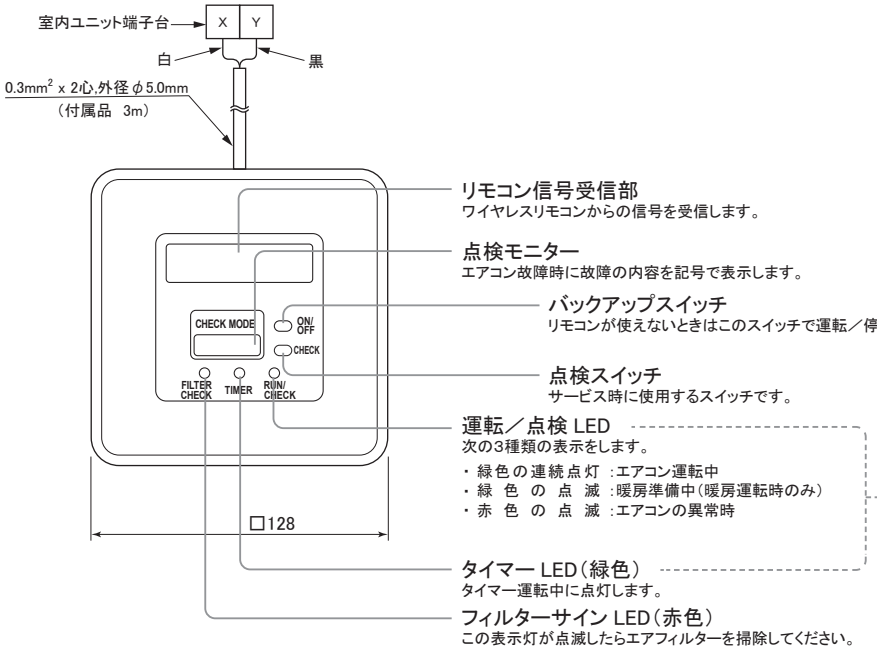
5 別売部品編の目次

1. ワイヤレスキット（RCN-KIT4）…… 5-2
2. 人感センサキット（LB-KIT2） …… 5-12
3. コンパクトリモコン（RCH-D3） …… 5-22
4. スーパーリンクアダプタ（SC-ADNA） …… 5-26

1. ワイヤレスキット（RCN-KIT4）

(1) 仕様

PJZ000Z322



リモコン信号受信部
ワイヤレスリモコンからの信号を受信します。

点検モニター
エアコン故障時に故障の内容を記号で表示します。

バックアップスイッチ
リモコンが使えないときはこのスイッチで運転／停止ができます。

点検スイッチ
サービス時に使用するスイッチです。

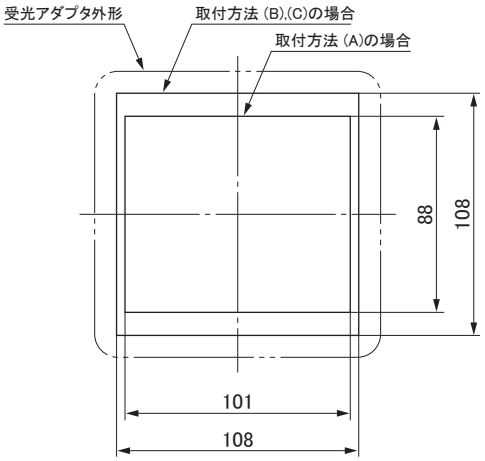
運転／点検 LED
次の3種類の表示をします。
- 緑色の連続点灯 :エアコン運転中
- 緑 色 の 点 滅 :暖房準備中（暖房運転時のみ）
- 赤 色 の 点 滅 :エアコンの異常時

リモコンからの受信表示もこの表示灯で表示します。タイマー→運転／点検（緑）の順に各表示灯が2回点滅し、受信表示します。

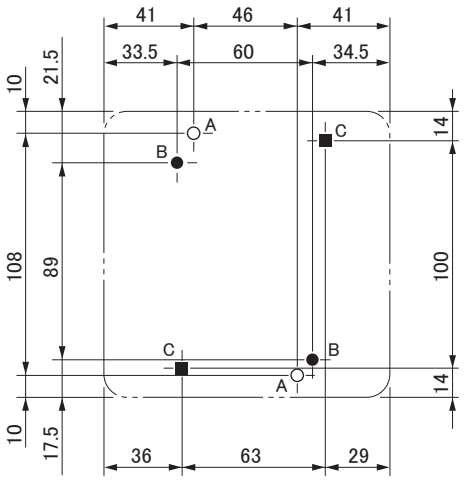
タイマー LED（緑色）
タイマー運転中に点灯します。

フィルターサイン LED（赤色）
この表示灯が点滅したらエアフィルターを掃除してください。

天井あるいは壁面の開口寸法



受光アダプタ取付寸法



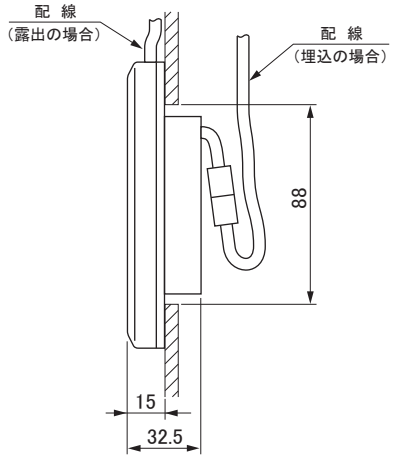
○印：(A)天井あるいは壁面への木ネジによる直接取付。
●印：(B)JISボックス(客先手配品)による取付。
■印：(C)付属ブラケットによる取付。

単位：mm

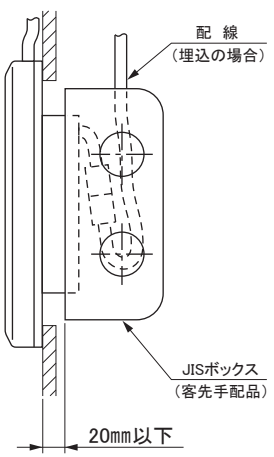
受光アダプタ取付方法

（天井あるいは壁面への取付方法として下図に示す3種類の取付が可能です。設置場所に応じて選んでください。）

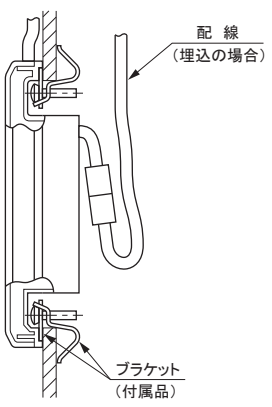
(A)木ねじによる直接取付



(B)JISボックス（客先手配）による取付



(C)付属ブラケットによる取付



ワイヤレスキットの据付

ワイヤレスキットを下記場所に設置しないでください。
ワイヤレスキットの故障や変形の原因になることがあります。

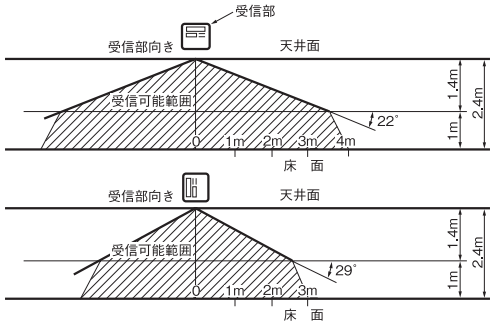
(1) 直射日光の当たる場所
(2) 発熱器具の近く
(3) 湿気の多い所・水の掛る所
(4) 取付面が発熱・結露する場所
(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(6) 取付面に凹凸がある所
(7) 室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
(8) 蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
あるいは，直射日光が受光アダプタに当たる場所
(9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
(10) ワイヤレスリモコンの操作場所から見て，障害物に隠れてしまう場所

ワイヤレスリモコンの操作距離

天井面に取付けた場合

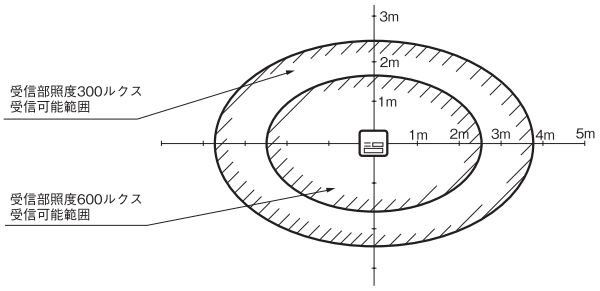
① 標準的受信距離

条件 受信部照度 300 ルクス（一般事務所で受信アダプタ周辺 1ｍ以内の天井面に照明がない場合）



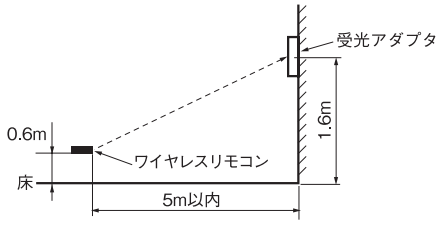
② 平面から見た時の受信部照度と受信距離の関係

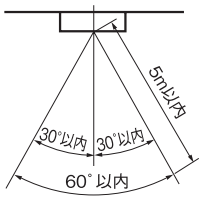
条件 天井高さ2．4m，床面より1ｍの高さより，リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係。
照度が2倍になると受信距離は2/3となる。



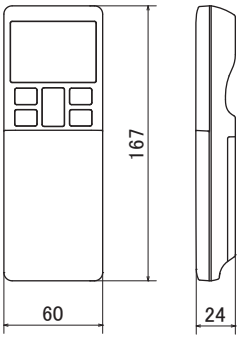
壁面に取付けた場合

条件 受信部照度 800 ルクス

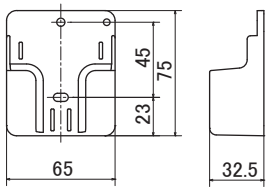




リモコン



リモコン用ホルダ



注）リモコン用として単4乾電池が2個付属しています。

お願い
○リモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は受信部照明度，部屋壁面の反射状態により変化します。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合，操作距離の縮小や受信不良が起こる場合があります。

(2) 据付説明書

PJZ012D111

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗	**●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。** ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。** 据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。** 当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
❗	**●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。** 強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
❗	**●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。** 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
❗	**●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。** 感電、故障や動作不良の原因になります。
⃠	**●改造は絶対にしない。** 感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。** 修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
⃠	**●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。** 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●洗濯室など水のかかる所では使用しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●ぬれた手で操作しない。** 感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

① 受光アダプタ		1
② 配線 (3m)		1
③ パーツセット (A)		1
④ パーツセット (B)		1
⑤ パーツセット (C)		1
⑥ 据付説明書 (本紙)		1

① ワイヤレスリモコン (RCN-D5)		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

① 受光アダプタ用ねじ		2
② バンド		1
③ クランプ		5
④ 同上用ねじ		5

① 受光部取付用ブラケット		1
② 同上用ねじ		2
③ 取付金具		2
④ JISボックス取付用ねじ		2

② 取付前の準備

現地設定

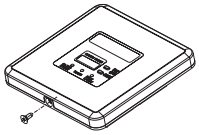
受信基板上のスイッチの設定は右記の通りです。

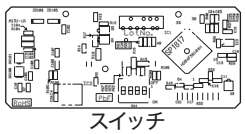
SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	ON : 通常	OFF : 切換(2ch)
SW1-2	受信部の親子切換	ON : 親	OFF : 子
SW1-3			
SW1-4	停電補償	ON : 有効	OFF : 無効

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部下面のねじ(1 本)を外し、基板を取外してください。
2. 基板上(7 セグメント表面側)のスイッチを変更してください。





スイッチ



出荷時

3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

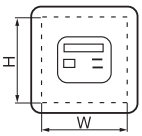
③ 受信部の取付

天井あるいは、壁面 (以後あわせて壁面と呼ぶこととします) への取付方法として下記３種類の取付が可能です。
設置場所に応じて選んでください。

〈取付け方法〉 (A) 壁面への木ねじによる直接取付
(B) JIS ボックス (現地手配) による取付
(C) 付属ブラケットによる取付

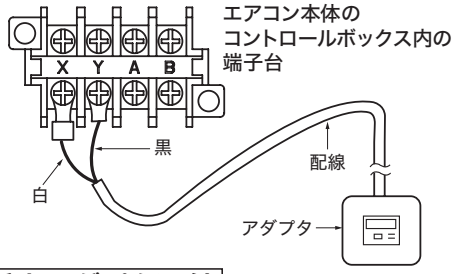
(1) 壁面への穴あけ (壁面開口)

取付用の穴を付属配線 (3 m) で接続可能な壁面位置に、右表の寸法にてあけてください。



(A) 壁面への木ねじによる直接取付	88mm(H)×101mm(W)
(B) JIS ボックスによる取付 (C) 付属ブラケットによる取付	108mm(H)×108mm(W)

(2) 受光アダプタ用配線



⚠注意
配線を端子台 200V に接続しないこと。
プリント基板が焼損します。

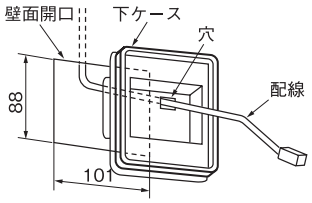
(3) 受光アダプタ取付

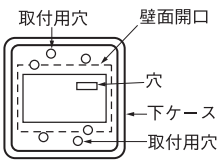
側面についているねじをはずし、上ケースと下ケースに分割してください。
下記４種 (A～D) のうちのいずれかの方法により取付けてください。

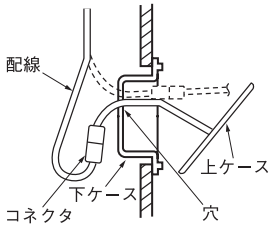
(A) 壁面への木ねじによる直接取付

▷ 壁面が木製などのもので、直接木ねじにより取付けても強度的に問題のない場合にこの方法で取付けてください。

① 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
② 下ケースを壁面開口にはめてください。この時、下ケース後面凸部と壁面開口とのすきまは両側ともできるだけ等しくなる様にしてください。
③ 上図 2 か所の取付用穴を用いて付属の木ねじにより下ケースを壁に固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません。)
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。







③ 受信部の取付の続き

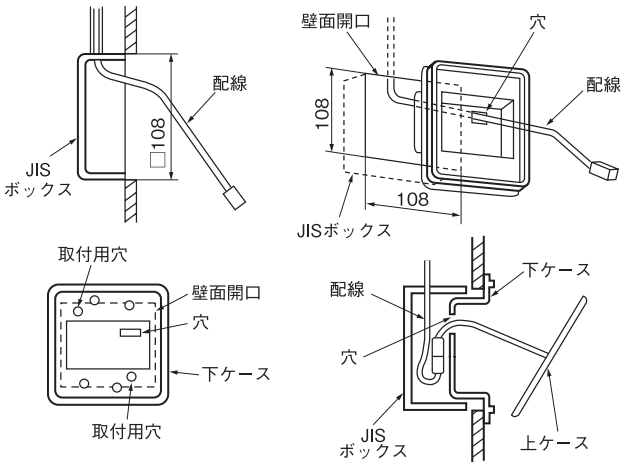
⑤ 接続したコネクタを①項にて配線を通した下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。

(B)　JIS ボックスによる取付（JIS ボックス：現地手配）

① JIS ボックスと配線をあらかじめ設置しておきます。

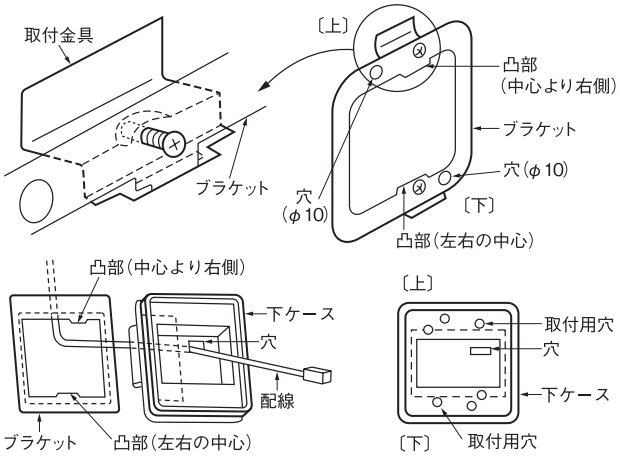
〔使用可能 JIS ボックス〕
JIS C 8435
埋込用四角アウトレットボックス中浅形
JIS C 8340
中形四角アウトレットボックス

② 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
③ 右図 2 か所の取付用穴を用いて付属しているねじにより下ケースは JIS ボックスに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません。)
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。
⑤ 接続したコネクタを②項にて配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスの間へ入れていください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。



(C)　付属ブラケットによる取付

① 上図の様に付属ブラケットの凸部 (2 か所) に取付金具を引掛け、ねじにより仮止めしてください。(ブラケットには上下および表裏があります。上下凸部の位置およびブラケットにあるφ 10 の穴と取付金具の取付面との位置関係を上図にてご確認願います。)
② 壁面開口より取付金具の端部を壁面裏側へ入れ、さらにねじを締めてブラケットを壁面に固定してください。
③ 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
④ 下ケースをブラケットにはめ込み、上図 2 か所の取付用穴を用いて下ケースをブラケットに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません)
⑤ 以降 (A) の①～⑥を参照して取付けてください。

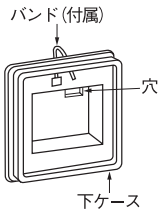


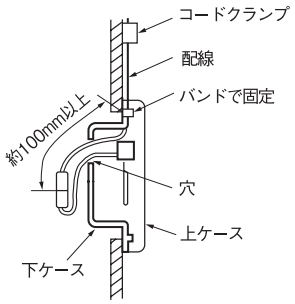
③ 受信部の取付の続き

(D)　配線露出取付

配線を露出させて取付ける場合は下記の通りに行なってください。

① 上ケース側面の薄肉部をニッパー、ナイフ等で切取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。(この部分に配線を通します。)
② 下ケースの配線取出部の穴に付属のバンドを通します。
③ 3 項の受光アダプタ取付方法 (A ～ C) のいずれかの方法に従い、下ケースを壁面に固定してください。ただし、配線は下ケースの穴に通さないでください。
④ バンドでの固定部から配線のコネクタの先端までの長さを 100 mm以上とした状態でバンドにより配線を固定してください。(ただし、JIS ボックスにより下ケースを取付けた場合は約 100 mmとしてください。)
⑤ 配線と上ケースより出ている配線をコネクタにより接続してください。
⑥ 接続したコネクタおよび不要な配線を下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑦ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじを締めてください。
⑧ 配線は付属のコードクランプで適宜固定してください。



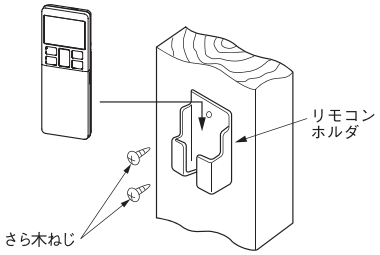


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

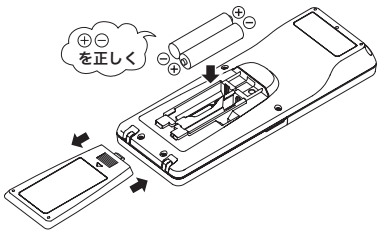
1. リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



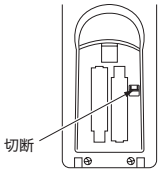
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。

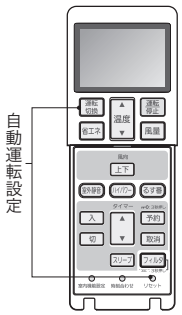


④ ワイヤレスリモコンの続き

リモコンの設定変更

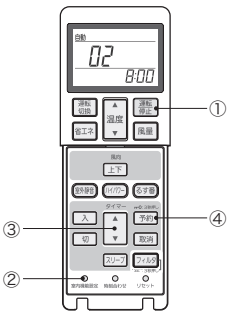
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定　標準
	01	風速設定　設定1　※
	02	風速設定　設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正　無効
	01	暖房室温補正　+1℃
	02	暖房室温補正　+2℃
	03	暖房室温補正　+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示　なし
	01	フィルターサイン表示　180時間
	02	フィルターサイン表示　600時間
	03	フィルターサイン表示　1000時間
	04	フィルターサイン表示　1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定(エアフレックス設定)　無効
	01	ドラフト防止設定(エアフレックス設定)　有効
室外静音	00	人感センサー設定　無効
	01	人感センサー設定　有効
ハイパワー	00	人感センサー制御　無効
	01	人感センサー制御 パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御 オートオフのみ
	03	人感センサー制御 パワーコントロール+オートオフ

ボタン	番号表示部	機能設定
入	00	冷房ファン残留運転　無効
	01	冷房ファン残留運転　0.5時間
	02	冷房ファン残留運転　2時間
	03	冷房ファン残留運転　6時間
切	00	暖房ファン残留運転　無効
	01	暖房ファン残留運転　0.5時間
	02	暖房ファン残留運転　2時間
	03	暖房ファン残留運転　6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED　輝度明
	01	リモコン信号受信部LED　輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED　消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長　0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長　0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長　2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長　3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長　4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数　50Hz
	60	グリル自動昇降周波数　60Hz

※　詳細は2-11ページを参照ください。

⑤ 受信部

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

① 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

② グループ制御用に各室内ユニット間を
2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

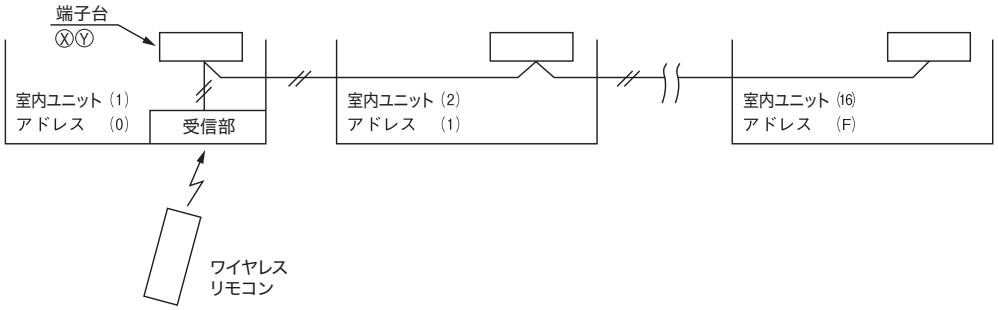
渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）

標準	0.3 mm^2 × 100m 以内
	0.5 mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0 mm^2 × 600m 以内

⑤ 受信部の続き

店舗シリーズの場合

③ 室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

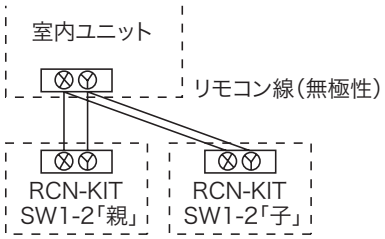


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

④ 室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット 1 台（または 1 グループ）に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。

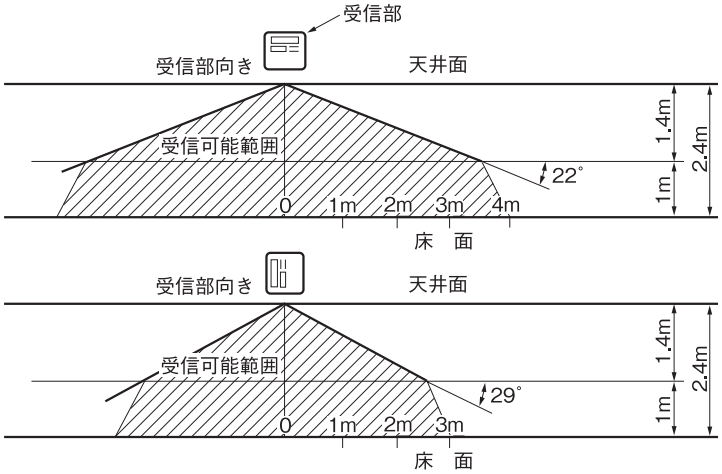


スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

天井面に取付けた場合

① 標準的受信距離

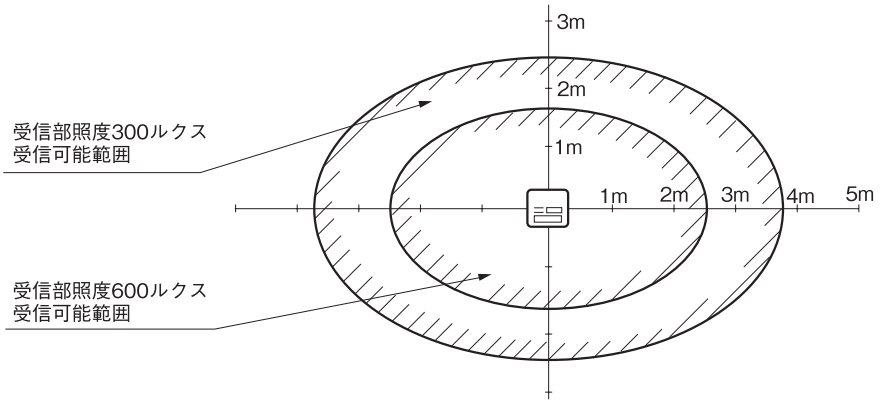
条件 受信部照明度 **300 ルクス**（一般事務所で受信アダプタ周辺 1 m以内の天井面に照明がない場合）



② 平面から見た時の受信部照度と受信距離の関係

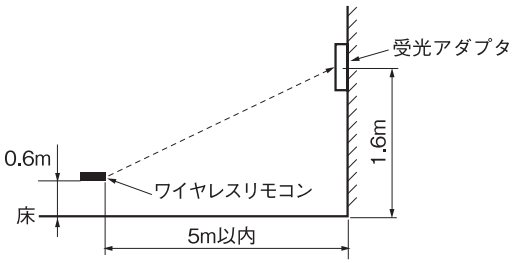
条件 天井高さ 2.4 m、床面より 1 mの高さより、リモコン操作をした場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が 2 倍になると受信距離は 2/3 となる。

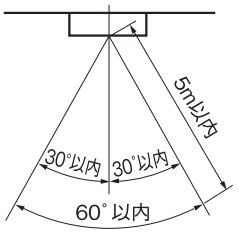
⑤ 受信部の続き



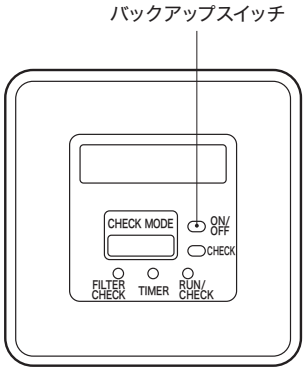
壁面に取付けた場合

条件 受信部照度 **800 ルクス**





バックアップスイッチ操作



表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に
応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

⑴ 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
　風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
⑵ 運転中に押すことにより「停止」します。

冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

6 桁表示の見方

受信部は 6 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

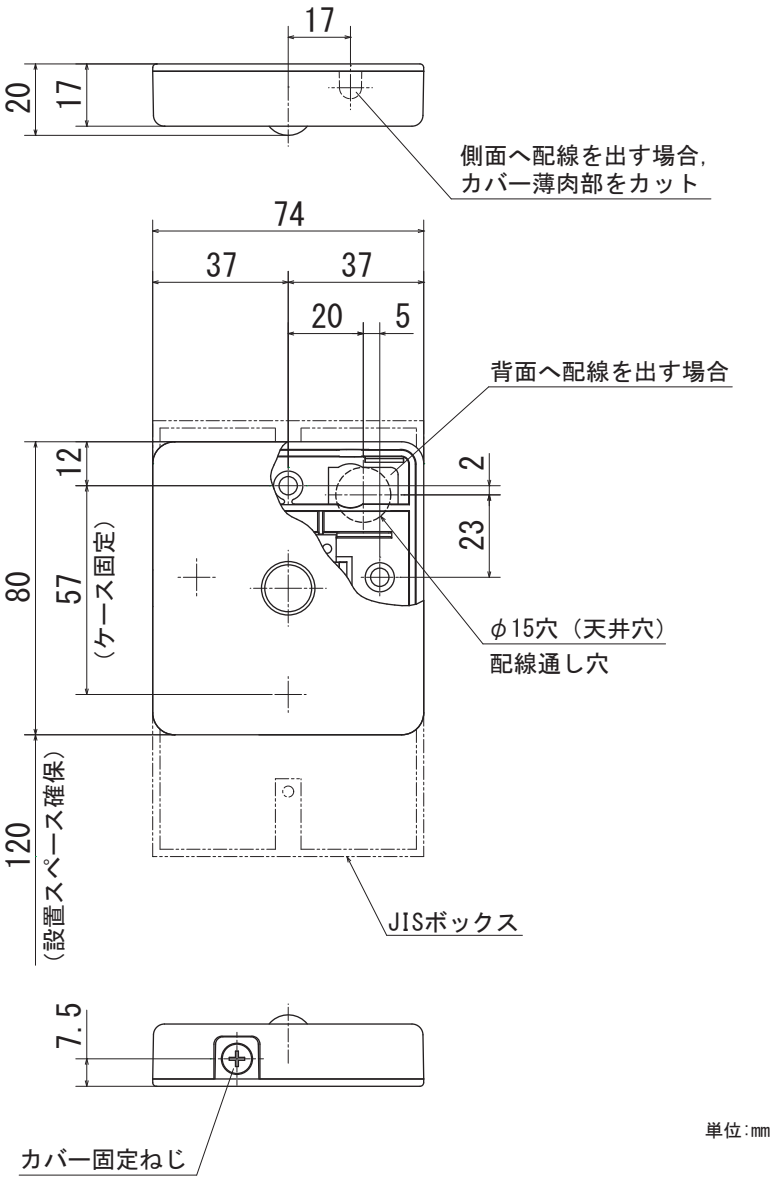
⑴ 表示は電源投入後 1 時間表示します。
⑵ エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により 3.5 秒間表示します。
⑶ 上記の表示は、運転開始により消灯します。
⑷ 異常履歴がない場合は、接続台数分のアドレスを表示します。
⑸ 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
⑹ 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信により
　クリアされます。

2. 人感センサキット（LB-KIT2）

(1) 仕様

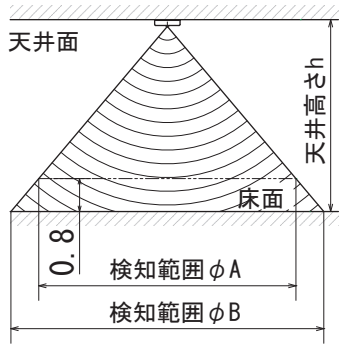
PJZ000Z340

外 形 図



単位:mm

検知範囲



記事

1．据付高さは４ｍ以内としてください。
　センサ感度が鈍くなり，検知しにくくなります。
2．接続配線（現地調達）は0.2mm^2×3心以上（赤，白，黒）の
　信号用配線を使用してください。配線長さは最大８ｍです。
3．本製品は壁面にも設置可能ですが、天井面設置を推奨します。
4．壁面設置の場合，検知範囲は正面で５ｍ，左右約１００°です。
5．詳細は据付説明書を参照してください。

天井高さh[m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲φA[m]	4.5	6.4	7.6
検知範囲φB[m]	6.4	8.3	9.5

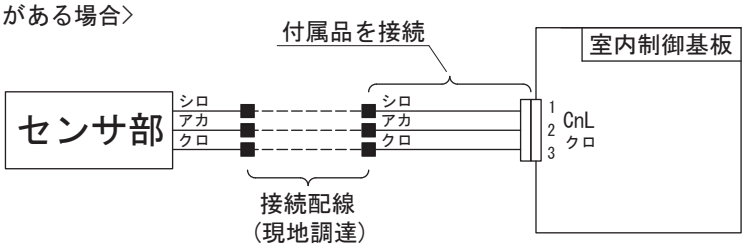
人感センサの据付

人感センサを下記場所に設置しないでください。
人感センサの故障や変形の原因になることがあります。

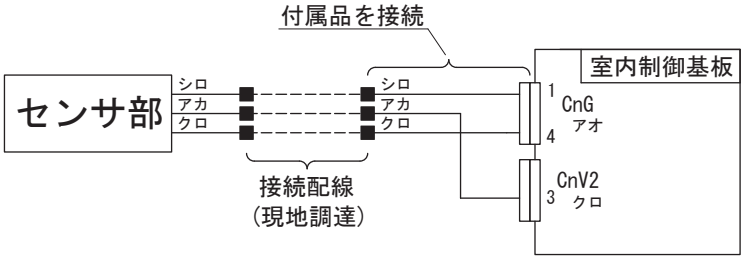
（１）直射日光の当たる場所
（２）発熱器具の近く
（３）湿気の多い所・水の掛る所
（４）取付面が発熱・結露する場所
（５）油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
（６）取付面に凹凸がある所
（７）室内ユニットの吹出し空気が当たる場所
（８）蛍光灯（特にインバータタイプ）の近く
　　あるいは，直接日光がセンサ部に当たる場所
（９）他の赤外線通信機器の光線がセンサ部に当たる場所
（１０）長時間振動が加わる状態
（１１）静電気や強い電磁波のある場所
（１２）塵埃の多い場所，レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所
（１３）電源配線などの強電圧線と並走させないこと

配線接続

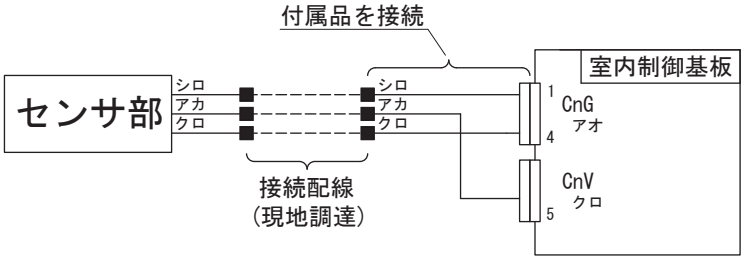
〈CnLコネクタがある場合〉



〈CnLコネクタがない場合〉
（DCモータ機の場合）［記事5参照］



〈CnLコネクタがない場合〉
（ACモータ機の場合）［記事5参照］



⑵ 据付説明書

PJZ012D133

本説明書は、人感センサキットの据付方法を記載してあります。
室内ユニット・リモコン・室外ユニット付属の説明書と合わせてご覧ください。

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFFにすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付け面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付け面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ 長時間振動が加わる場所
⑾ 静電気や強い電磁波のある場所
⑿ 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れ および 損傷を与える恐れのある場所
⒀ 室内ユニットの電源線などの強電圧線と並走する場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

① 取付前の準備

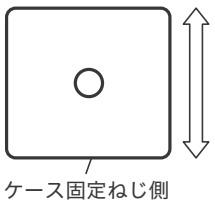
次の付属品を確かめてください。

受信部	配線〈1〉	配線〈2〉	配線〈3〉	木ねじ 2 本	説明書
	室内基板にCnL コネクタがある場合 (GT・GK) 	室内基板にCnV2 コネクタがある場合 	室内基板に CnV コネクタがある場合 (GTSC・GFL・GFU) 		

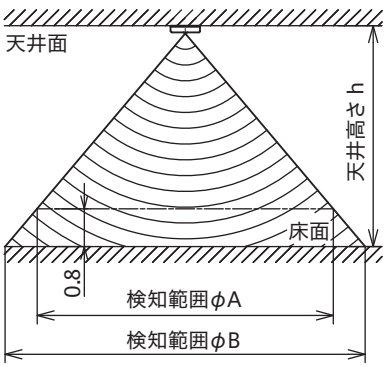
※受信部と室内ユニット間の中継配線は現地手配してください。(0.2mm^{2}以上 3心 (赤、白、黒) 通信用ケーブル 最大8m)

② 人感センサ検知範囲・設置場所

・据付高さは床面より４m以内としてください
　センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・⇦⇨印方向の動きをより検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。
・本製品は壁面にも設置可能ですが、天井面設置を推奨します。
・壁面設置の場合、検知範囲は正面で約 5m、左右約 100° です。



高さ　h〔m〕	2.7	3.5	4.0
検知範囲 φA〔m〕	4.5	6.4	7.6
検知範囲 φB〔m〕	6.4	8.3	9.5



③ 受信部の取付

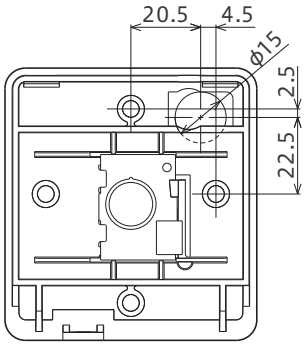
天井面あるいは壁面（以後あわせて天井面と呼ぶこととします）への取付方法として、下記３種類の取付が可能です。設置場所に応じて選んでください。

〈取付方法〉

(A) 天井面への木ねじによる直接取付、配線を天井面内に収める場合

(B) 天井面への木ねじによる直接取付、配線を部屋内にはわせる場合

(C) JISボックス（現地手配）による取付の場合

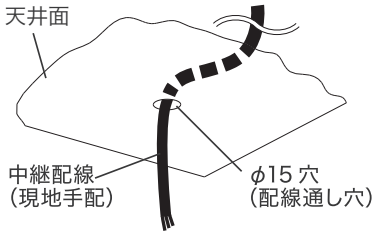


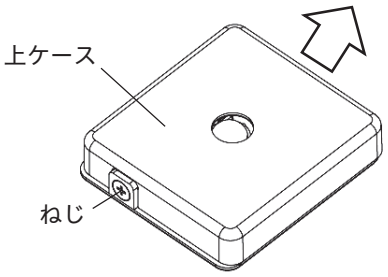
中継配線の取出穴とねじ取付穴との位置関係

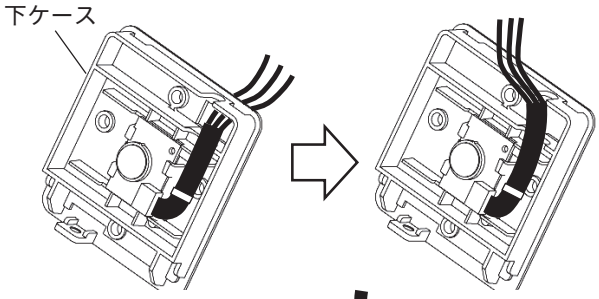
（A）の場合

►天井面に、人感センサキットを直接木ねじで取付けても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

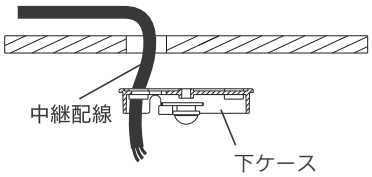
① 現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。
② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。
③ 受信部側の配線を下図のように手前へ取出してください。
④ 中継配線を下ケース穴に通してください。

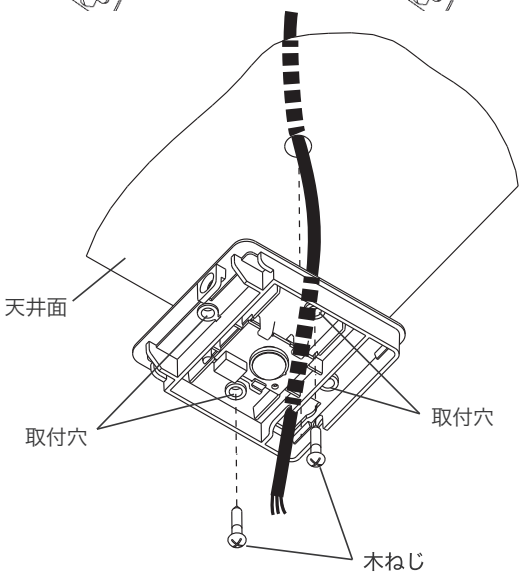






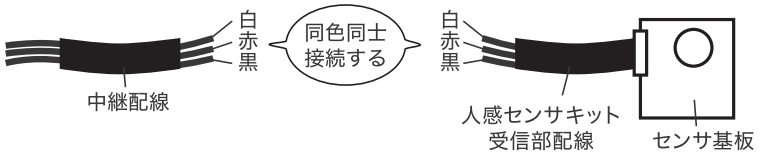
⑤ 下ケースを天井面に固定する際は、右図の取付穴（4か所）のうち、対辺２か所を付属の木ねじにより締付けてください。



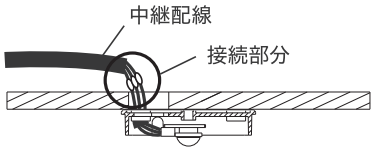


③ 受信部の取付の続き

⑥ 圧着端子等を用いて、現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。



⑦ 配線の接続部分を天井面の内側へ入れてください。
⑧ 下ケースの配線貫通穴をパテでシールしてください。
⑨ 配線をかみこまないよう注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。

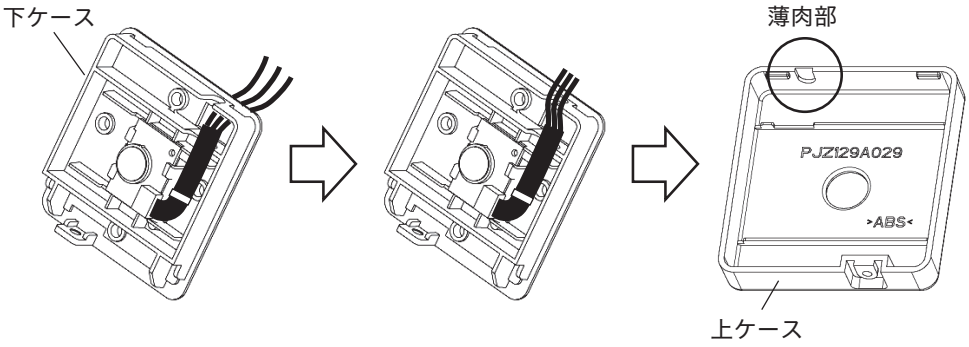


注意：トラッキング防止のため、接続部分にほこり等がつもらないよう施工してください。

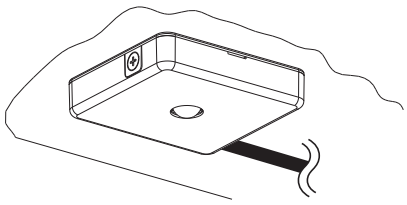
（B）の場合

►天井面に、人感センサキットを直接木ねじで取付ても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

① 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。（A ②と同じ）
② 受信部の配線を側面方向へ取出します。
上ケースの薄肉部を削り取って使用してください。



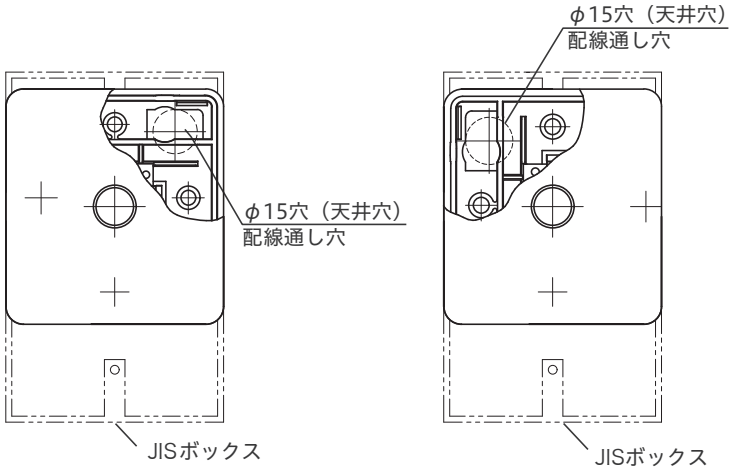
③ 下ケースを天井面に固定する際は、取付穴（4 か所）のうち、対辺 2 か所を付属の木ねじにより締付けてください。（(A）⑤と同じ）
④ 圧着端子等を用いて現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。
（(A）⑥と同じ）
⑤ 配線をかみこまないように注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。（(A）⑨と同じ）
⑥ ②で切取った部分をパテでシールしてください。



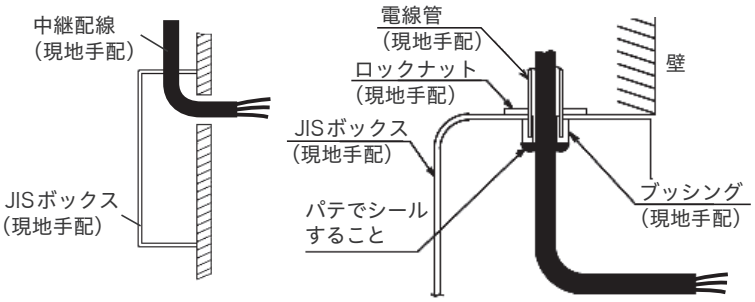
③ 受信部の取付の続き

(C) の場合

① JIS ボックスと現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。中継配線引込口はパテでシールしてください。(右図参照)



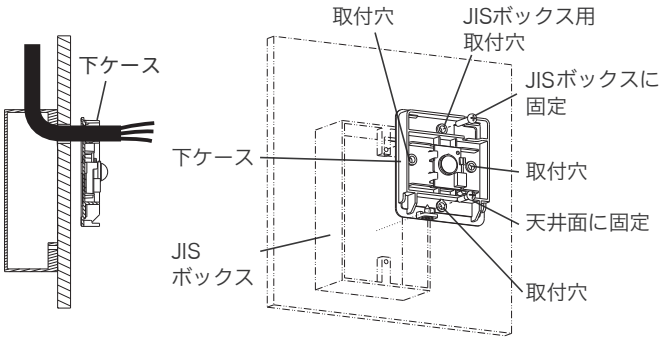
JISボックスと配線通し穴との位置関係



② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。((A)②と同じ)

③ 受信部側の配線を手前へ取出してください。((A) ③と同じ)

④ 中継配線を JIS ボックス側から下ケース穴に通してください。

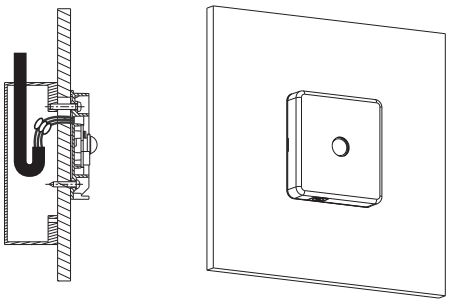


⑤ 右図の取付穴 (1 か所) を用いて、下ケースを JIS ボックスに固定してください。

⑥ 現地手配の中継配線と受信部側の配線を同色同士で接続してください。((A) ⑥と同じ)

⑦ 配線の接続部分を④項で配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスとの間へ入れてください。

⑧ 配線をかみこまないように注意しながら 上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。((A) ⑨と同じ)

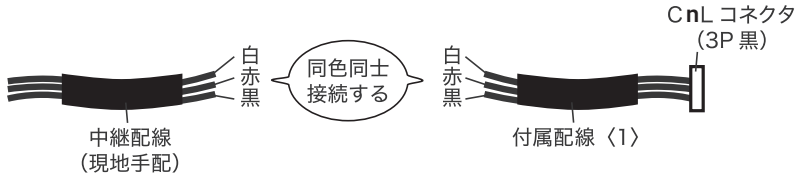


④ 本体コントロールへの配線接続

注意：人感センサ付属配線は、室内ユニットの機種ごとに使用する配線が異なります。配線取付前に、確認してください。

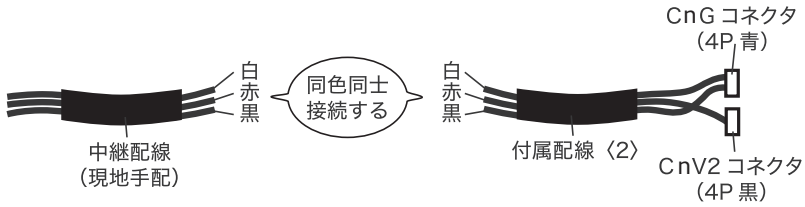
〈室内基板に CnL コネクタがある場合 (GT・GK)〉

① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈1〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロール BOX の蓋を取外してください。
③ CnL コネクタ (3P 黒) を基板へ接続してください。



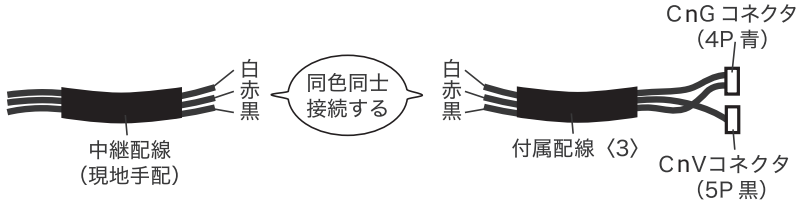
〈室内基板に CnV2 コネクタがある場合〉

① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈2〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロール BOX の蓋を取外してください。
③ CnG コネクタ (4P 青) を制御基板へ接続してください。
④ CnV2 コネクタ (4P 黒) を制御基板へ接続してください。

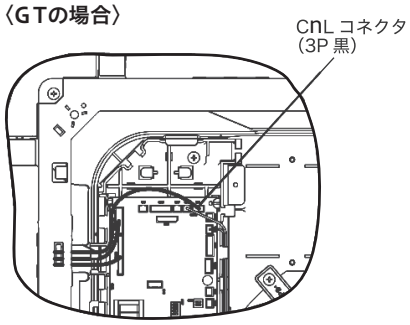


〈室内基板に CnV コネクタがある場合 (GTSC・GFL・GFU)〉

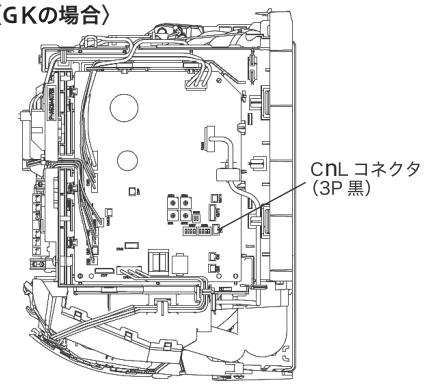
① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈2〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロール BOX の蓋を取外してください。
③ CnG コネクタ (4P 青) を制御基板へ接続してください。
④ CnV コネクタ (5P 黒) を制御基板へ接続してください。



〈GTの場合〉

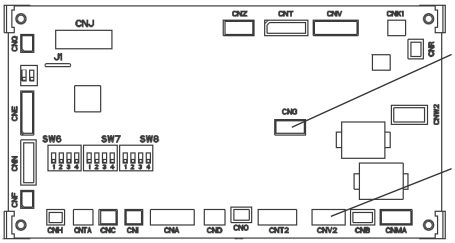


〈GKの場合〉

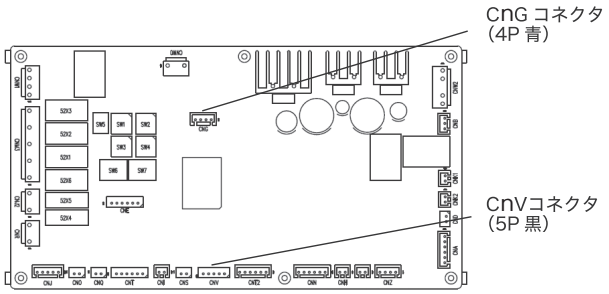


④ 本体コントロールへの配線接続の続き

〈室内基板にCnV2コネクタがある場合〉



〈GTSC・GFL・GFUの場合〉



(3) 取扱説明書

この取扱説明書には、安全についての注意事項を記載しております。
室内ユニット・リモコン付属の説明書と合わせてご覧ください。

ご使用上のご注意

⚠ 警告

●子供・病気の方など 補助を必要とする人が使う場合、周囲の人が十分注意する。
異常や人感センサ制御などにより空調機が停止した場合、体調不良や事故の原因になることがあります。

お知らせ

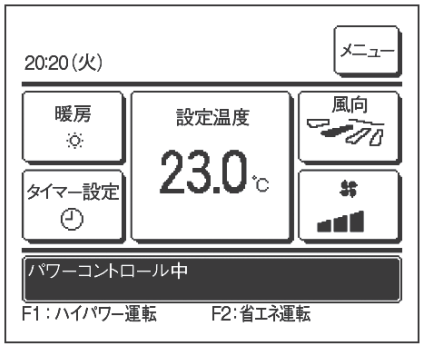
・検知エリアの隅では人を検知しにくくなります。
・周囲と温度差のある物体が動く場所に据付けた場合「人がいる」と検知する場合があります。
・設定温度の補正に伴い、肌寒く感じる場合があります。

本品は、赤外線センサを利用して検知範囲内の人の活動量を検知し、エアコンの制御を補助するものです。
リモコンからご希望の制御を設定して頂き、ご使用ください。

室内ユニット制御	検知状況	制御内容	エコタッチリモコン表示
①パワーコントロール	活動量が多い時	快適性を重視して室温設定を下げる。	パワーコントロール中
	活動量が少ない時	省エネ重視して室温設定を上げる。	パワーコントロール中
②オートオフ	検知無し 1 時間経過	運転停止＋待機状態	オートオフ中
	検知無し 1 ～ 50 時間経過	運転停止	−
①+②	上記の組合せ	上記のいづれか	上記のいづれか
全て無効（出荷時）	−	標準制御	−

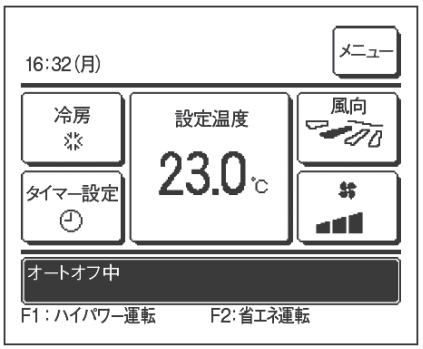
センサ未接続・センサ不良の場合は活動量検知無し（少ない）状況の制御になります。

設定方法は、次項を参照してください。



・パワーコントロール有効の場合
人感センサにより人の活動量を検知し、設定温度を補正します。
（リモコンの設定温度は補正された温度で表示されます。）
冷房時 33 ℃、暖房時 15 ℃まで設定温度を段階的に補正します。
設定温度を補正中はメッセージ表示部に「パワーコントロール中」を表示します。

・冷房暖房設定温度（RC-DX3C 以降）
上記設定温度を 1 ℃きざみで設定することができます。
冷房：25 ℃～ 35 ℃（初期設定は 33 ℃）
暖房：10 ℃～ 20 ℃（初期設定は 15 ℃）



・オートオフ有効の場合
人が不在となって、1 時間経過すると『運転待機』状態となります。運転待機時間が 1 ～ 50 時間経過すると『完全停止』します。
『運転待機』…エアコンは停止しますが 、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』…エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

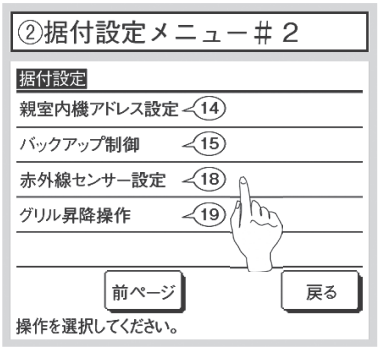
・運転待機時間 (RC-DX3C 以降)
冷房時、暖房時の運転待機時間（初期設定は 12 時間）は 1 ～ 50 時間 (1 時間きざみ）で設定することができます。

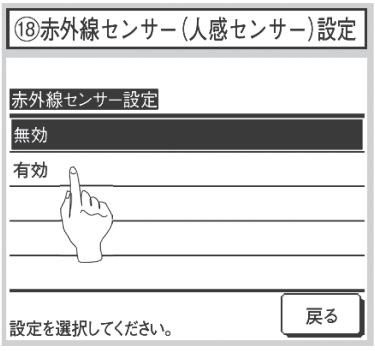
制御設定 <エコタッチリモコンから設定する場合>

●エコタッチリモコン付属の据付説明書を参照して、赤外線センサ（人感センサ）を有効に設定する。

TOP 画面 **メニュー** ⇒ **サービス設定** ⇒ **据付設定** ⇒ **サービスパスワード**







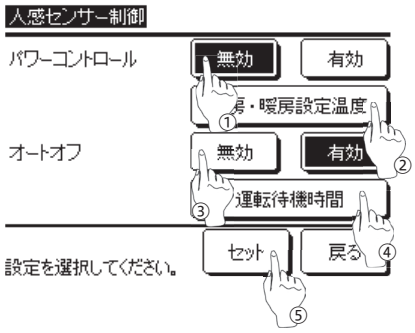
●エコタッチリモコン付属の取扱説明書を参照して、制御モードを設定する。

■赤外線センサ（人感センサ）制御
人感センサにより人の有無・活動量をセンサで判定し、各制御を行います。

■リモコンが子リモコン設定されている場合、赤外線センサ（人感センサ）制御の設定はできません。

制御設定 <エコタッチリモコンから設定する場合>の続き

TOP 画面 **メニュー** ⇒ **省エネ設定** ⇒ **管理者パスワード** ⇒ **赤外線センサー制御**
または **人感センサー制御** を選択してください。
赤外線センサー制御画面と現在の設定内容が表示されます。



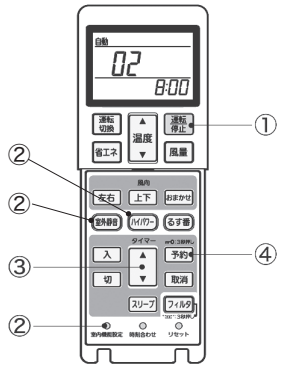
① パワーコントロールの有効 / 無効を設定します。
② 冷房・暖房設定温度をタッチしてください。▲▼ボタンで設定温度を設定し、セットボタンをタッチしてください。設定温度が仮決定します。
③ オートオフの有効 / 無効を設定します。
④ 運転待機時間をタッチしてください。▲▼ボタンで待機時間を設定し、セットボタンをタッチしてください。
運転待機時間が仮決定します。
⑤ 各項目設定後、セットボタンをタッチしてください。人感センサ制御が決定し、省エネ設定メニュー画面に戻ります。
※②、④は RC-DX3C 以降のみ設定できます。
※⑤を実施しないと本制御は実行されません。

制御設定 <ワイヤレスリモコンから設定する場合>

●ワイヤレスリモコン付属の据付説明書を参照して、**室内機能設定** の人感センサを有効に設定する。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
① 運転／停止を押し、停止状態にする。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
③ 選択ボタン▲、▼で設定番号を選択する。
④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール + オートオフ

3. コンパクトリモコン（RCH-D3）

PJZ012D068A

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠警告

- **配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。**
  接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- **元電源を切った後に電気工事をする。**
  感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

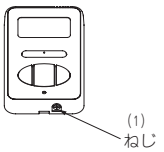
- **下記の様な所にリモコンを設置しない。**
  リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
  (1) 直射日光の当たる場所　(4) 取付面が発熱・結露する場所
  (2) 発熱器具の近く　(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
  (3) 湿気の多い所・水の掛る所　(6) 取付面に凹凸がある所
- **リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。**
  上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

付属品	リモコン本体、 木ねじ（φ3.5 × 16） 2 本
客先手配品	リモコンコード （2 心）(「2. リモコンコードを延長する場合の注意」を参照ください。) ［ 埋込取付の場合 ］ JIS ボックス、M4 ねじ（2 本） ［ 露出取付の場合 ］ コードクランプ （適時）

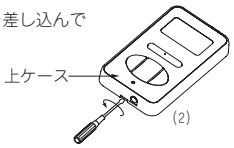
1. 取付要領

埋込取付けの場合

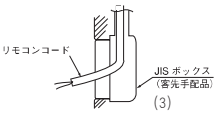
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



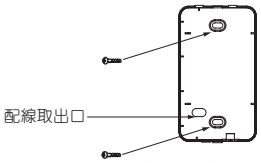
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。

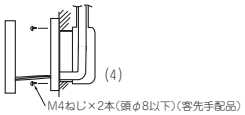


(3) JIS ボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。
［ 使用可能 JIS ボックス ］
JIS C 8336　1 個用スイッチボックス



(4) M4 ねじ 2 本（推奨長さ 12～16mm）を用意して、下ケースを JIS ボックスに取付けてください。
ねじ穴の周囲の壁の高さより、ねじ頭の大きなねじを、使用しないでください。



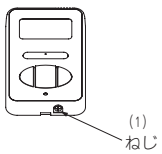


(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X, Y）と室内ユニットの端子（X, Y）とを接続してください。
（X, Y の極性はありません。）

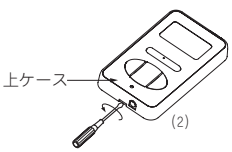
(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

露出取付の場合

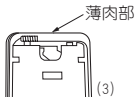
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



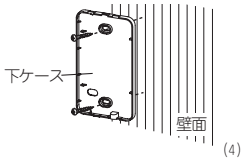
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。



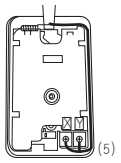
(3) リモコンコードの取出方向は、上部中央から可能です。
リモコン上ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。



(4) リモコンの下ケースを付属の木ねじ2本で平らな壁に取付けます。

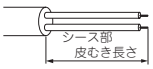


(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X, Y）と室内ユニットの端子（X, Y）とを接続してください。(X, Y の極性はありません。)
配線経路は右図の通りとなります。



リモコンケース内を通る配線は、0.3mm^2（推奨）～最大 0.5mm^2 以下としてください。
また、シース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

X 配線：160mm
Y 配線：150mm



(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

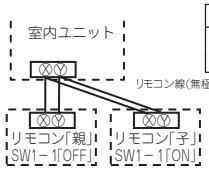
(7) 露出取付の場合は、リモコンコードがたるまないように、コードクランプ等で壁面に固定します。

2. リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長 600m

(1) リモコンコードは 0.3mm^2×2 心です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。
ただし、リモコンケース内を通る配線は0.3mm^2（推奨）～最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
100～200m 以内 ……0.5mm^2 × 2 心
300m 以内 ……0.75mm^2 × 2 心
400m 以内 ……1.25mm^2 × 2 心
600m 以内 ……2.0mm^2 × 2 心

3. 複数リモコン使用時の親子設定

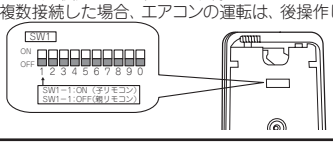
(1) 室内ユニット1台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1−1	ON	子リモコン
	OFF	親リモコン

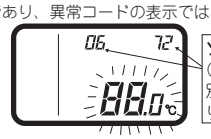
(2) 子リモコンの切換スイッチ SW1-1 を「子」(ON) に設定してください。工場出荷時は「親」(OFF)設定です。

(注)・リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
・親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください
・リモコンを複数接続した場合、エアコンの運転は、後操作したリモコンに従います。



4. 電源投入時の表示

(1) 電源投入時、最初の２秒間全点灯した後、下記表示となります。
リモコンLCD上部に表示される番号は、ソフトウェアの管理番号を表示させているものであり、異常コードの表示ではありません。



ソフトウェア管理番号
(左記記号は一例です。
別の番号が出る場合もあります。)

(2) その後、リモコンと室内ユニットの通信が確定するまで、リモコンには、「88.0℃」が点滅します。

(3) 室内ユニット１台（または１グループ）に、１個のリモコンを接続する場合は、必ず親リモコン（出荷時設定）としてください。
子リモコンにすると通信ができません。

(4) リモコンと室内ユニットの通信ができない状態が30分程度続くと、「 E」表示がでます。
室内ユニットおよび室外ユニットの配線、およびリモコンの親子設定等をご確認願います。



5. 吸込温度の確認方法

リモコン操作により、吸込温度の確認ができます。

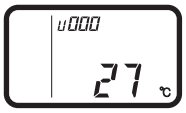
(1) **エアコンNo ボタンを５秒以上押す。**
温度設定表示部に、「88」が点滅します。
（データを読み込む間約２秒間点滅）
↓
その後、吸込温度を表示します。
（例）吸込温度：「27℃」（点灯）
（注）吸込温度は、通常の場合室内ユニットの吸込温度を表示しますが、リモコンセンサ有効の場合は、リモコンセンサ検知温度が表示されます。



(2) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

【リモコンセンサが無効で､一つのリモコンに複数台の室内ユニットが接続されている場合】

(1) **エアコンNo ボタンを５秒間押す。**
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの､最も若い番号を表示。）



(2) **TEMP △ または TEMP▽ ボタンを押す。**
室内ユニットの番号を選びます。

(3) **MODE ボタンを押す。**
室内ユニットNoを確定します。

（例）室内ユニットNo表示部：「U 000」
温度設定表示部に､「88」が点滅します。(データを読み込む間約2～10秒間点滅)
その後、吸込温度を表示します。 エアコンNo ボタンを押すと、室内ユニット選択表示（例「U 000」）に戻ります。

(4) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

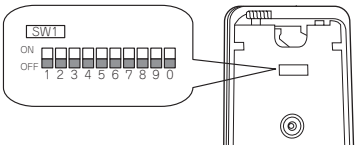
6. 機能設定

リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。ただし、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。**設定内容は記録して保管してください。**

(1) 基板上の切換スイッチによる機能設定項目

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1－1	ON	子リモコン	
	OFF	親リモコン	○
SW1－2	ON	リモコンセンサ有効	
	OFF	リモコンセンサ無効	○
SW1－3	ON	「運転切換」ボタン禁止	
	OFF	「運転切換」ボタン有効	○
SW1－4	ON	「運転／停止」ボタン禁止	
	OFF	「運転／停止」ボタン有効	○

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1－5	ON	「温度設定」ボタン禁止	
	OFF	「温度設定」ボタン有効	○
SW1－6	ON	「風量調整」ボタン禁止	※注１
	OFF	「風量調整」ボタン有効	※注１
SW1－7	ON	停電補償有効	
	OFF	停電補償無効	○
SW1－8, 9, 0	ON OFF	未使用	



・子リモコンは SW1-1 以外は設定無効です。
・風量1速の室内ユニットは「風量調整」ボタン有効にはできません。

(2) ボタン操作による機能設定項目

分類	機能番号	機能	設定番号	設定	初期設定	備考
リモコン機能	01	室内ファン速度	01	ファン速度３速	※注１	ファン風量が、急－強－弱の３速となります。
			02	ファン速度２速（Hi-Lo）	※注１	ファン風量が、急－弱の２速となります。
			03	ファン速度２速（Hi-Me）		ファン風量が、急－強の２速となります。
			04	ファン１速	※注１	ファン風量が１速のみで固定されます。
	03	冷房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	04	暖房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	05	換気設定	01	換気接続なし	○	
			02	エアコンと連動		シングル機は室内基板 CnT、マルチ機は室内基板 CND に換気機器を接続すると、室内ユニットの運転に連動し、換気機器の運転／停止を行います。
	06	「自動」運転設定	01	「自動」運転有効	※注１	
			02	「自動」運転無効	※注１	「自動」運転不可
室内機能	07	運転許可 / 禁止	01	無効	○	
			02	有効		運転許可／禁止制御を有効にします。
	08	外部入力切替	01	レベル入力	○	
			02	パルス入力		
	09	高天井設定	01	標準	注２	
			02	高天井１	注２	
			03	高天井２	注２	
	10	冷房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	冷房停止後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		冷房停止後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	１時間		冷房停止後、１時間ファン残留運転する。
			04	６時間		冷房停止後、６時間ファン残留運転する。
	11	暖房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	２時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、２時間ファン残留運転する。
			04	６時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、６時間ファン残留運転する。
	12	暖房室温補正	01	補正なし	○	
			02	室温補正＋３．０℃		暖房時の設定温度を＋３．０℃補正します。
			03	室温補正＋２．０℃		暖房時の設定温度を＋２．０℃補正します。
			04	室温補正＋１．０℃		暖房時の設定温度を＋１．０℃補正します。
	13	暖房ファン制御	01	弱風	○	暖房サーモ OFF 時、弱風で運転します。
			02	設定風量		暖房サーモ OFF 時、設定風量で運転します。電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。
			03	間欠運転		暖房サーモ OFF 時、間欠運転します。
			04	停止		暖房サーモ OFF 時、ファンは停止します。 リモコンセンサ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は、設定しないでください。
	14	吸込温度補正	01	補正なし	○	
			02	吸込温度補正＋２．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋２．０℃補正します。
			03	吸込温度補正＋１．５℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．５℃補正します。
			04	吸込温度補正＋１．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．０℃補正します。
			05	吸込温度補正－１．０℃		室内ユニットの吸込温度を－１．０℃補正します。
			06	吸込温度補正－１．５℃		室内ユニットの吸込温度を－１．５℃補正します。
			07	吸込温度補正－２．０℃		室内ユニットの吸込温度を－２．０℃補正します。

注１：「※」印の初期設定は、接続される室内ユニットおよび室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

スイッチNo 機能番号	機能	設定	機種
SW1－6	風量調整	「風量調整」ボタン禁止	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
		「風量調整」ボタン有効	室内ファン風量切換えが２速または３速の機種
リモコン機能 01	室内ファン速度	ファン速度３速	室内ファン風量３速の機種
		ファン速度２速（Hi-Lo）	室内ファン風量２速の機種
		ファン速度２速（Hi-Me）	
		ファン１速	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
リモコン機能 06	「自動」運転設定	「自動」運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		「自動」運転無効	「自動」モードの無い機種

注２：高天井設定時のファンタップ

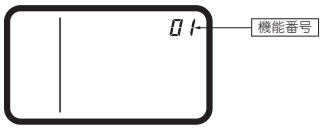
ファンタップ	室内風量設定		
	急－強－弱	急－弱	急－強
標準	Hi － Me － Lo	Hi － Lo	Hi － Me
高天井１・２	UHi － Hi － Me	UHi － Me	UHi － Hi

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。

注３：ツイン・トリプル・ダブルツイン機の場合、室内機能設定は親室内ユニット・子室内ユニット各々設定してください。ただし、「07 運転許可／禁止」「08 外部入力切替」は親室内ユニットのみで設定可能です。

7. ボタン操作による機能設定の仕方

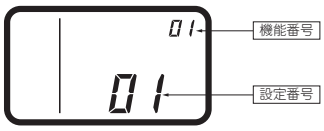
(1) **エアコンを停止させて、エアコンNoとMODEボタンを同時に長押しする。**
右上に、機能番号「01」が点滅します



(2) **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
機能番号を選択します。

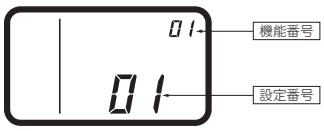
(3) **MODEボタンを押す。**
機能番号を確定する。

(4) **【リモコン機能（01～06）を選んだ場合】**
① 選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「01」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）

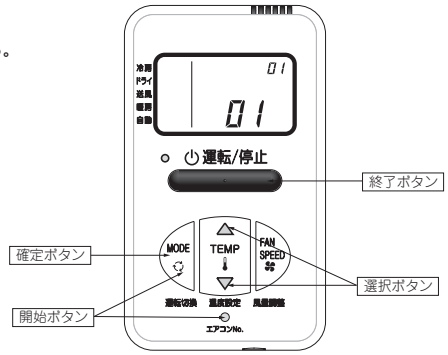


② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。

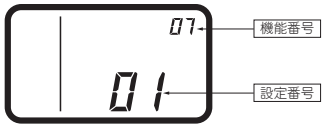
③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した機能番号と、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
機能番号：「01」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、
続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。
終了する場合は、(5)へお進みください。

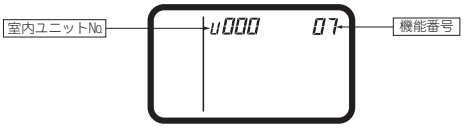


【室内機能（07～14）を選んだ場合】
① **温度設定表示部に、「88」が点滅します。**
（データを読み込む間約2～10秒点滅）
↓
その後、選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「07」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）



② へお進みください。

【注意】
a. 一つのリモコンに、室内ユニットを複数台接続している場合は、下記表示となります。
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの、最も若い番号を表示。）

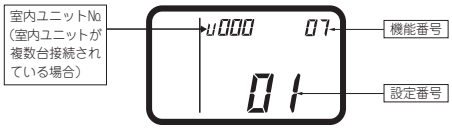


b. TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「U ALL」を選択すると、全台同一の設定ができます。

c. MODEボタンを押す。
室内ユニットNoを確定します。
温度設定表示部に、「88」が点滅します。（データを読み込む間2～10秒点滅）
エアコンNoボタンを押すと室内ユニット選択表示（例「U 000」点滅）に戻ります。

② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。

③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した室内ユニットNo、機能番号、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
室内ユニットNo：「U 000」（3～20秒間点灯）
機能番号：「07」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。終了する場合は、(5)へお進みください。

(5) **運転／停止ボタンを押す**
設定を終了します。

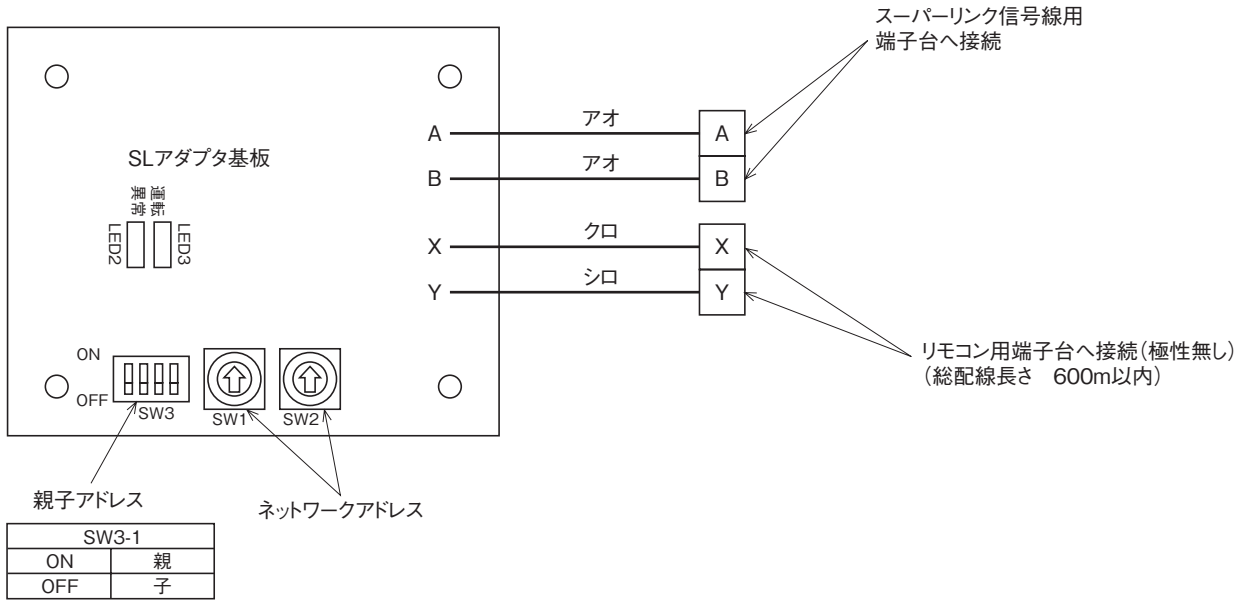
・設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
・設定内容は、コントローラ内部に記憶され停電しても保存されております。

【現在設定の確認方法】
上記操作により、「機能番号」を選び、MODEボタンを押した時に、最初に表示される「設定番号」が、現在設定されている内容です。
（ただし、「U ALL」（全台）を選んだ場合は、室内ユニットNoの最も若い機種の設定番号が表示されます。）

4. スーパーリンクアダプタ（SC-ADNA）

仕　様		機能	
名　称	スーパーリンクアダプタ		(1) スーパーリンクオプションからの設定内容を各室内ユニットに送信 (2) スーパーリンクオプションからのデータ要求に対し優先室内ユニットのデータを返信 (3) 接続室内ユニットの異常状態を点検コードでスーパーリンクオプションに送信
形　式	SC-ADNA		
適用機種	室外-室内　2心通信仕様		
外形寸法（mm）	プリント基板　65×80×20 板金ボックス100×85×35		
制御可能な室内機台数	最大16台 （同一運転モード）		

接続要領



SW3-1	
ON	親
OFF	子

●信号線

0.75mm^2～1.25mm^{2}のシールド線（MVVS 2心）

注(1)　線径が0.75mm^{2}時で1500mまで，1.25mm^{2}時で1000mまでとなります。
2.0mm^{2}は使用しないでください。誤動作となる場合があります。

注(2)　シールド線は，両端をアースしてください。

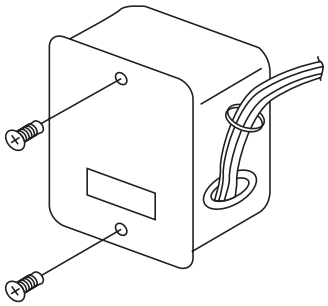
リモコンコードを延長する場合の注意

●コードは必ずシールド線を使用してください。
- 0.3mm^2×2心

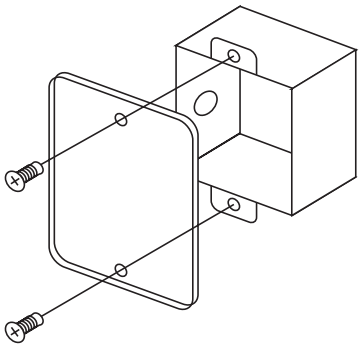
注(1)　延長距離が100mを超える場合は下記のサイズに変更してください。但し，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。
100～200m以内…0.5mm^2×2心
～300m以内…0.75mm^2×2心
～400m以内…1.25mm^2×2心
～600m以内…2mm^2×2心

取付要領

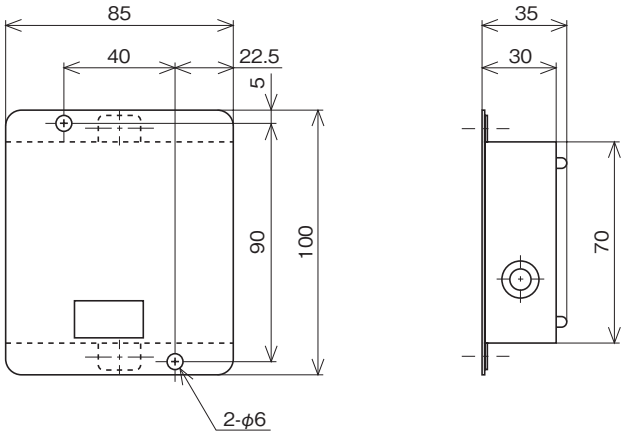
► 室内ユニット外へ
設置する場合は,
板金カバーを取付け
てください。



► リモコン背面へ取付
の場合は, 直接リモコン
下ケースへ取付けてください。



板金ボックス外形図



三菱重工サーマルシステムズ株式会社　〒108-8215　東京都港区港南２-16-５
三菱重工冷熱株式会社　〒108-0023　東京都港区芝浦２-11-５

●製品の仕様は改良のため予告なしに変更することがあります。